

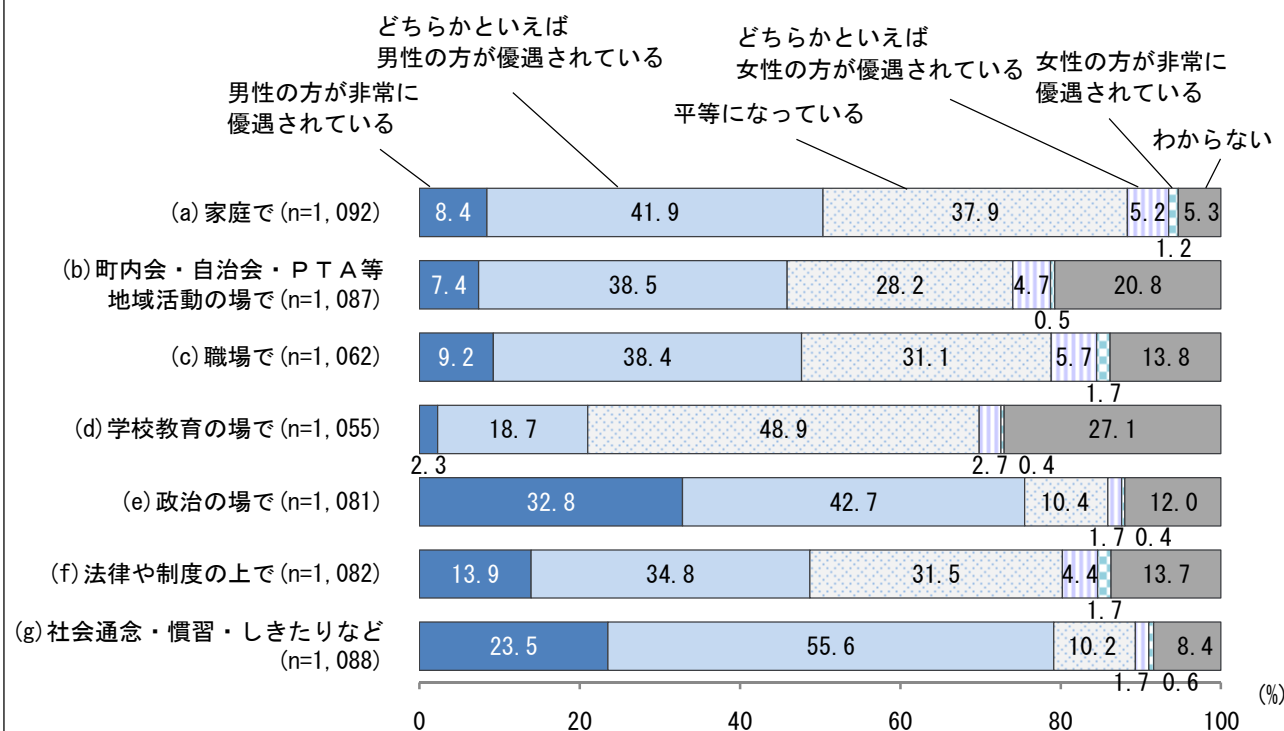
第 2 章 調查結果

第2章 調査結果

I 男女の地位の平等感について

問1 あなたは次の(a)から(g)の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

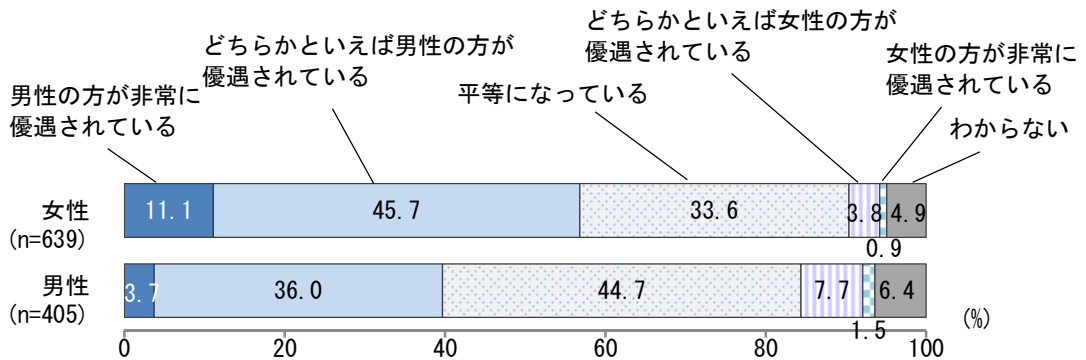
(○はそれぞれ1つ)



男女の地位の平等感について、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）との回答は「社会通念・慣習・しきたりなど」で約8割、「政治の場で」で7割台半ば、「家庭で」で約5割となっている。また、「平等になっている」との回答は「学校教育の場で」で約5割となっている。

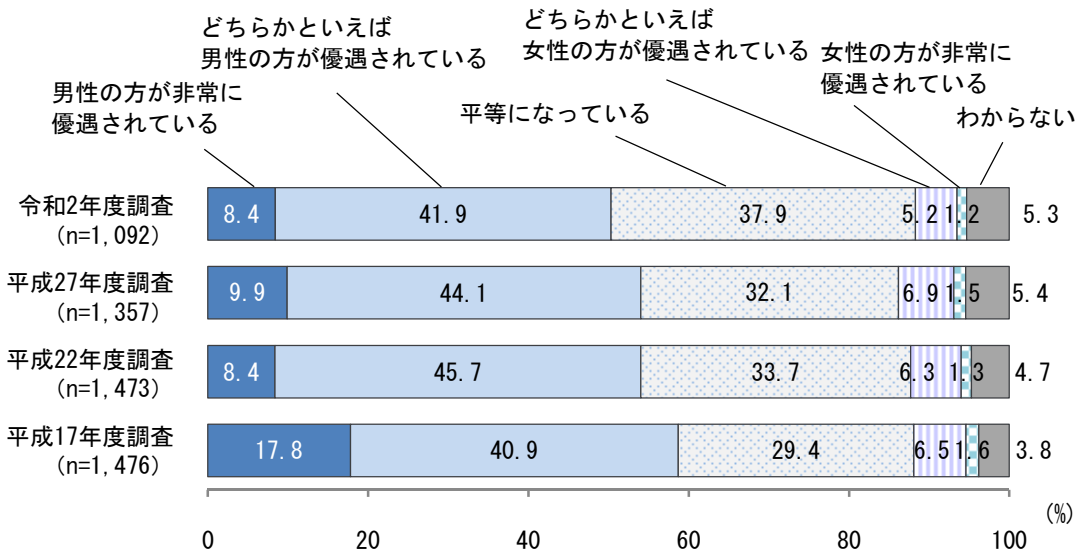
(a) 家庭で

【図 家庭で（性別）】



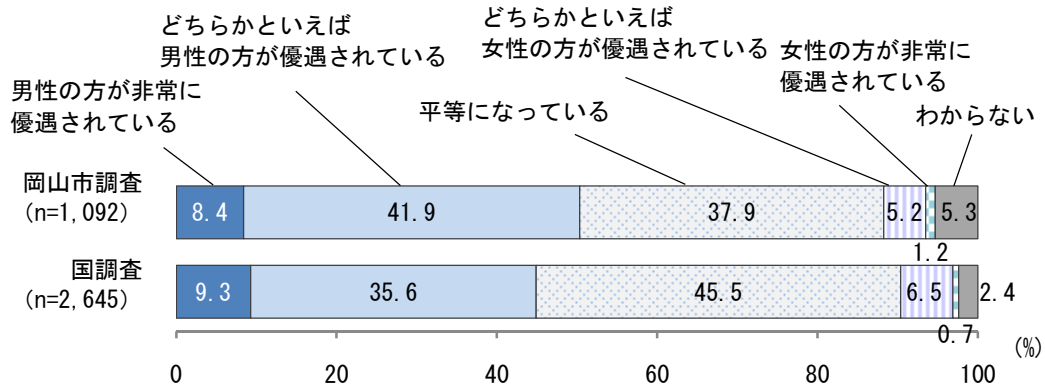
家庭での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（56.8%）が男性（39.7%）を17.1ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（44.7%）が女性（33.6%）を11.1ポイント上回っている。

【図 家庭で（過去調査結果との比較）】



家庭での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和2年度調査（50.3%）が平成17年度調査（58.7%）を8.4ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答は令和2年度調査（37.9%）が平成27年度調査（32.1%）を5.8ポイント、平成17年度調査（29.4%）を8.5ポイント上回っている。

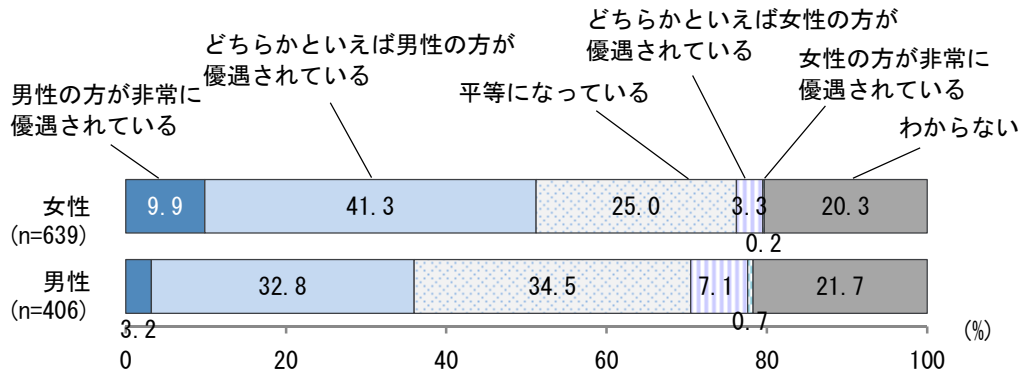
【図 家庭で（国調査結果との比較）】



家庭での男女の地位の平等感について、国調査（内閣府が実施した令和元年度世論調査（以下国調査））結果と比較すると、『男性優遇』との回答は岡山市調査（50.3%）が国調査（44.9%）を 5.4 ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は岡山市調査（37.9%）が国調査（45.5%）を 7.6 ポイント下回っている。

(b) 町内会・自治会・PTA等地域活動の場で

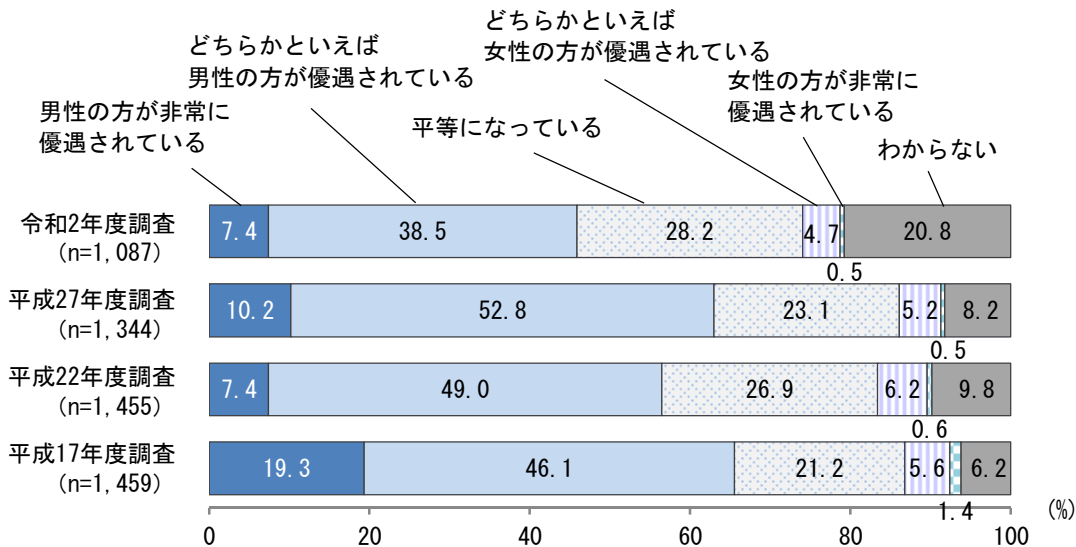
【図 町内会・自治会・PTA等地域活動の場で（性別）】



町内会・自治会・PTA等地域活動の場での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（51.2%）が男性（36.0%）を15.2ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（34.5%）が女性（25.0%）を9.5ポイント上回っている。

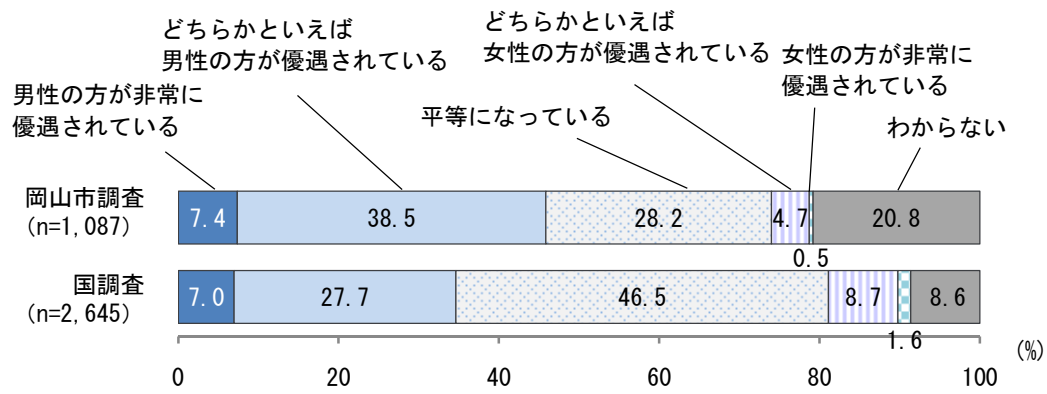
【図 町内会・自治会・PTA等地域活動の場で（過去調査結果との比較）】

※平成17年度調査、平成22年度調査、平成27年度調査では「地域社会で」となっている。



町内会・自治会・PTA等地域活動の場での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和2年度調査（45.9%）が平成27年度調査（63.0%）を17.1ポイント、平成22年度調査（56.4%）を10.5ポイント、平成17年度調査（65.4%）を19.5ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答は令和2年度調査（28.2%）が平成27年度調査（23.1%）を5.1ポイント、平成17年度調査（21.2%）を7.0ポイント上回っている。

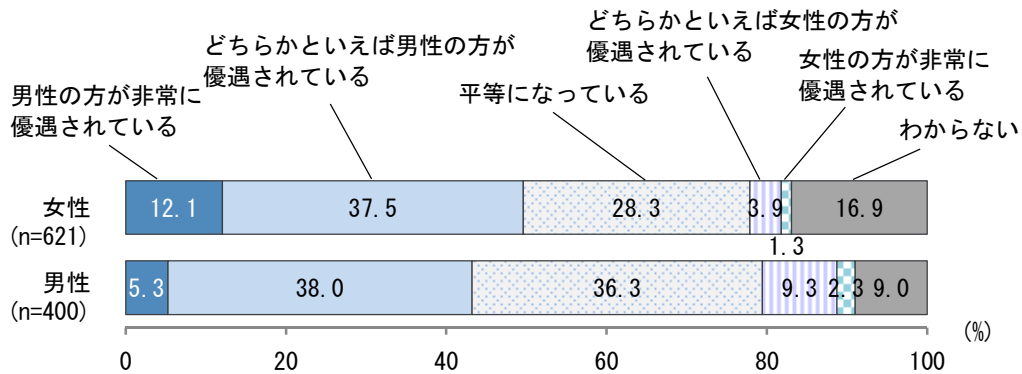
【図 町内会・自治会・PTA等地域活動の場で（国調査結果との比較）】



町内会・自治会・PTA等地域活動の場での男女の地位の平等感について、国調査結果と比較すると、『男性優遇』との回答は岡山市調査（45.9%）が国調査（34.7%）を 11.2 ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は岡山市調査（28.2%）が国調査（46.5%）を 18.3 ポイント下回っている。

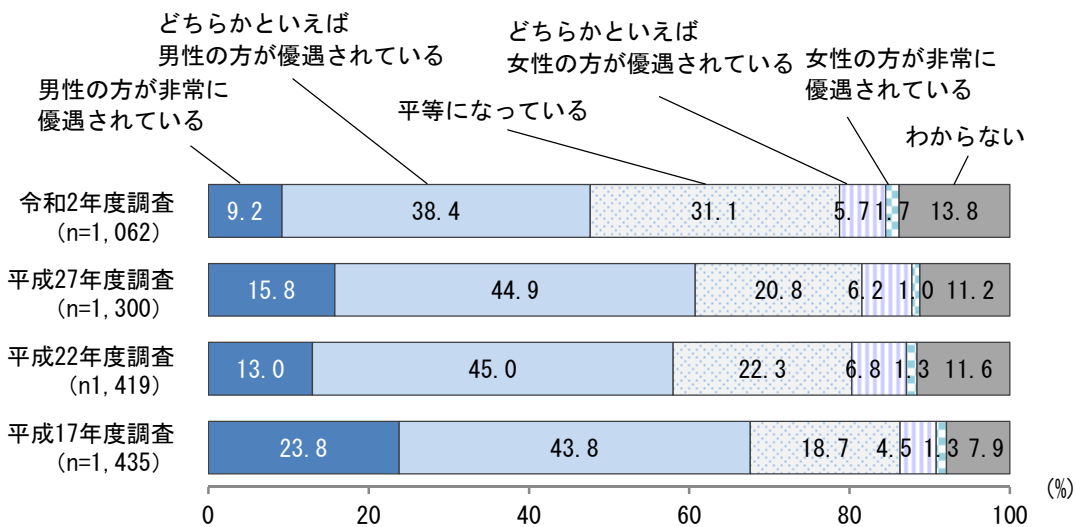
(c) 職場で

【図 職場で（性別）】



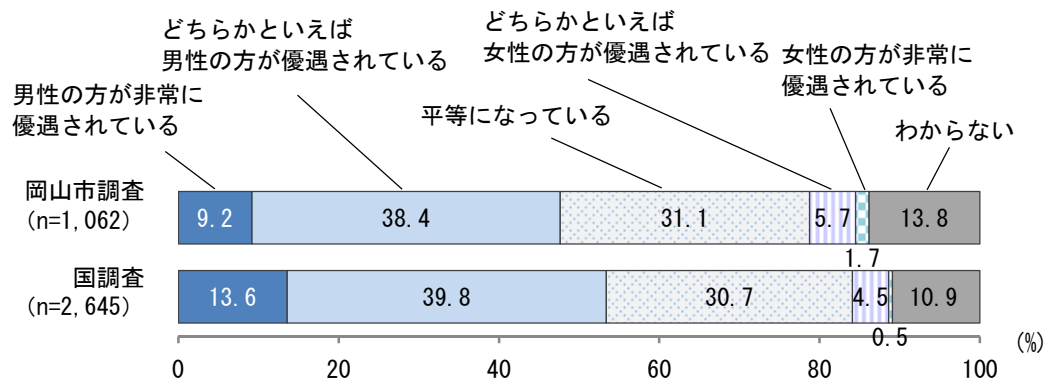
職場での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（49.6%）が男性（43.3%）を 6.3 ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（36.3%）が女性（28.3%）を 8.0 ポイント上回っている。

【図 職場で（過去調査結果との比較）】



職場での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和2年度調査（47.6%）が平成27年度調査（60.7%）を 13.1 ポイント、平成22年度調査（58.0%）を 10.4 ポイント、平成17年度調査（67.6%）を 20.0 ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答は令和2年度調査（31.1%）が平成27年度調査（20.8%）を 10.3 ポイント、平成22年度調査（22.3%）を 8.8 ポイント、平成17年度調査（18.7%）を 12.4 ポイント上回っている。

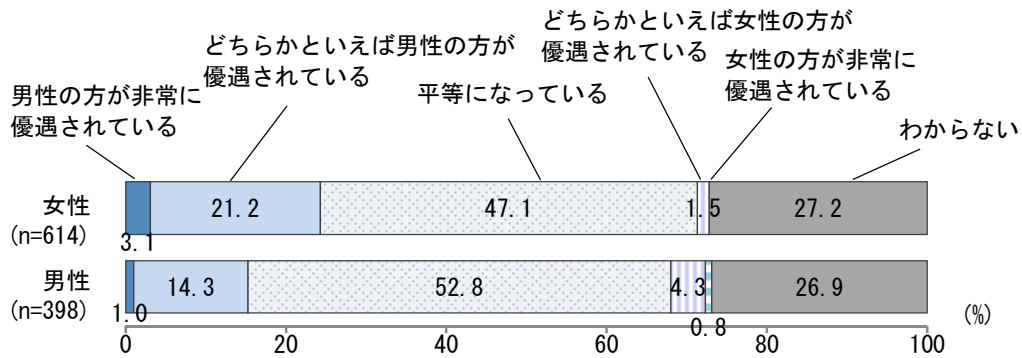
【図 職場で（国調査結果との比較）】



職場での男女の地位の平等感について、国調査結果と比較すると、『男性優遇』との回答は岡山市調査（47.6%）が国調査（53.4%）を5.8ポイント下回っている。

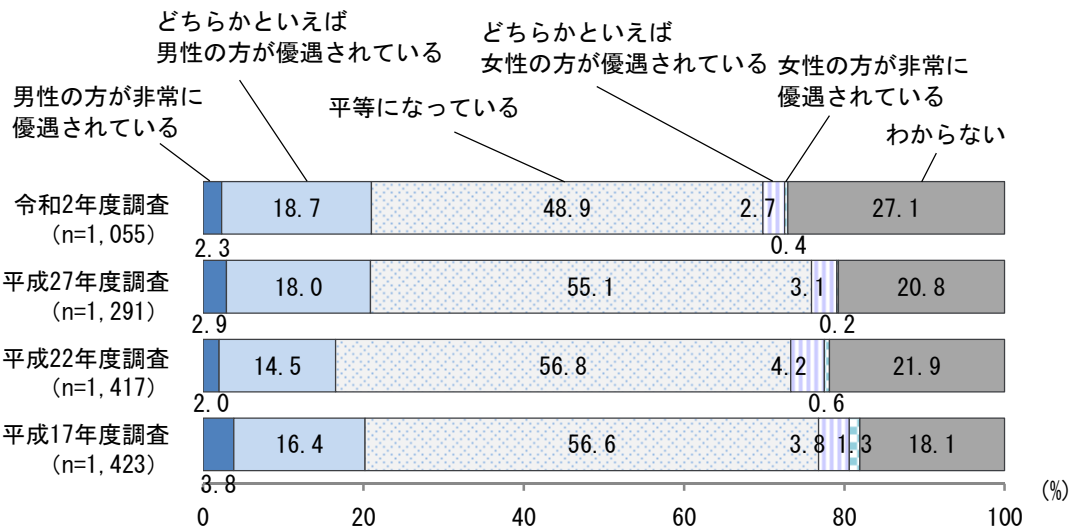
(d) 学校教育の場で

【図 学校教育の場で（性別）】



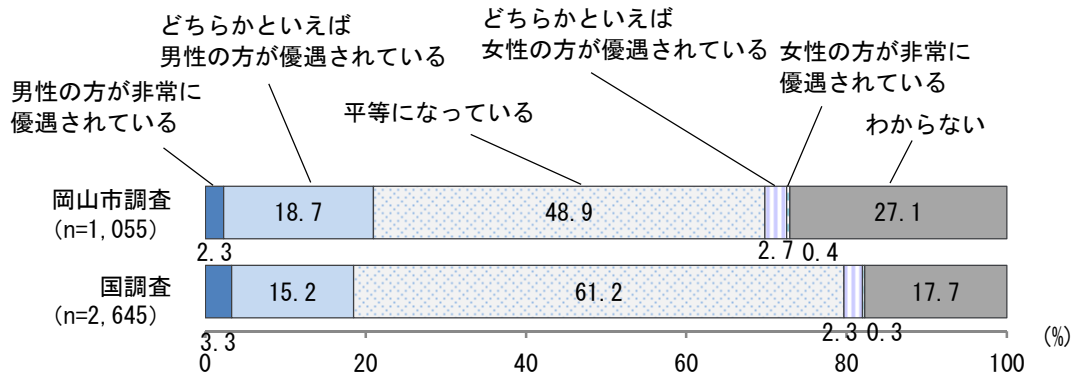
学校教育の場での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性 (24.3%) が男性 (15.3%) を 9.0 ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性 (52.8%) が女性 (47.1%) を 5.7 ポイント上回っている。

【図 学校教育の場で（過去調査結果との比較）】



学校教育の場での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答はいずれの調査でも 2 割前後と大きな差は見られない。また、「平等になっている」との回答は令和 2 年度調査 (48.9%) が平成 27 年度調査 (55.1%) を 6.2 ポイント、平成 22 年度調査 (56.8%) を 7.9 ポイント、平成 17 年度調査 (56.6%) を 7.7 ポイント下回っている。

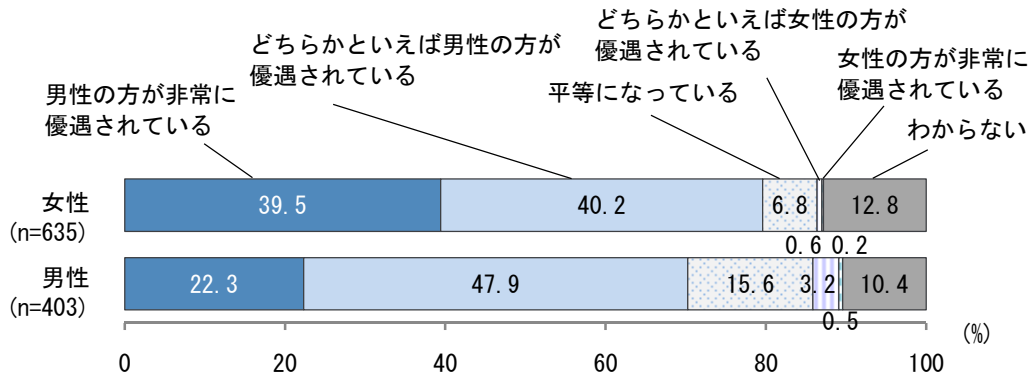
【図 学校教育の場で（国調査結果との比較）】



学校教育の場での男女の地位の平等感について、国調査結果と比較すると、「平等になっている」との回答は岡山市調査（48.9%）が国調査（61.2%）を12.3ポイント下回っている。

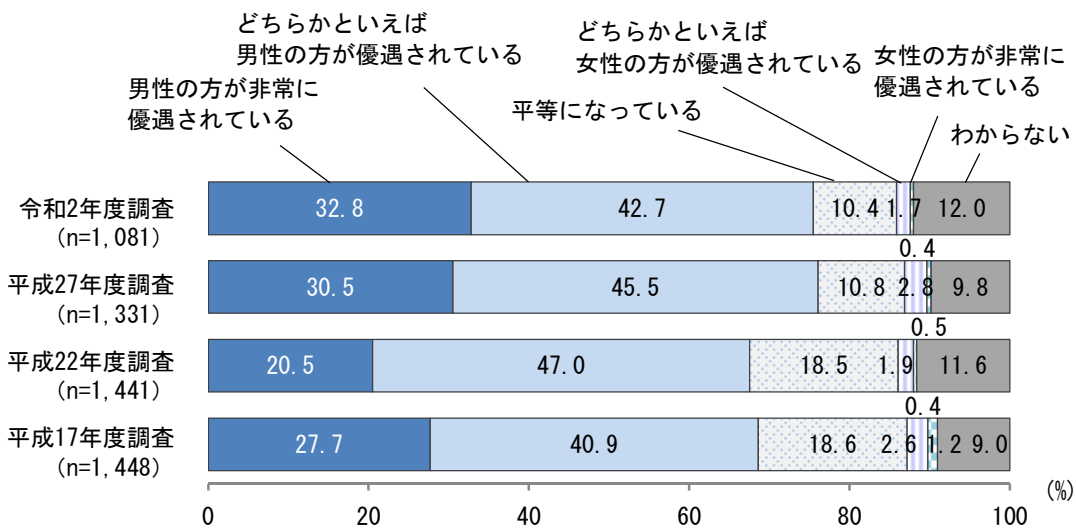
(e) 政治の場で

【図 政治の場で（性別）】



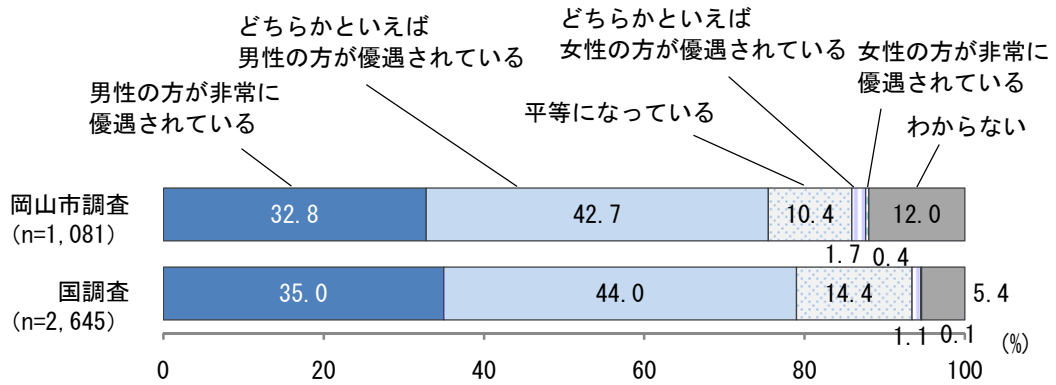
政治の場での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（79.7%）が男性（70.2%）を9.5ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（15.6%）が女性（6.8%）を8.8ポイント上回っている。

【図 政治の場で（過去調査結果との比較）】



政治の場での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和2年度調査（75.5%）が平成22年度調査（67.5%）を8.0ポイント、平成17年度調査（68.6%）を6.9ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は令和2年度調査（10.4%）が平成22年度調査（18.5%）を8.1ポイント、平成17年度調査（18.6%）を8.2ポイント下回っている。

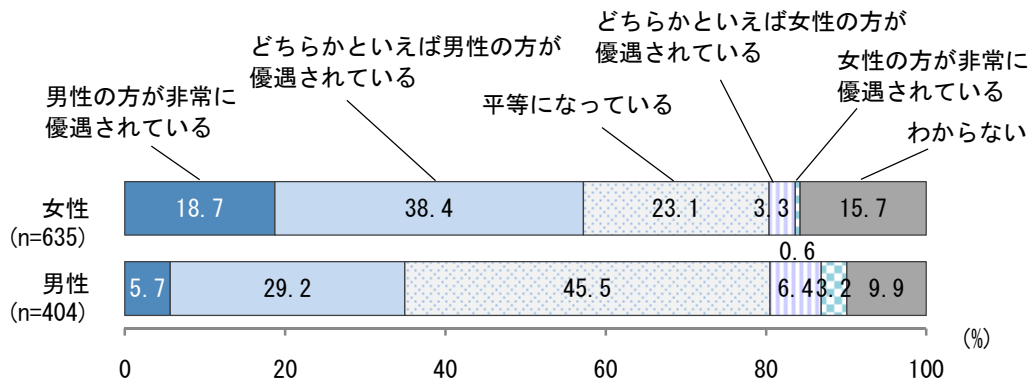
【図 政治の場で（国調査結果との比較）】



政治の場での男女の地位の平等感について、国調査結果と比較すると、『男性優遇』との回答はいずれも約8割と大きな差は見られない。

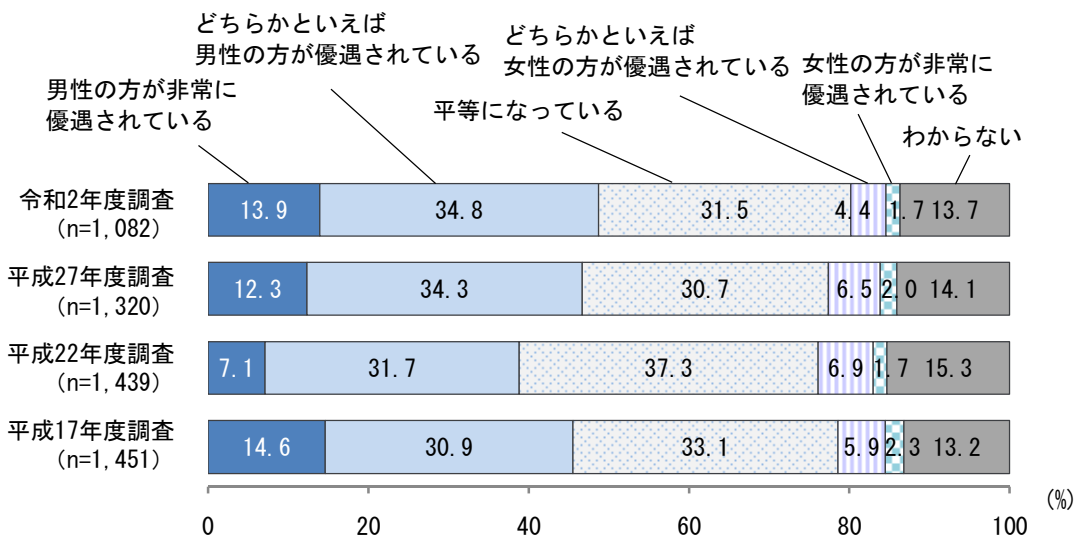
(f) 法律や制度の上で

【図 法律や制度の上で（性別）】



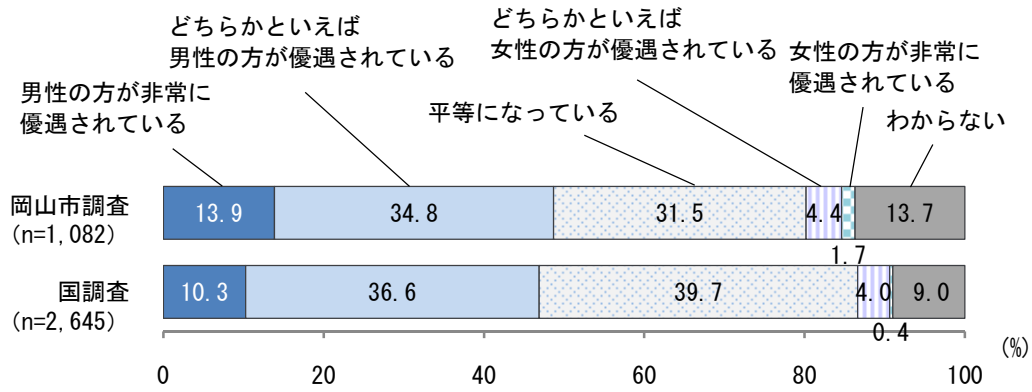
法律や制度の上での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（57.1%）が男性（34.9%）を22.2ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（45.5%）が女性（23.1%）を22.4ポイント上回っている。

【図 法律や制度の上で（過去調査結果との比較）】



法律や制度の上での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和2年度調査（48.7%）が平成22年度調査（38.8%）を9.9ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は令和2年度調査（31.5%）が平成22年度調査（37.3%）を5.8ポイント下回っている。

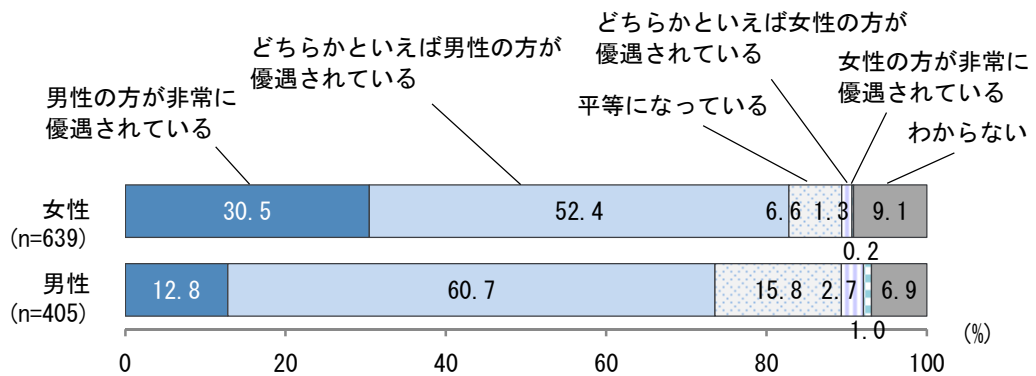
【図 法律や制度の上で（国調査結果との比較）】



法律や制度の上での男女の地位の平等感について、国調査結果と比較すると、「平等になっている」との回答は岡山市調査（31.5%）が国調査（39.7%）を8.2ポイント下回っている。

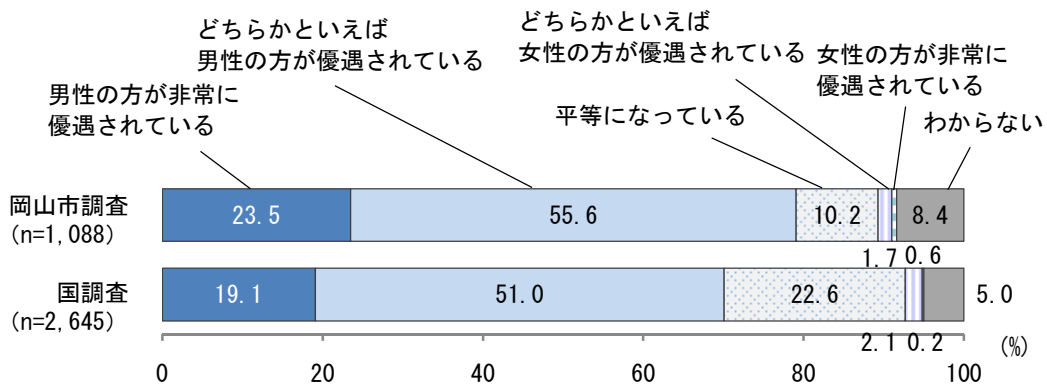
(g) 社会通念・慣習・しきたりなど

【図 社会通念・慣習・しきたりなど（性別）】



社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（82.9%）が男性（73.5%）を9.4ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（15.8%）が女性（6.6%）を9.2ポイント上回っている。

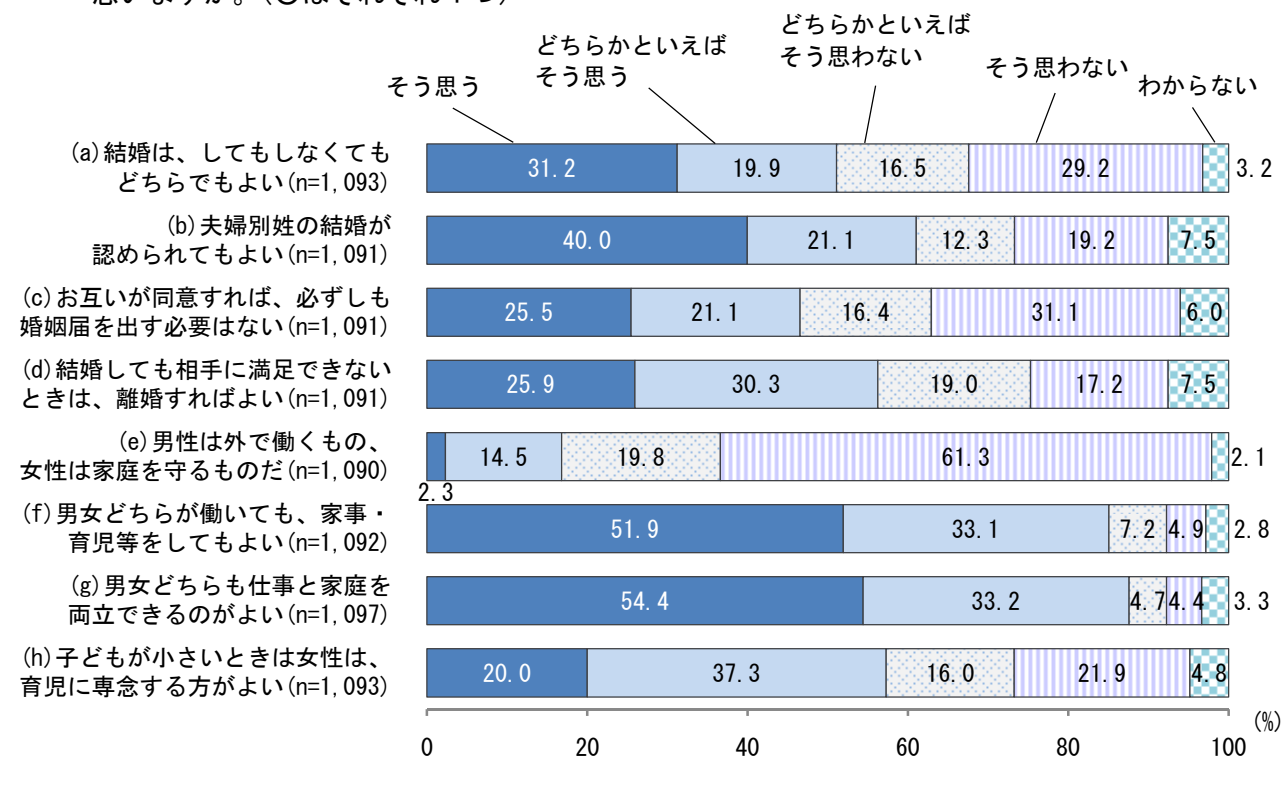
【図 社会通念・慣習・しきたりなど（国調査結果との比較）】



社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感について、国調査結果と比較すると、『男性優遇』との回答は岡山市調査（79.1%）が国調査（70.1%）を9.0ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は岡山市調査（10.2%）が国調査（22.6%）を12.4ポイント下回っている。

II 結婚、家庭生活について

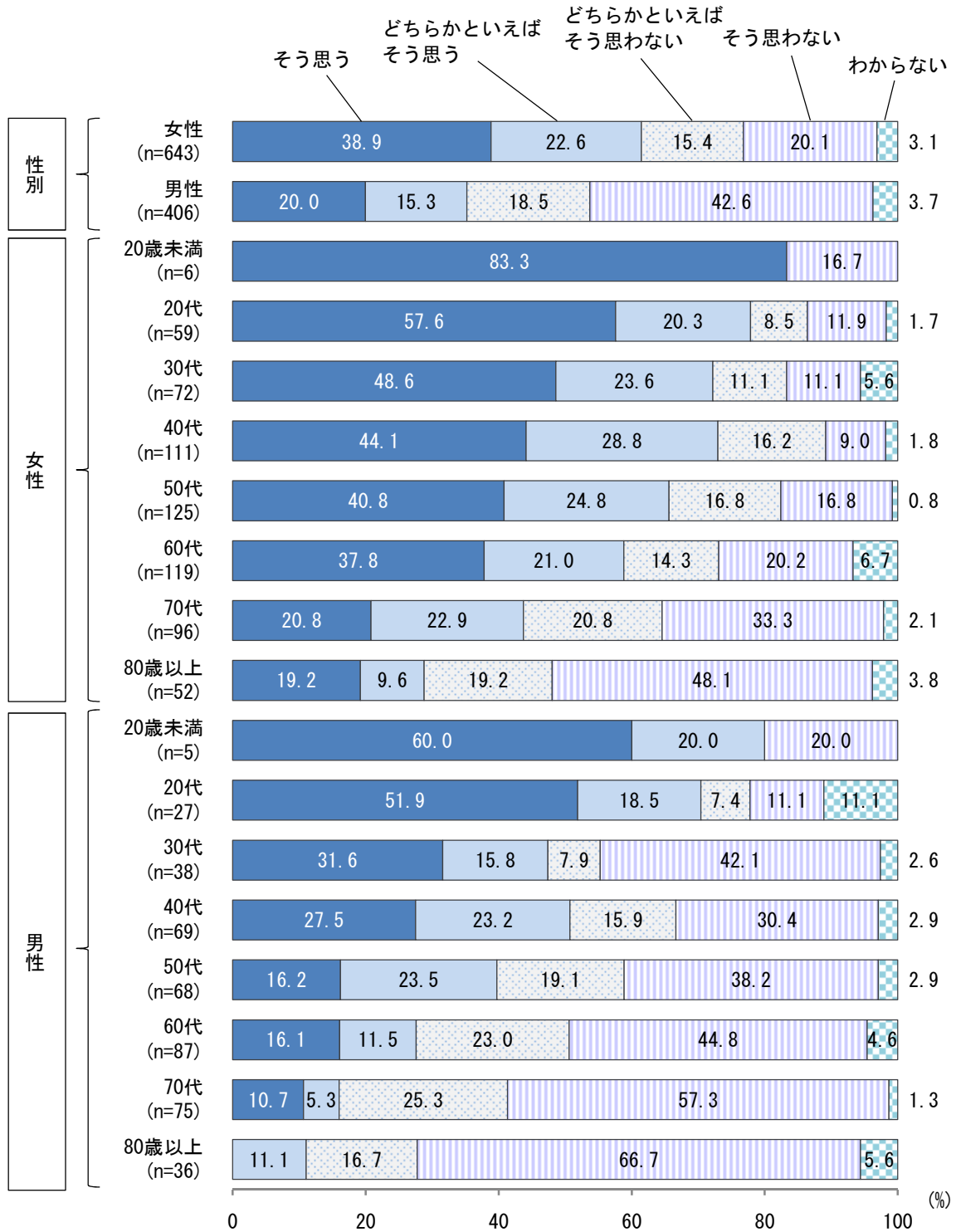
問2 結婚や家庭生活について、次の(a)から(h)のような考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つ)



結婚や家庭生活の考え方について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）との回答は「男女どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい」で約9割、「男女どちらも働いても、家事・育児等をしてよい」で8割台半ば、「夫婦別姓の結婚が認められてもよい」で6割超となっている。一方、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合）との回答は「男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ」で約8割、「お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない」で約5割となっている。

(a) 結婚は、してもしなくてもどちらでもよい

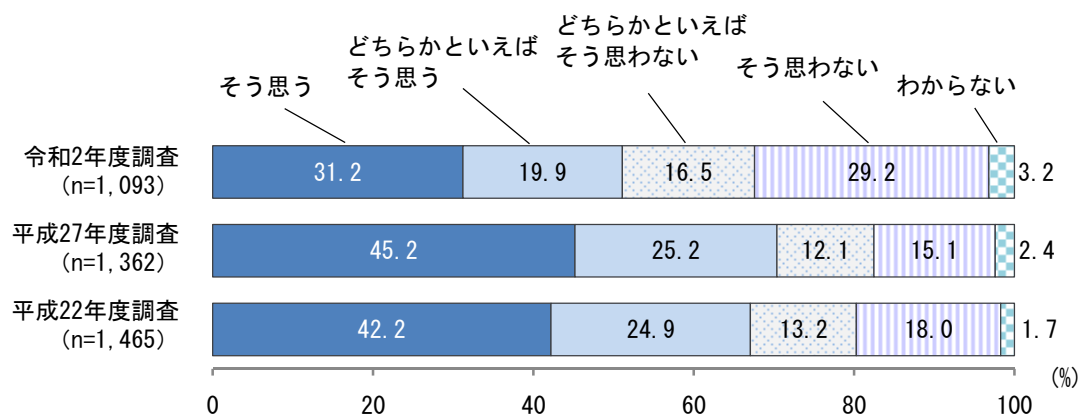
【図 結婚は、してもしなくてもどちらでもよい（性別、性・年代別）】



結婚は、してもしなくてもどちらでもよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（61.5%）が男性（35.3%）を26.2ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性20代～40代、男性20代で7割台となっている。

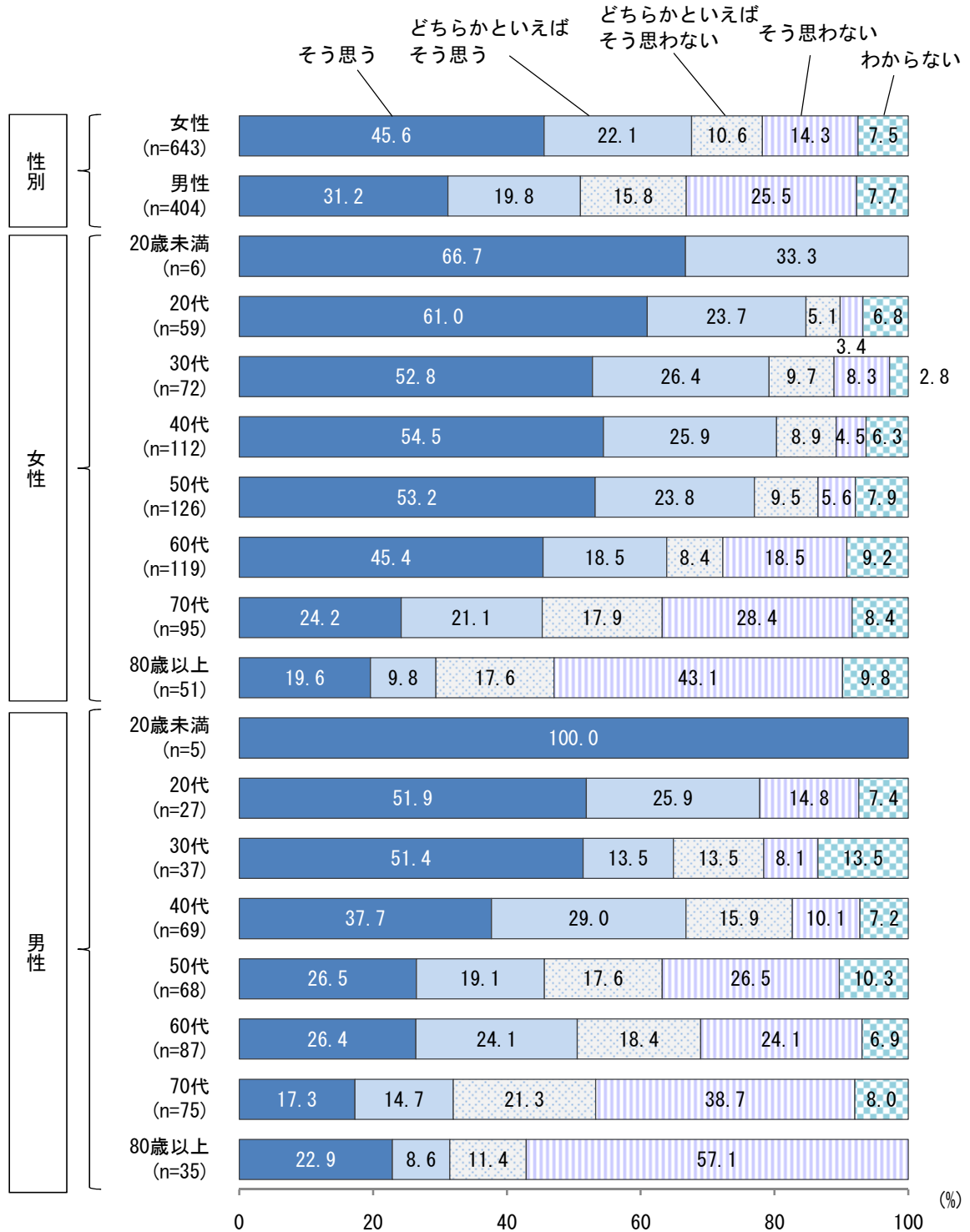
【図 結婚は、してもしなくてもどちらでもよい（過去調査結果との比較）】



結婚は、してもしなくてもどちらでもよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和2年度調査(51.1%)が平成27年度調査(70.4%)を19.3ポイント、平成22年度調査(67.1%)を16.0ポイント下回っている。

(b) 夫婦別姓の結婚が認められてもよい

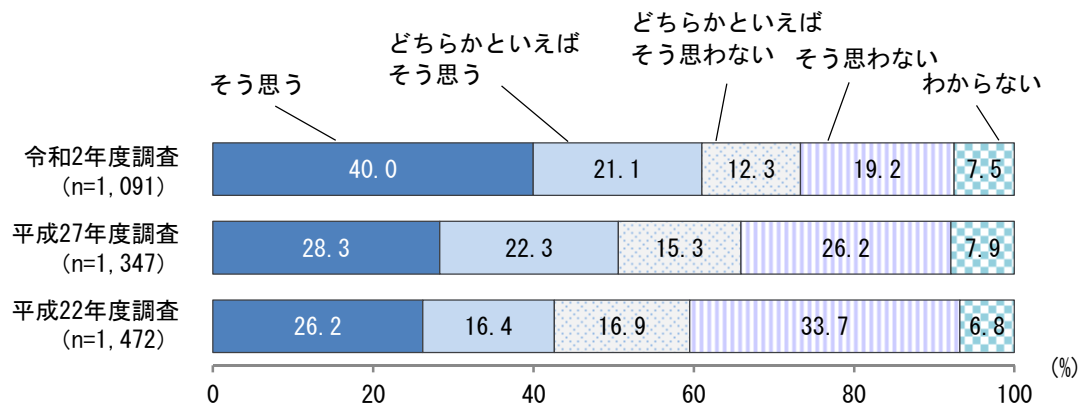
【図 夫婦別姓の結婚が認められてもよい（性別、性・年代別）】



夫婦別姓の結婚が認められてもよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（67.7%）が男性（51.0%）を16.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性20代、40代で8割台、男性20代で約8割となっている。一方、『そう思わない』との回答は男性80歳以上で約7割となっている。

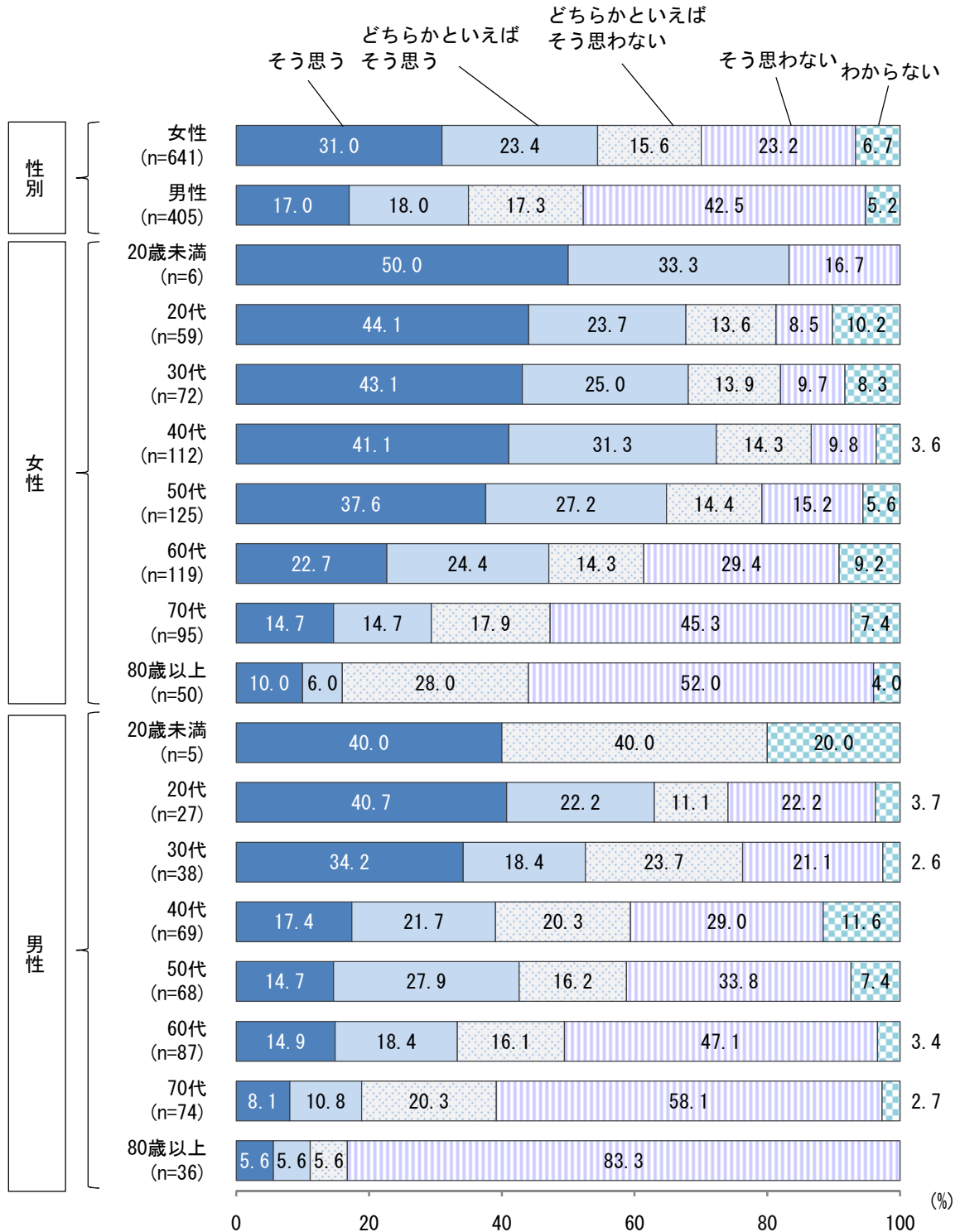
【図 夫婦別姓の結婚が認められてもよい（過去調査結果との比較）】



夫婦別姓の結婚が認められてもよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和2年度調査（61.1%）が平成27年度調査（50.6%）を10.5ポイント、平成22年度調査（42.6%）を18.5ポイント上回っている。

(c) お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない

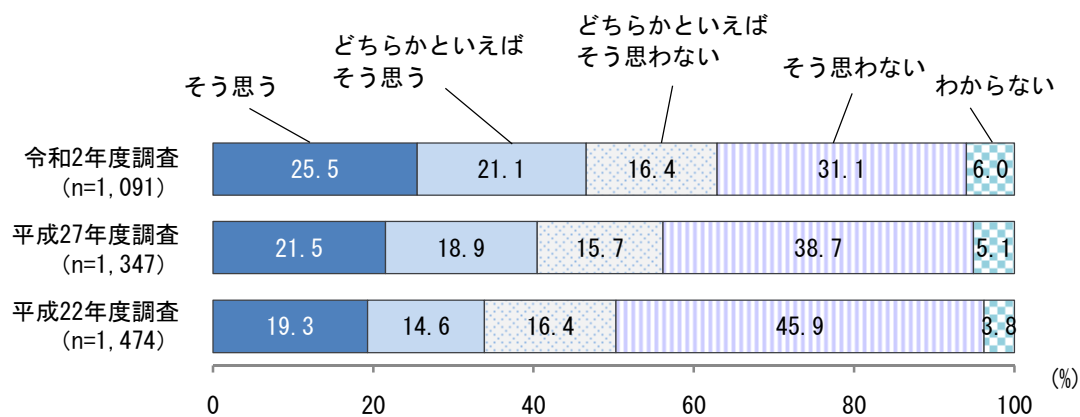
【図 お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない（性別、性・年代別）】



お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（54.4%）が男性（35.0%）を19.4ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性40代で7割超、男性20代で6割超となっている。また、『そう思わない』との回答は男女ともに年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

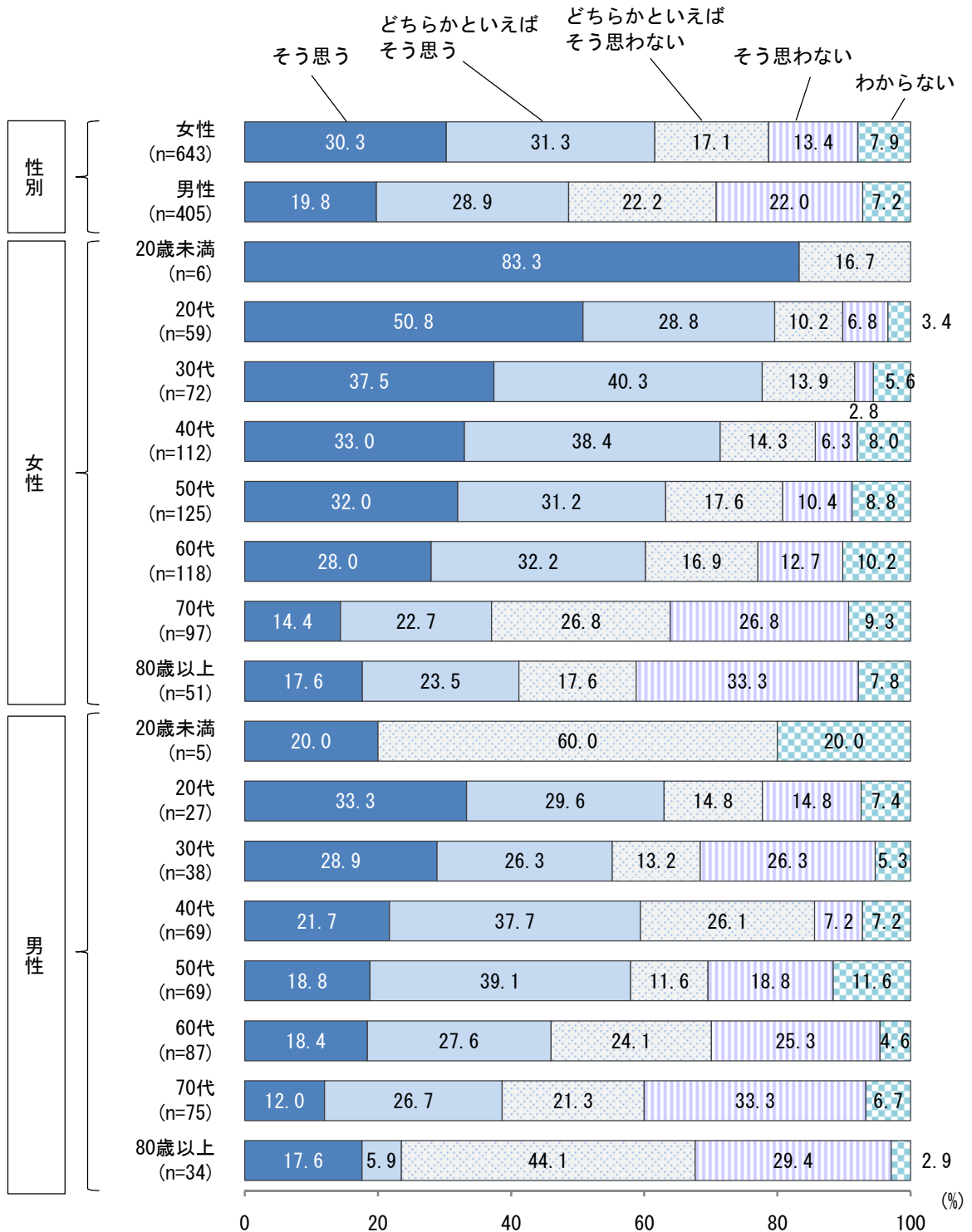
【図 お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない（過去調査結果との比較）】



お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和2年度調査（46.6%）が平成27年度調査（40.4%）を6.2ポイント、平成22年度調査（33.9%）を12.7ポイント上回っている。

(d) 結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい

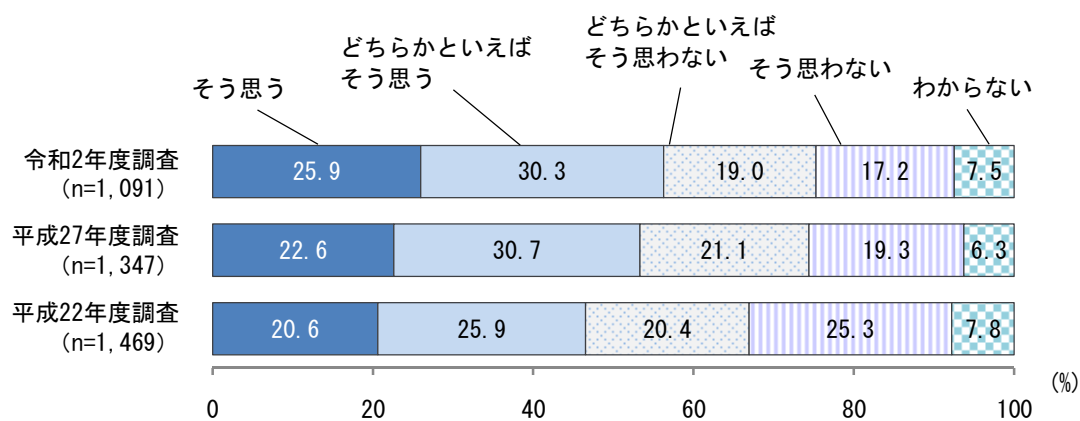
【図 結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい（性別、性・年代別）】



結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（61.6%）が男性（48.7%）を12.9ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性20代～30代で約8割、男性20代、40代～50代で6割前後となっている。

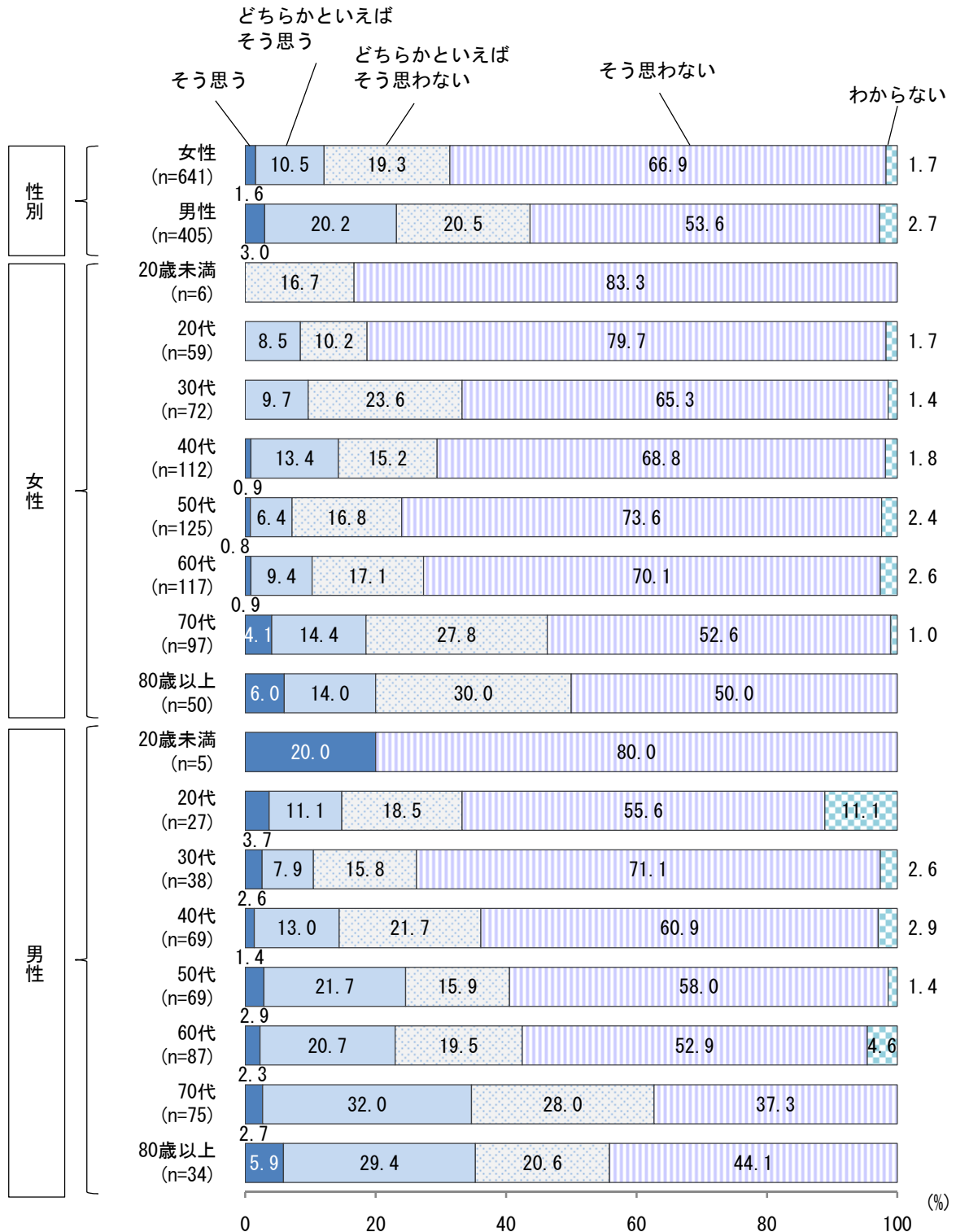
【図 結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい（過去調査結果との比較）】



結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和2年度調査（56.2%）が平成22年度調査（46.5%）を9.7ポイント上回っている。

(e) 男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ

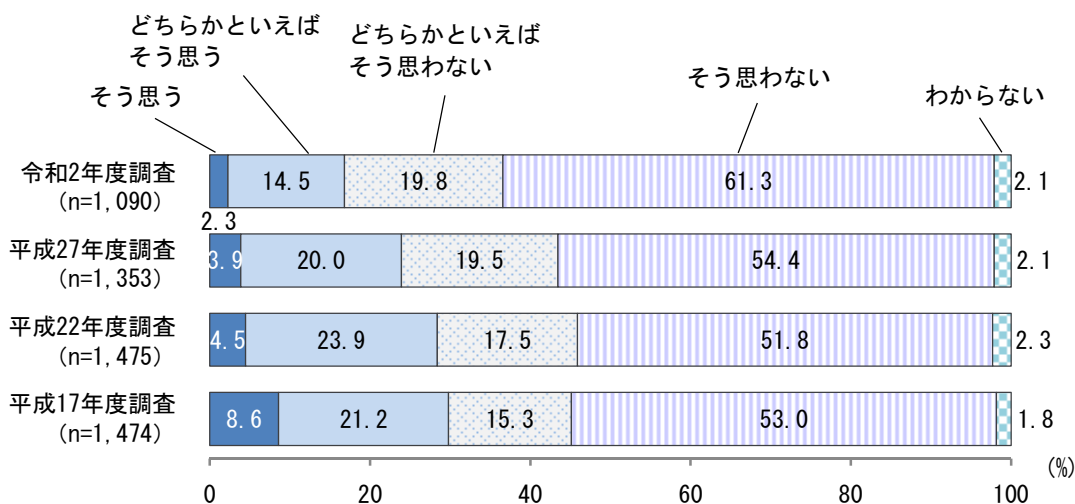
【図 男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ（性別、性・年代別）】



男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（23.2%）が女性（12.1%）を11.1ポイント上回っている。

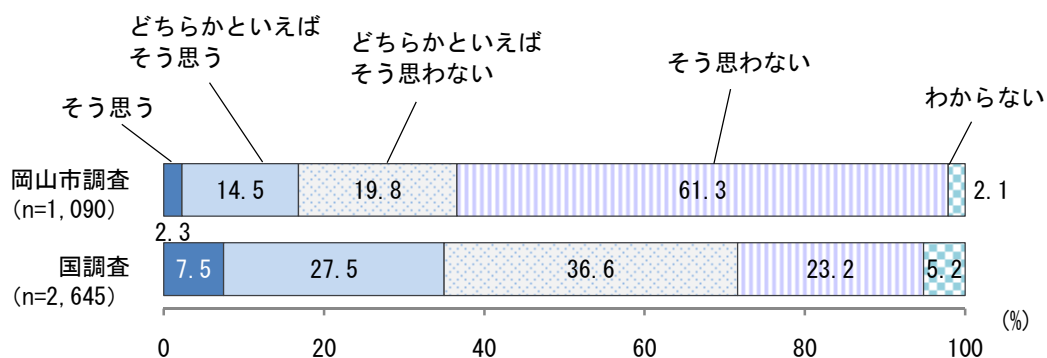
性・年代別にみると、『そう思う』との回答は男性70代～80歳以上で3割台半ばとなっている。一方、『そう思わない』との回答は女性20代～30代、50代～60代、男性30代で9割前後となっている。

【図 男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ（過去調査結果との比較）】



男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和2年度調査（16.8%）が平成27年度調査（23.9%）を7.1ポイント、平成22年度調査（28.4%）を11.6ポイント、平成17年度調査（29.8%）を13.0ポイント下回っている。

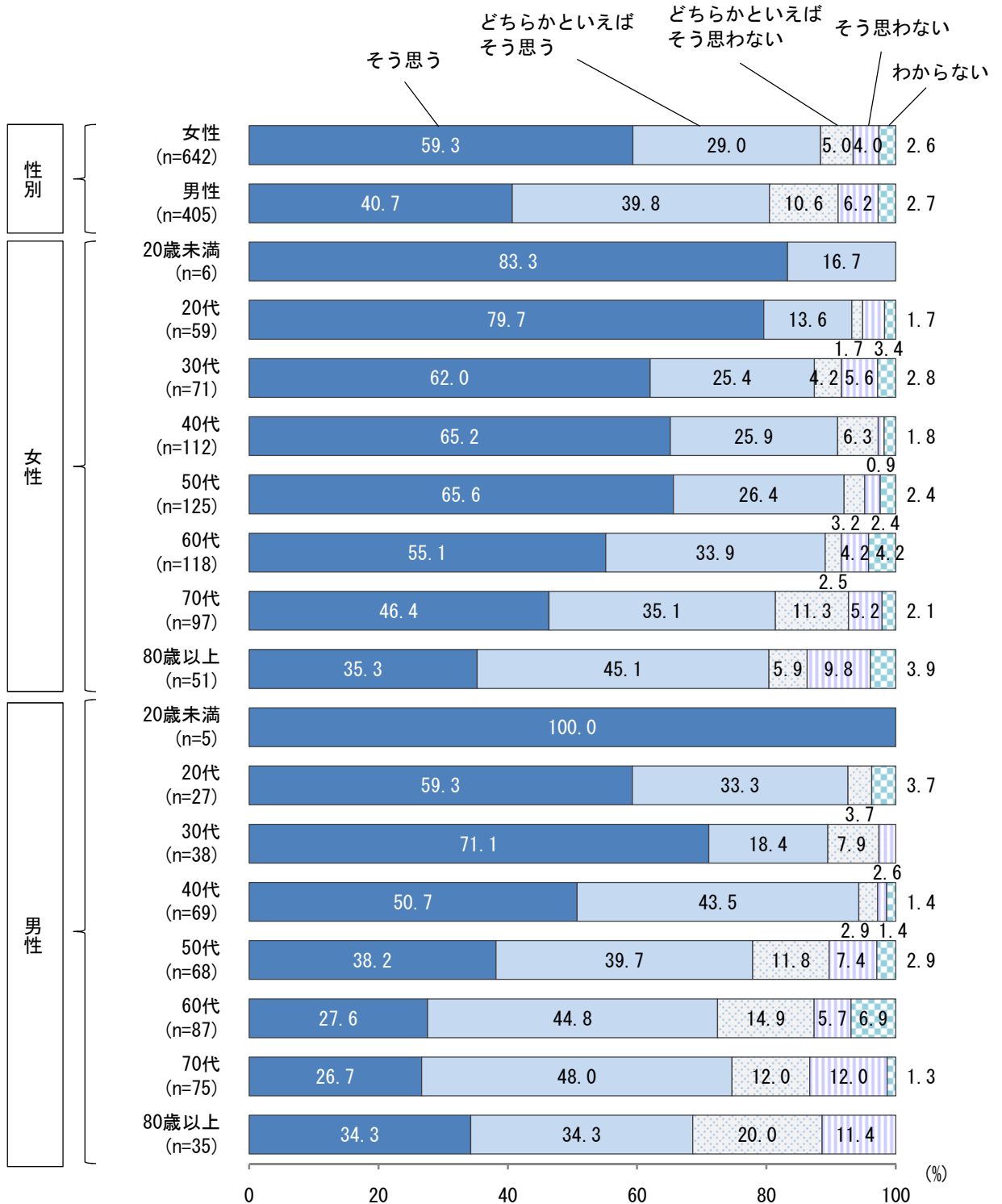
【図 男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ（国調査結果との比較）】



男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだとの考え方について、国調査結果と比較すると、『そう思う』との回答は岡山市調査（16.8%）が国調査（35.0%）を18.2ポイント下回っている。

(f) 男女どちらが働いても、家事・育児等をしてよい

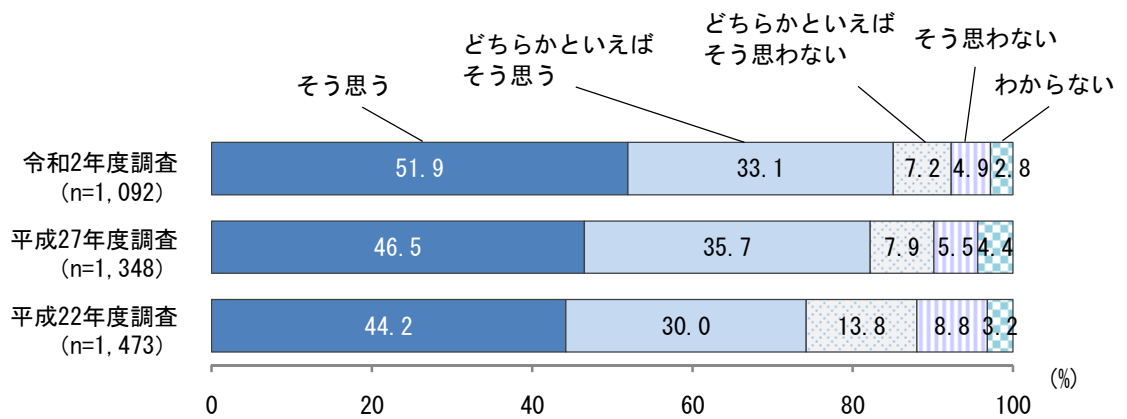
【図 男女どちらが働いても、家事・育児等をしてよい（性別、性・年代別）】



男女どちらが働いても、家事・育児等をしてよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（88.3%）が男性（80.5%）を7.8ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性20代、40代～50代、男性20代、40代で9割超となっている。

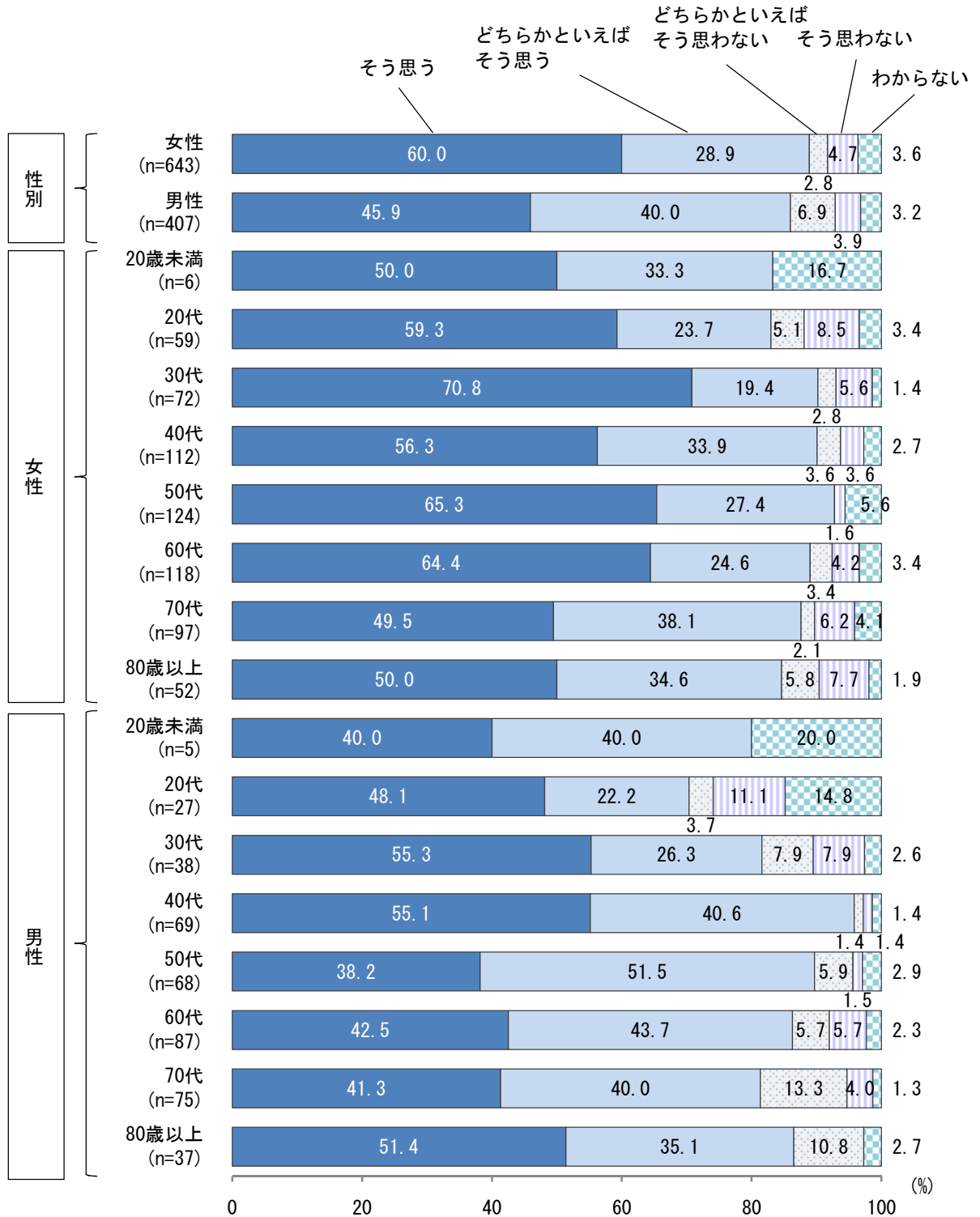
【図 男女どちらが働いても、家事・育児等をしてよい（過去調査結果との比較）】



男女どちらが働いても、家事・育児等をしてよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和2年度調査(85.0%)が平成22年度調査(74.2%)を10.8ポイント上回っている。

(g) 男女どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい

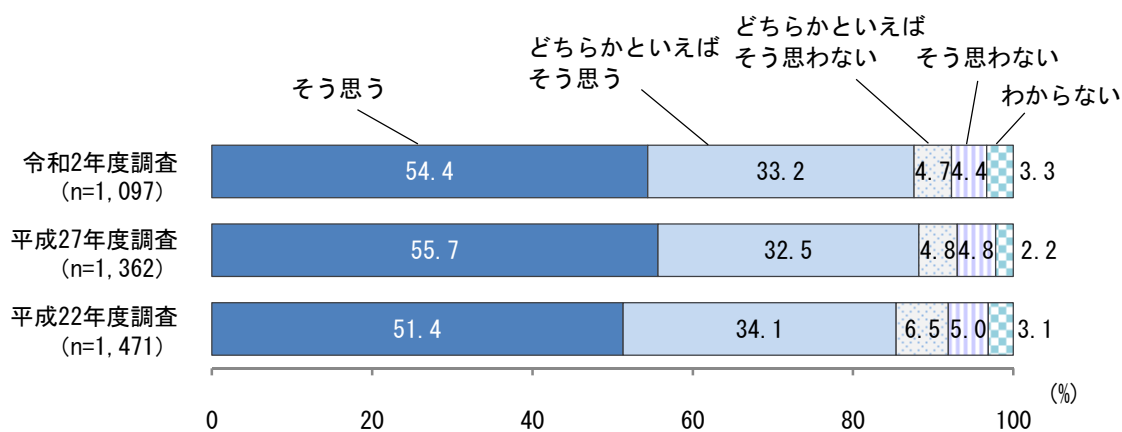
【図 男女どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい（性別、性・年代別）】



男女どちらも仕事と家庭を両立できるのがよいとの考え方について、性別にみると、「そう思う」との回答は女性（60.0%）が男性（45.9%）を14.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性30代～50代で9割超、男性40代で9割台半ばとなっているが、年代によってばらつきがある。

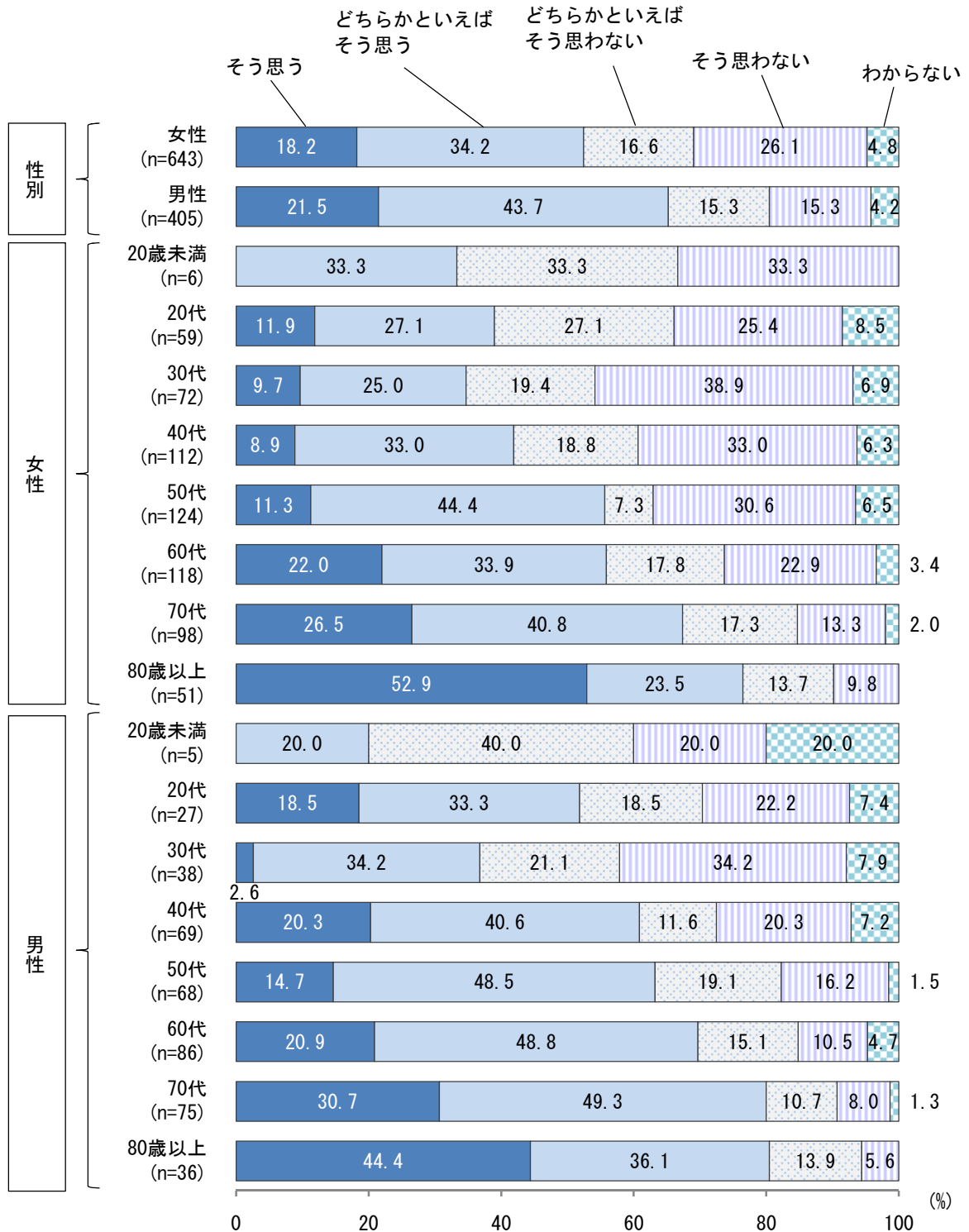
【図 男女どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい（過去調査結果との比較）】



男女どちらも仕事と家庭を両立できるのがよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答はいずれの調査でも8割台半ばと大きな差は見られない。

(h) 子どもが小さいときは女性は、育児に専念する方がよい

【図 子どもが小さいときは女性は、育児に専念する方がよい（性別、性・年代別）】

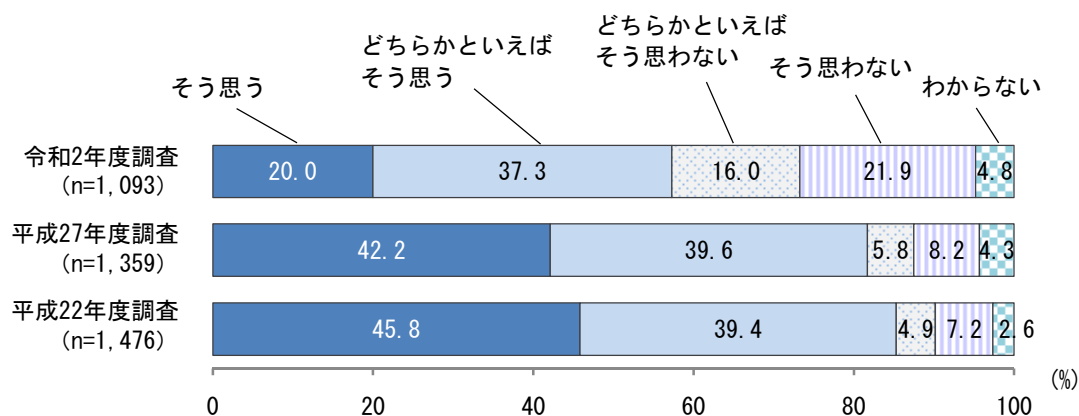


子どもが小さいときは女性は、育児に専念する方がよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（65.2%）が女性（52.4%）を12.8ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性80歳以上で7割台半ば、男性70代～80歳以上で約8割となっている。

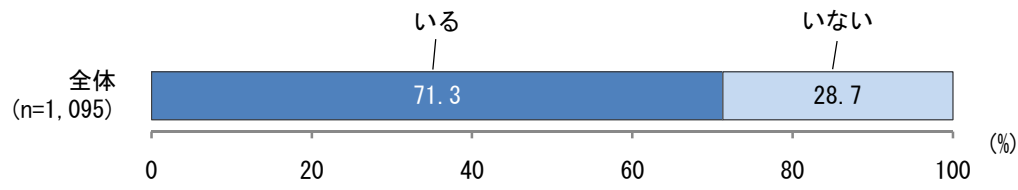
【図 子どもが小さいときは女性は、育児に専念する方がよい（過去調査結果との比較）】

※平成 22 年度調査、平成 27 年度調査では「子どもが小さいときは家にいたほうがよい」となっている。



子どもが小さいときは女性は、育児に専念する方がよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和 2 年度調査（57.3%）が平成 27 年度調査（81.8%）を 24.5 ポイント、平成 22 年度調査（85.2%）を 27.9 ポイント下回っている。

問3 現在、あなたには配偶者（夫または妻）・パートナー（事実上、婚姻関係と同様の事情にあたる者）がいますか。（○は1つ）

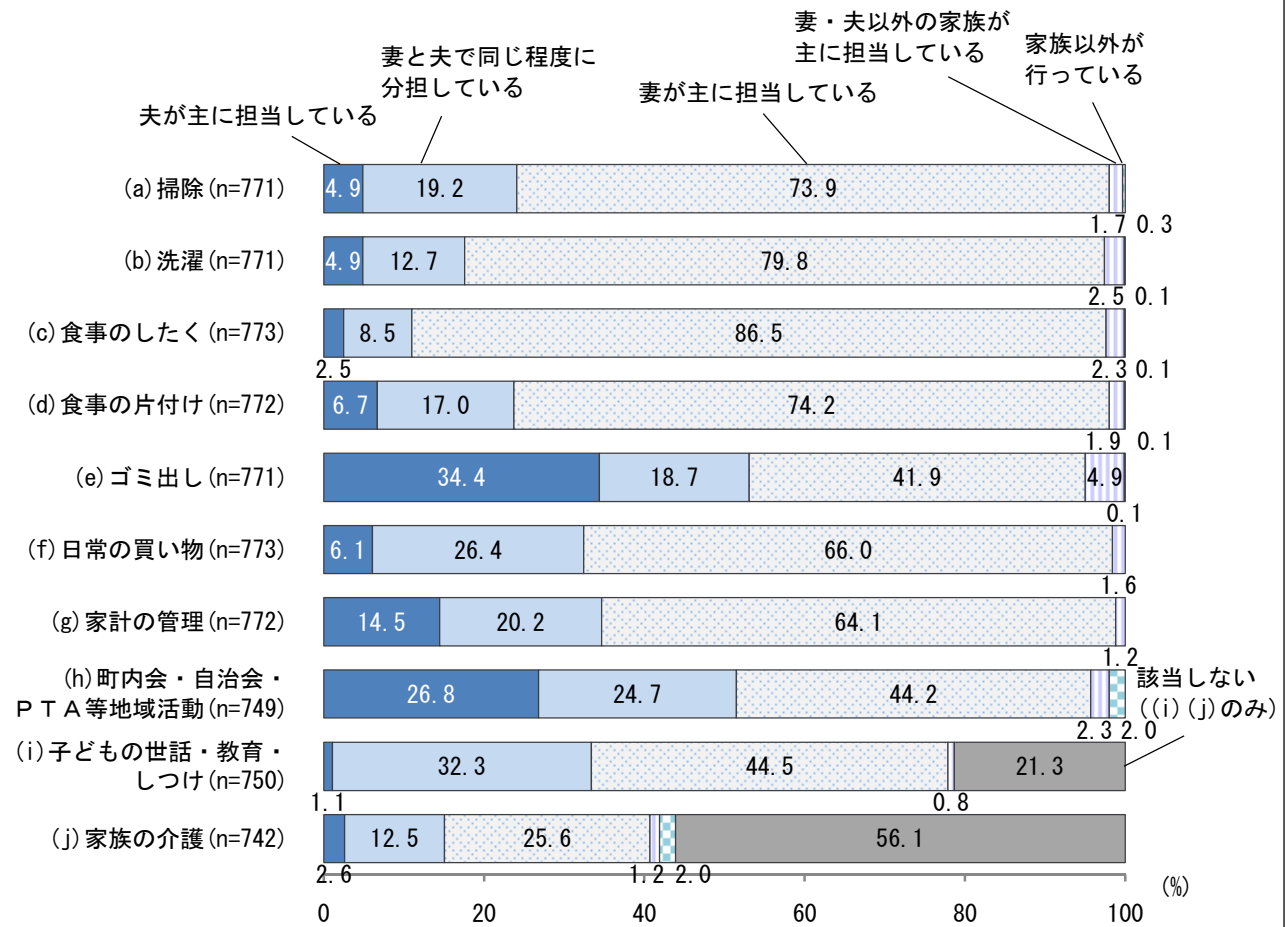


配偶者・パートナーの有無について、「いる」との回答が 71.3%、「いない」との回答が 28.7%となっている。

問4は問3で現在配偶者・パートナーが「いる」と回答した方が対象

問4 あなたの家庭では、次の(a)から(j)の項目について、主に誰が担当していますか。

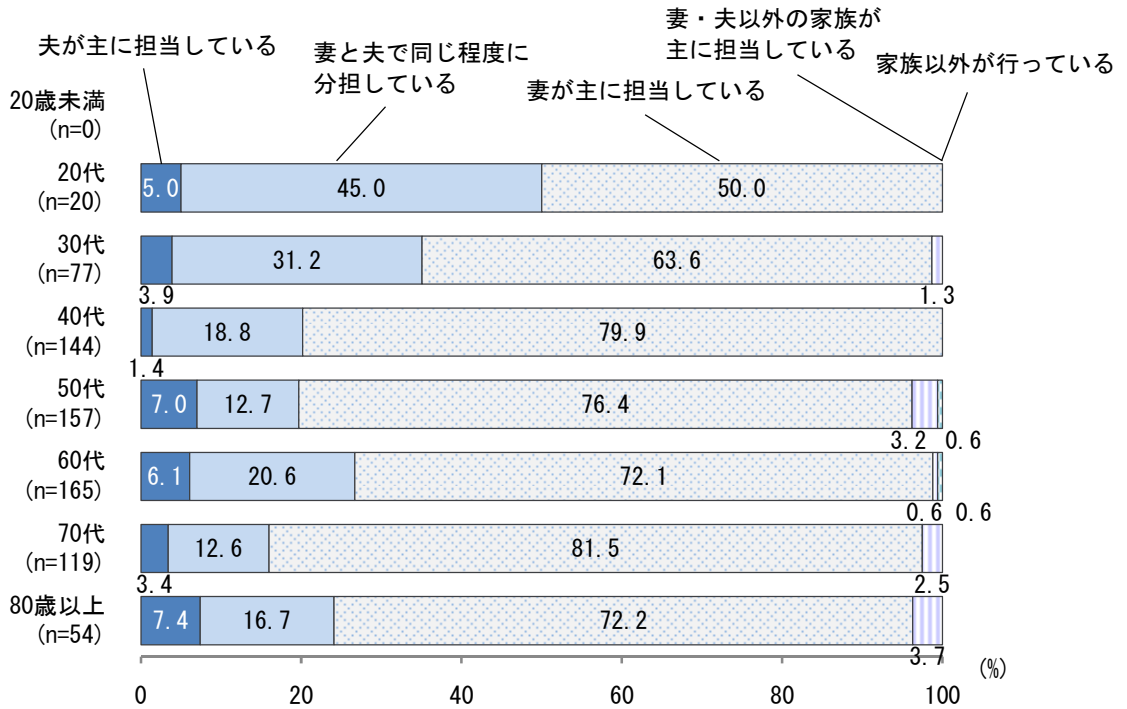
(○はそれぞれ1つ)



家庭での担当について、「夫が主に担当している」との回答は「ゴミ出し」で3割台半ば、「妻と夫と
同じ程度に分担している」との回答は「日常の買い物」、「町内会・自治会・PTA等地域活動」、「子
どもの世話・教育・しつけ」で2割台半ばから3割超、「妻が主に担当している」との回答は「食事のし
たく」で8割台半ば、「洗濯」で約8割となっている。

(a) 掃除

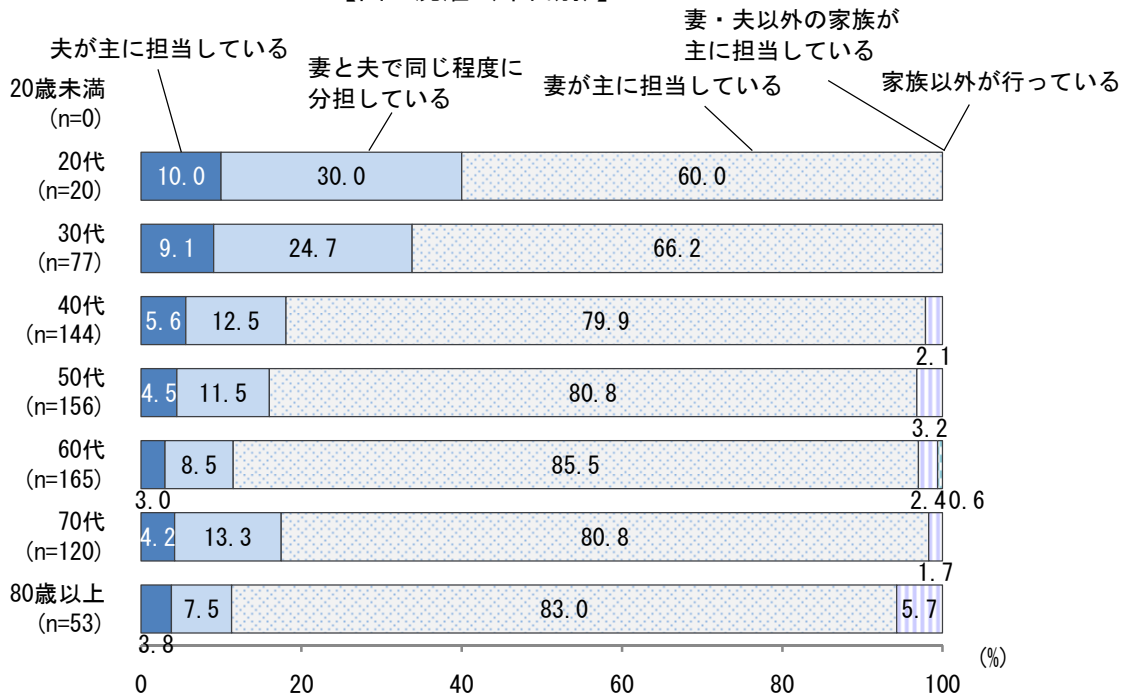
【図 掃除（年代別）】



掃除の担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は 20代で4割台半ば、「妻が主に担当している」との回答は40代、70代で8割前後となっている。

(b) 洗濯

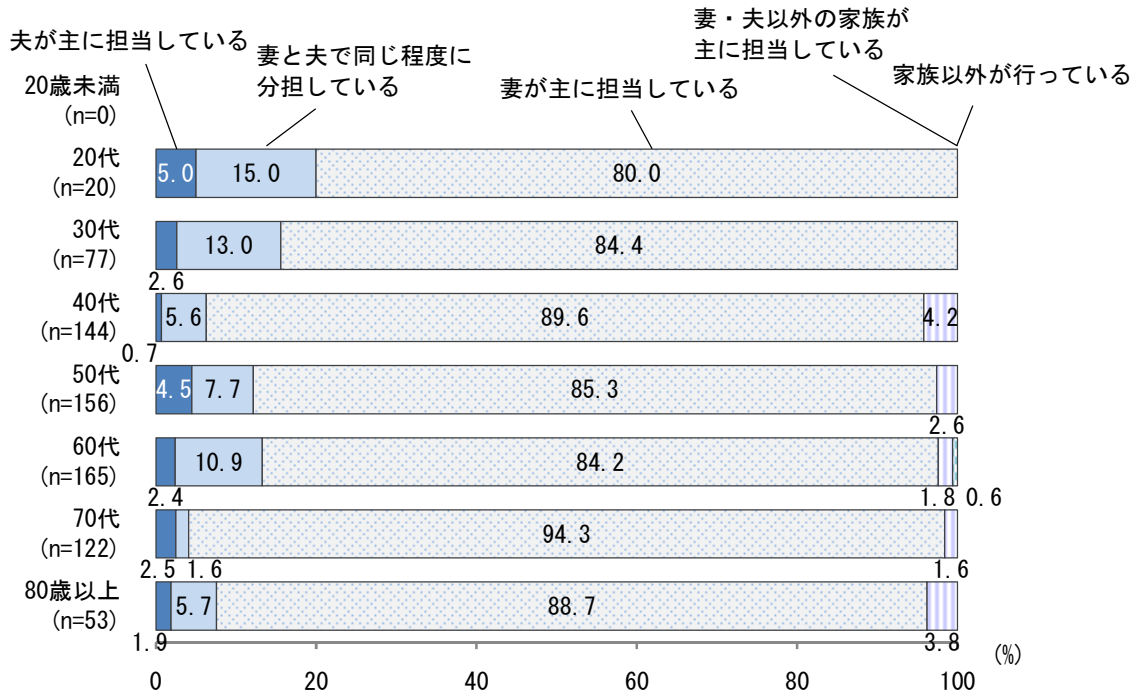
【図 洗濯（年代別）】



洗濯の担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は 20代で3割、「妻が主に担当している」との回答は60代で8割台半ばとなっている。

(c) 食事のしたく

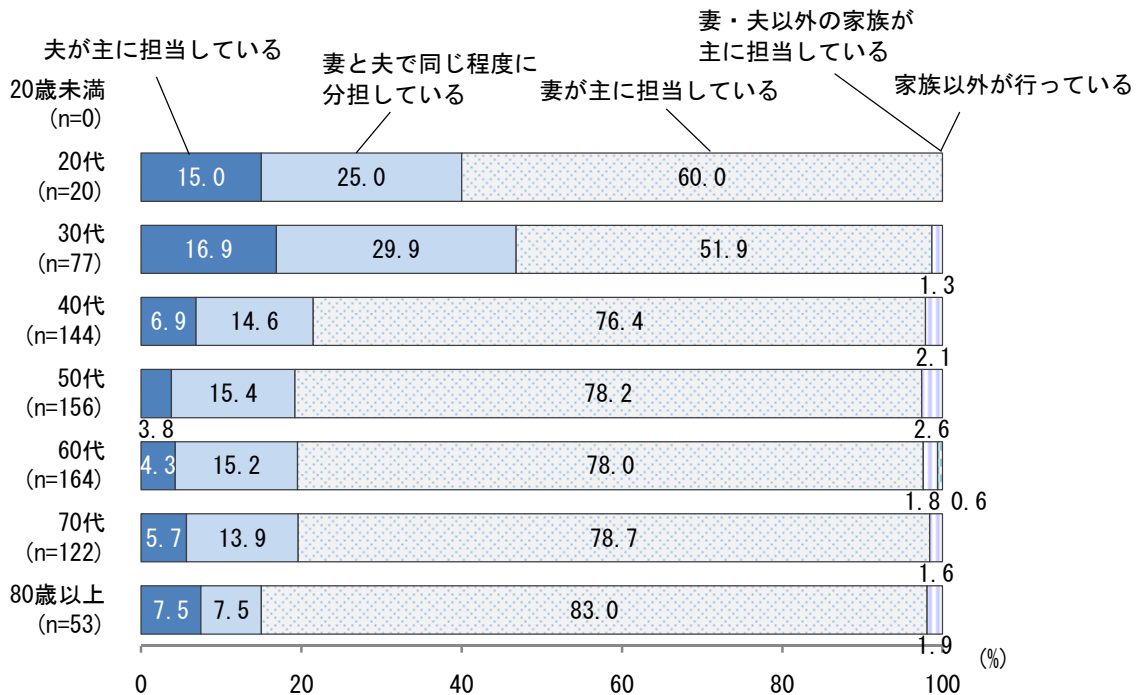
【図 食事のしたく（年代別）】



食事のしたくの担当について、どの年代においても、「妻が主に担当している」との回答は8割を超えている。

(d) 食事の片付け

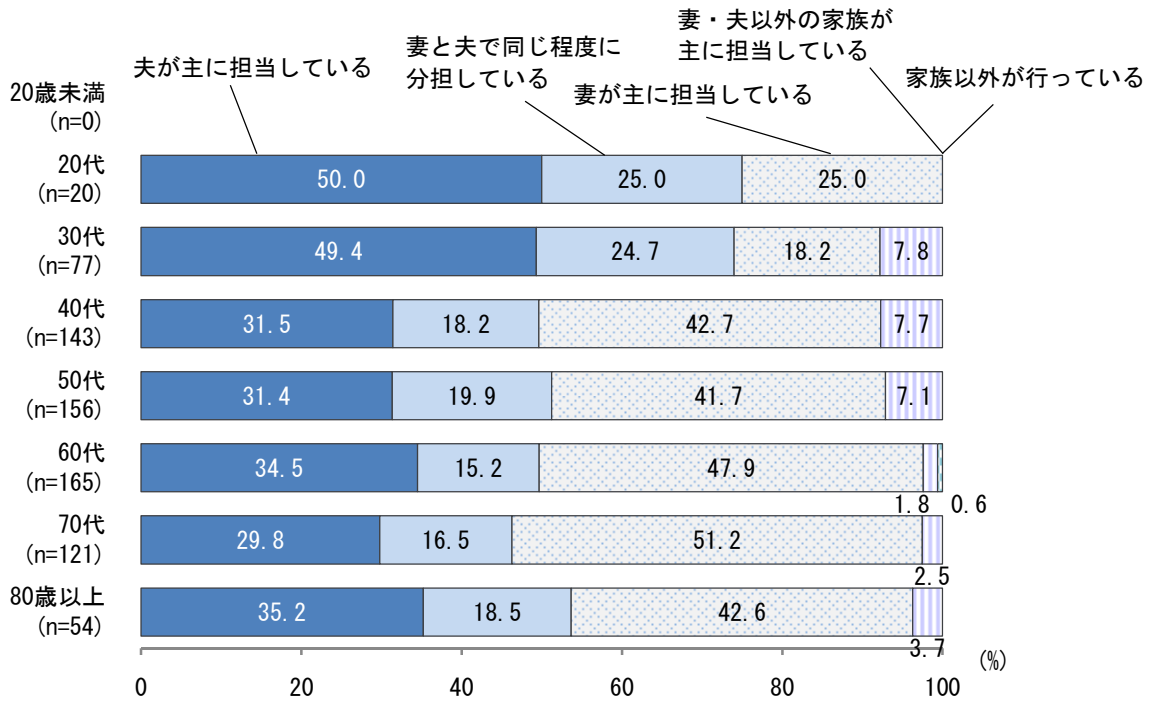
【図 食事の片付け（年代別）】



食事の片付けの担当について、年代別にみると、40代以上は「妻が主に担当している」との回答は7割を超えている。

(e) ゴミ出し

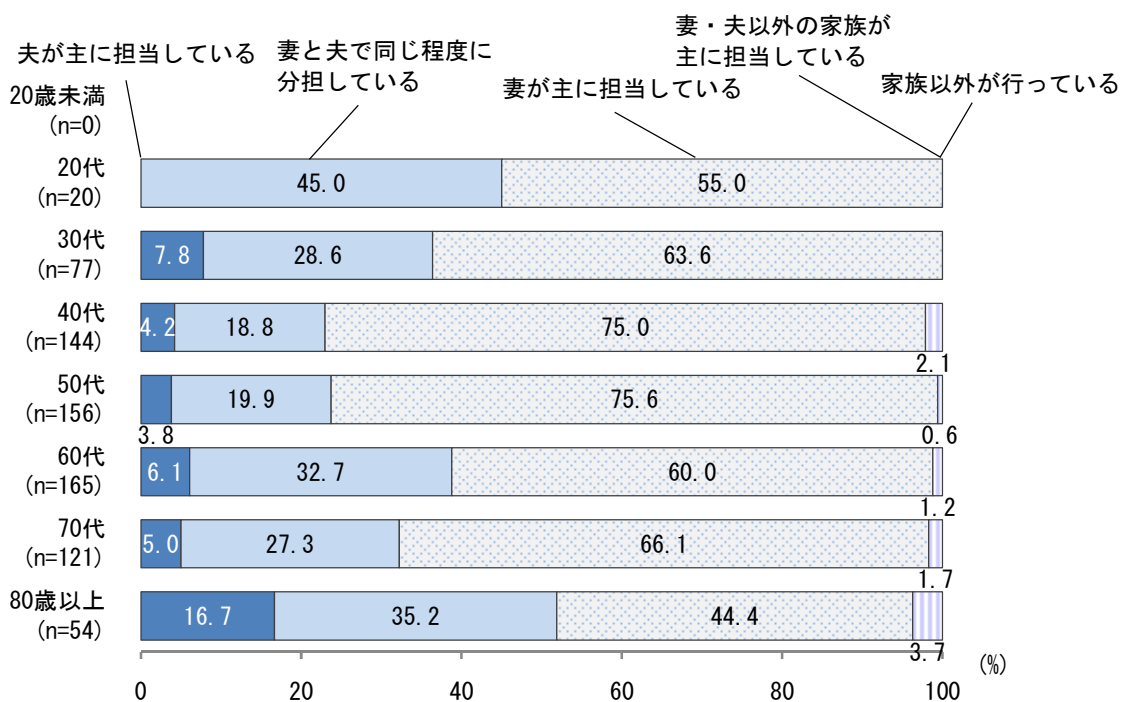
【図 ゴミ出し（年代別）】



ゴミ出しの担当について、年代別にみると、「夫が主に担当している」との回答は20代～30代で約5割、「妻が主に担当している」との回答は70代で5割超となっている。

(f) 日常の買い物

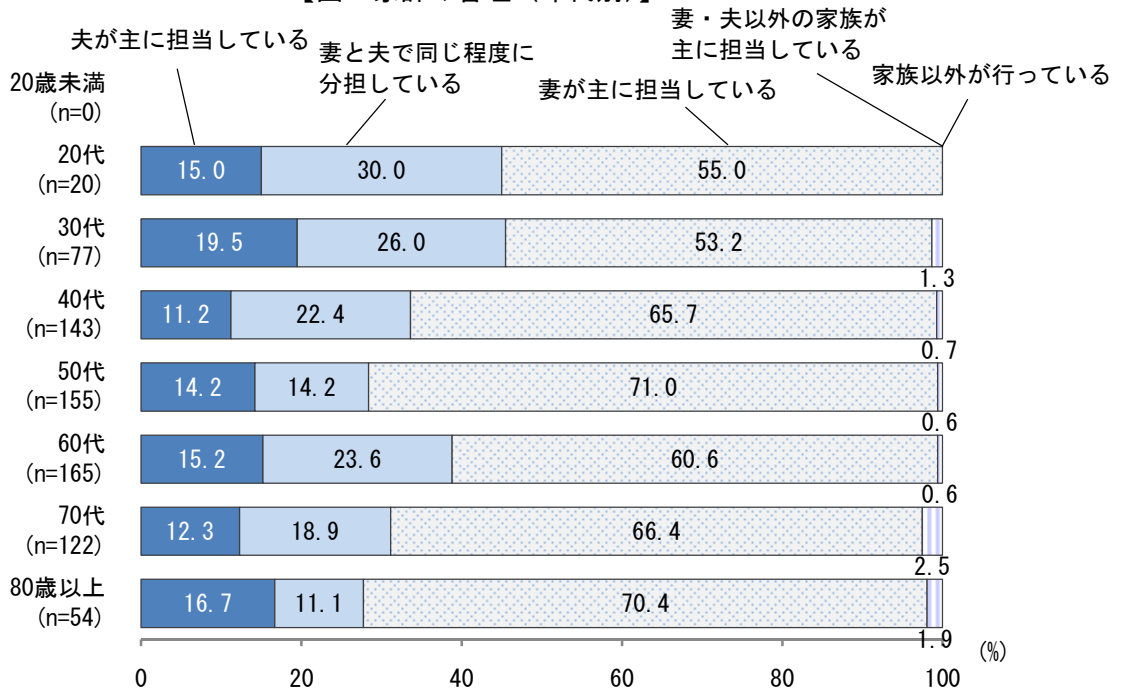
【図 日常の買い物（年代別）】



日常の買い物の担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は20代で4割台半ば、「妻が主に担当している」との回答は40代～50代で7割台半ばとなっている。

(g) 家計の管理

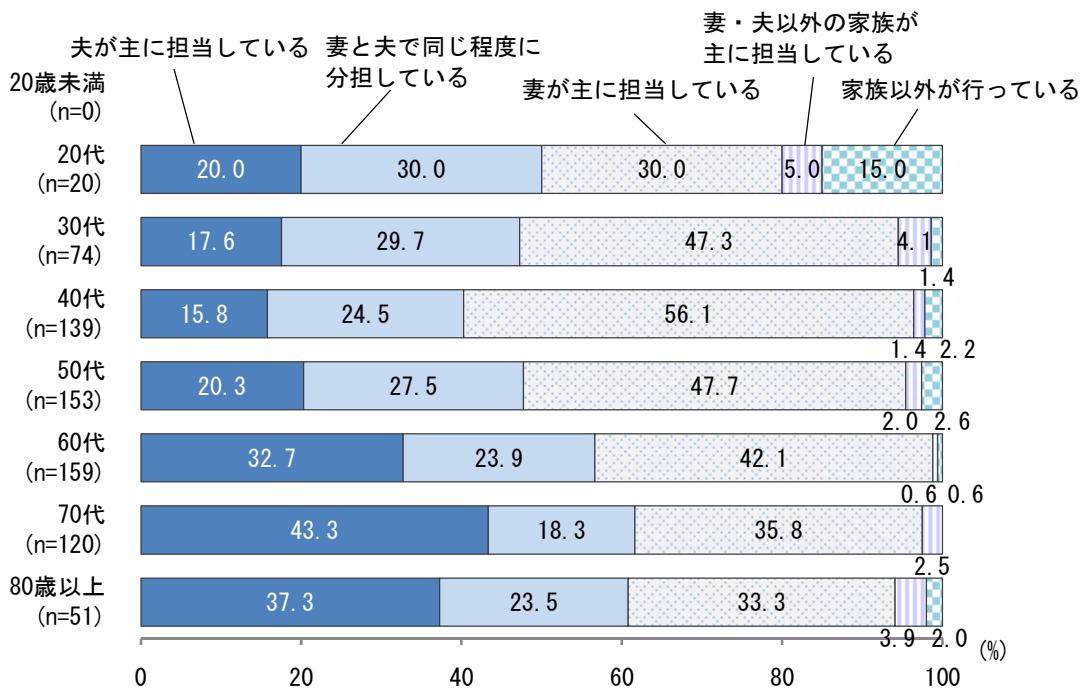
【図 家計の管理（年代別）】



家計の管理の担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は20代で3割、「妻が主に担当している」との回答は50代、80歳以上で7割超となっている。

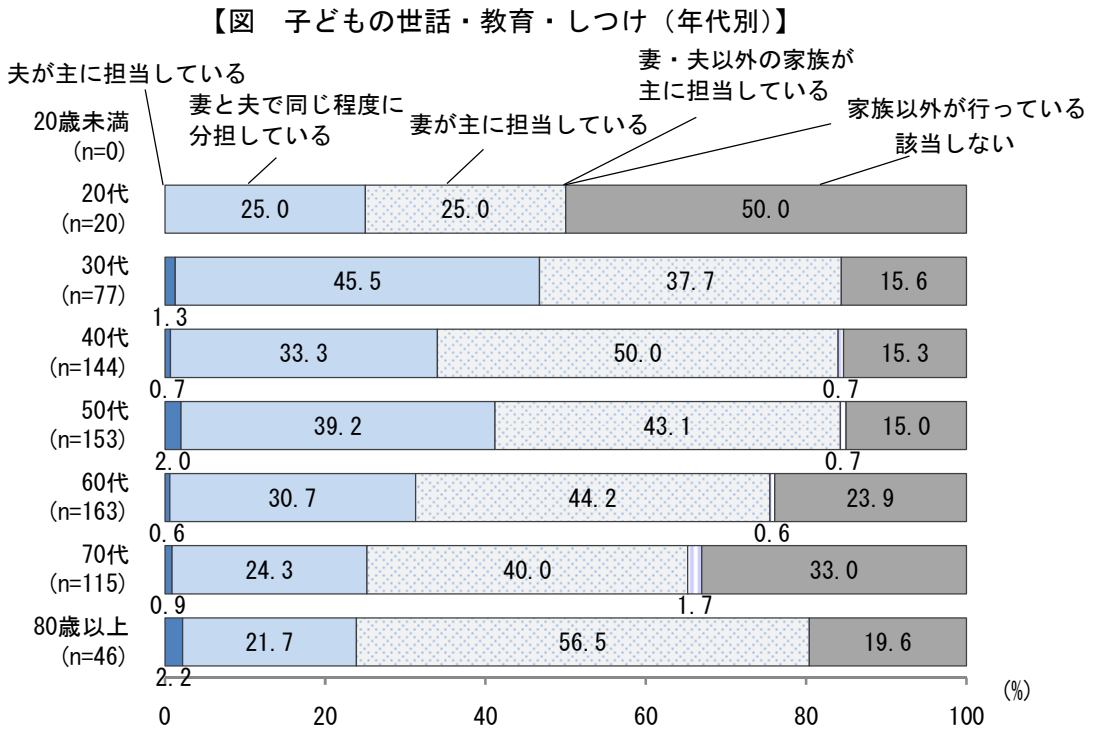
(h) 町内会・自治会・PTA等地域活動

【図 町内会・自治会・PTA等地域活動（年代別）】



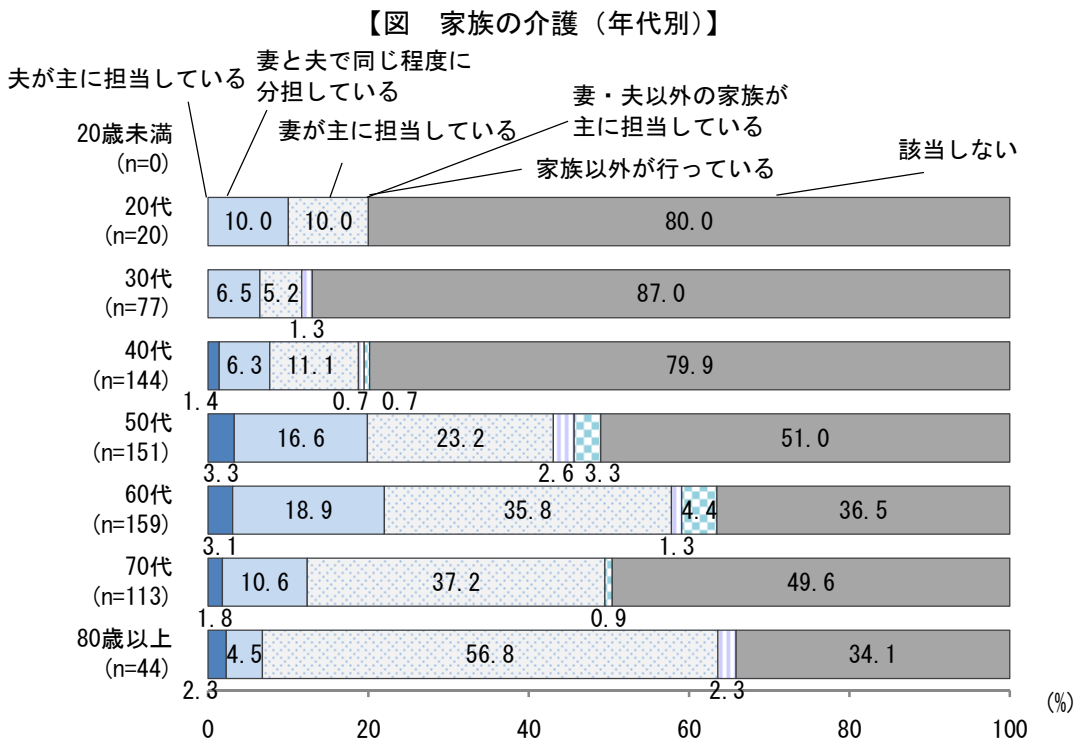
町内会・自治会・PTA等地域活動の担当について、年代別にみると、「夫が主に担当している」との回答は70代で4割台半ば、「妻が主に担当している」との回答は40代で5割台半ばとなっている。

(i) 子どもの世話・教育・しつけ



子どもの世話・教育・しつけの担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は30代で4割台半ば、「妻が主に担当している」との回答は80歳以上で5割台半ばとなっている。

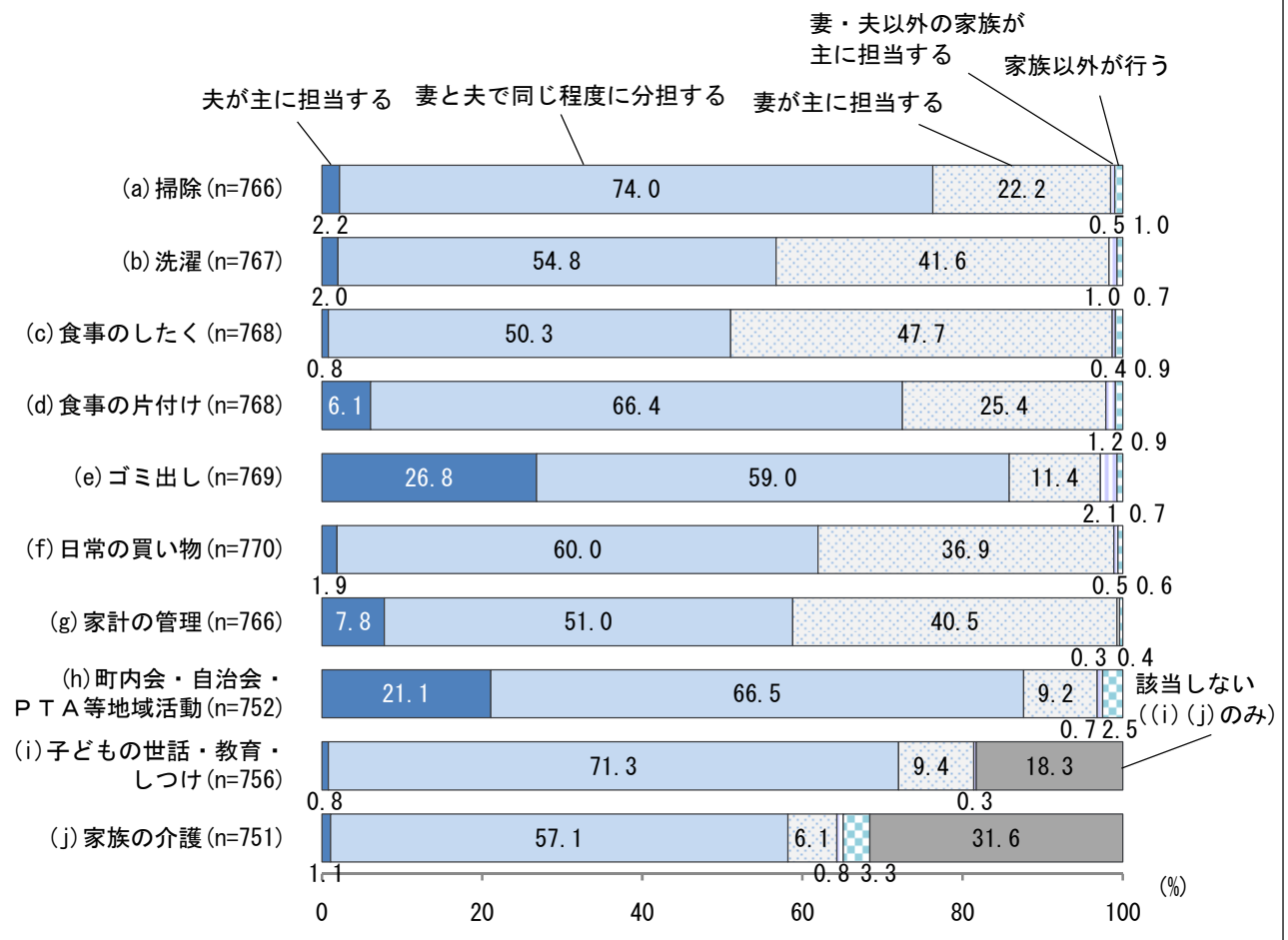
(j) 家族の介護



家族の介護の担当について、年代別にみると、「妻が主に担当している」との回答は80歳以上で5割台半ばとなっている。

問5は問3で現在配偶者・パートナーが「いる」と回答した方のみが対象

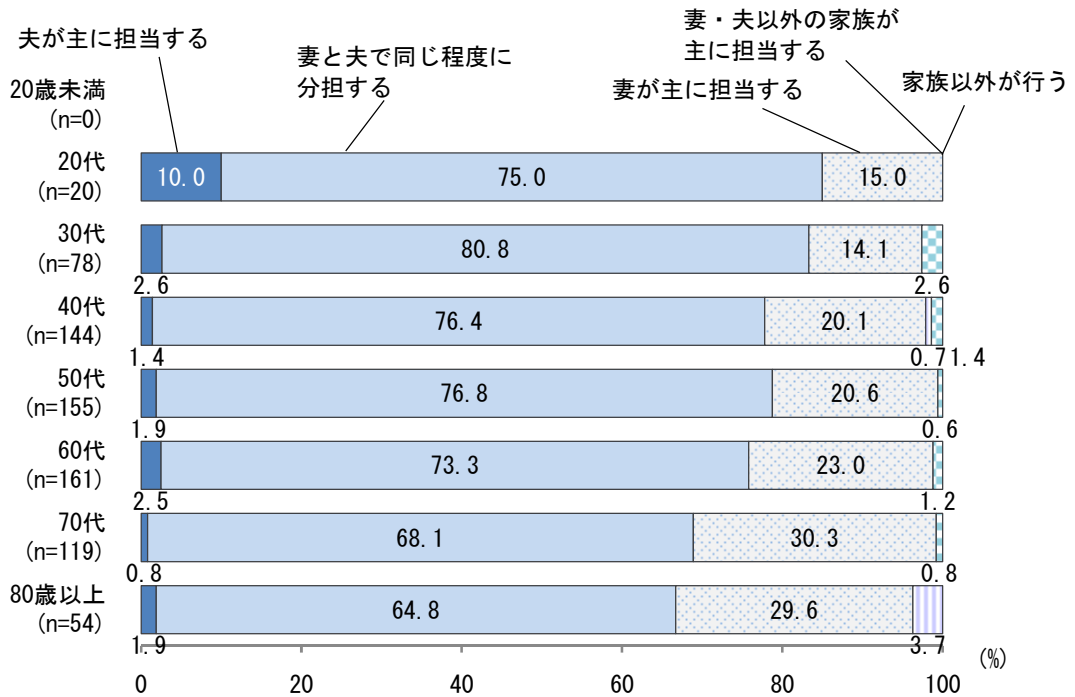
問5 あなたの希望（理想）は、次の（a）から（j）の項目について、どのように分担するのがよいと思いますか。（○はそれぞれ1つ）



家庭での理想の分担について、「夫が主に担当する」との回答は「ゴミ出し」で2割台半ば、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は「掃除」、「子どもの世話・教育・しつけ」で7割台、「妻が主に担当する」との回答は「食事のしたく」、「洗濯」、「家計の管理」で4割台となっている。

(a) 掃除

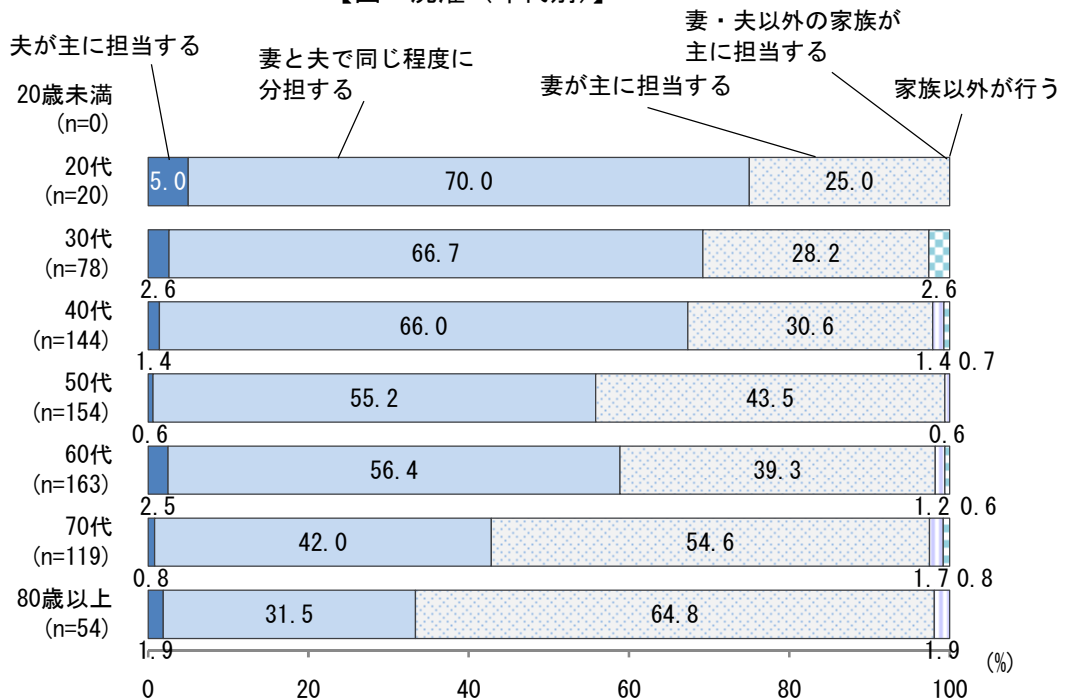
【図 掃除（年代別）】



掃除での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は30代で約8割、「妻が主に担当する」との回答は70代、80歳以上で約3割となっている。

(b) 洗濯

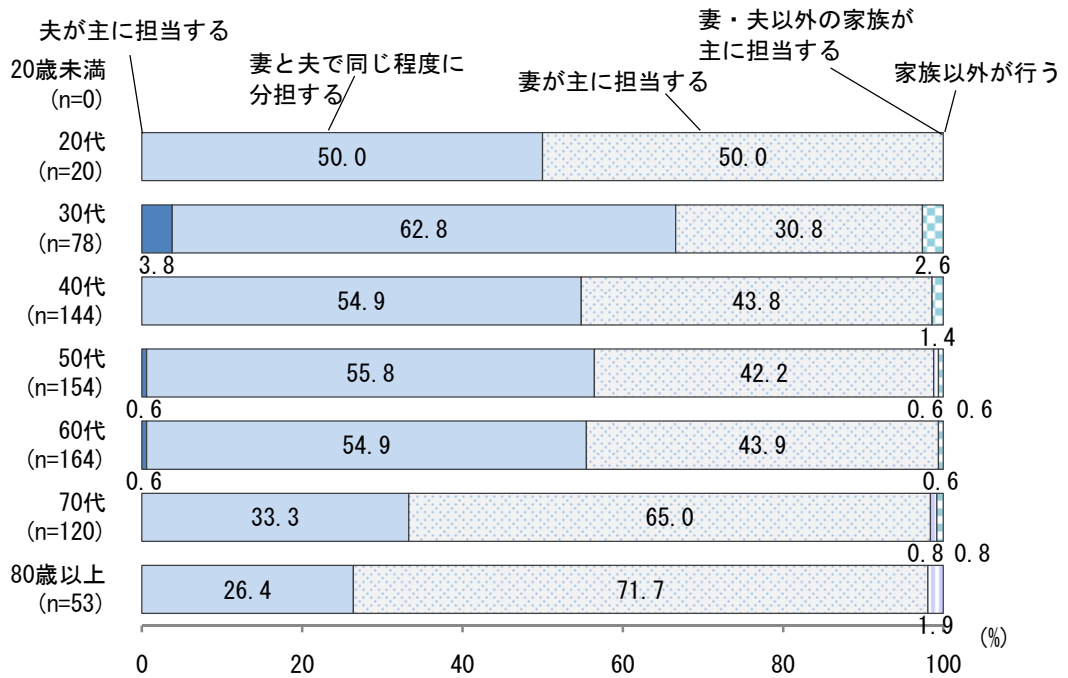
【図 洗濯（年代別）】



洗濯での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は20代で7割、「妻が主に担当する」との回答は80歳以上で6割台半ばとなっている。

(c) 食事のしたく

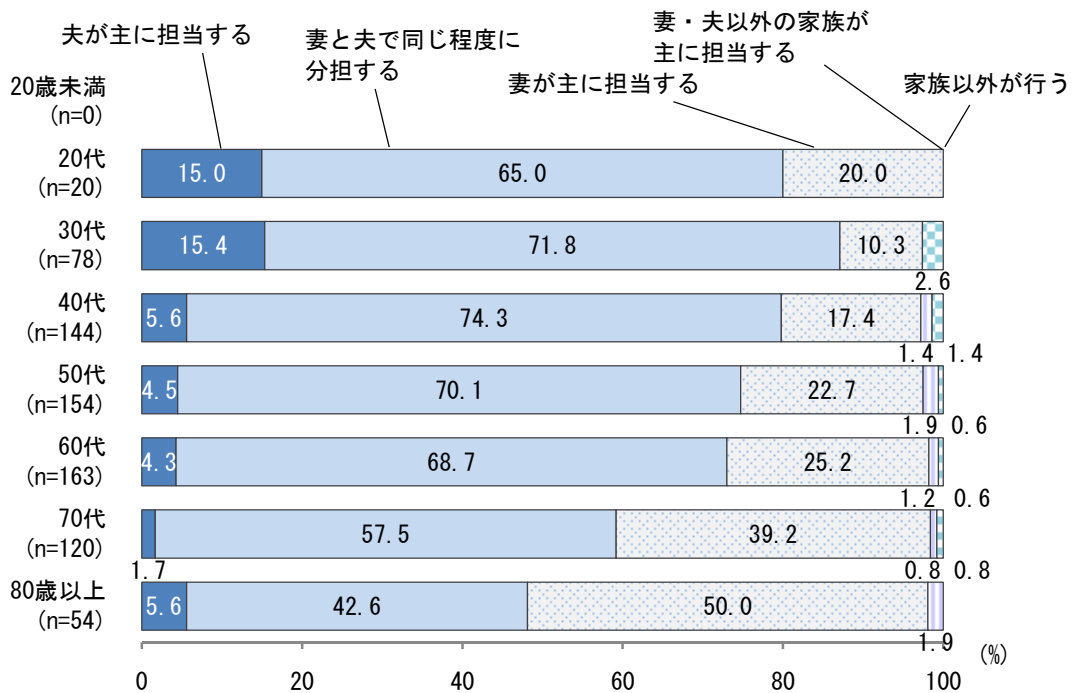
【図 食事のしたく（年代別）】



食事のしたくでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は30代で6割超、「妻が主に担当する」との回答は80歳以上で7割超となっている。

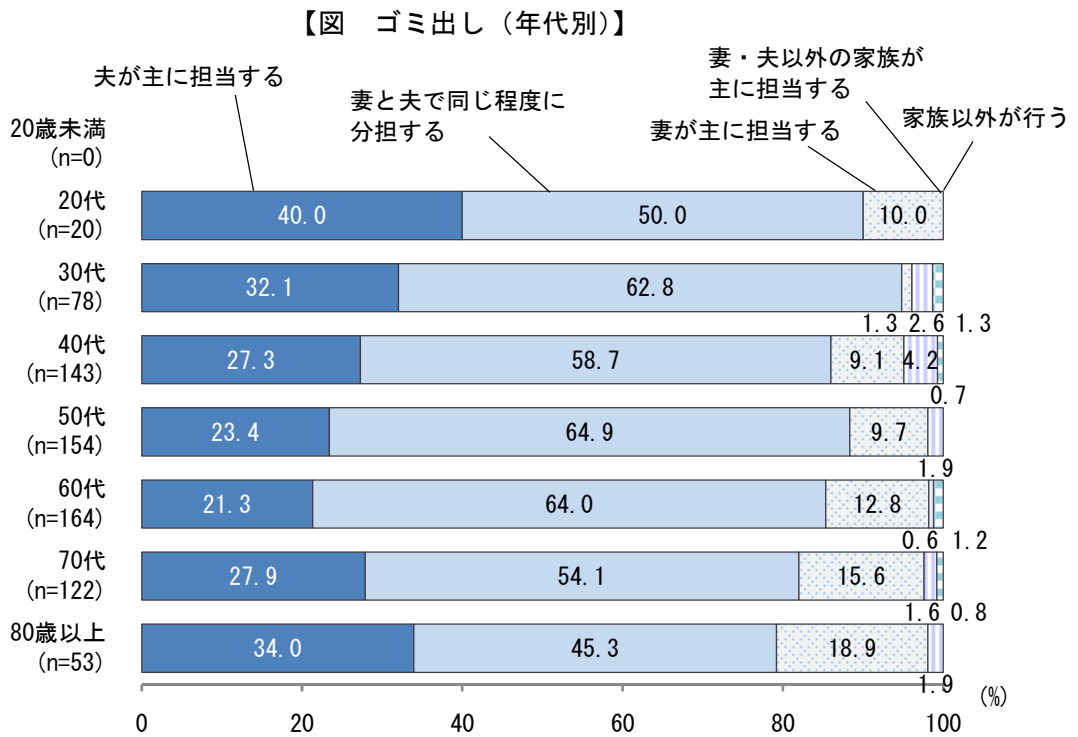
(d) 食事の片付け

【図 食事の片付け（年代別）】



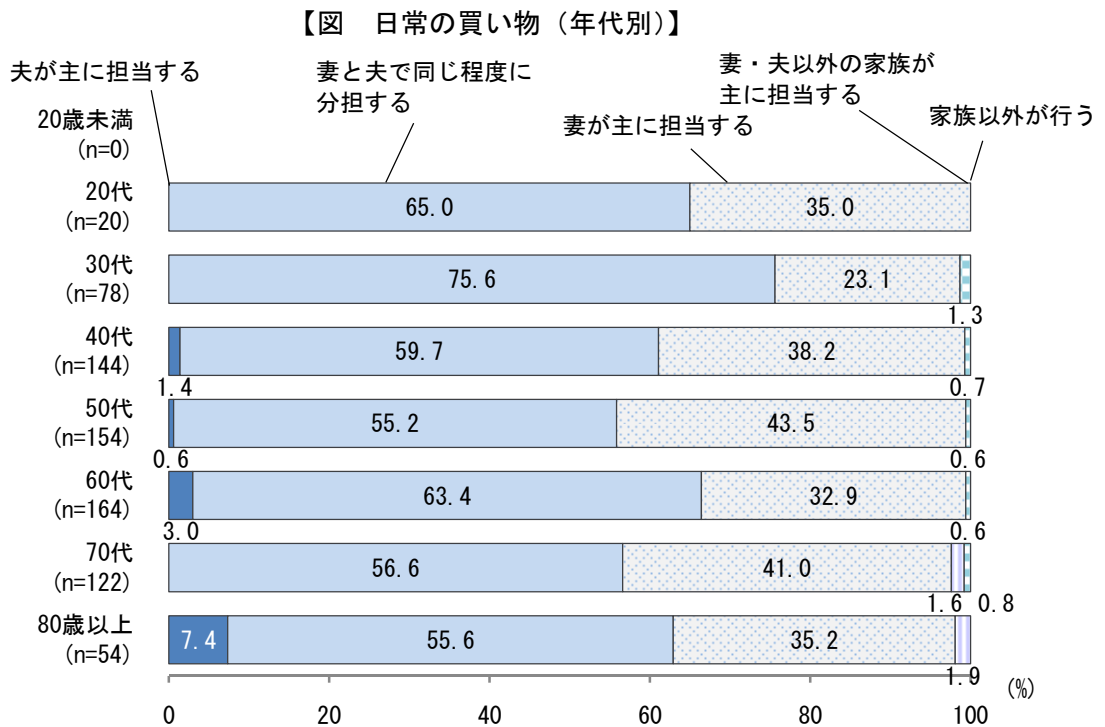
食事の片付けでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は30代~50代で7割台、「妻が主に担当する」との回答は80歳以上で5割となっている。

(e) ゴミ出し



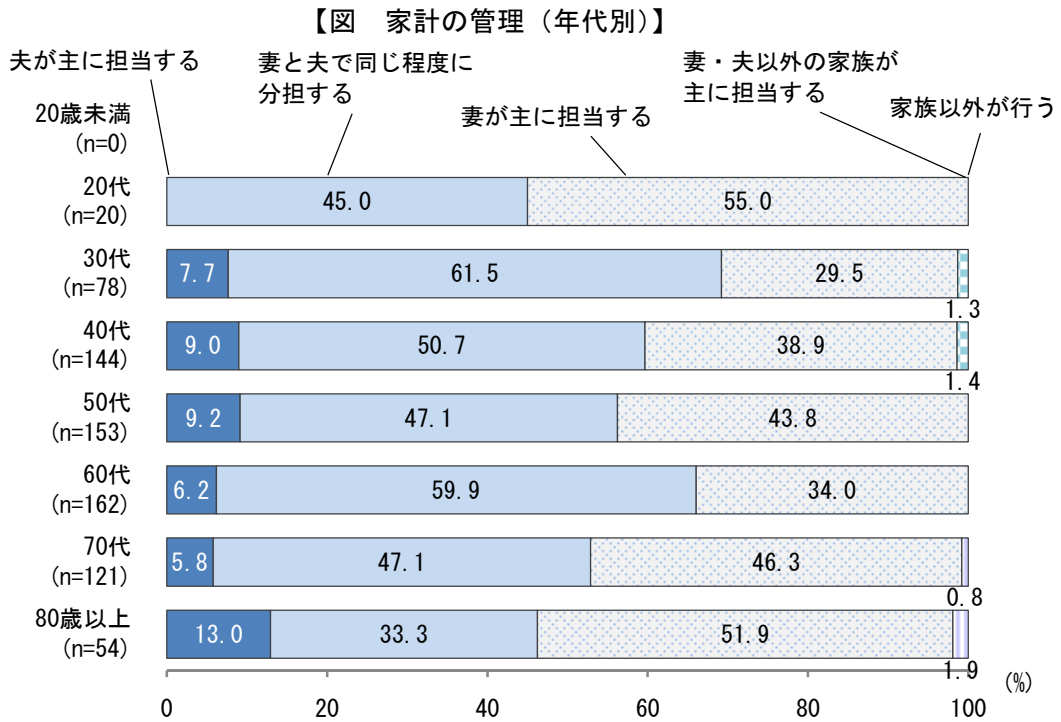
ゴミ出しでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は30代、50代～60代で6割台半ばとなっている。

(f) 日常の買い物



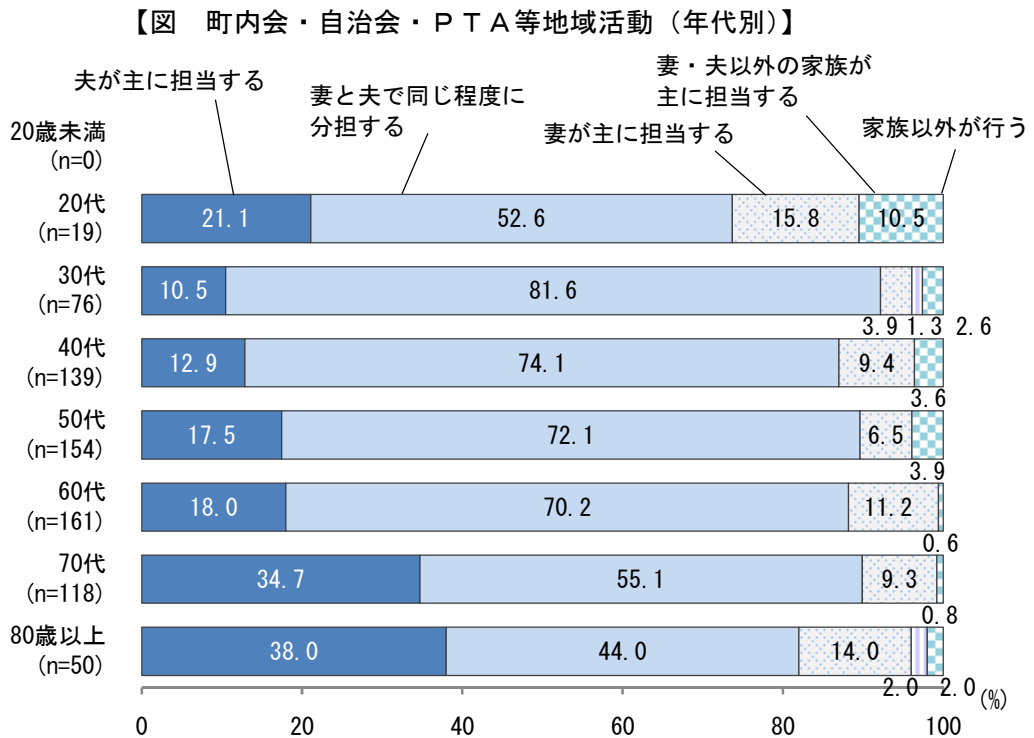
日常の買い物での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は30代で7割台半ば、「妻が主に担当する」との回答は50代、70代で4割台となっている。

(g) 家計の管理



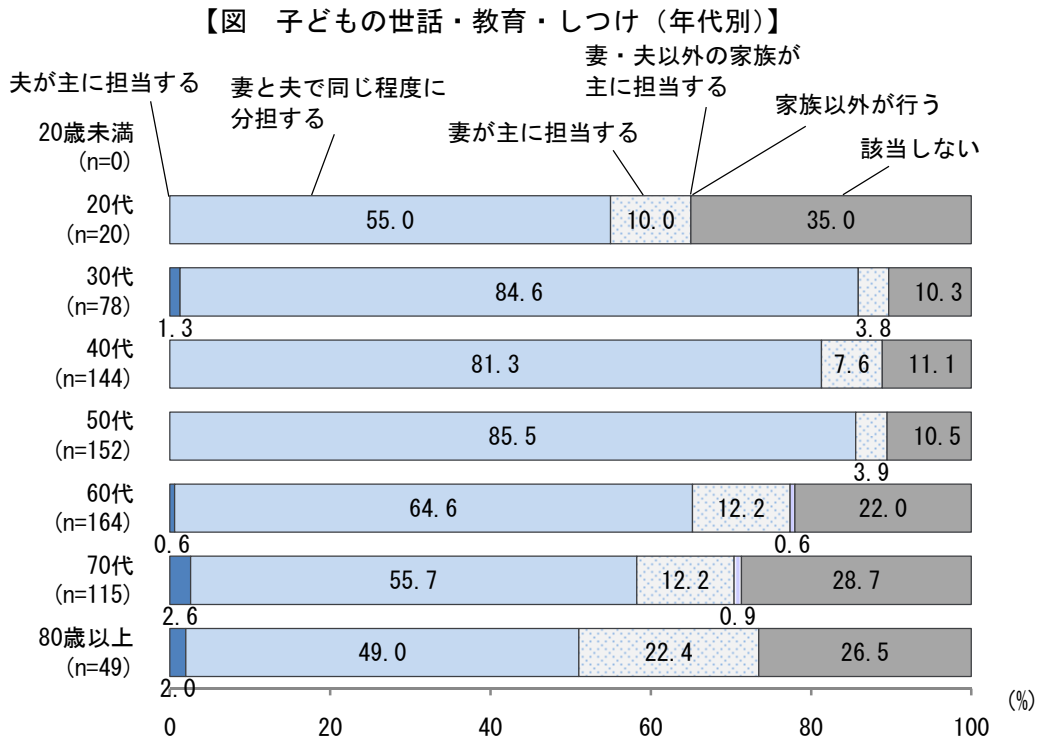
家計の管理での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は30代、60代で6割前後、「妻が主に担当する」との回答は20代、80歳以上で5割台となっている。

(h) 町内会・自治会・PTA等地域活動



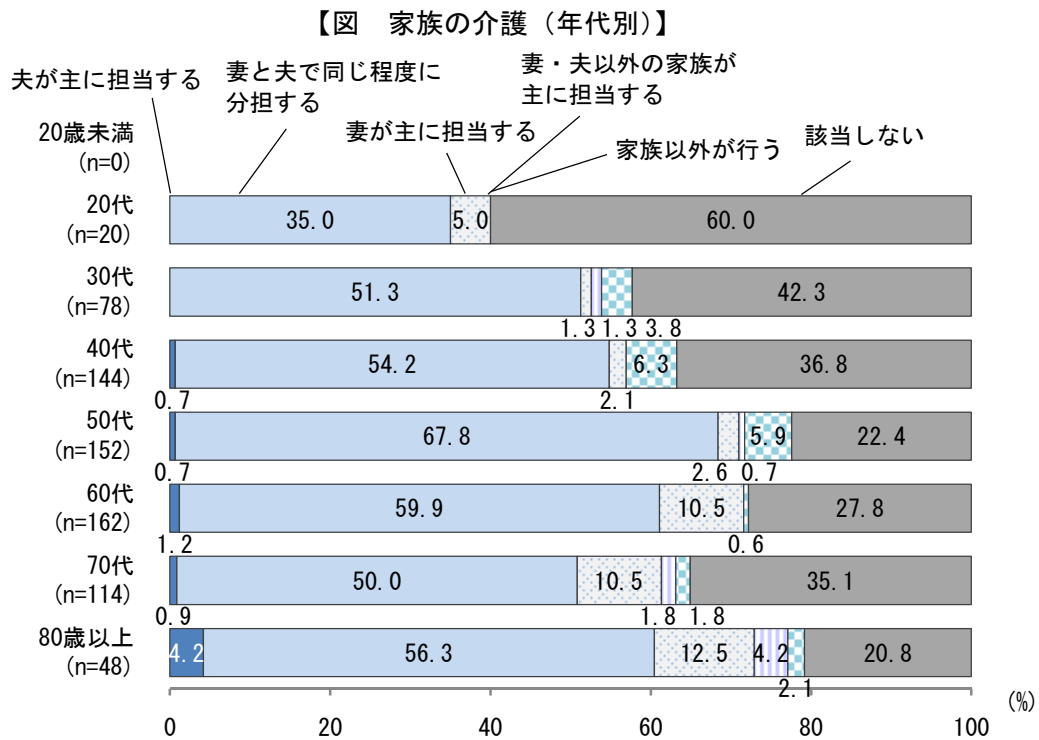
町内会・自治会・PTA等地域活動での理想の分担について、年代別にみると、「夫が主に担当する」との回答は70代～80歳以上で3割台、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は30代で8割超となっている。

(i) 子どもの世話・教育・しつけ



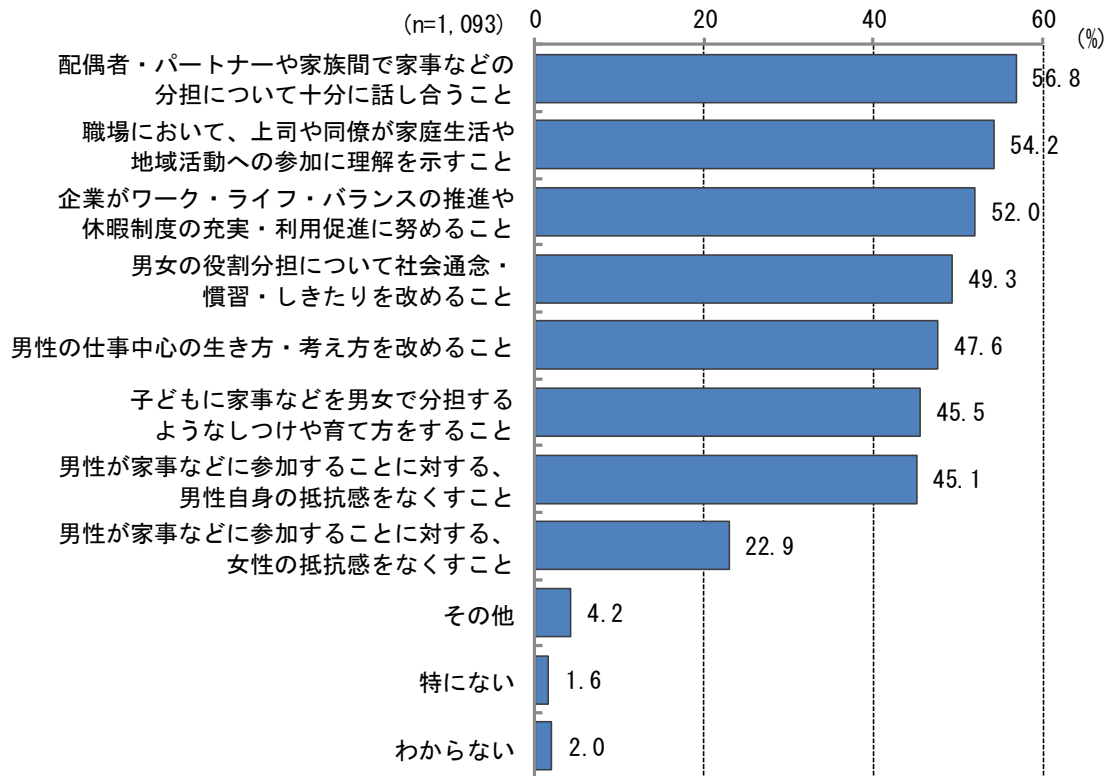
子どもの世話・教育・しつけでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は30代～50代で8割台、「妻が主に担当する」との回答は80歳以上で2割超となっている。

(j) 家族の介護



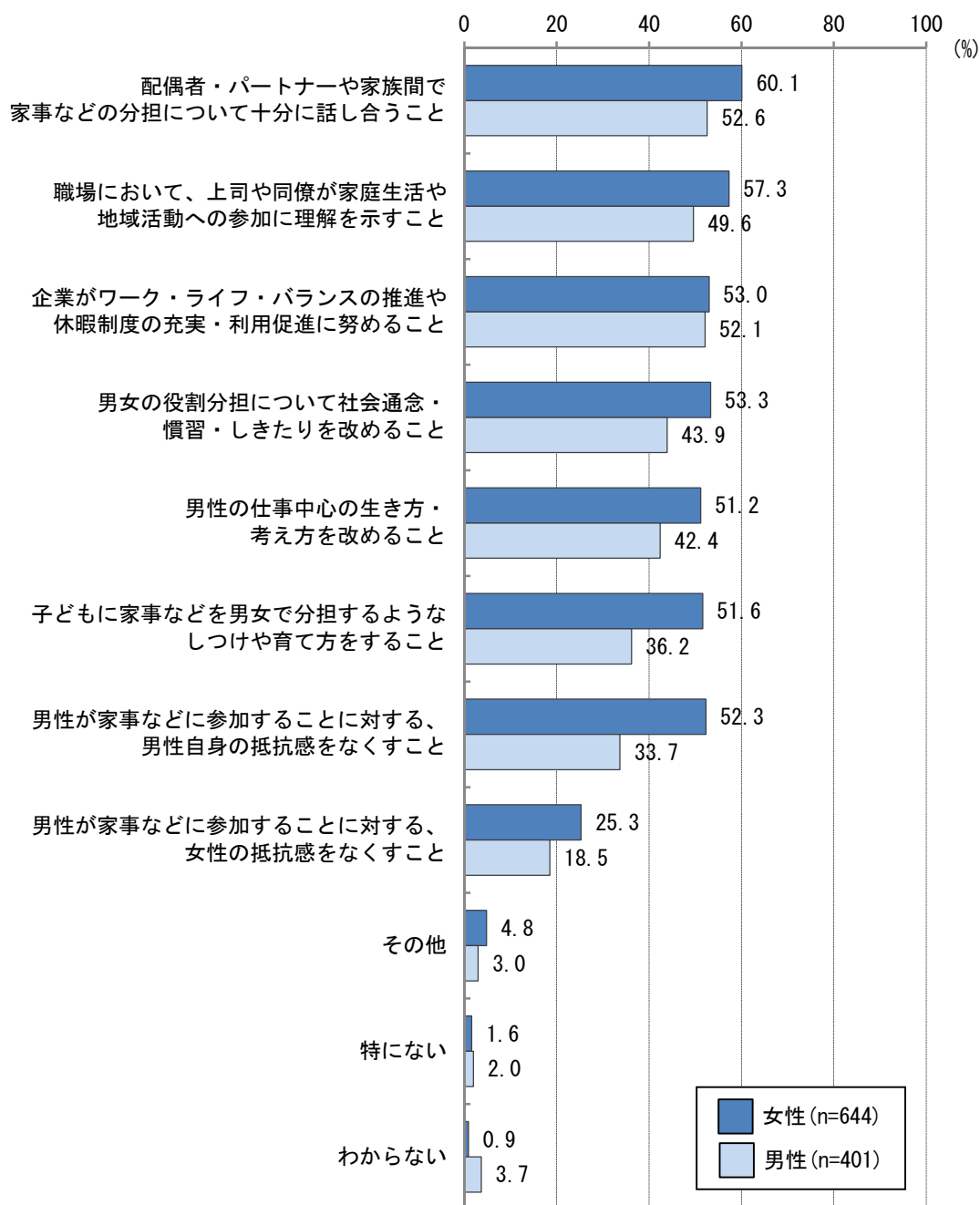
家族の介護での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は50代で約7割となっている。

問6 男性と女性がともに家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



男性が女性とともに家事等に参加していくために必要なことについて、「配偶者・パートナーや家族間で家事などの負担について十分に話し合うこと」が56.8%と最も高く、次いで「職場において、上司や同僚が家庭生活や地域活動への参加に理解を示すこと」(54.2%)、「企業がワーク・ライフ・バランスの推進や休暇制度の充実・利用促進に努めること」(52.0%)などの順となっている。

【図 男性が女性とともに家事等に参加していくために必要なこと（性別）】

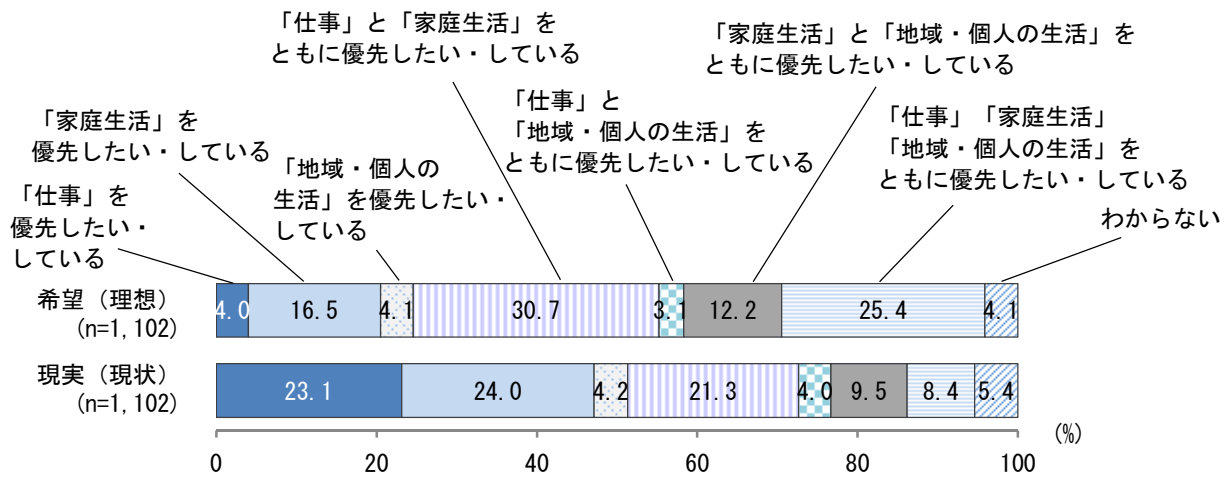


男性が女性とともに家事等に参加していくために必要なことについて、性別にみると、「男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」との回答は女性(52.3%)が男性(33.7%)を18.6ポイント、「子どもに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」との回答は女性(51.6%)が男性(36.2%)を15.4ポイント上回っている。

III 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

問7 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・つきあい等）」の優先度について、あなたの希望（理想）に最も近いものはどれですか。（○は1つ）

問8 あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（○は1つ）

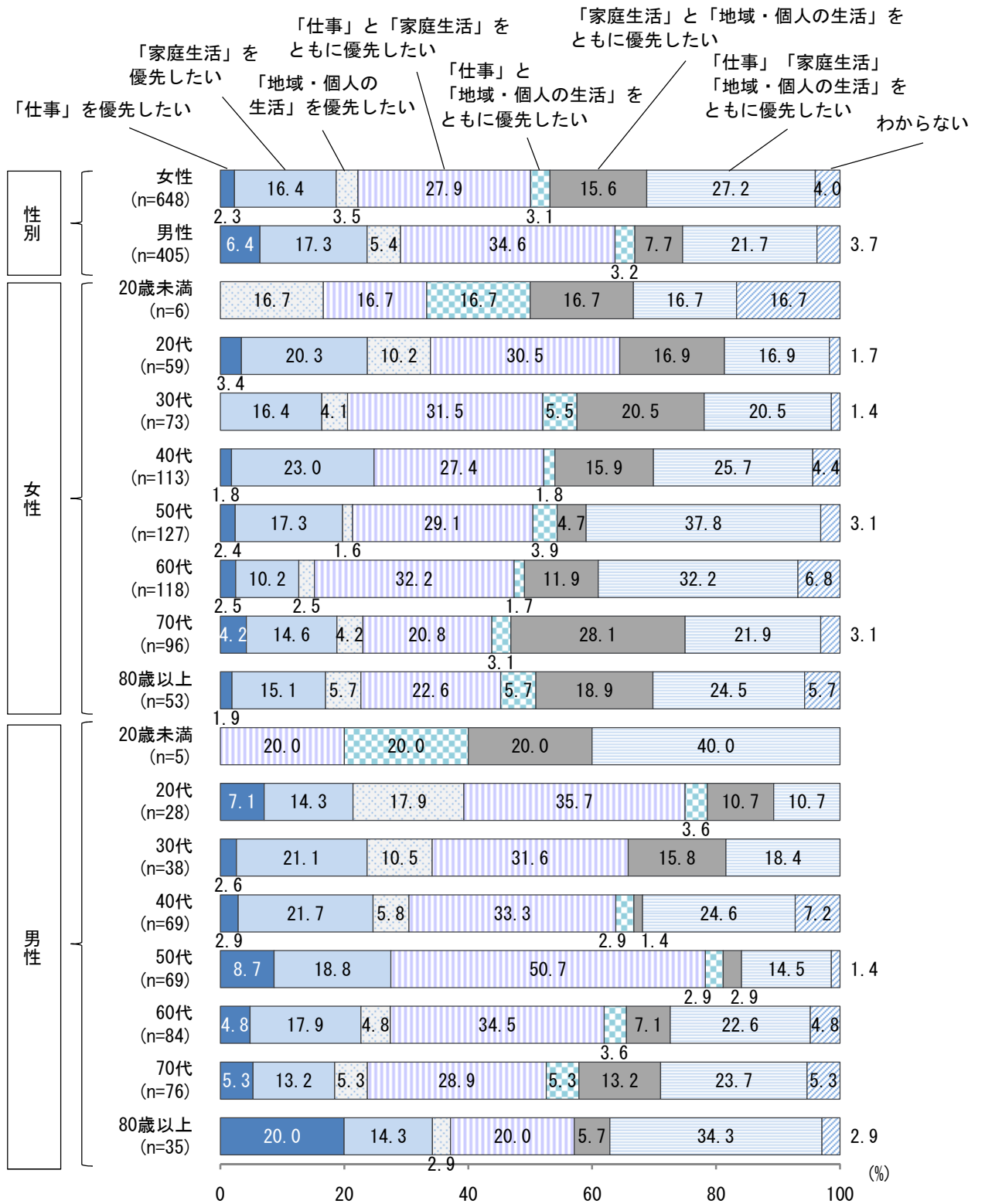


「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）について、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」との回答が30.7%と最も高く、次いで「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい（25.4%）、「家庭生活」を優先したい（16.5%）などの順となっている。

また、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実（現状）について、「家庭生活」を優先している」との回答が24.0%と最も高く、次いで「仕事」を優先している（23.1%）、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（21.3%）などの順となっている。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先することを理想と考える割合が多くなっているが、現状は仕事や家庭生活のみと偏ったものになっている。

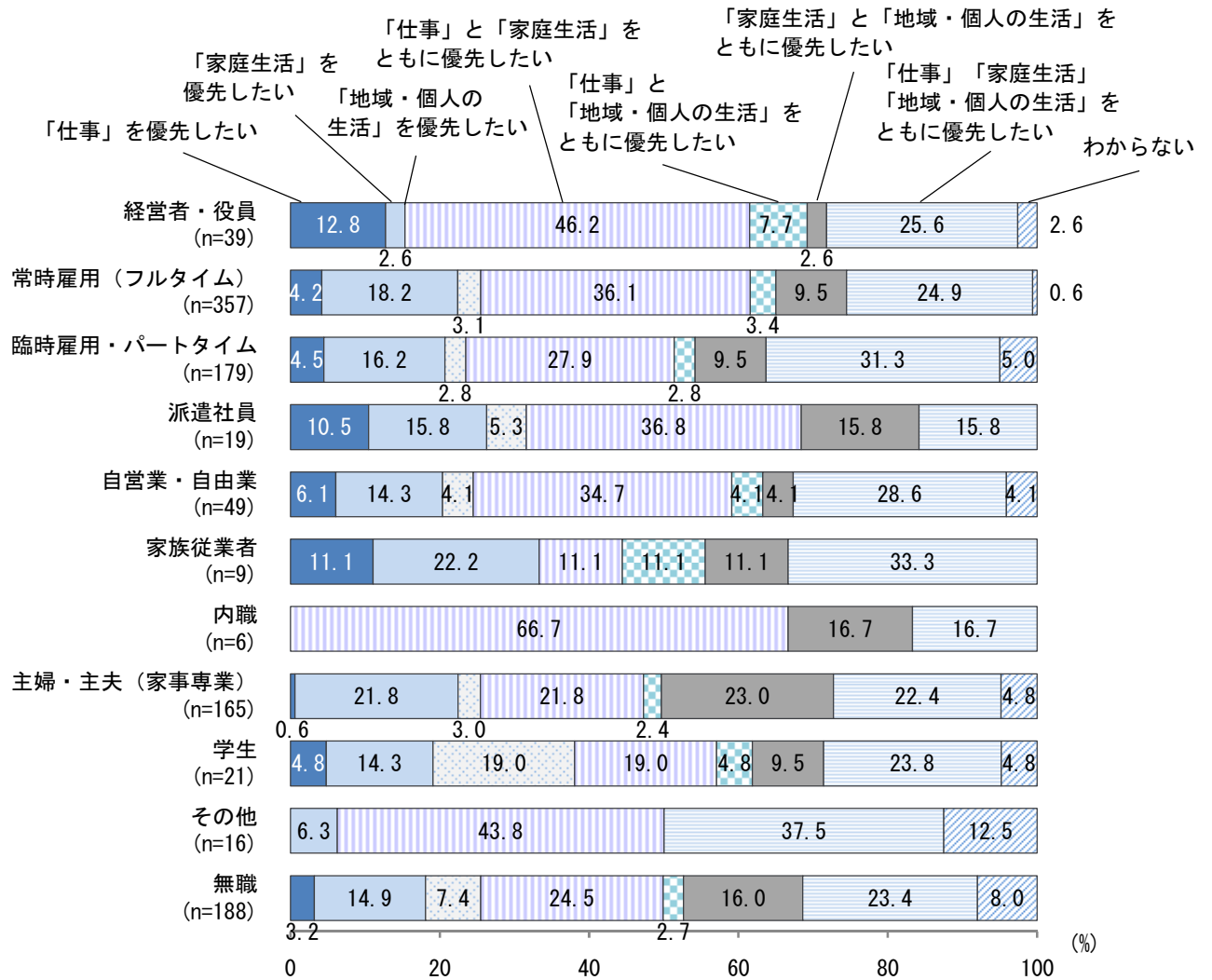
【図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）（性別、性・年代別）】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）について、性別にみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」との回答は男性（34.6%）が女性（27.9%）を6.7ポイント上回っている。一方、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」との回答は女性（15.6%）が男性（7.7%）を7.9ポイント、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい」との回答は女性（27.2%）が男性（21.7%）を5.5ポイント上回っている。

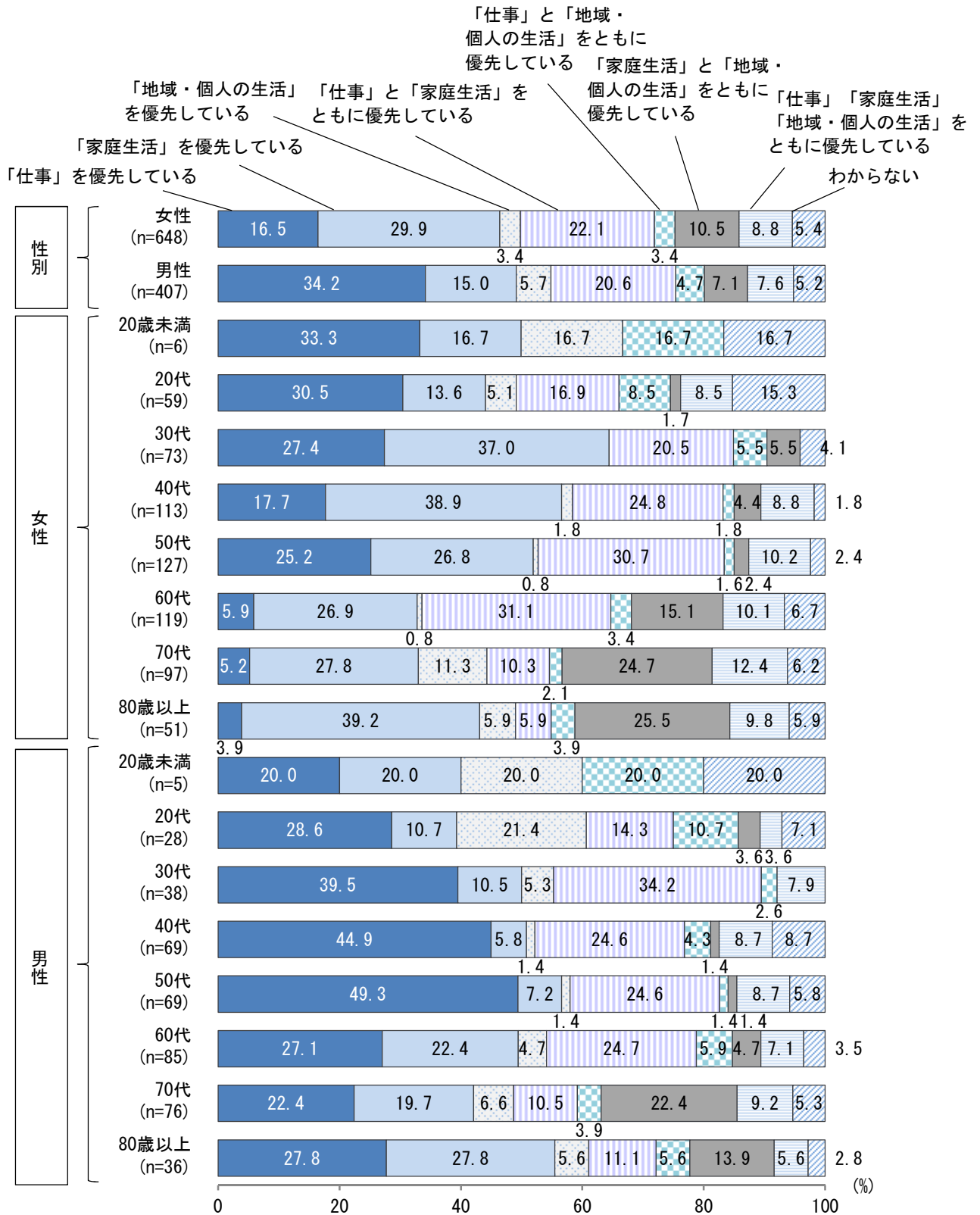
性・年代別にみると、「仕事」を優先したい」との回答は男性80歳以上で2割、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」との回答は男性50代で約5割、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい」との回答は女性50代、男性80歳以上で3割台半ばとなっている。

【図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）（勤務形態別）】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）について、勤務形態別にみると、「家庭生活」を優先したいとの回答は主婦・主夫（家事専業）で2割超、「地域・個人の生活」を優先したいとの回答は学生で約2割、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいとの回答は経営者・役員で4割台半ば、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいとの回答は主婦・主夫（家事専業）で2割台半ばとなっている。

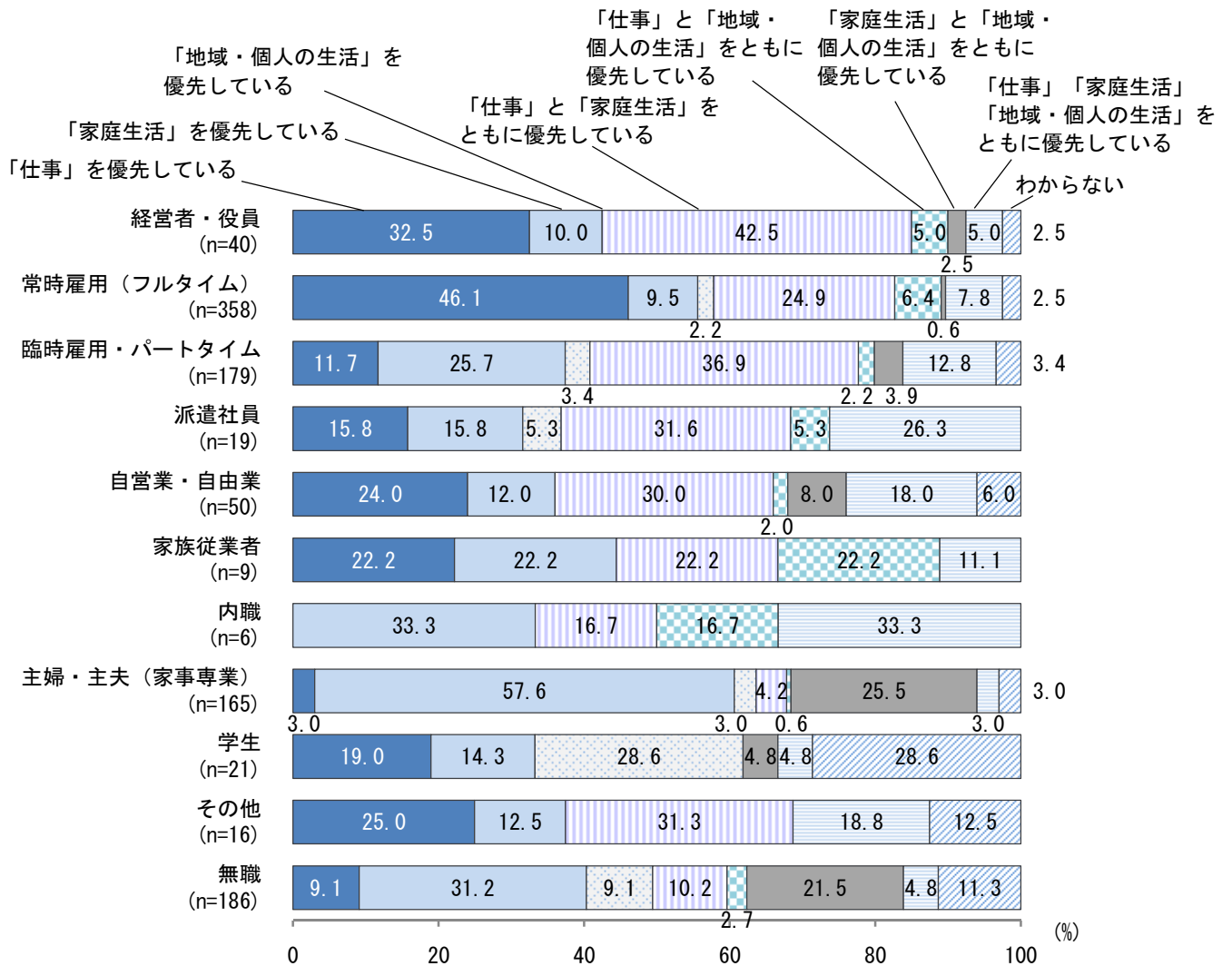
【図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実（現状）（性別、性・年代別）】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実（現状）について、性別にみると、「仕事」を優先している」との回答は男性（34.2%）が女性（16.5%）を17.7ポイント上回っている。一方、「家庭生活」を優先している」との回答は女性（29.9%）が男性（15.0%）を14.9ポイント上回っている。

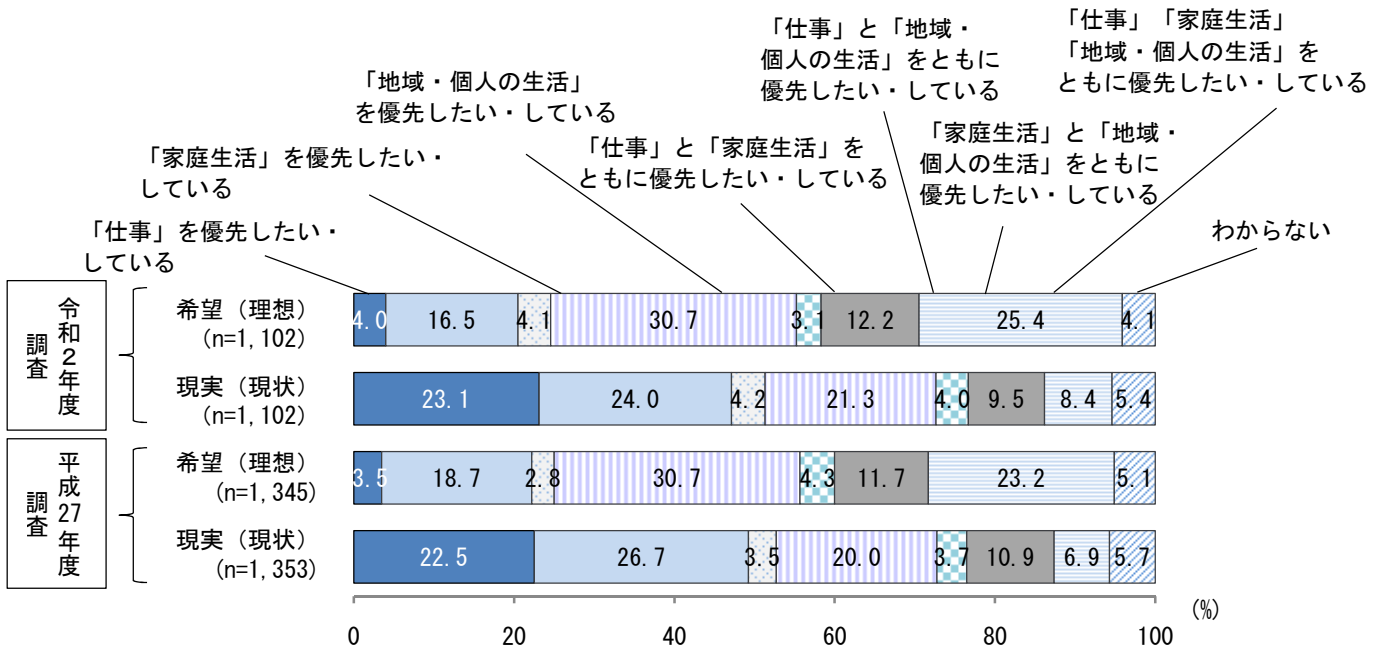
性・年代別にみると、「仕事」を優先している」との回答は男性50代で約5割、「家庭生活」を優先している」との回答は女性30代～40代、80歳以上で約4割、男性80歳以上で約3割、「地域・個人の生活」を優先している」との回答は男性20代で2割超、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」との回答は男性70代で2割超となっている。

【図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実（現状）（勤務形態別）】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実（現状）について、勤務形態別にみると、「仕事」を優先している」との回答は常時雇用（フルタイム）で4割台半ば、「家庭生活」を優先している」との回答は主婦・主夫（家事専業）で約6割、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」との回答は経営者・役員で4割超、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先している」との回答は派遣社員で2割台半ばとなっている。

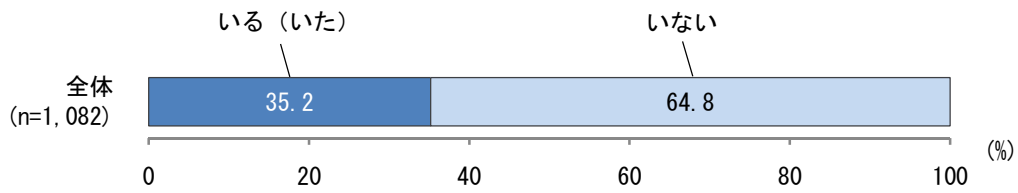
【図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）と現実（現状）（過去調査結果との比較）】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）と現実（現状）について、経年比較すると、どちらも大きな差は見られない。

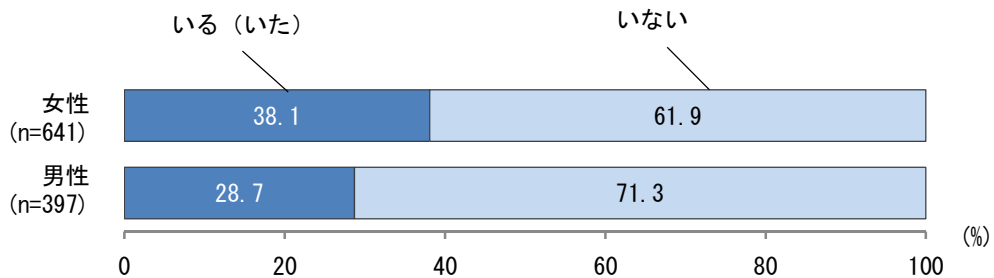
IV 介護について

問9 現在または過去において、主としてあなたが介護している（した）方はいますか。（○は1つ）



介護している（した）人の有無について、「いる（いた）」との回答が35.2%、「いない」との回答が64.8%となっている。

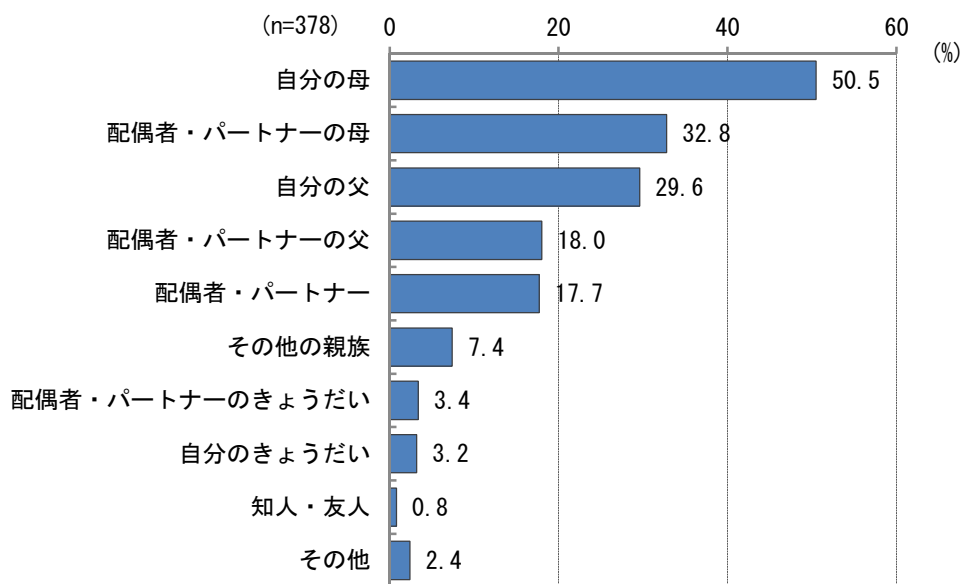
【図 介護している（した）人の有無（性別）】



介護している（した）人の有無について、性別にみると、「いる（いた）」との回答は女性（38.1%）が男性（28.7%）を9.4ポイント上回っている。

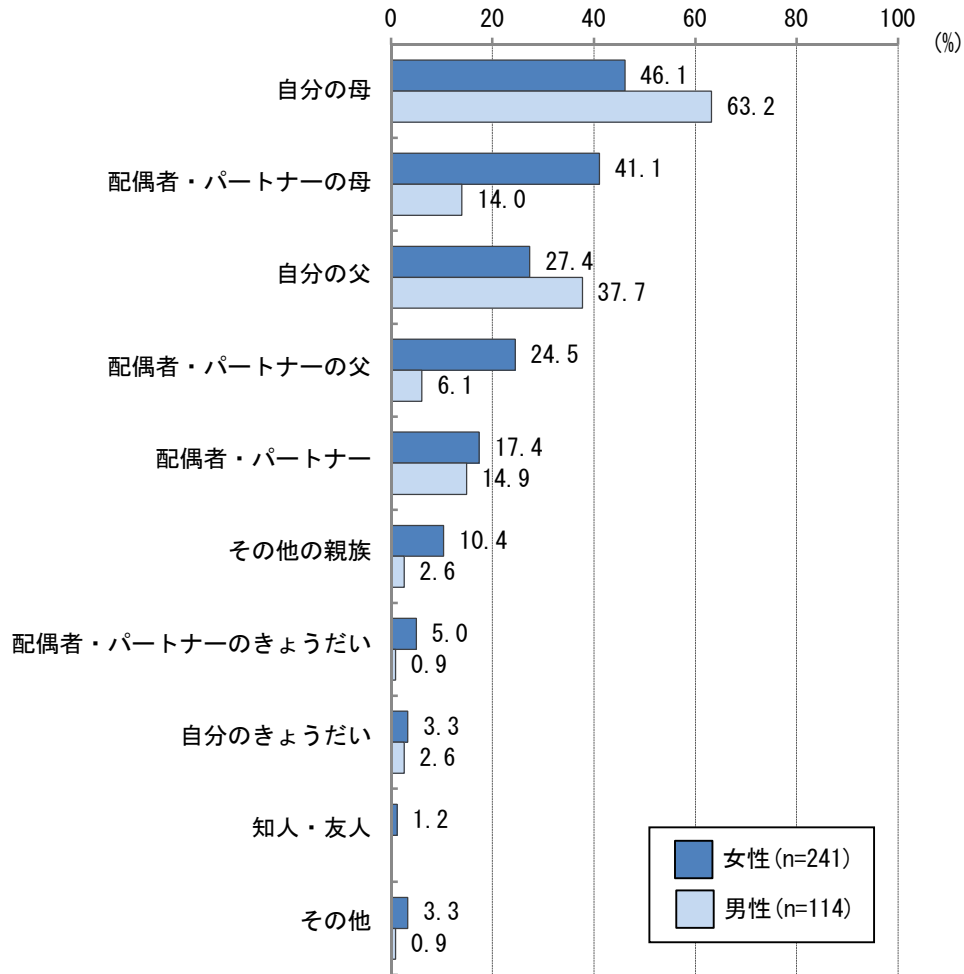
問 10 は問 9 で介護している（した）人が「いる（いた）」と回答した方が対象

問 10 その方とあなたの関係は、次のうちどれにあたりますか。（〇はいくつでも）



介護している（した）人との関係について、「自分の母」との回答が 50.5%と最も高く、次いで「配偶者・パートナーの母」（32.8%）、「自分の父」（29.6%）などの順となっている。

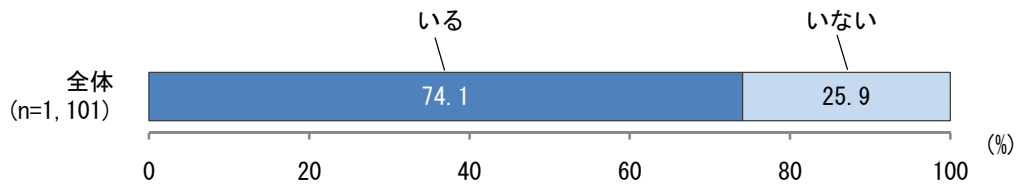
【図 介護している（した）人との関係（性別）】



介護している（した）人との関係について、性別にみると、「自分の母」との回答は男性（63.2%）が女性（46.1%）を17.1ポイント上回っている。一方、「配偶者・パートナーの母」との回答は女性（41.1%）が男性（14.0%）を27.1ポイント、「配偶者・パートナーの父」との回答は女性（24.5%）が男性（6.1%）を18.4ポイント上回っている。

V 子育てについて

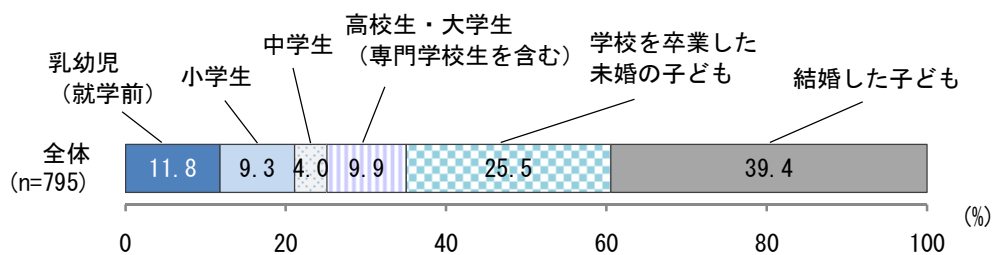
問 11 現在、あなたには子どもがいますか。(成人した子どもを含みます。)(○は1つ)



子どもの有無について、「いる」との回答が74.1%、「いない」との回答が25.9%となっている。

問 12 は問 11 で現在子どもが「いる」と回答した方が対象

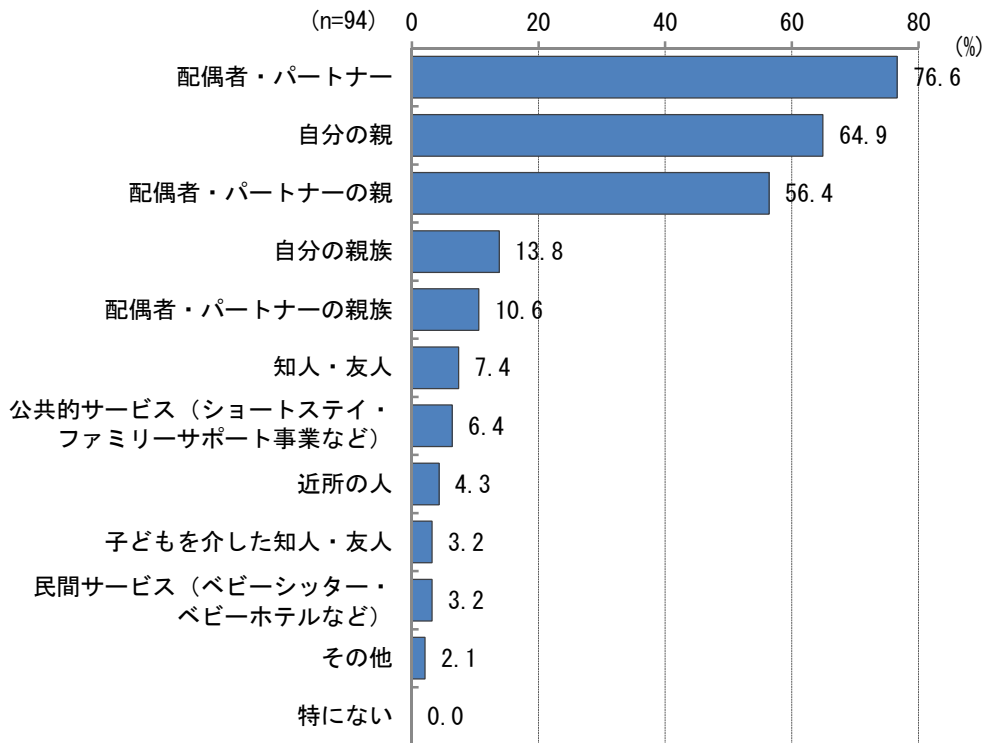
問 12 あなたの一番年齢の低い子どもは、どの成長段階にいますか。(○は1つ)



末子の成長段階について、「結婚した子ども」との回答が 39.4%と最も高く、次いで「学校を卒業した未婚の子ども」(25.5%)、「乳幼児(就学前)」(11.8%)などの順となっている。

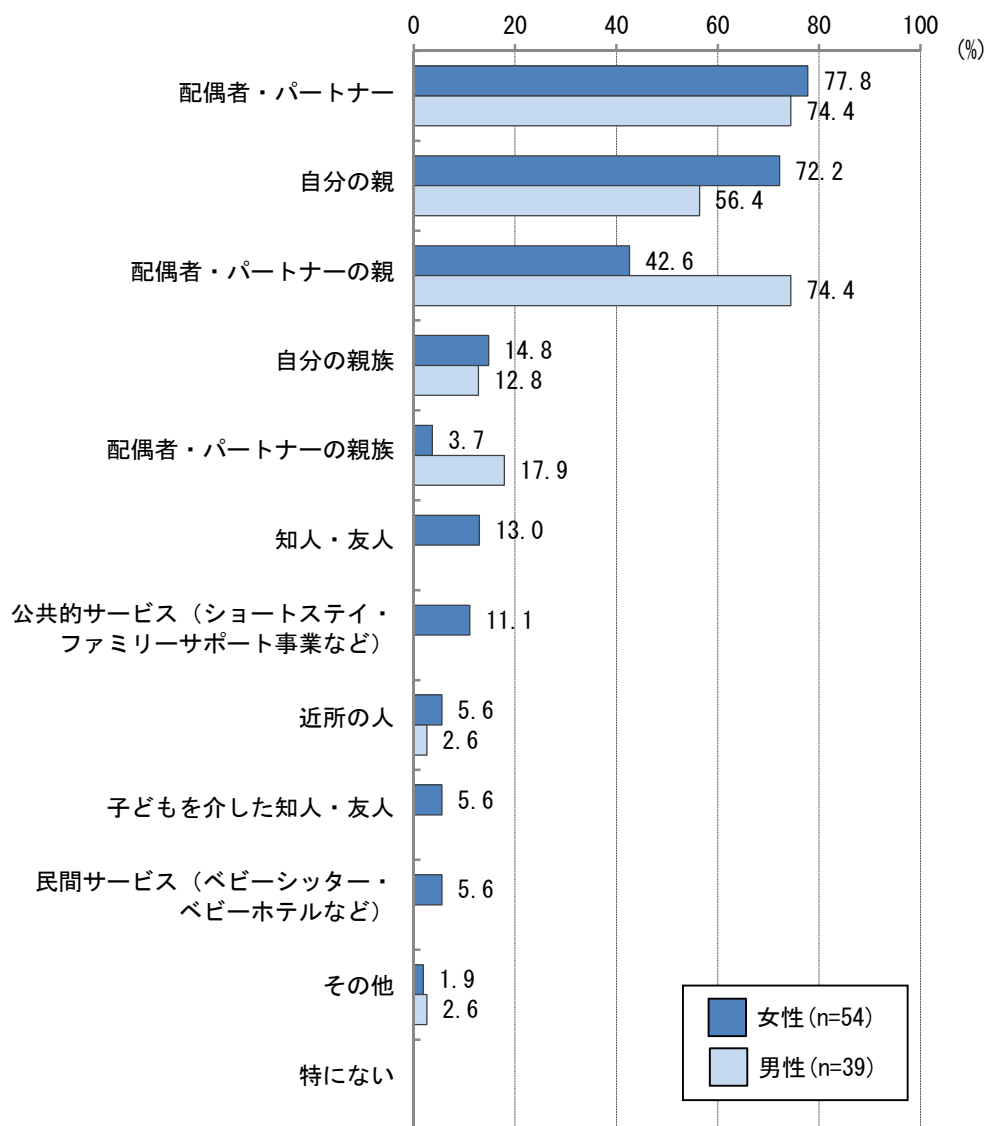
問 13 は問 12 で末子の成長段階が「乳幼児（就学前）」と回答した方のみが対象

問 13 あなたが急な用事や急病などで、子どもの世話がどうしてもできなくなったとき、子どもの世話を一時的に頼めるのは、どのようなところが考えられますか。（〇はいくつでも）



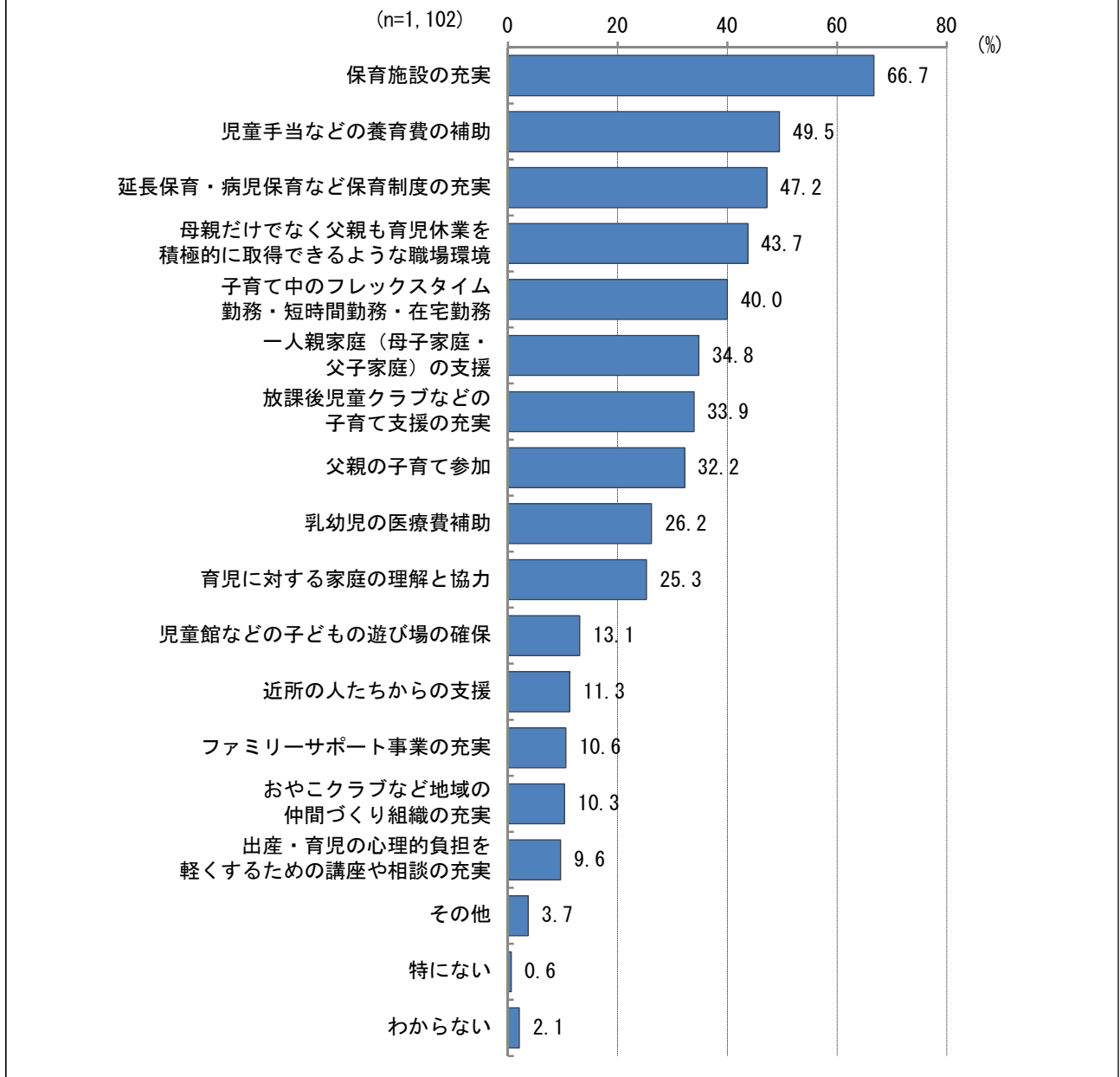
子どもの世話を一時的に頼めるところについて、「配偶者・パートナー」との回答が 76.6%と最も高く、次いで「自分の親」（64.9%）、「配偶者・パートナーの親」（56.4%）などの順となっている。

【図 子どもの世話を一時的に頼めるところ（性別）】



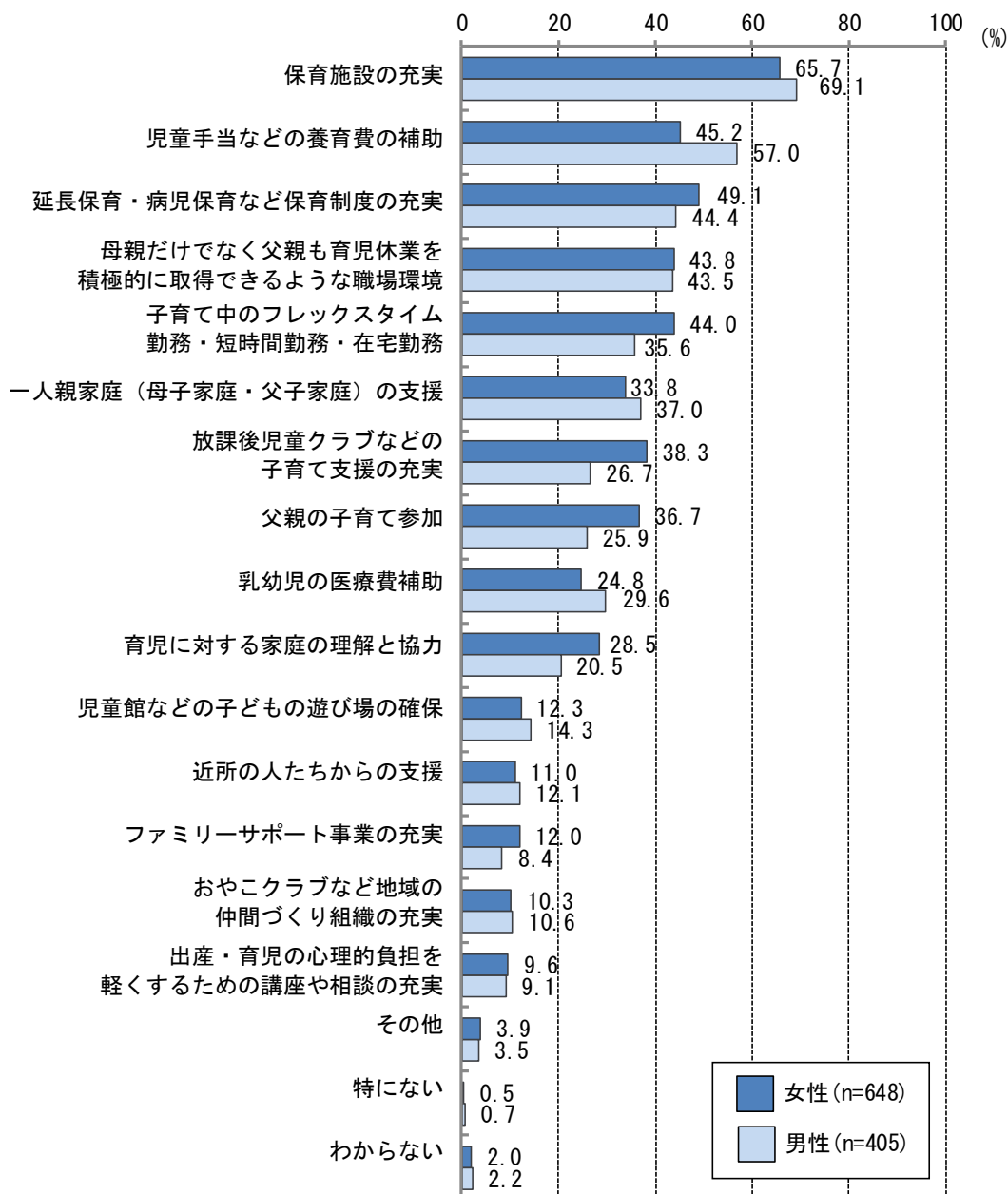
子どもの世話を一時的に頼めるところについて、性別にみると、「自分の親」との回答は女性(72.2%)が男性(56.4%)を15.8ポイント上回っている。一方、「配偶者・パートナーの親」との回答は男性(74.4%)が女性(42.6%)を31.8ポイント、「配偶者・パートナーの親族」との回答は男性(17.9%)が女性(3.7%)を14.2ポイント上回っている。

問 14 人々が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるには、どんなことが必要だと思いますか。
 (○は5つまで)



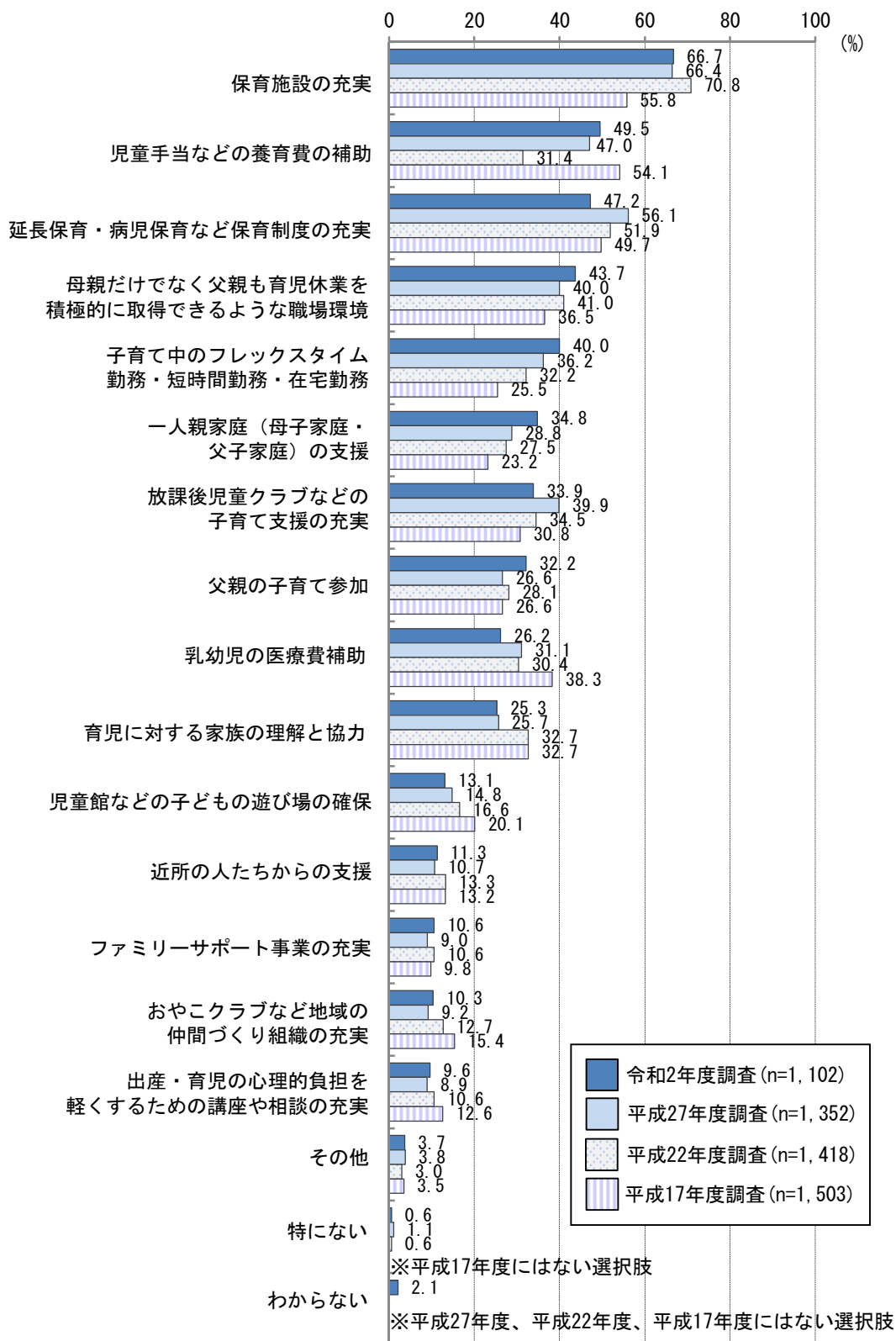
安心して子どもを産み育てるために必要なことについて、「保育施設の充実」との回答が 66.7%と最も高く、次いで「児童手当などの養育費の補助」(49.5%)、「延長保育・病児保育など保育制度の充実」(47.2%)などの順となっている。

【図 安心して子どもを産み育てるために必要なこと（性別）】



安心して子どもを産み育てるために必要なことについて、性別にみると、「児童手当などの養育費の補助」との回答は男性（57.0%）が女性（45.2%）を11.8ポイント上回っている。一方、「放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」との回答は女性（38.3%）が男性（26.7%）を11.6ポイント、「父親の子育て参加」との回答は女性（36.7%）が男性（25.9%）を10.8ポイント上回っている。

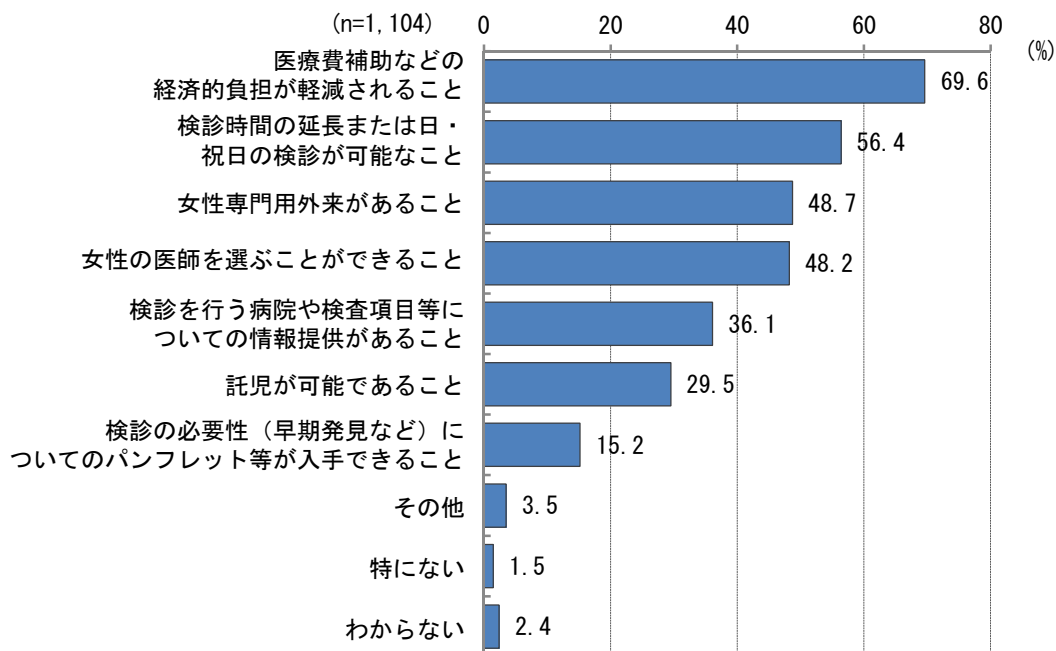
【図 安心して子どもを産み育てるために必要なこと（過去調査結果との比較）】



安心して子どもを産み育てるために必要なことについて、経年比較すると、「子育て中のフレックスタイム勤務・短時間勤務・在宅勤務」との回答は令和2年度調査（40.0%）が平成17年度調査（25.5%）を14.5ポイント上回っている。また、「乳幼児の医療費補助」との回答は令和2年度調査（26.2%）が平成17年度調査（38.3%）を12.1ポイント下回っている。

VI 健康について

問 15 医療機関において、特に乳がんや子宮がんなどの検診は、どのようなことがあれば、女性が受診しやすくなると思いますか。(〇はいくつでも)



乳がん・子宮がん検診を受診しやすくするために必要なことについて、「医療費補助などの経済的負担が軽減されること」との回答が 69.6%と最も高く、次いで「検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと」(56.4%)、「女性専用外来があること」(48.7%)などの順となっている。

【図 乳がん・子宮がん検診を受診しやすくするために必要なこと（性・年代別）】

(%)

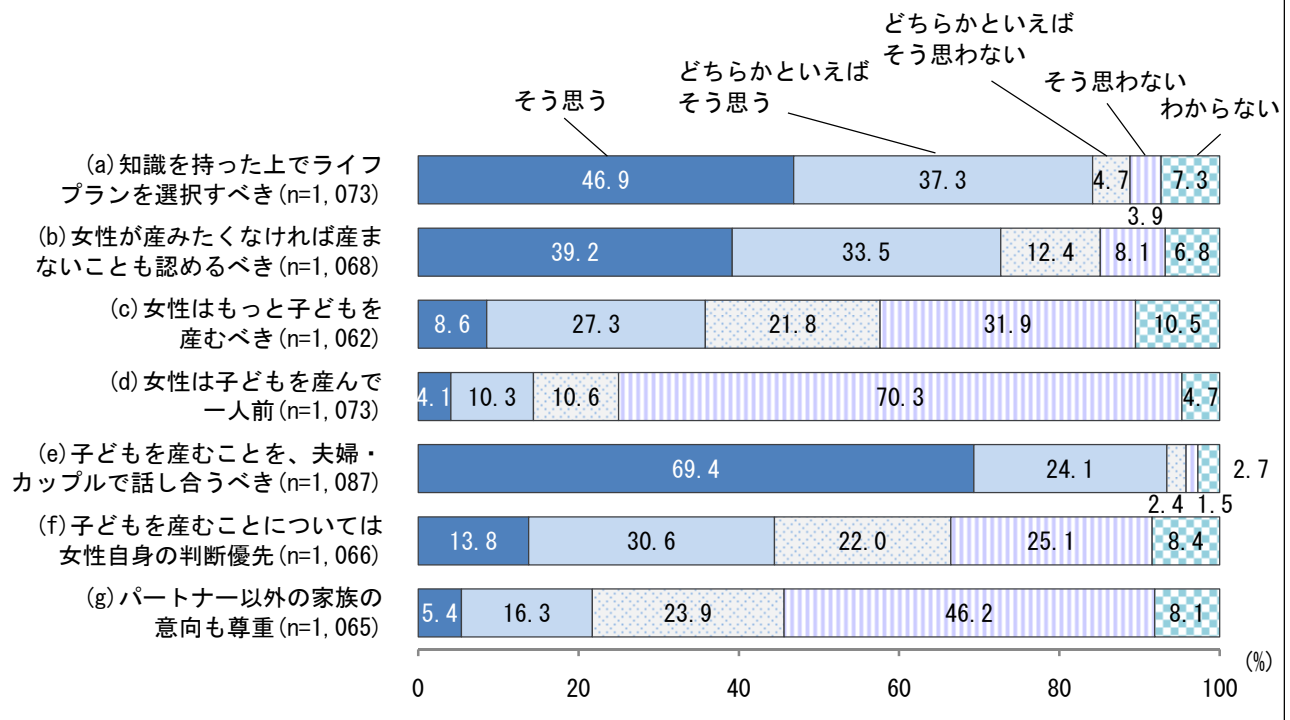
	の検診時間が可能なこと 検査可能なこと 検査可能なこと	医療費補助などの 軽減されること 軽減されること	女性の医師を選ぶことができる こと	女性専用外来があること	検診の必要性(早期発見など) についてのパンフレット等が 入手できること	検診を行う病院や検査項目等に ついての情報提供があること	託児が可能であること	その他	特 に ない	わ か ら な い
全 体 (n=1,104)	56.4	69.6	48.2	48.7	15.2	36.1	29.5	3.5	1.5	2.4
性別										
女性 (n=654)	54.4	70.2	50.3	50.5	12.4	37.2	26.5	4.7	1.8	0.2
男性 (n=403)	62.0	70.5	45.9	46.9	19.9	34.7	35.7	1.7	1.0	5.2
性・年代別										
女性20歳未満 (n=6)	33.3	66.7	83.3	50.0	16.7	33.3	50.0	-	-	-
女性20代 (n=59)	67.8	79.7	59.3	39.0	27.1	45.8	23.7	3.4	-	-
女性30代 (n=73)	61.6	84.9	45.2	41.1	13.7	43.8	47.9	11.0	1.4	-
女性40代 (n=113)	57.5	73.5	51.3	39.8	10.6	31.0	33.6	6.2	0.9	-
女性50代 (n=127)	60.6	66.9	55.1	59.1	9.4	26.8	22.8	5.5	0.8	0.8
女性60代 (n=120)	45.8	70.0	49.2	51.7	7.5	37.5	19.2	4.2	2.5	-
女性70代 (n=99)	46.5	57.6	44.4	64.6	14.1	42.4	19.2	2.0	6.1	-
女性80歳以上 (n=54)	48.1	63.0	44.4	50.0	13.0	48.1	22.2	-	-	-
男性20歳未満 (n=5)	60.0	80.0	60.0	40.0	20.0	60.0	40.0	-	-	-
男性20代 (n=28)	64.3	71.4	39.3	39.3	25.0	50.0	42.9	7.1	-	-
男性30代 (n=38)	71.1	76.3	52.6	44.7	15.8	28.9	50.0	5.3	-	7.9
男性40代 (n=69)	60.9	62.3	43.5	49.3	17.4	33.3	34.8	1.4	-	8.7
男性50代 (n=69)	63.8	71.0	44.9	37.7	18.8	31.9	34.8	1.4	-	5.8
男性60代 (n=84)	59.5	77.4	52.4	58.3	14.3	27.4	41.7	-	-	1.2
男性70代 (n=74)	60.8	71.6	40.5	48.6	31.1	37.8	31.1	1.4	2.7	6.8
男性80歳以上 (n=35)	60.0	60.0	42.9	37.1	14.3	45.7	11.4	-	5.7	5.7

上位1位～3位 うち1位は太枠

乳がん・子宮がん検診を受診しやすくするために必要なことについて、性別にみると、「検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと」との回答は男性(62.0%)が女性(54.4%)を7.6ポイント、「検診の必要性(早期発見など)についてのパンフレット等が入手できること」との回答は男性(19.9%)が女性(12.4%)を7.5ポイント、「託児が可能であること」との回答は男性(35.7%)が女性(26.5%)を9.2ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと」との回答は男性30代で7割超、「医療費補助などの経済的負担が軽減されること」との回答は女性30代で8割台半ば、「女性専用外来があること」との回答は女性70代で6割台半ば、「検診の必要性(早期発見など)についてのパンフレット等が入手できること」との回答は女性20代、男性70代で約3割となっている。

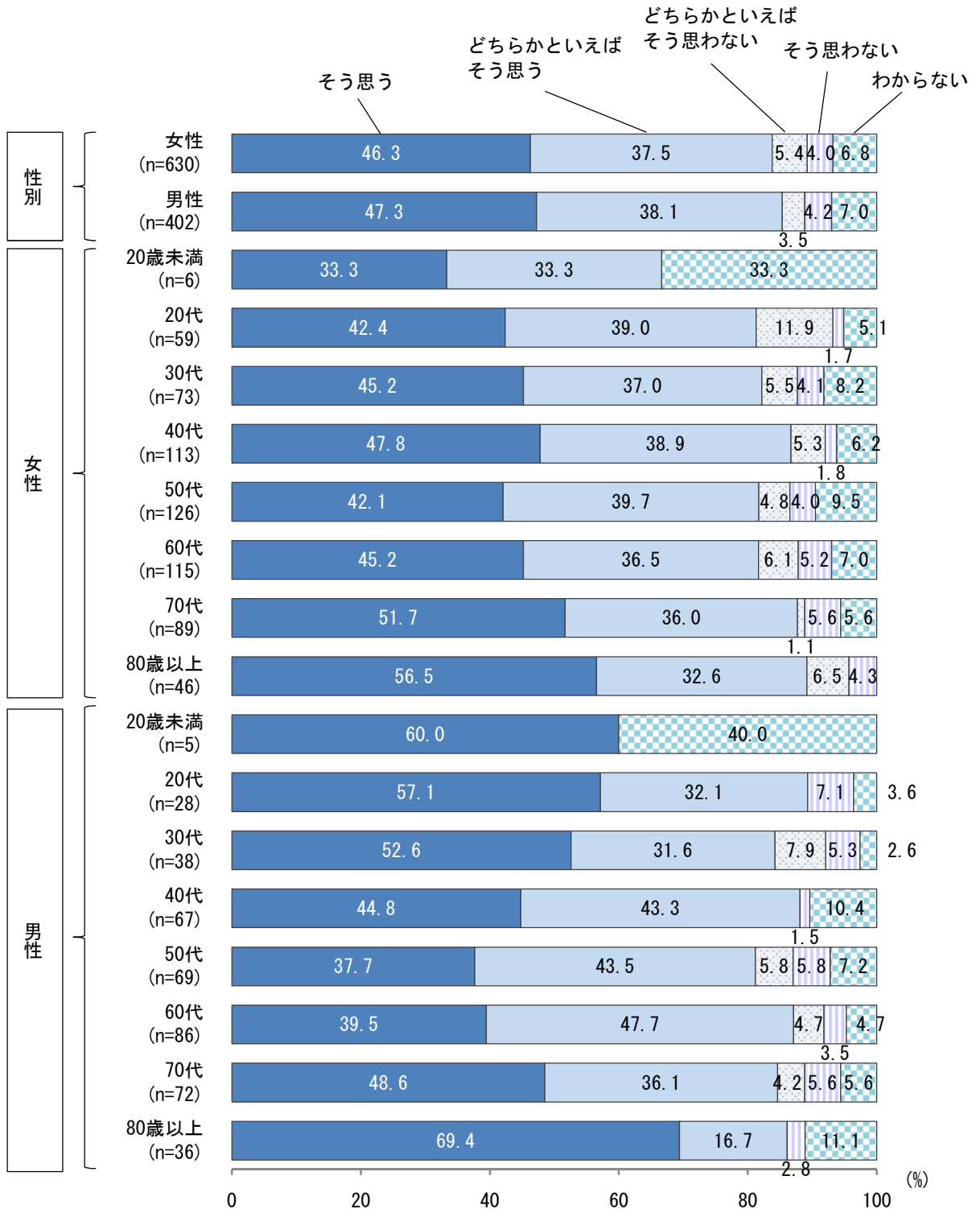
問 16 女性が子どもを産むことに関しては、さまざまな意見があります。あなたは次の (a) から (g) の意見についてどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)



女性が子どもを産むことに関する意見について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）との回答は「子どもを産むことを、夫婦・カップルで話し合うべき」で9割台半ば、「知識を持った上でライフプランを選択すべき」で8割台半ば、「女性が産みたくなければ産まないことも認めるべき」で7割超となっている。一方、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合）との回答は「女性は子どもを産んで一人前」で約8割、「パートナー以外の家族の意向も尊重」で約7割、「女性はもっと子どもを産むべき」で5割台半ばとなっている。

(a) 知識を持った上でライフプランを選択すべき

【図 知識を持った上でライフプランを選択すべき（性別、性・年代別）】

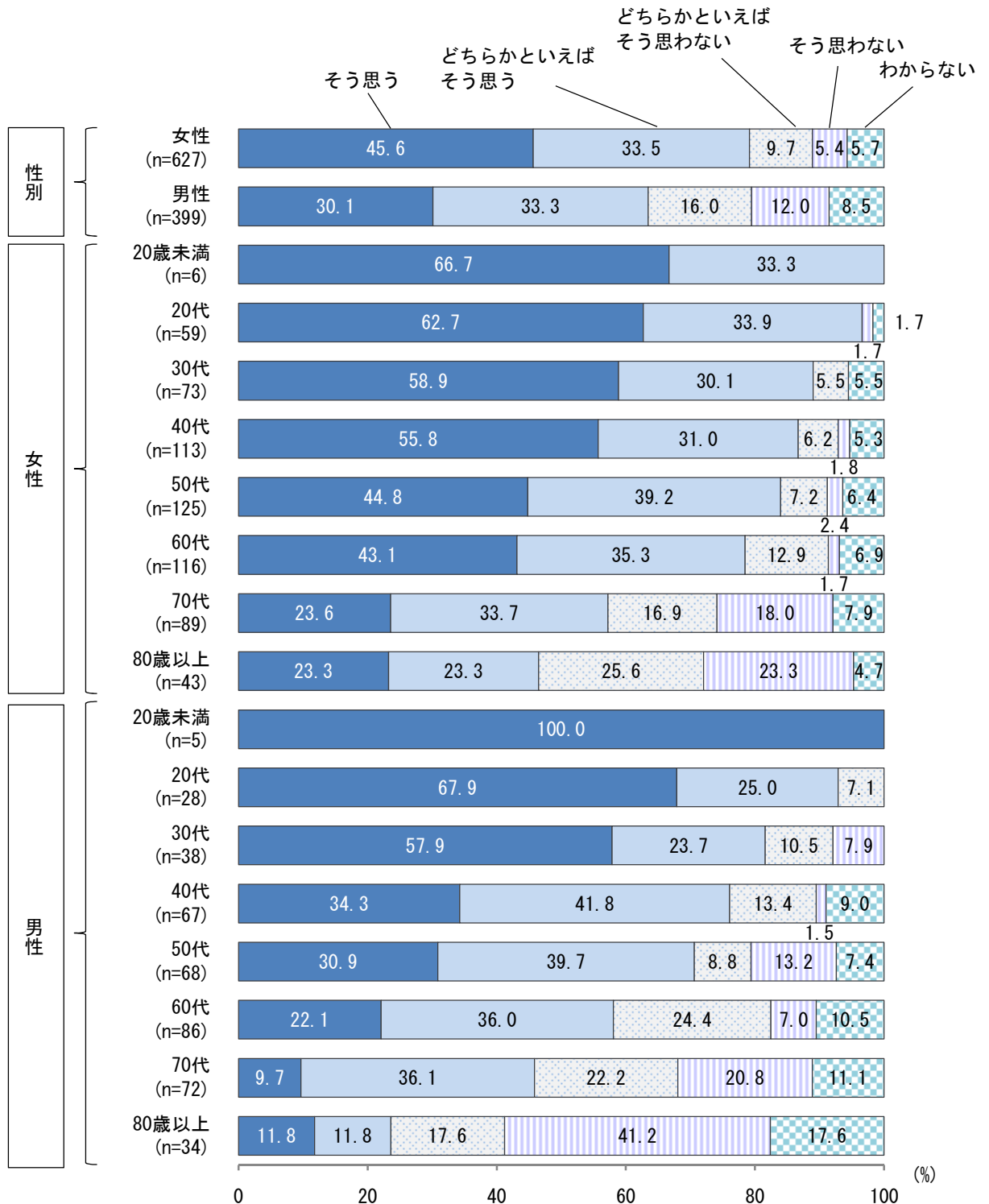


知識を持った上でライフプランを選択すべきとの意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに8割台半ばと大きな差は見られない。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は20歳を除くすべての年代で8割台と大きな差は見られない。

(b) 女性が産みたくなければ産まないことも認めるべき

【図 女性が産みたくなければ産まないことも認めるべき（性別、性・年代別）】

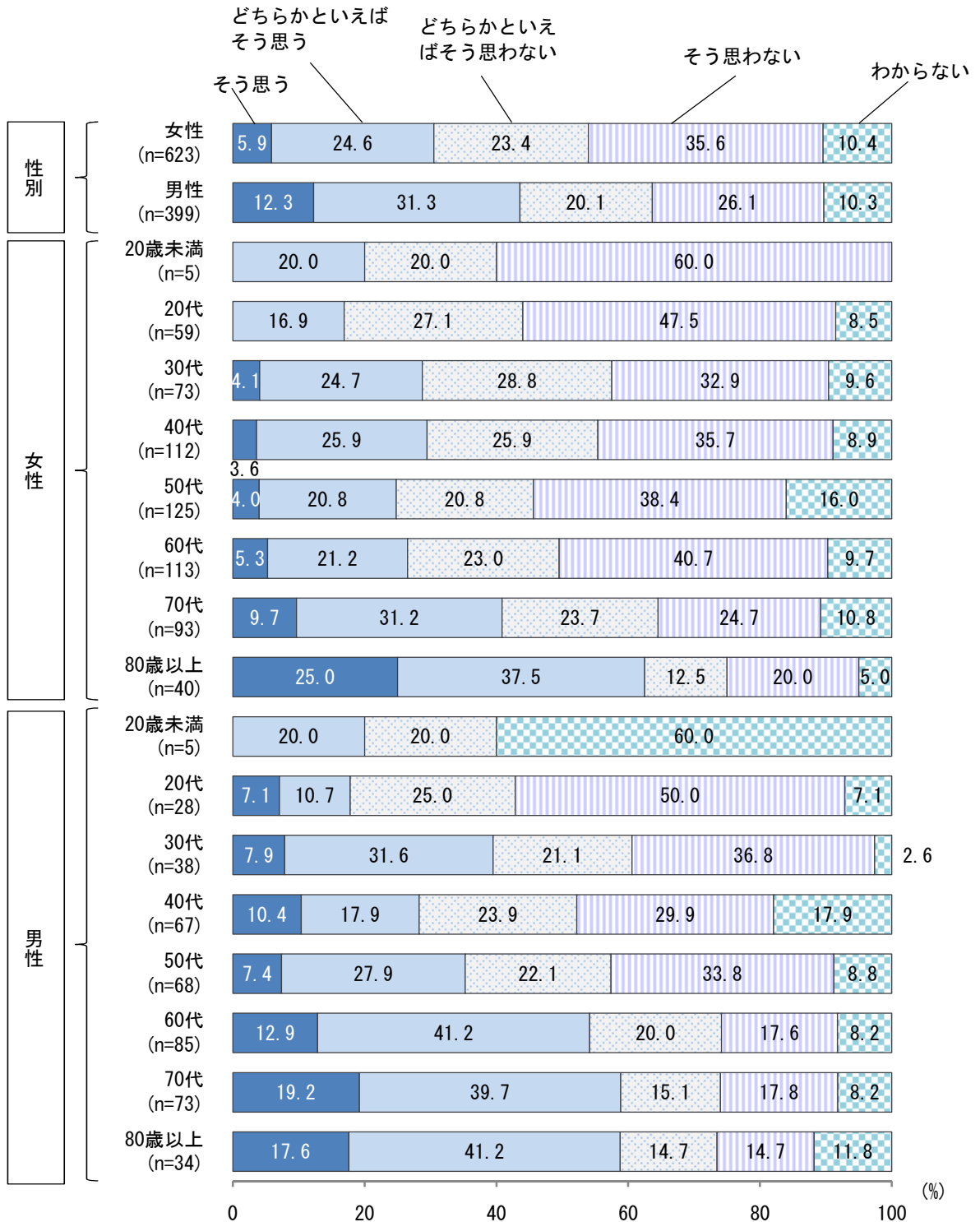


女性が産みたくなければ産まないことも認めるべきとの意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（79.1%）が男性（63.4%）を15.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに20代で9割台半ばとなっており、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

(c) 女性はもっと子どもを産むべき

【図 女性はもっと子どもを産むべき（性別、性・年代別）】

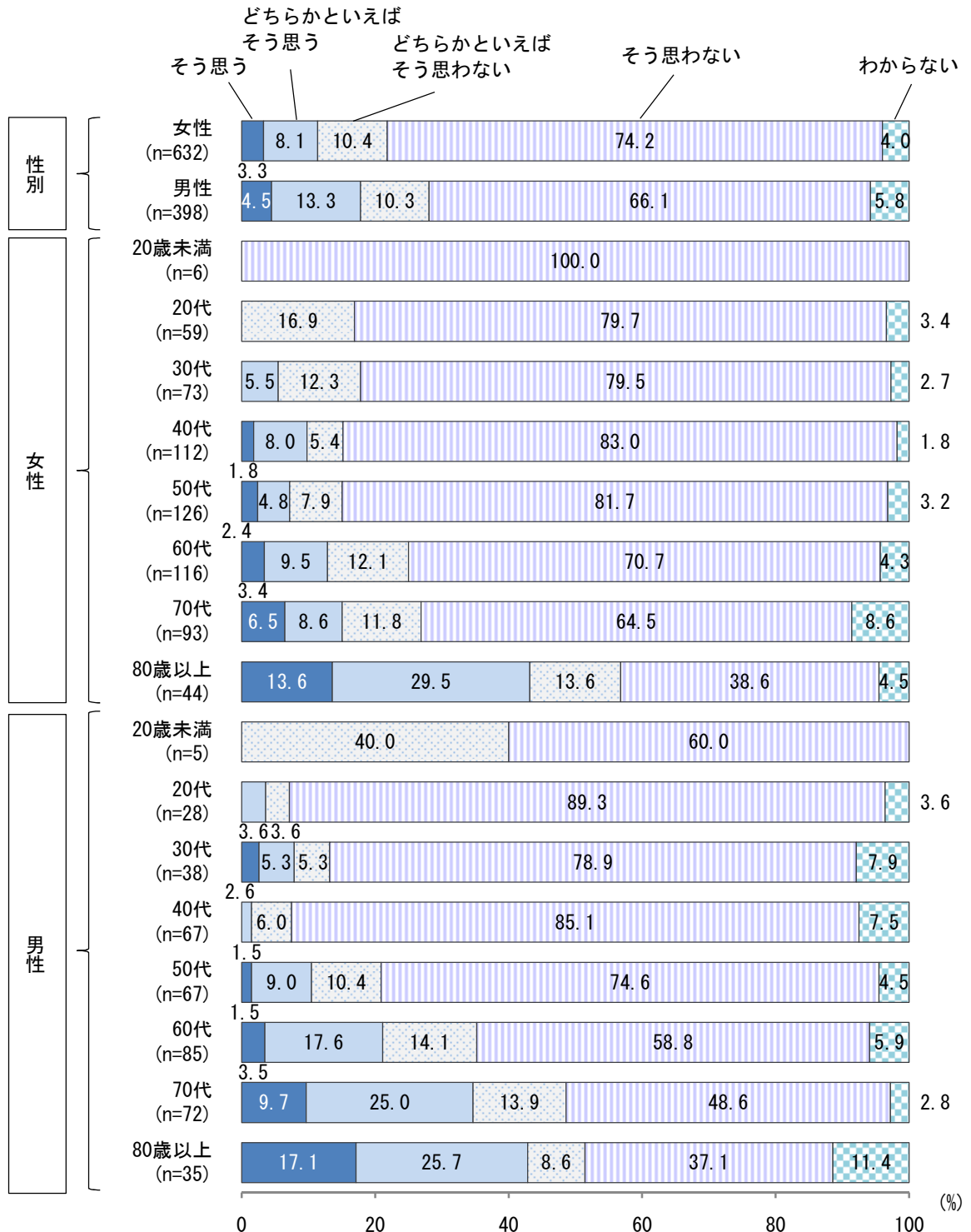


女性はもっと子どもを産むべきとの意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性(43.6%)が女性(30.5%)を13.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性80歳以上で6割超、男性70代～80歳以上で約6割となっている。

(d) 女性は子どもを産んで一人前

【図 女性は子どもを産んで一人前（性別、性・年代別）】

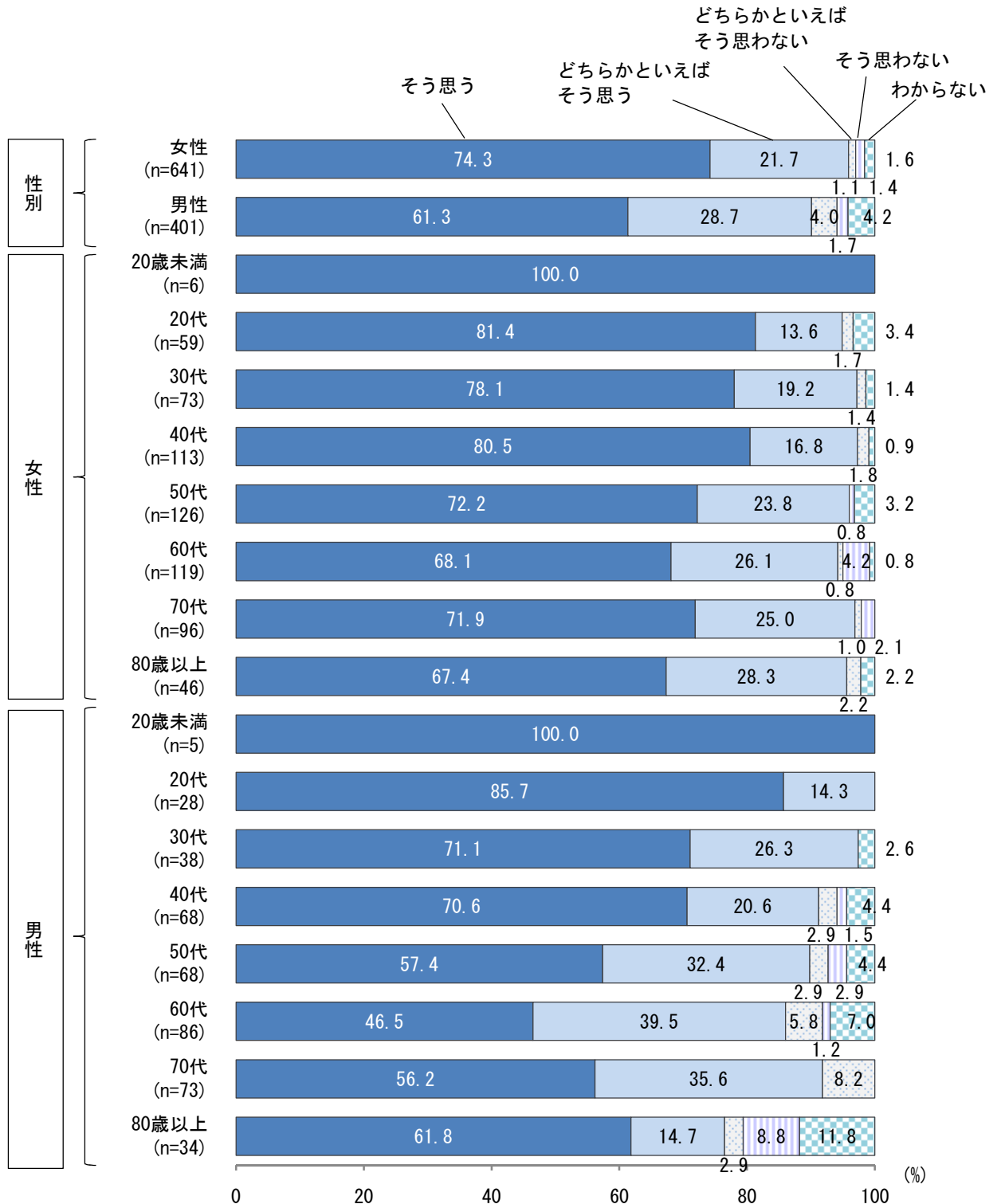


女性は子どもを産んで一人前との意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性(17.8%)が女性(11.4%)を6.4ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに80歳以上で4割台半ばとなっている。

(e) 子どもを産むことを、夫婦・カップルで話し合うべき

【図 子どもを産むことを、夫婦・カップルで話し合うべき（性別、性・年代別）】

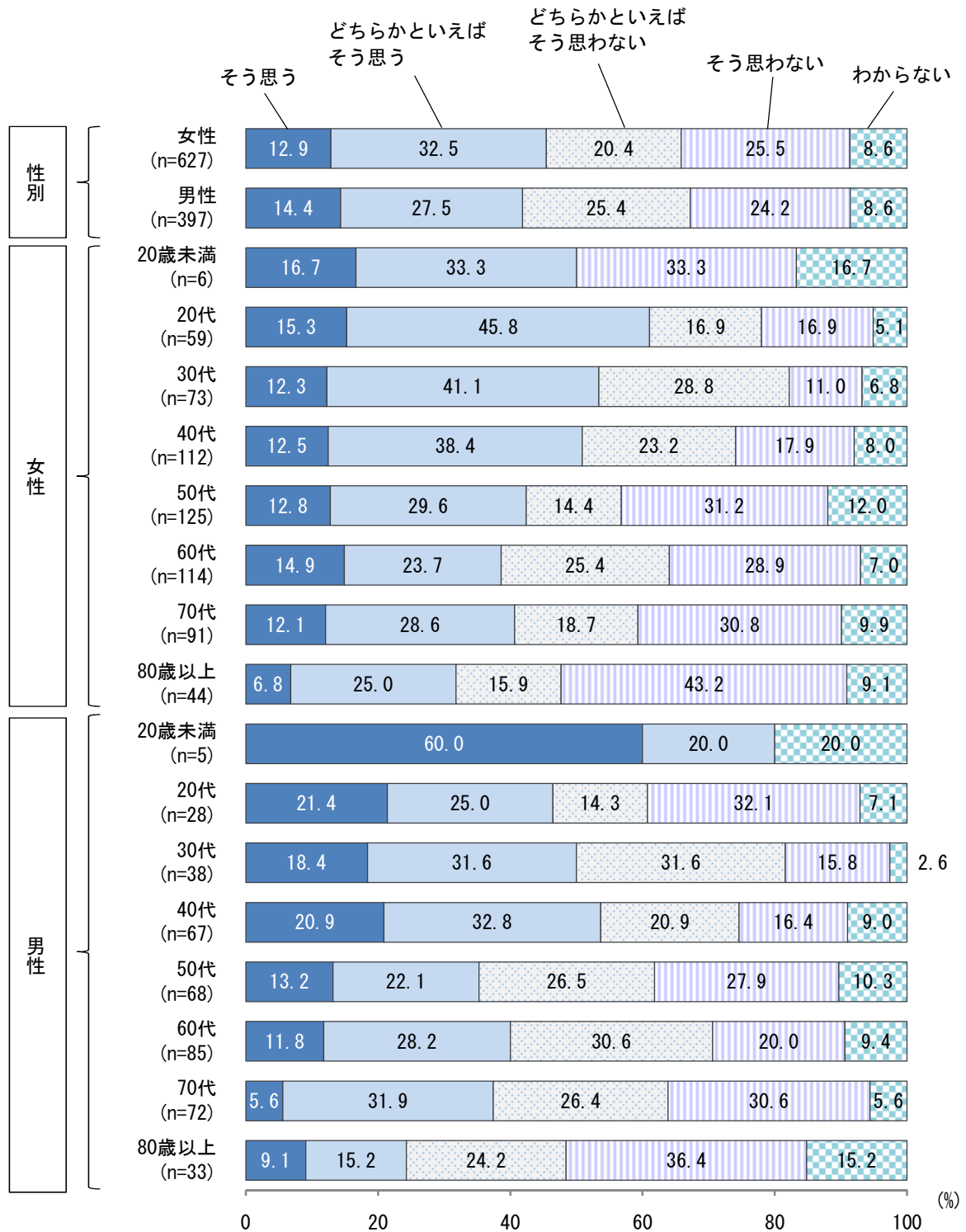


子どもを産むことを、夫婦・カップルで話し合うべきとの意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（96.0%）が男性（90.0%）を6.0ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性はすべての年代で9割台となっており、男性は年代が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。

(f) 子どもを産むことについては女性自身の判断優先

【図 子どもを産むことについては女性自身の判断優先（性別、性・年代別）】

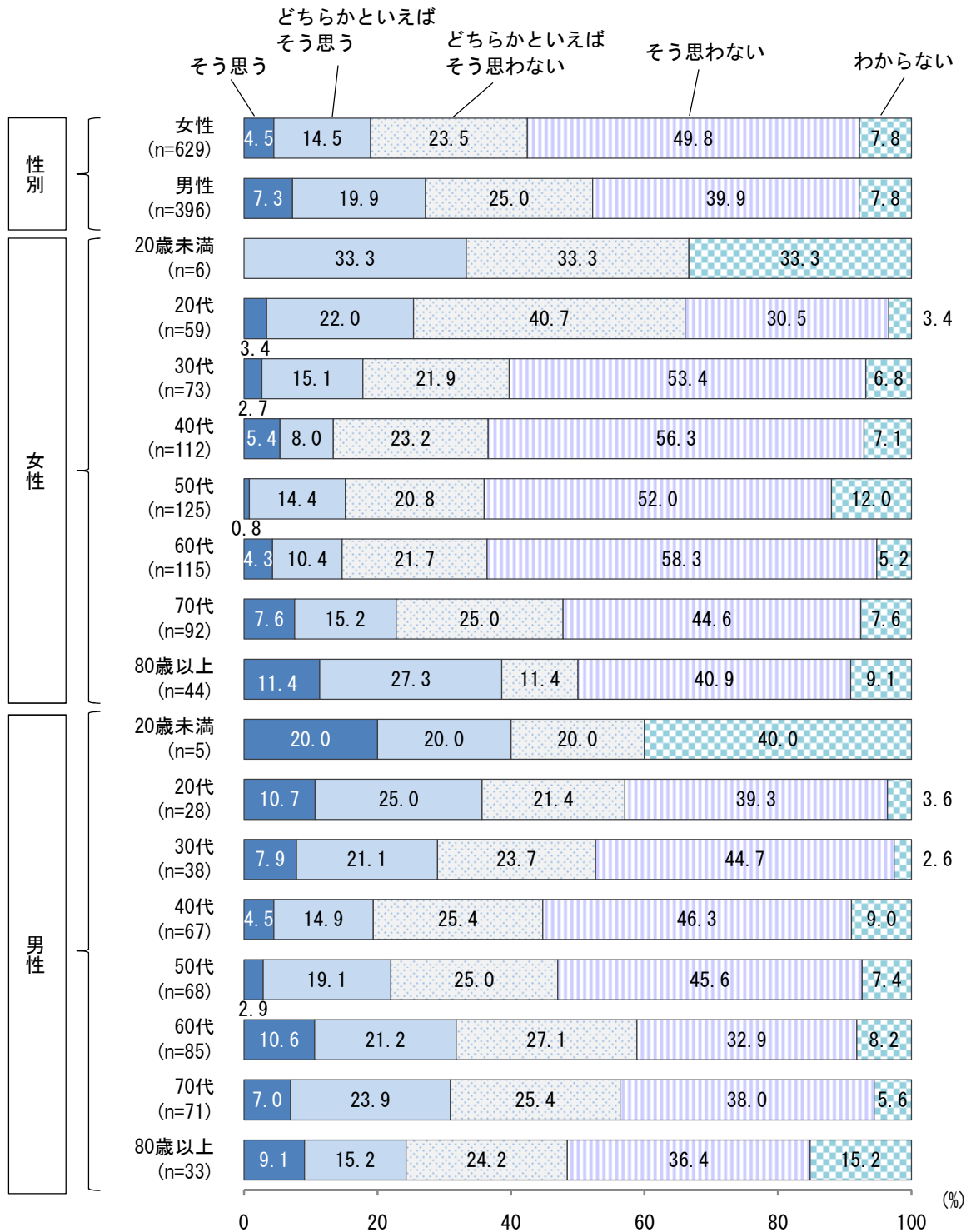


子どもを産むことについては女性自身の判断優先との意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに4割台と大きな差は見られない。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性20代で6割超、女性30代、男性40代で5割台半ばとなっている。

(g) パートナー以外の家族の意向も尊重

【図 パートナー以外の家族の意向も尊重（性別、性・年代別）】

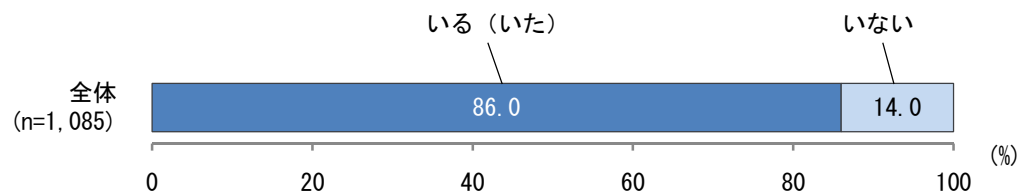


パートナー以外の家族の意向も尊重との意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（27.2%）が女性（19.0%）を8.2ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性80歳以上で約4割、男性20代で3割台半ばとなっている。

VII 配偶者等からの暴力について

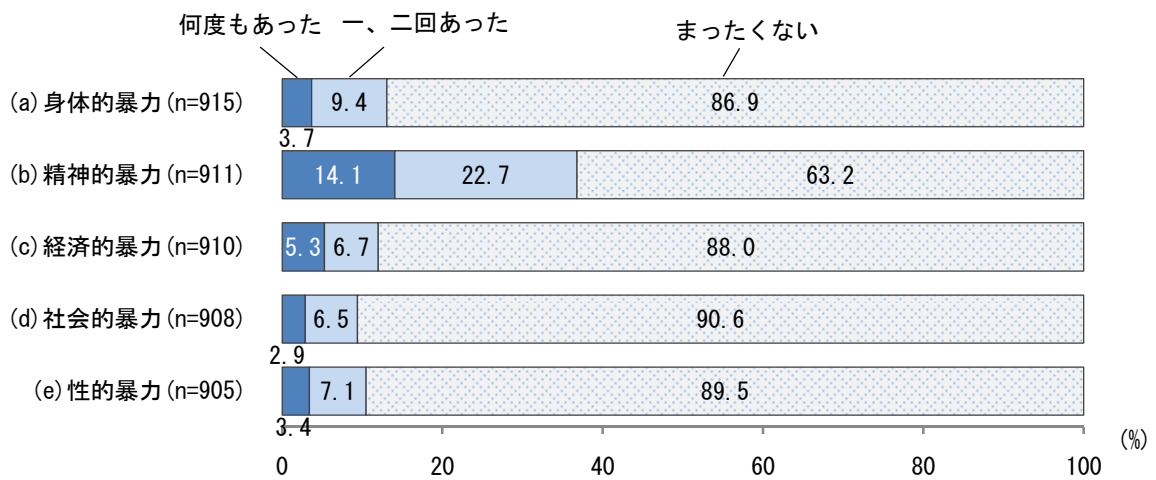
問 17 あなたには現在、配偶者・パートナーや恋人がいますか。または過去に配偶者・パートナーや恋人がいましたか。(○は1つ)



配偶者・パートナーの有無について、「いる (いた)」との回答が 86.0%、「いない」との回答が 14.0% となっている。

問 18 は問 17 で現在または過去に配偶者等が「いる（いた）」と回答した方が対象

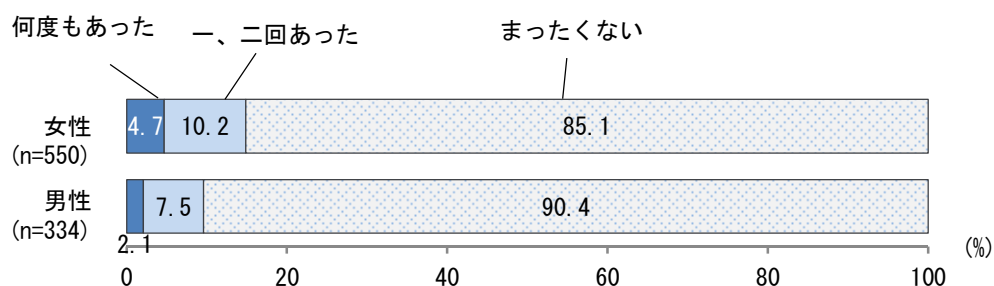
問 18 あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナーや恋人（など親密な）関係の人から次の（a）から（e）のような行為を受けたことがありますか。（○はそれぞれ1つ）



配偶者・パートナーなどから受けた行為について、「精神的暴力」で「何度もあった」との回答は約1割、「一、二回あった」との回答は2割超となっている。

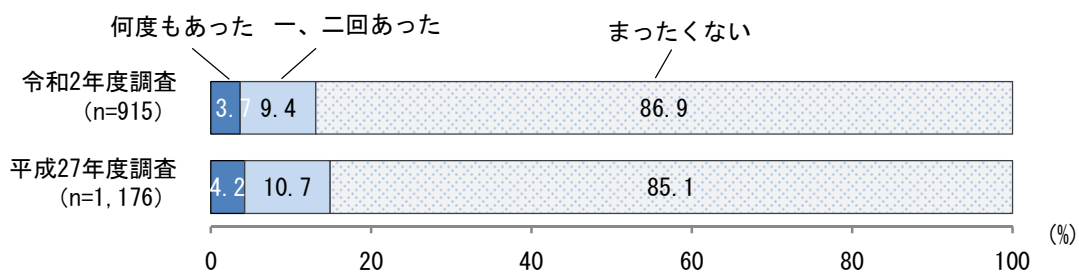
(a) 身体的暴力

【図 身体的暴力（性別）】



身体的暴力について、性別にみると、「まったくない」との回答は男性（90.4%）が女性（85.1%）を5.3ポイント上回っている。

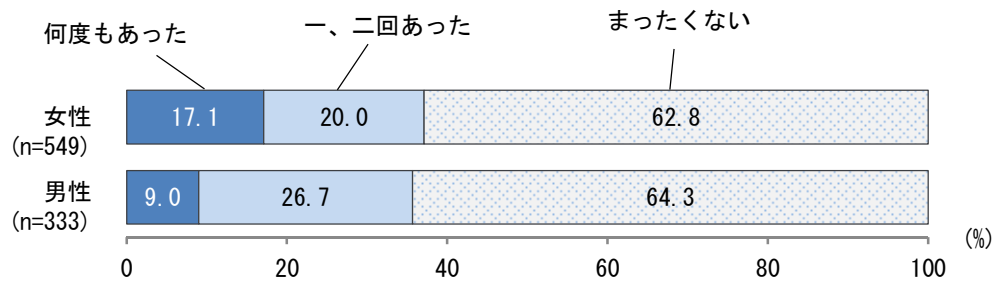
【図 身体的暴力（過去調査結果との比較）】



身体的暴力について、経年比較すると、大きな差は見られない。

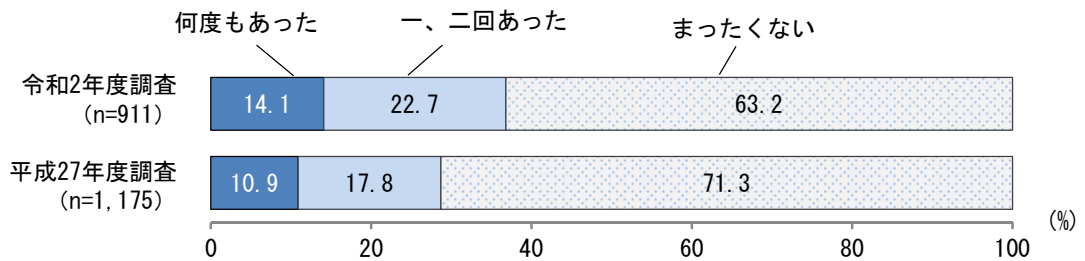
(b) 精神的暴力

【図 精神的暴力（性別）】



精神的暴力について、性別にみると、「何度もあった」との回答は女性（17.1%）が男性（9.0%）を8.1ポイント上回っている。

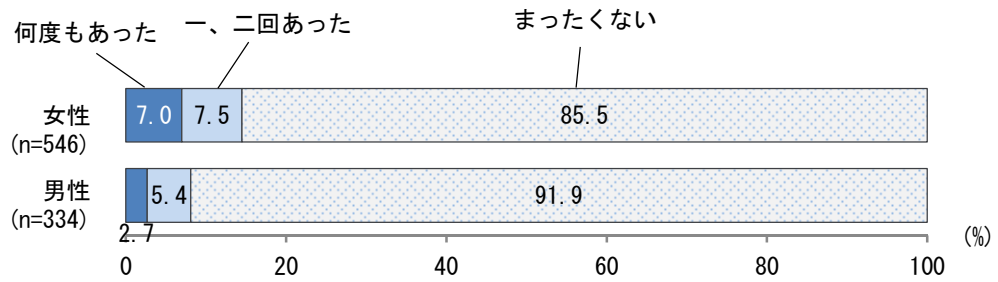
【図 精神的暴力（過去調査結果との比較）】



精神的暴力について、経年比較すると、「まったくない」との回答は令和2年度調査（63.2%）が平成27年度調査（71.3%）を8.1ポイント下回っている。

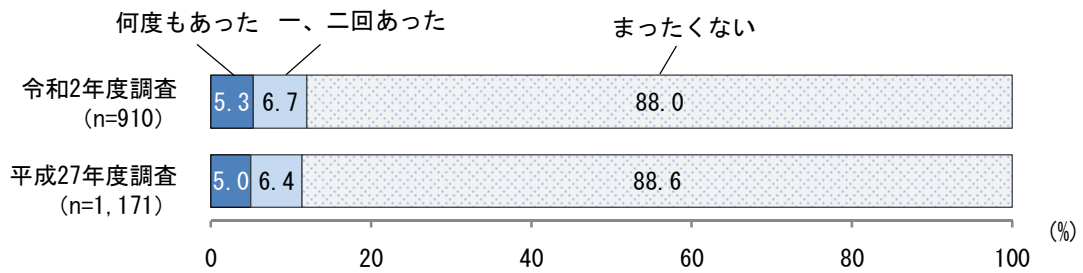
(c) 経済的暴力

【図 経済的暴力（性別）】



経済的暴力について、性別にみると、「まったくない」との回答は男性（91.9%）が女性（85.5%）を6.4ポイント上回っている。

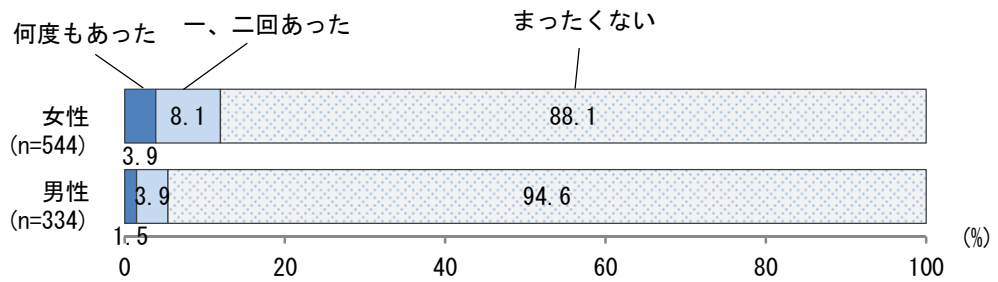
【図 経済的暴力（過去調査結果との比較）】



経済的暴力について、経年比較すると、大きな差は見られない。

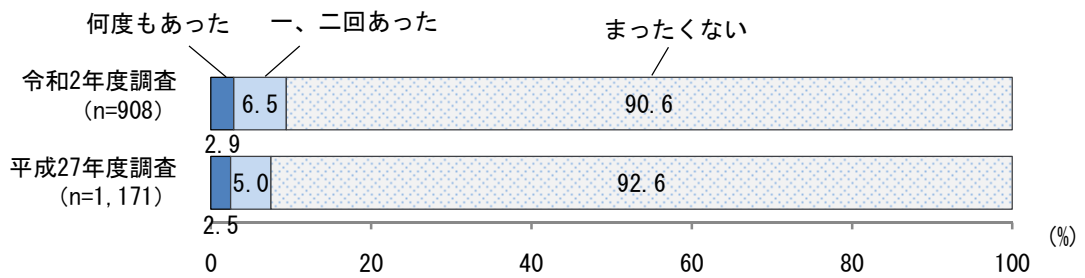
(d) 社会的暴力

【図 社会的暴力（性別）】



社会的暴力について、性別にみると、「まったくない」との回答は男性（94.6%）が女性（88.1%）を6.5ポイント上回っている。

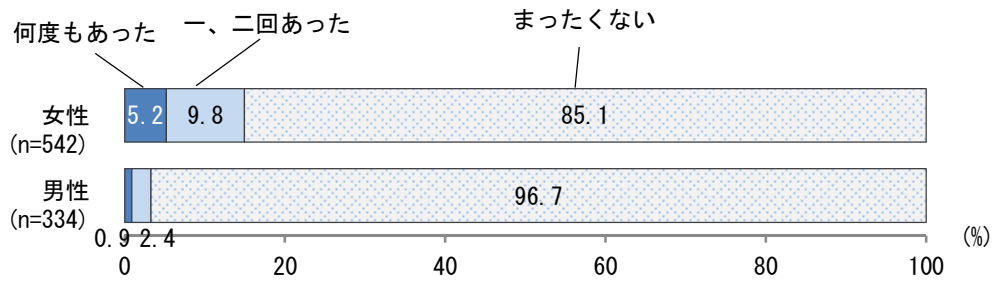
【図 社会的暴力（過去調査結果との比較）】



社会的暴力について、経年比較すると、大きな差は見られない。

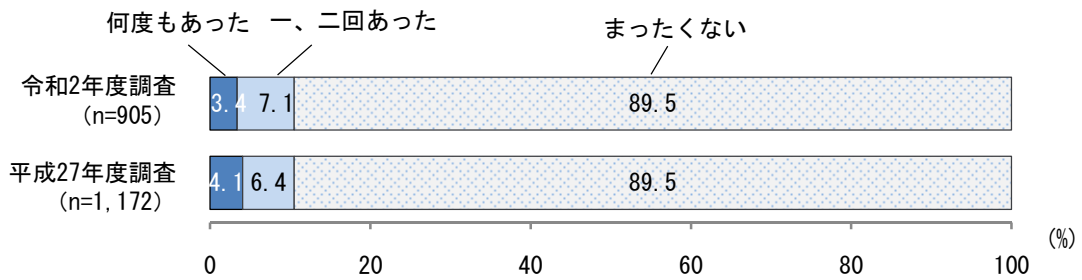
(e) 性的暴力

【図 性的暴力（性別）】



性的暴力について、性別にみると、「一、二回あった」との回答は女性（9.8%）が男性（2.4%）を7.4ポイント上回っている。

【図 性的暴力（過去調査結果との比較）】

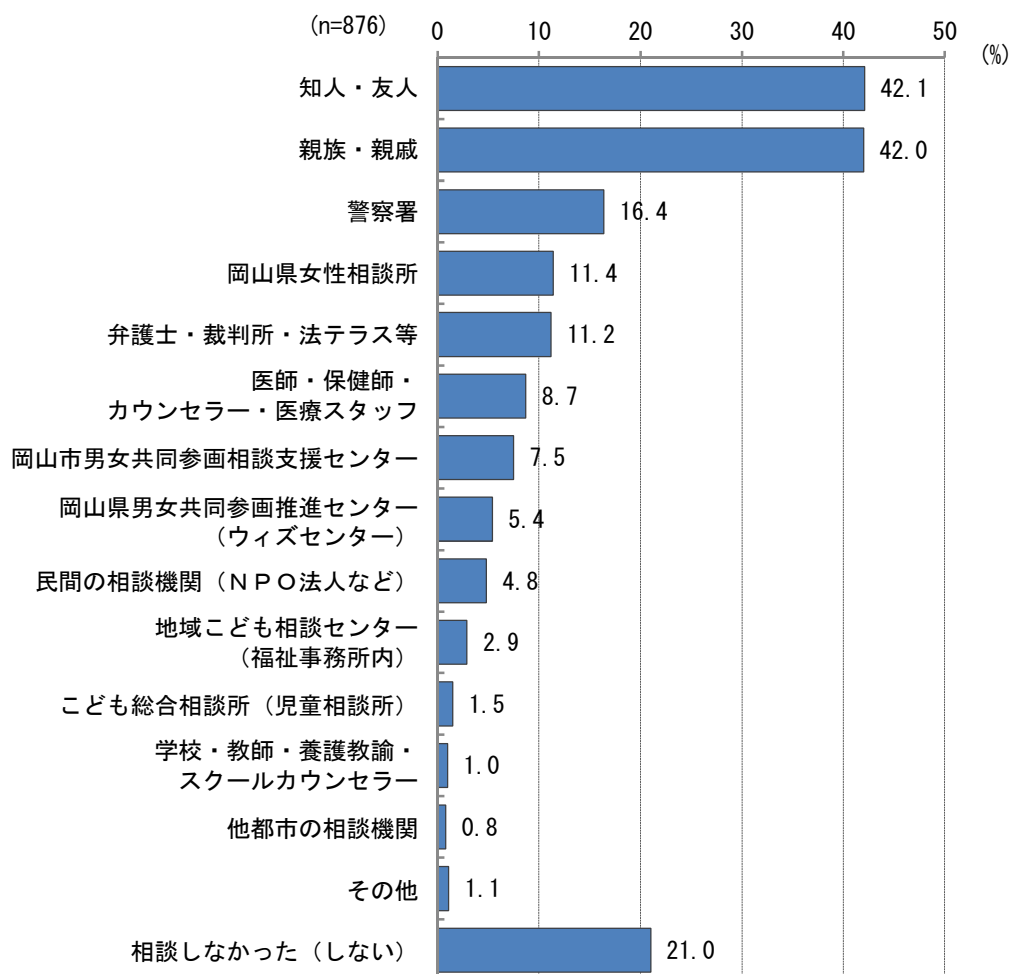


性的暴力について、経年比較すると、大きな差は見られない。

問 19 あなたが受けた問 18 の行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

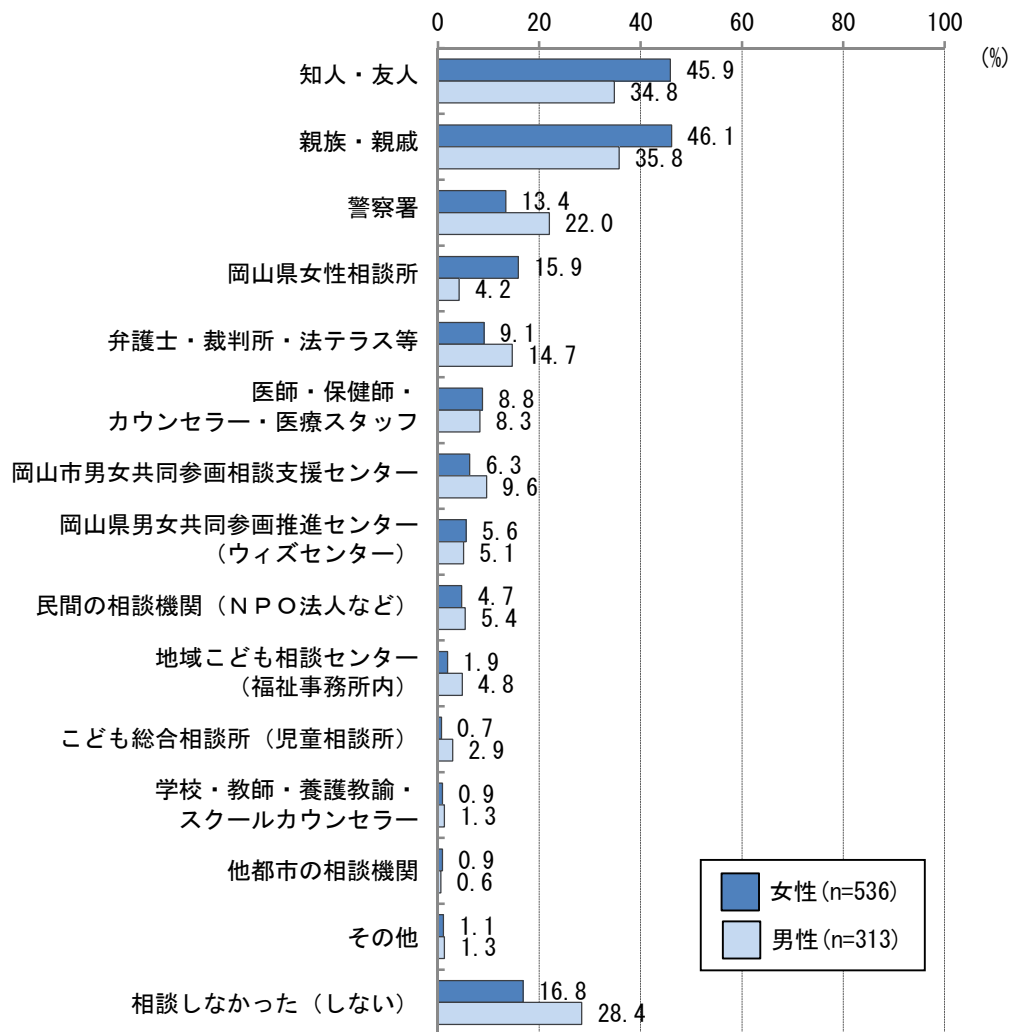
(〇はいくつでも)

問 18 で、すべての項目に「まったくない」と答えた方も、その行為を受けた場合を想定して
お答えください。



配偶者等から暴力を受けた際の相談先について、「知人・友人」との回答が 42.1%と最も高く、次いで「親族・親戚」(42.0%)、「警察署」(16.4%)などの順となっている。一方、「相談しなかった (しない)」との回答は 21.0%となっている。

【図 配偶者等から暴力を受けた際の相談先（性別）】



配偶者等から暴力を受けた際の相談先について、性別にみると、「知人・友人」との回答は女性(45.9%)が男性(34.8%)を11.1ポイント、「親族・親戚」との回答は女性(46.1%)が男性(35.8%)を10.3ポイント上回っている。一方、「警察署」との回答は男性(22.0%)が女性(13.4%)を8.6ポイント、「相談しなかった(しない)」との回答は男性(28.4%)が女性(16.8%)を11.6ポイント上回っている。

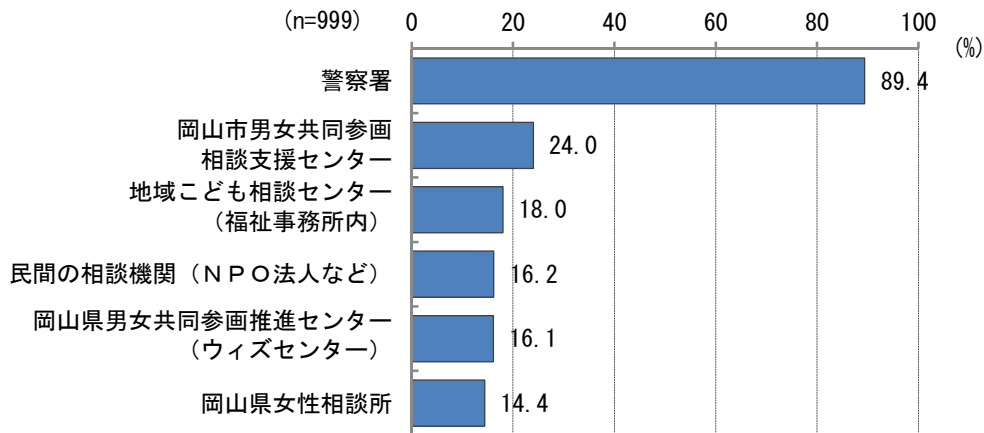
【図 配偶者等から暴力を受けた際の相談先（DV被害経験頻度別）】

		親族・親戚	知人・友人	岡山県男女共同参画相談センター	地域子ども相談センター（福祉事務所内）	子ども総合相談所（児童相談所）	警察署	岡山県女性相談所	岡山県男女共同参画推進センター（ウイズセンター）
全体 (n=876)		42.0	42.1	7.5	2.9	1.5	16.4	11.4	5.4
経験頻度別	何度もあった (n=152)	43.4	44.7	1.3	0.7	-	2.6	2.6	1.3
	一、二回あった (n=230)	32.2	34.8	2.6	1.3	-	6.5	3.9	1.3
	まったくない (n=491)	46.0	44.8	11.6	4.3	2.6	25.5	17.7	8.4
		他都市の相談機関	〇 民間の相談機関（NPO法人など）	ラ 論学校・スクール・教師・養護教諭	ラ 弁護士・裁判所・法テ	セラ 医師・保健師・看護師・カウンセラー	その他	い 相談しなかった（しない）	
全体 (n=876)		0.8	4.8	1.0	11.2	8.7	1.1	21.0	
経験頻度別	何度もあった (n=152)	-	0.7	-	4.6	5.9	-	35.5	
	一、二回あった (n=230)	0.9	2.6	0.4	3.5	3.9	0.9	39.6	
	まったくない (n=491)	1.0	7.1	1.6	16.7	11.4	1.6	7.9	

上位1位～3位 うち1位は太枠

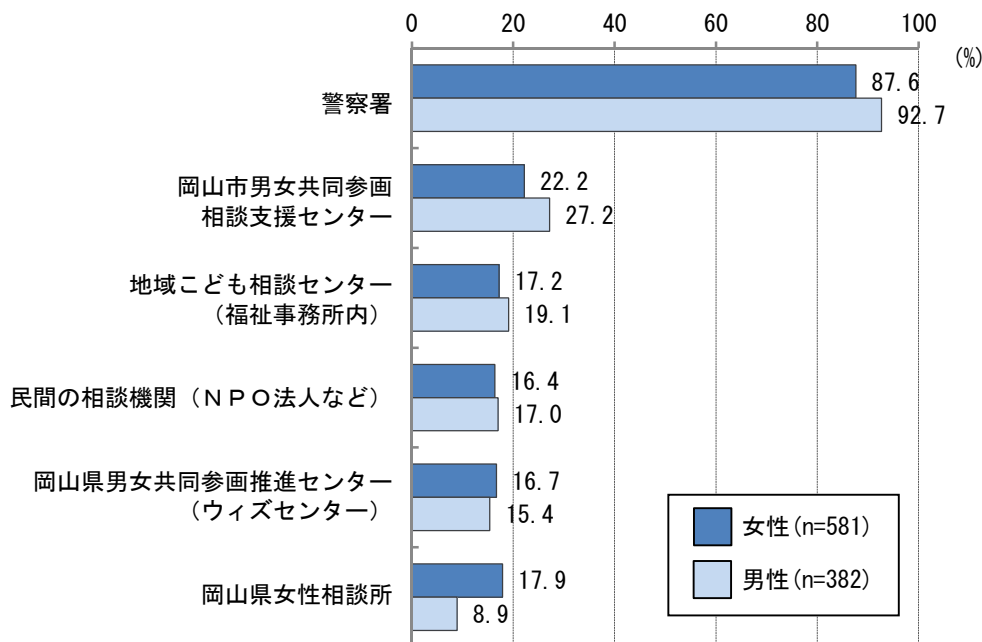
配偶者等から暴力を受けた際の相談先について、DV被害経験頻度別にみると、「警察署」との回答はまったくいない人で2割台半ば、「岡山県女性相談所」との回答はまったくいない人で約2割となっている。一方、「相談しなかった（しない）」との回答は何度もあった人、一、二回あった人で3割台となっている。

問 20 DV（配偶者等からの暴力・デートDV）についての相談機関として、市内には主に次のようなものがありますが、あなたはこれまでにDVの相談機関としてどれを知っていましたか。
（〇はいくつでも）



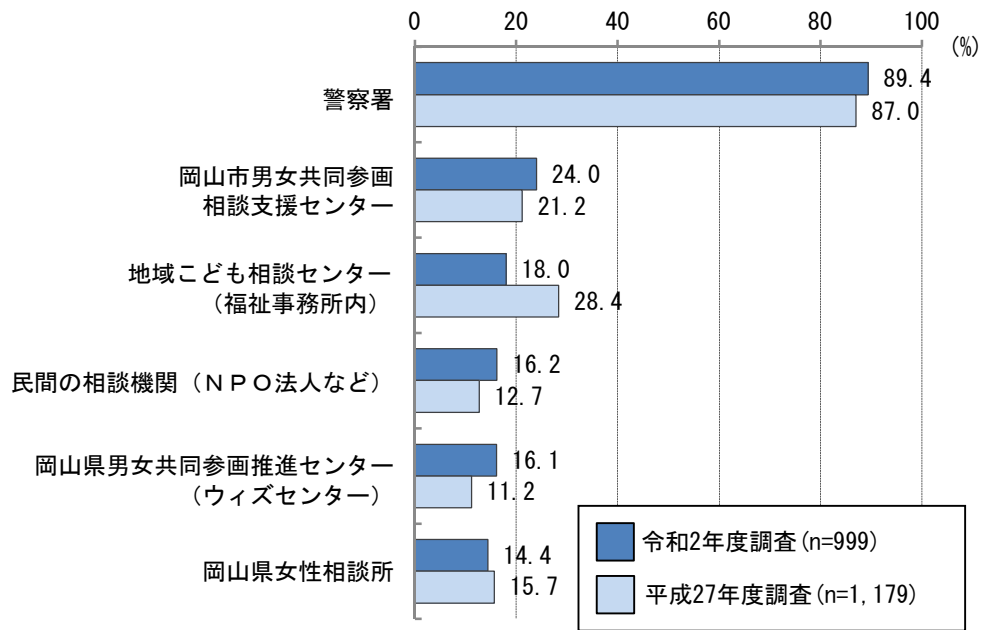
DV相談機関の認知度について、「警察署」との回答が89.4%と最も高く、次いで「岡山市男女共同参画相談支援センター」（24.0%）、「地域子ども相談センター（福祉事務所内）」（18.0%）などの順となっている。

【図 DV相談機関の認知度（性別）】



DV相談機関の認知度について、性別にみると、「岡山市男女共同参画相談支援センター」との回答は男性（27.2%）が女性（22.2%）を5.0ポイント、「警察署」との回答は男性（92.7%）が女性（87.6%）を5.1ポイント上回っている。一方、「岡山県女性相談所」との回答は女性（17.9%）が男性（8.9%）を9.0ポイント上回っている。

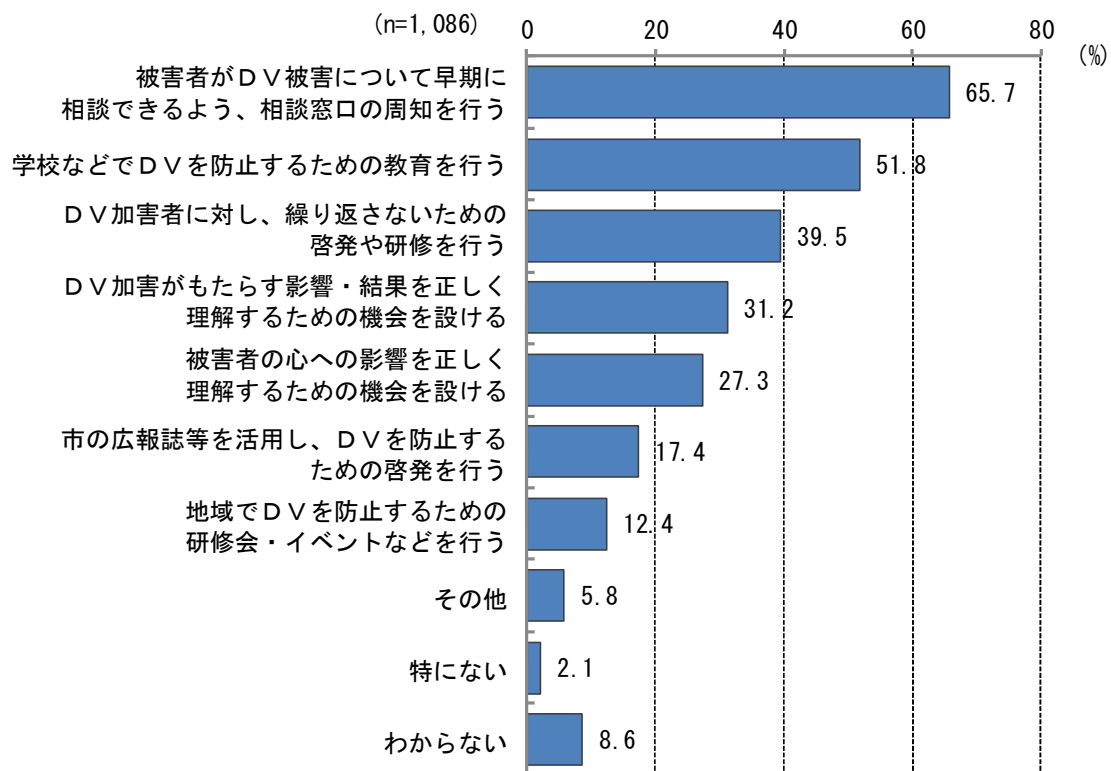
【図 DV相談機関の認知度（過去調査結果との比較）】



DV相談機関の認知度について、経年比較すると、「地域こども相談センター（福祉事務所内）」との回答は令和2年度調査（18.0%）が平成27年度調査（28.4%）を10.4ポイント下回っている。

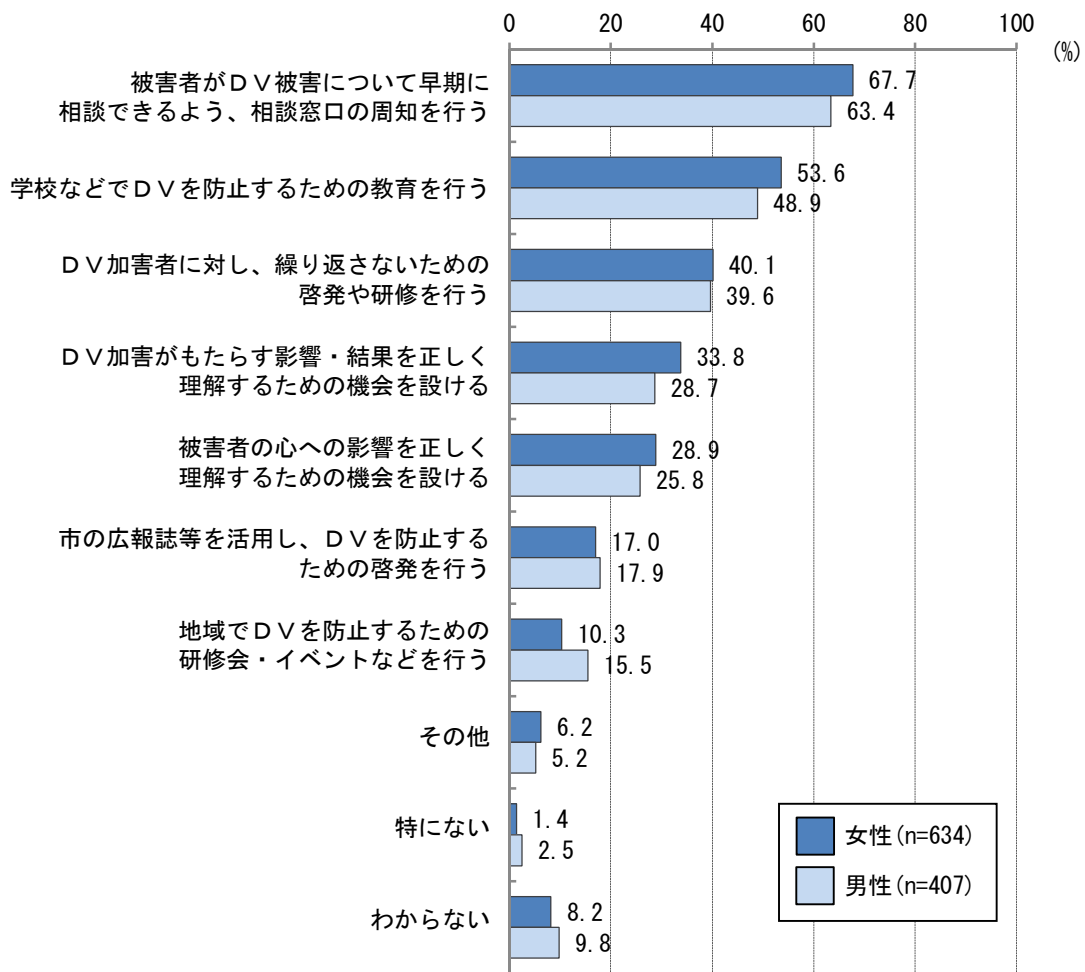
問 21 DVを防止するためには、どのようなことが効果的または必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)



配偶者等からの暴力を防止するために必要なことについて、「被害者がDV被害について早期に相談できるよう、相談窓口の周知を行う」との回答が65.7%と最も高く、次いで「学校などでDVを防止するための教育を行う」(51.8%)、「DV加害者に対し、繰り返さないための啓発や研修を行う」(39.5%)などの順となっている。

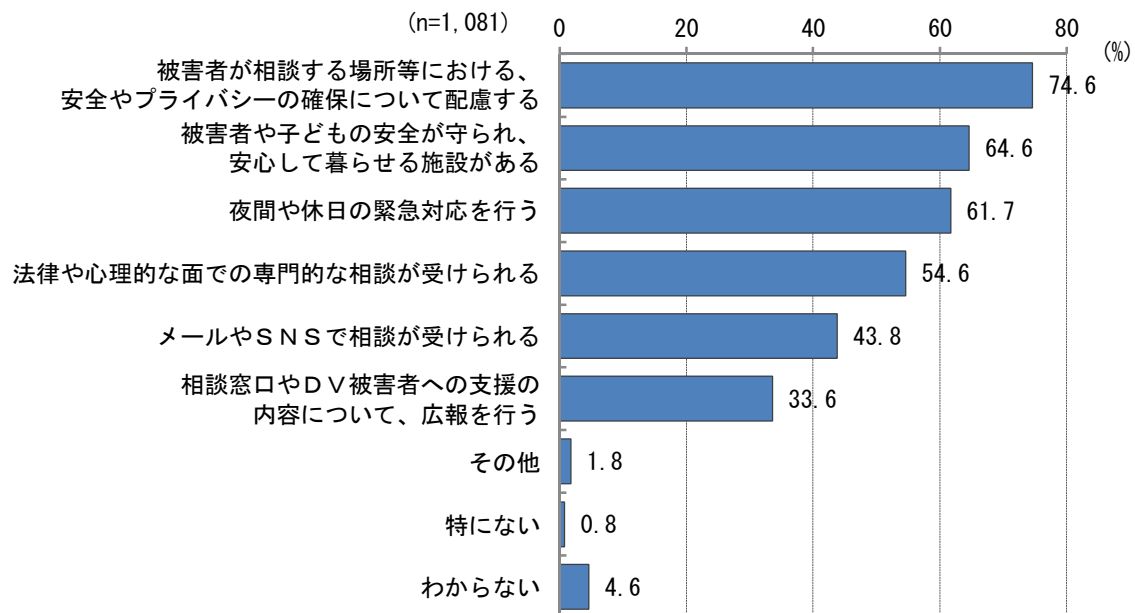
【図 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと（性別）】



配偶者等からの暴力を防止するために必要なことについて、性別にみると、「地域でDVを防止するための研修会・イベントなどを行う」との回答は男性（15.5%）が女性（10.3%）を5.2ポイント上回っている。一方、「DV加害がもたらす影響・結果を正しく理解するための機会を設ける」との回答は女性（33.8%）が男性（28.7%）を5.1ポイント上回っている。

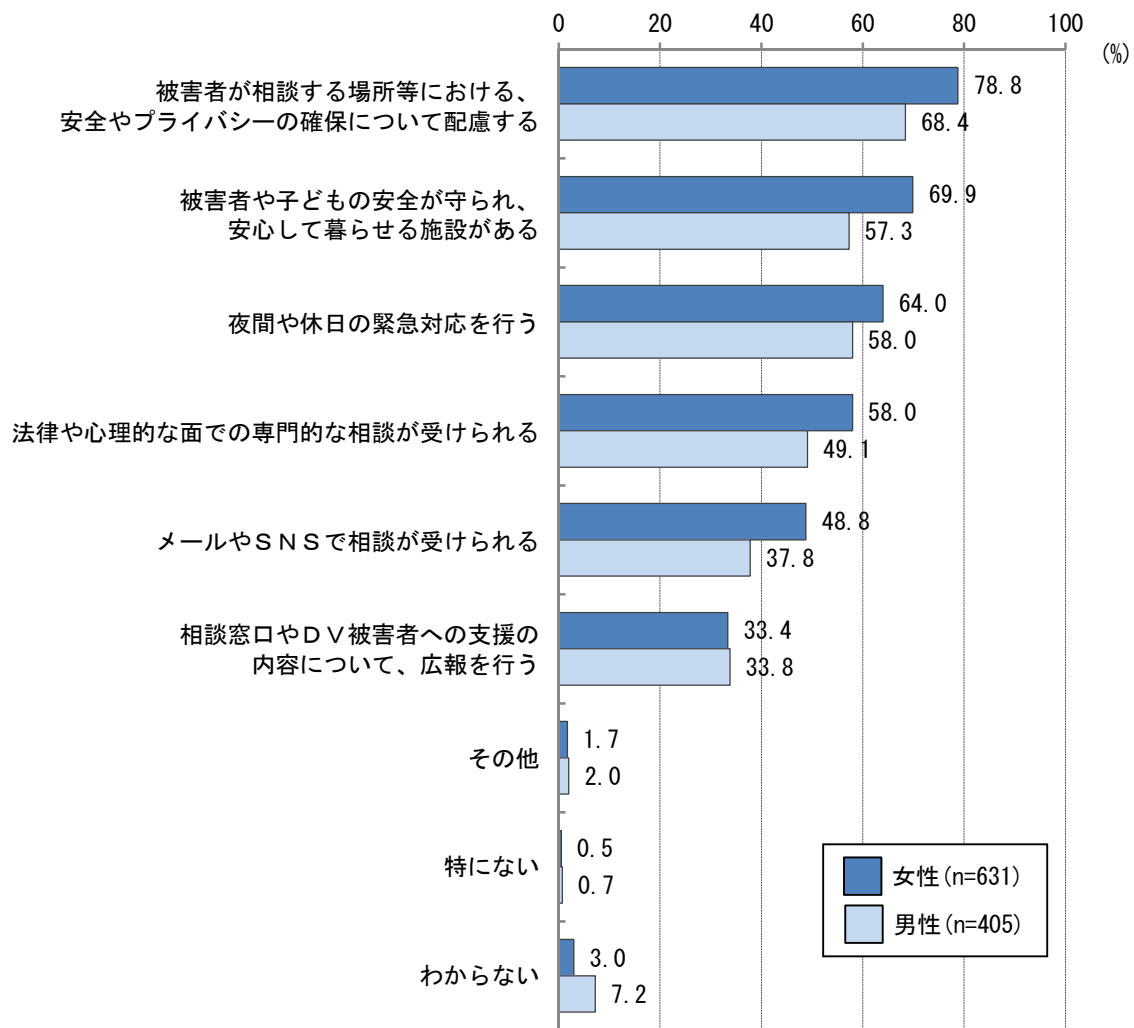
問 22 DV被害者への支援の中で、どのような取組が効果的、または必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)



DV被害者への効果的、または必要な支援について、「被害者が相談する場所等における、安全やプライバシーの確保について配慮する」との回答が74.6%と最も高く、次いで「被害者や子どもの安全が守られ、安心して暮らせる施設がある」(64.6%)、「夜間や休日の緊急対応を行う」(61.7%)などの順となっている。

【図 DV被害者への効果的、または必要な支援（性別）】



DV被害者への効果的、または必要な支援について、性別にみると、「被害者が相談する場所等における、安全やプライバシーの確保について配慮する」との回答は女性（78.8%）が男性（68.4%）を10.4ポイント、「メールやSNSで相談が受けられる」との回答は女性（48.8%）が男性（37.8%）を11.0ポイント、「被害者や子どもの安全が守られ、安心して暮らせる施設がある」との回答は女性（69.9%）が男性（57.3%）を12.6ポイント上回っている。

【図 DV被害者への効果的、または必要な支援（年代別）】

(%)

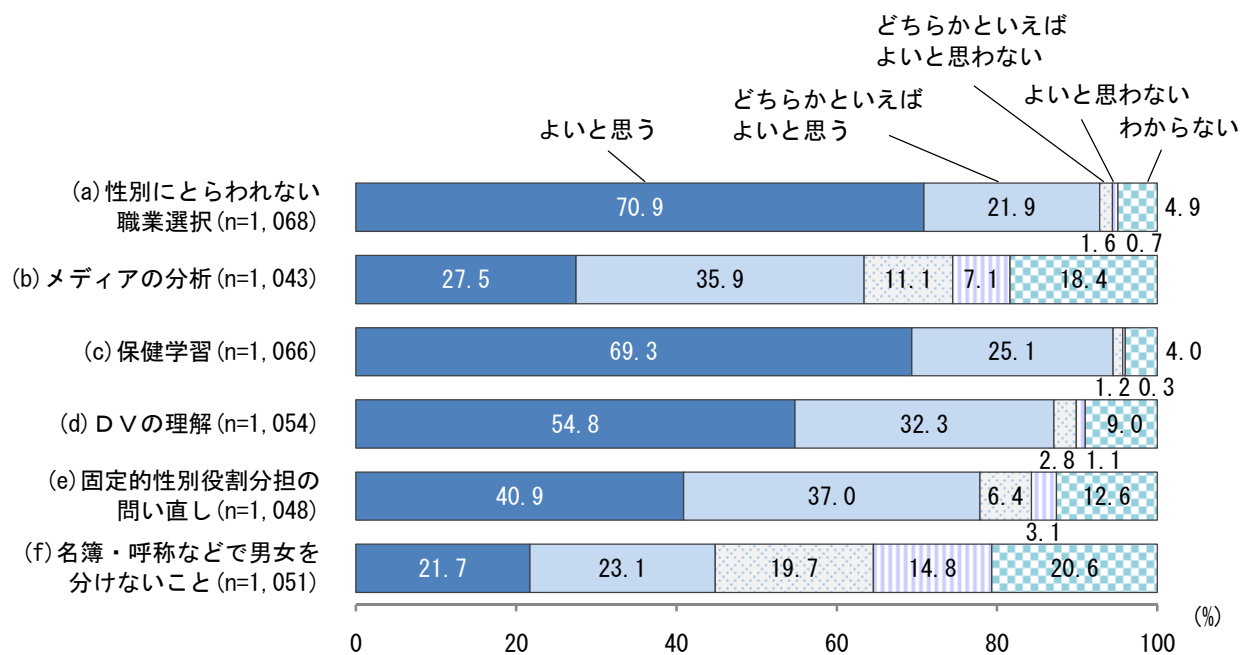
	の相談窓口やDV被害者への支援について、広報を行う	被害者が相談する場所等における安全やプライバシーの確保	夜間や休日の緊急対応を行う	法律や心理的な面での専門的な相談が受けられる	メールやSNSで相談が受けられる	被害者や子どもの安全が確保される	その他	特になし	わからない
全体 (n=1,081)	33.6	74.6	61.7	54.6	43.8	64.6	1.8	0.8	4.6
年代別	20歳未満 (n=12)	41.7	75.0	75.0	50.0	58.3	-	-	-
	20代 (n=87)	40.2	79.3	63.2	55.2	67.8	2.3	-	1.1
	30代 (n=108)	36.1	75.9	75.0	65.7	64.8	69.4	2.8	3.7
	40代 (n=182)	28.0	74.7	74.2	59.3	59.9	67.6	1.1	1.1
	50代 (n=193)	33.7	75.1	67.4	55.4	45.1	69.4	2.1	1.0
	60代 (n=202)	37.1	75.2	56.4	56.4	37.1	64.4	1.5	1.0
	70代 (n=168)	32.7	76.2	48.8	44.0	24.4	57.7	3.0	1.2
80歳以上 (n=83)	28.9	63.9	41.0	45.8	15.7	51.8	-	-	15.7

■ 上位1位～3位 □ うち1位は太枠

DV被害者への効果的、または必要な支援について、年代別にみると、80歳以上を除くすべての年代で、「被害者が相談する場所等における、安全やプライバシーの確保について配慮する」との回答は7割台半ばとなっている。また、「メールやSNSで相談が受けられる」との回答は20代～30代で6割台となっている。

VIII 学校教育について

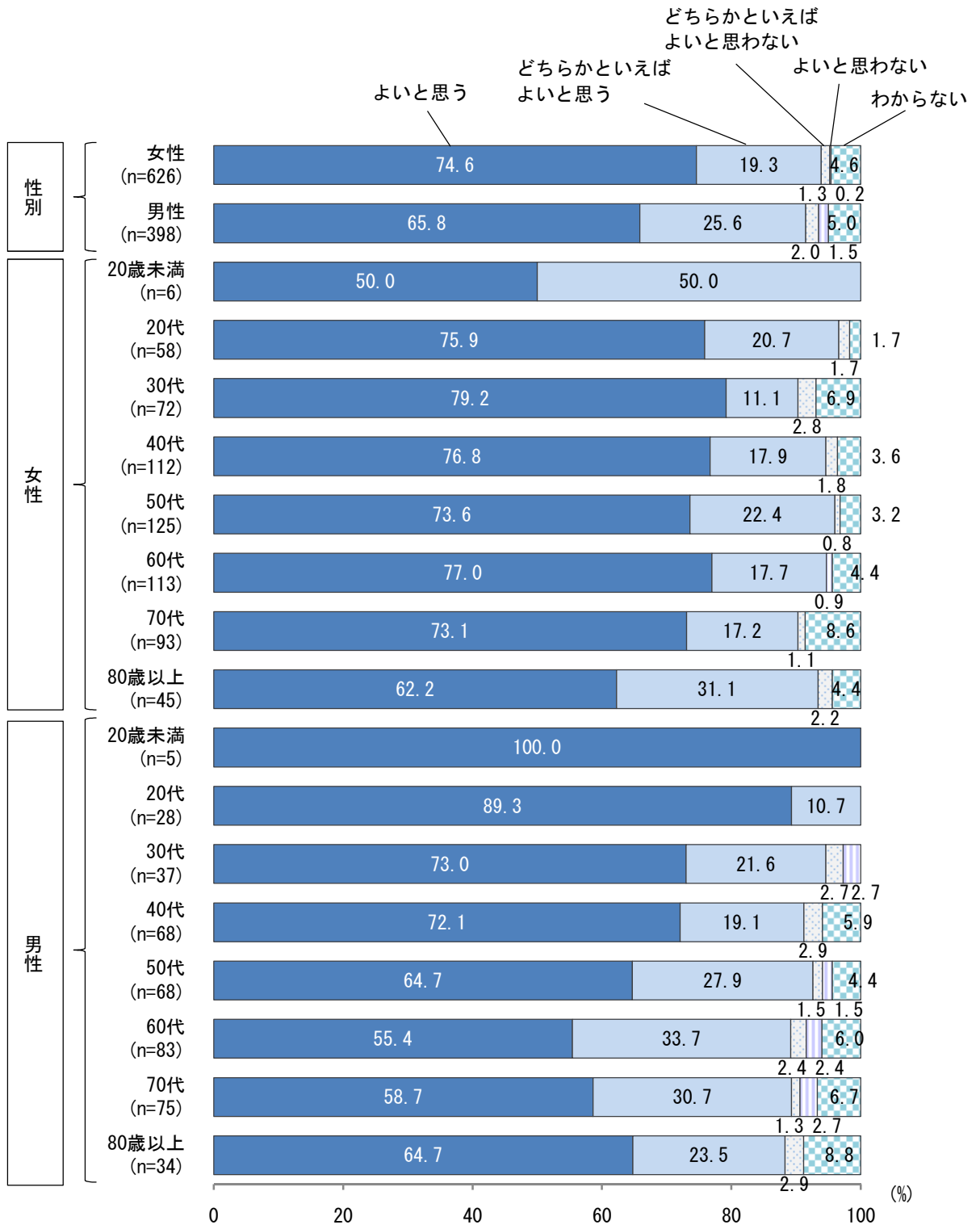
問 23 市内の小中学校では、学校教育のあらゆる機会や場面を通じて、児童・生徒の発達段階に応じた男女平等教育を推進していますが、あなたは、次の (a) から (f) の取組についてどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)



男女平等教育について、『よいと思う』（「よいと思う」と「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合）との回答は「性別にとらわれない職業選択」、「保健学習」、「DVの理解」で9割前後となっている。一方、『よいと思わない』（「よいと思わない」と「どちらかといえばよいと思わない」を合わせた割合）との回答は「名簿・呼称などで男女を分けないこと」で3割台半ばとなっている。

(a) 性別にとらわれない職業選択

【図 性別にとらわれない職業選択（性別、性・年代別）】

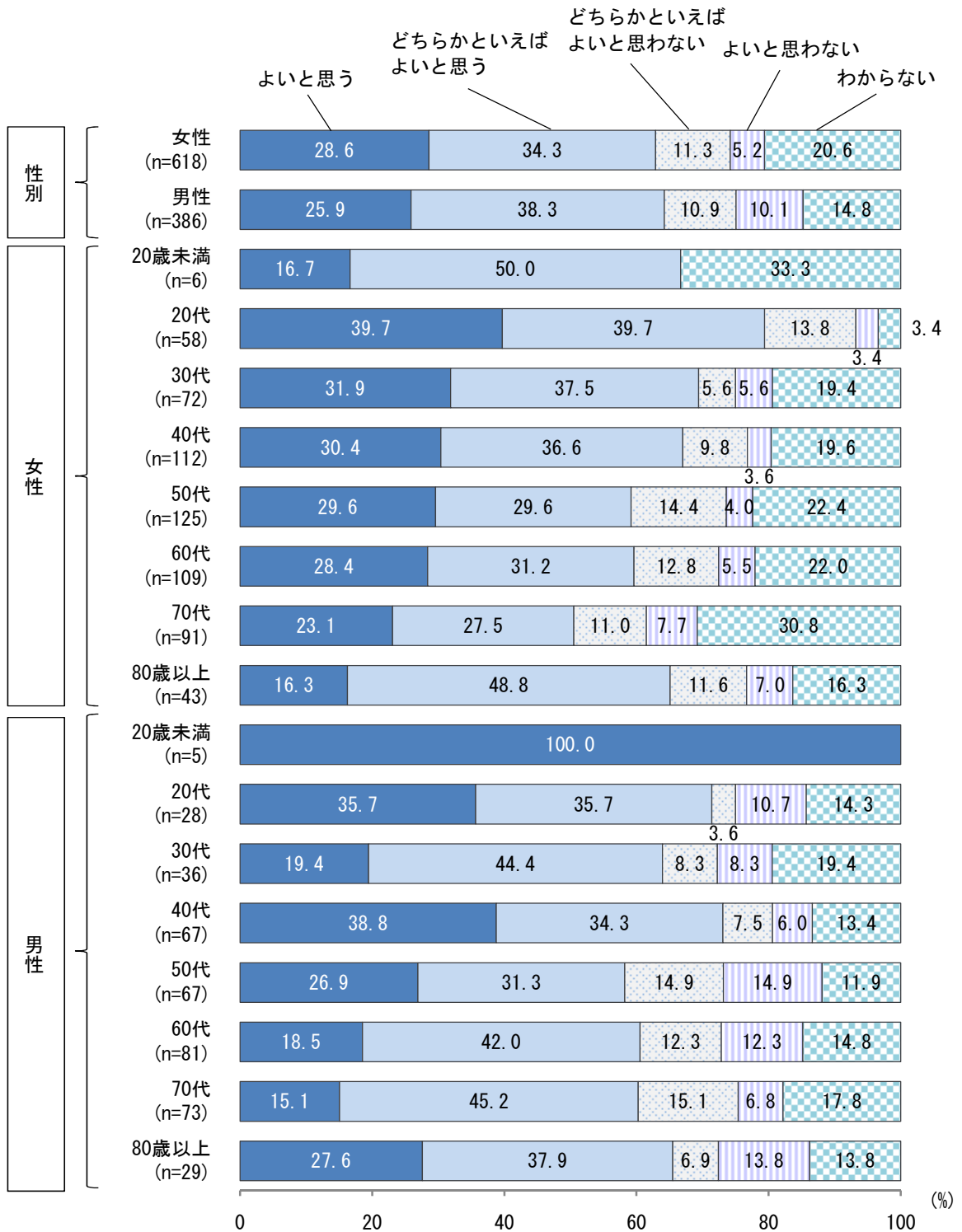


性別にとらわれない職業選択に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに9割超と大きな差は見られない。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答はすべての年代で9割前後となっている。

(b) メディアの分析

【図 メディアの分析（性別、性・年代別）】

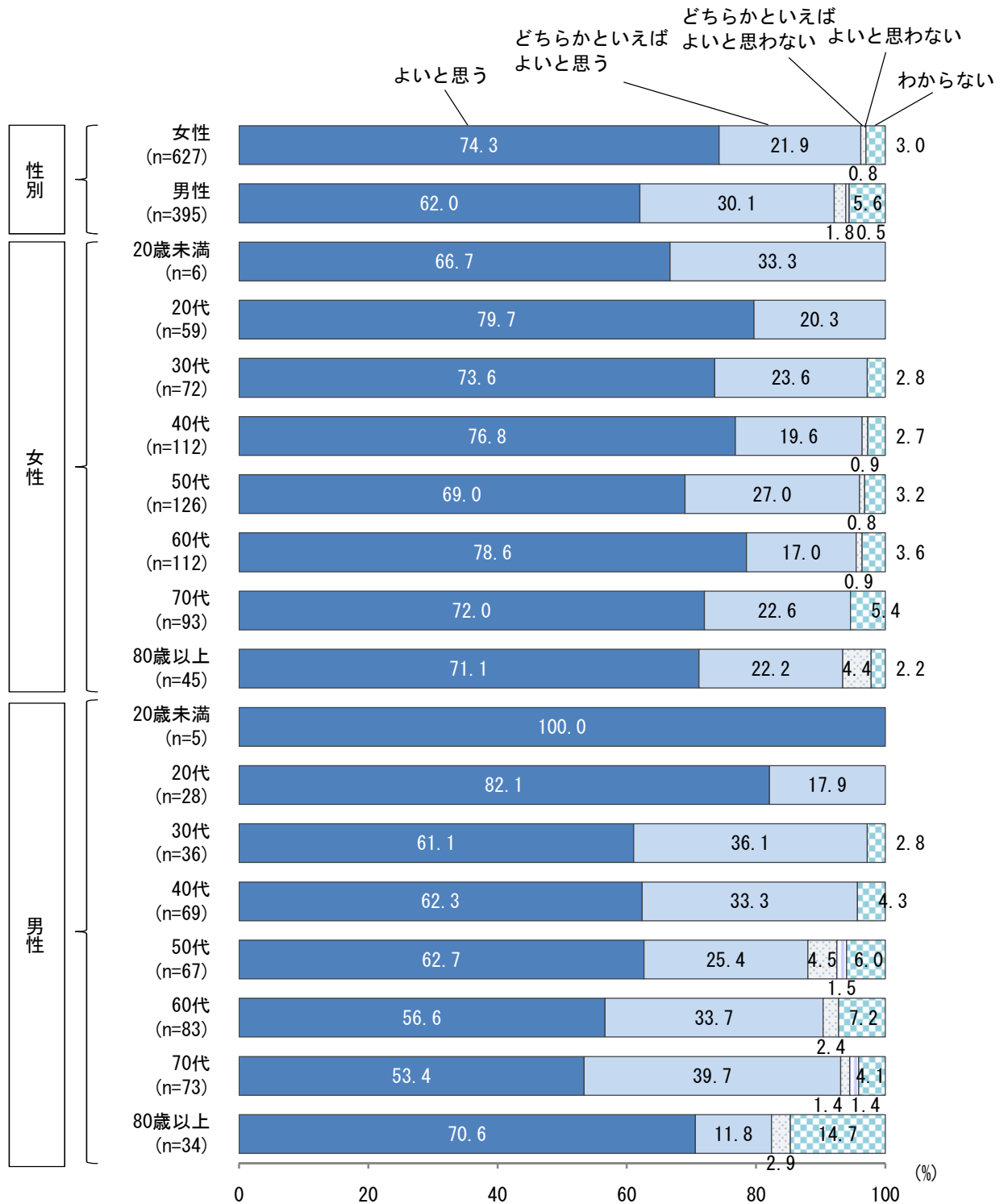


メディアの分析に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに6割台半ばと大きな差は見られない。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は女性20代で約8割、男性20代、40代で7割超となっている。

(c) 保健学習

【図 保健学習（性別、性・年代別）】

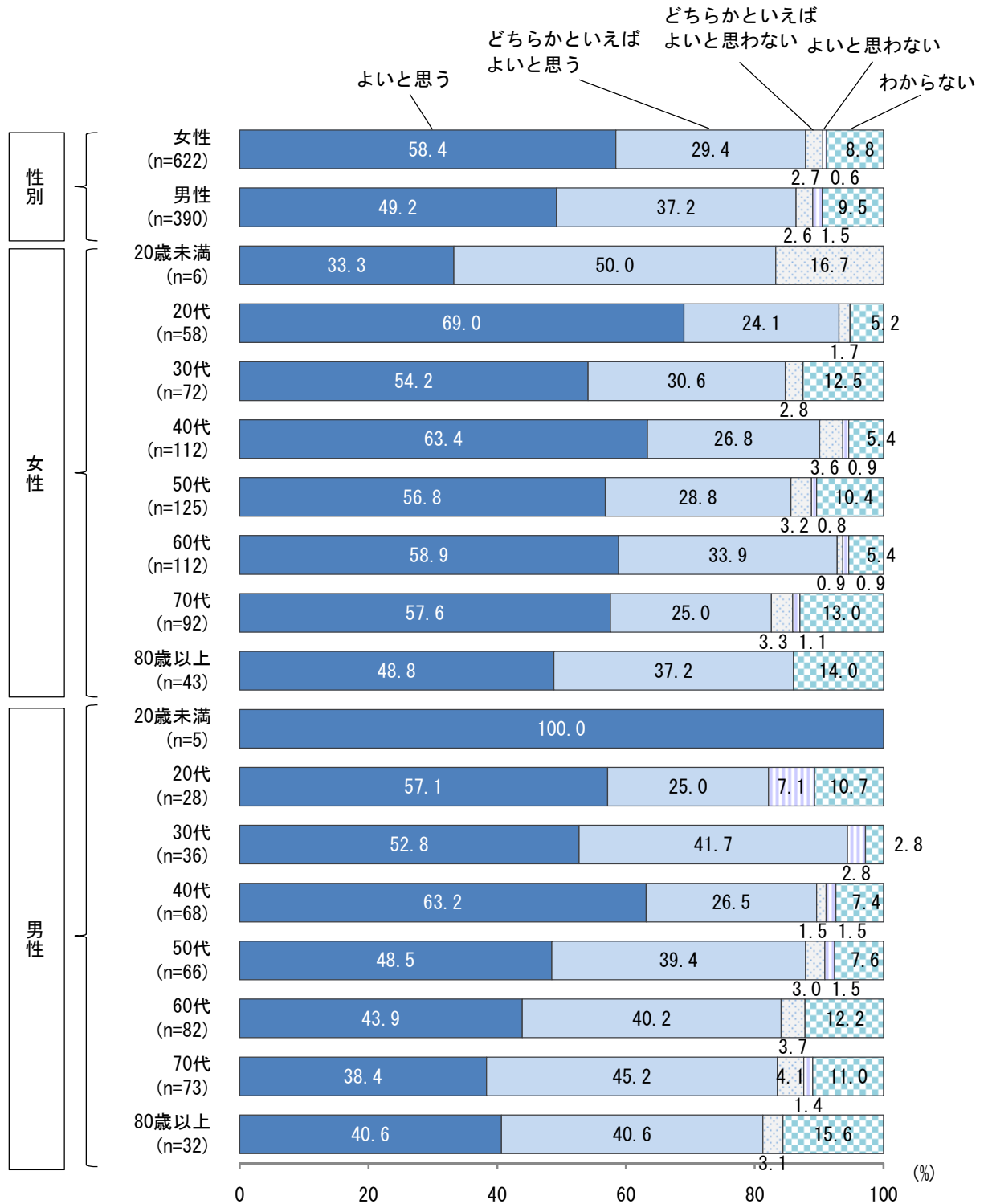


保健学習の分析に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに9割台と大きな差は見られない。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は多くの年代で9割超となっている。

(d) DVの理解

【図 DVの理解（性別、性・年代別）】

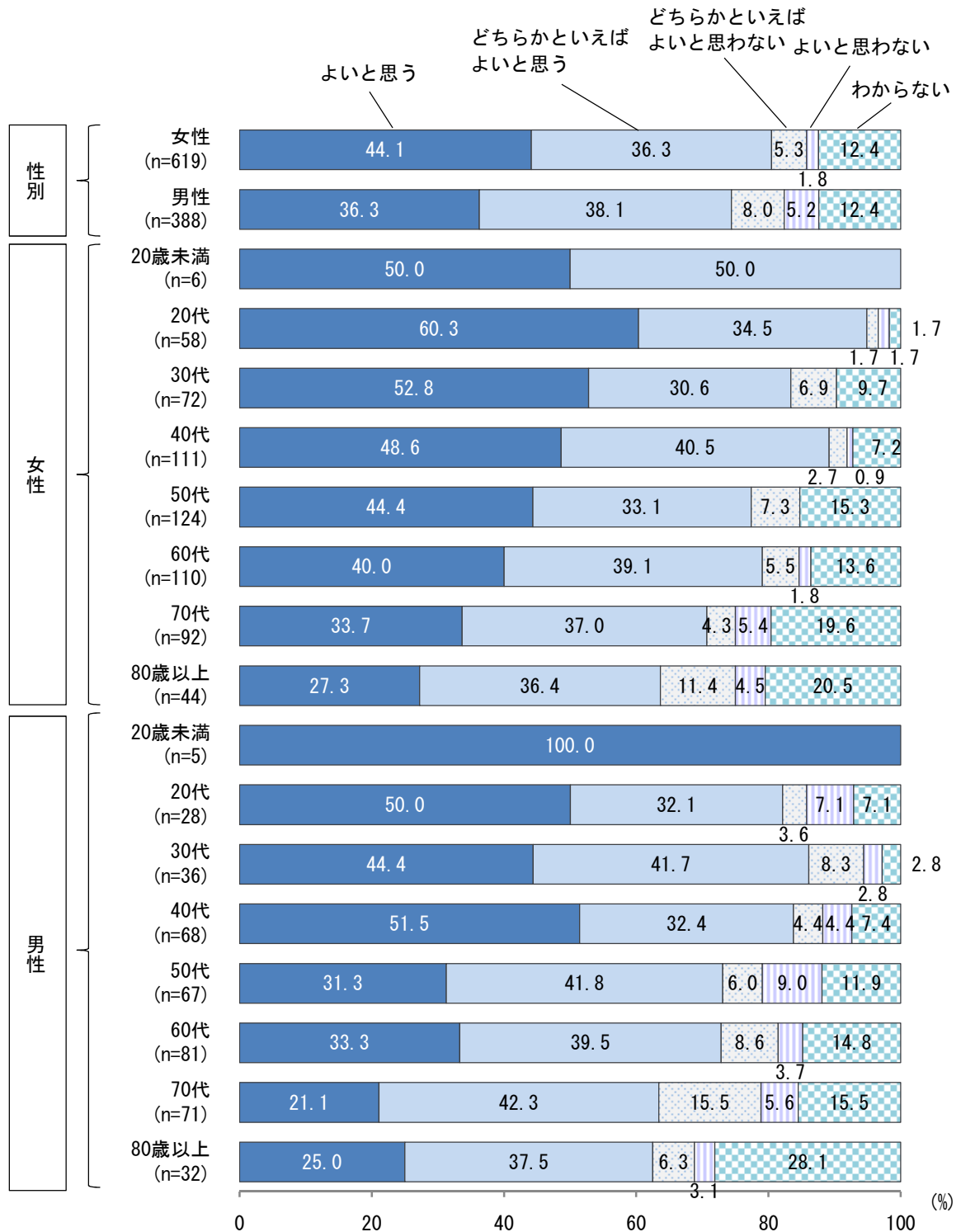


DVの理解の分析に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに約9割と大きな差は見られない。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は女性20代、40代、60代、男性30代で9割台となっている。

(e) 固定的性別役割分担の問い直し

【図 固定的性別役割分担の問い直し（性別、性・年代別）】

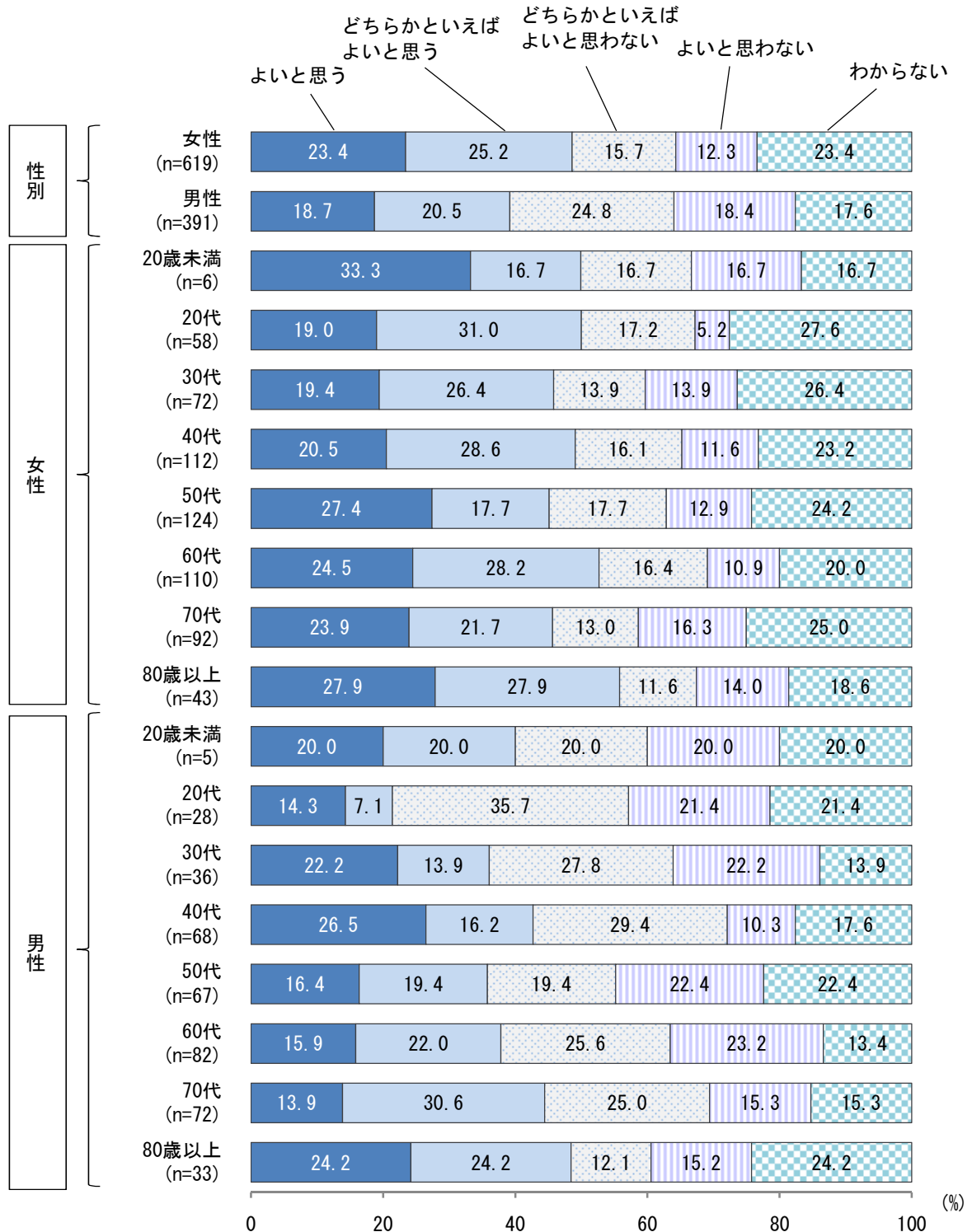


固定的性別役割分担の問い直しの分析に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は女性（80.4%）が男性（74.4%）を6.0ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は女性20代、40代、男性30代で9割前後となっている。

(f) 名簿・呼称などで男女を分けないこと

【図 名簿・呼称などで男女を分けないこと（性別、性・年代別）】

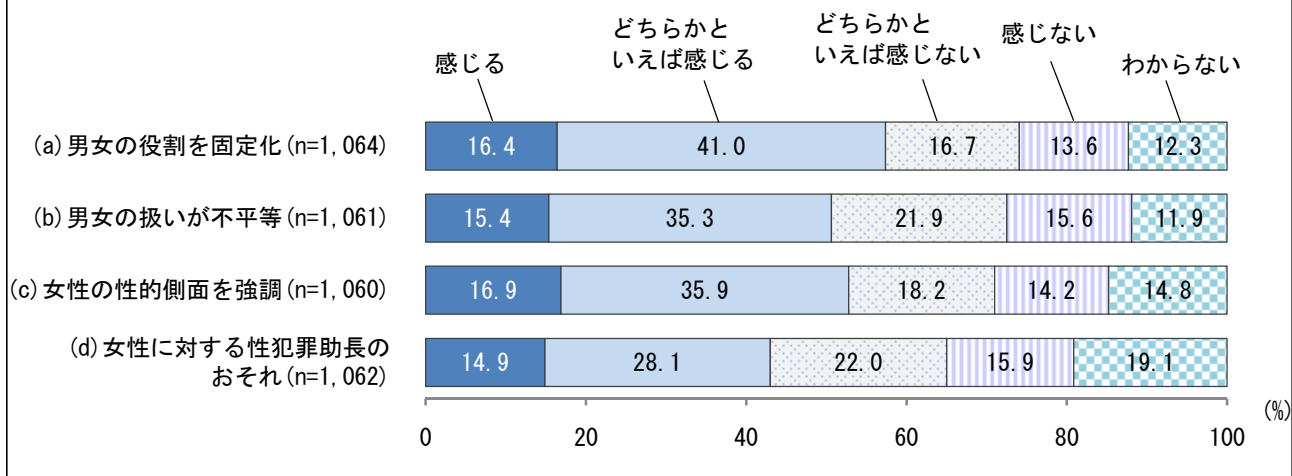


名簿・呼称などで男女を分けないことの分析に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は女性（48.6%）が男性（39.2%）を9.4ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は女性80歳以上で5割台半ば、男性80歳以上で約5割となっている。

IX メディアを見る視点について

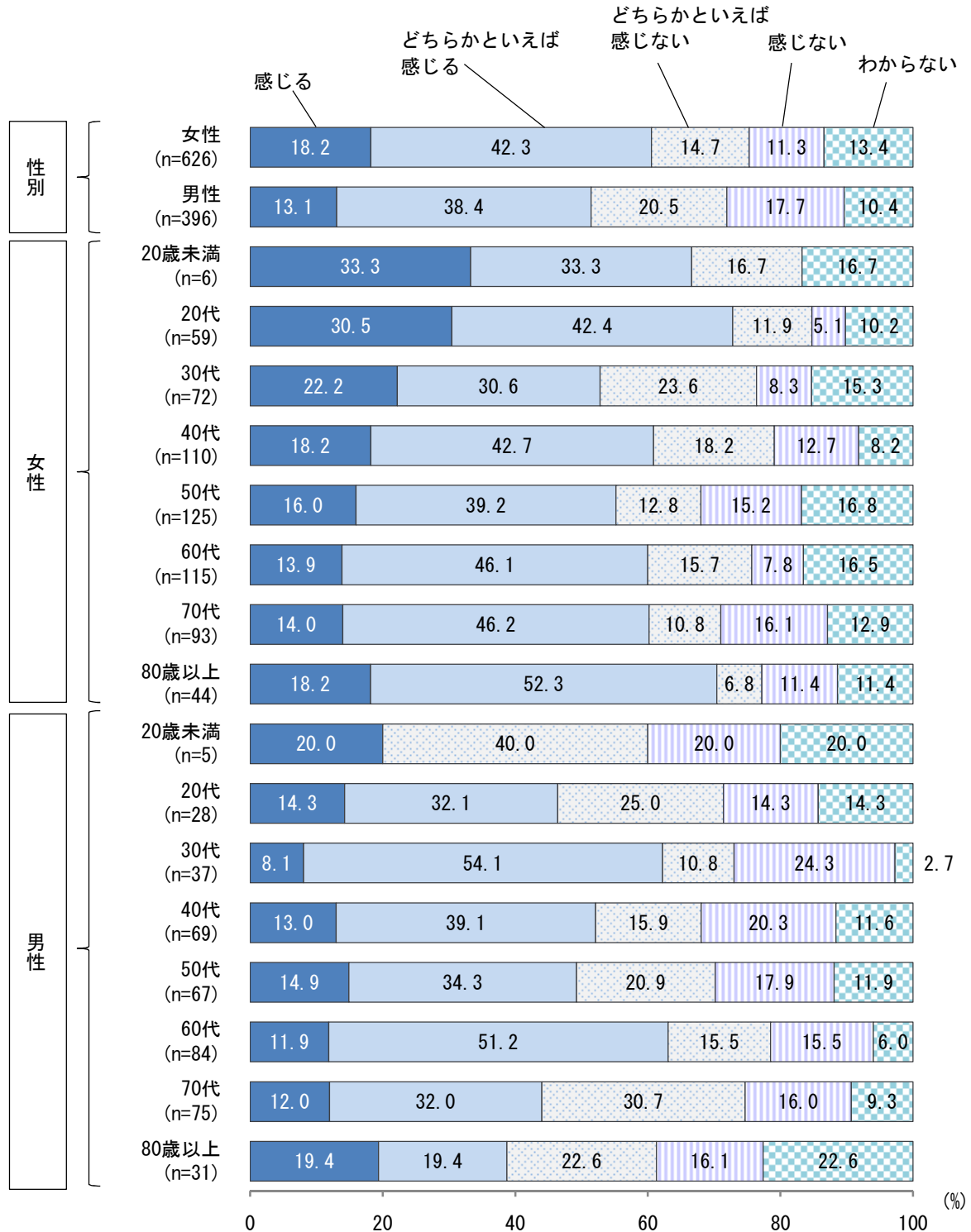
問 24 新聞・テレビ・インターネット上の広告や番組等を見て、あなたは、次の (a) から (d) のように感じたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)



メディアにおいて性差別的表現を感じたことの有無について、『感じる』（「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせた割合）との回答は「男女の役割を固定化」で約6割、「女性の性的側面を強調」で5割超となっている。

(a) 男女の役割を固定化

【図 男女の役割を固定化（性別、性・年代別）】

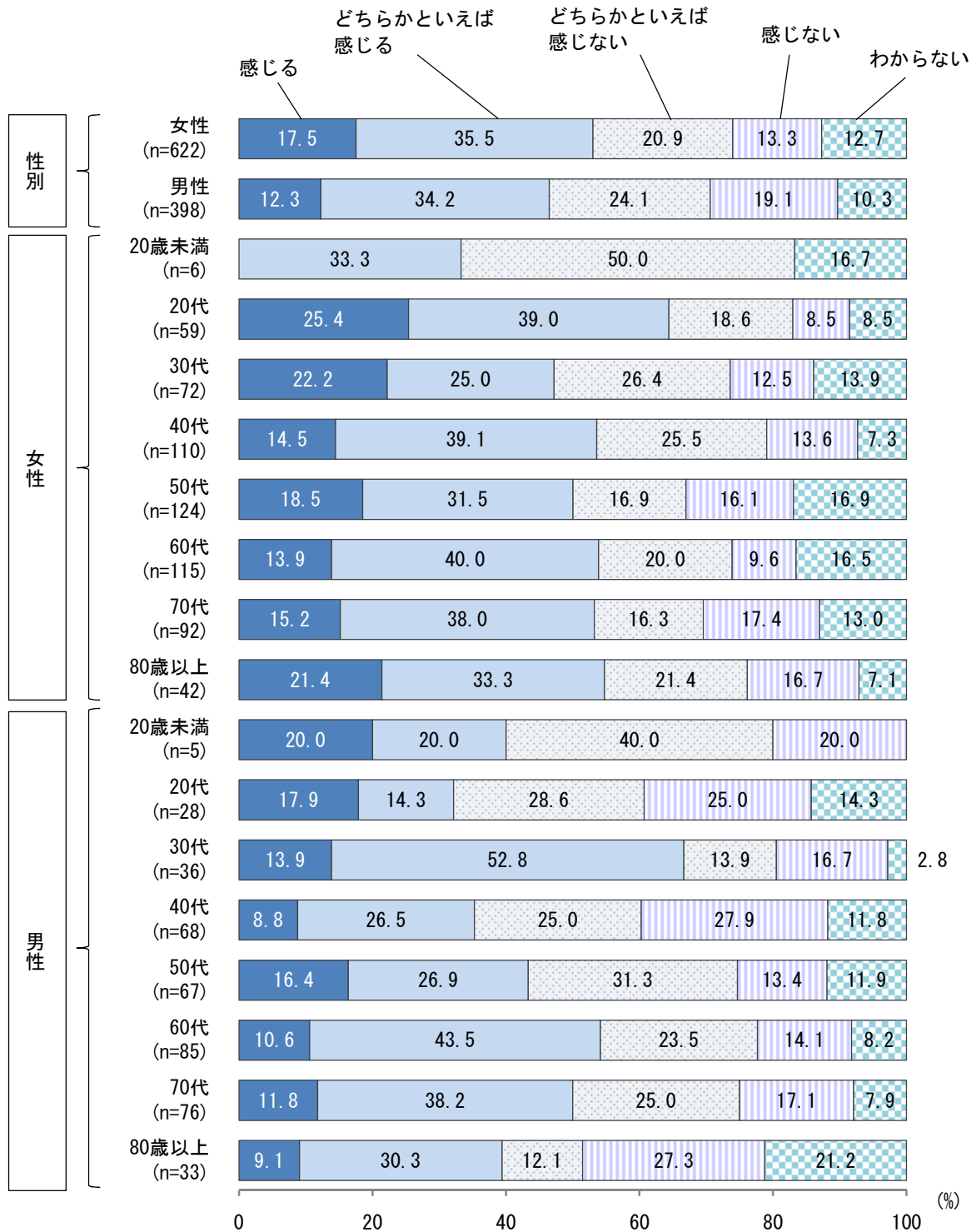


メディアにおいて男女の役割の固定化を感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（60.5%）が男性（51.5%）を9.0ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『感じる』との回答は女性20代、80歳以上で7割台、男性30代、60代で6割台となっている。

(b) 男女の扱いが不平等

【図 男女の扱いが不平等（性別、性・年代別）】

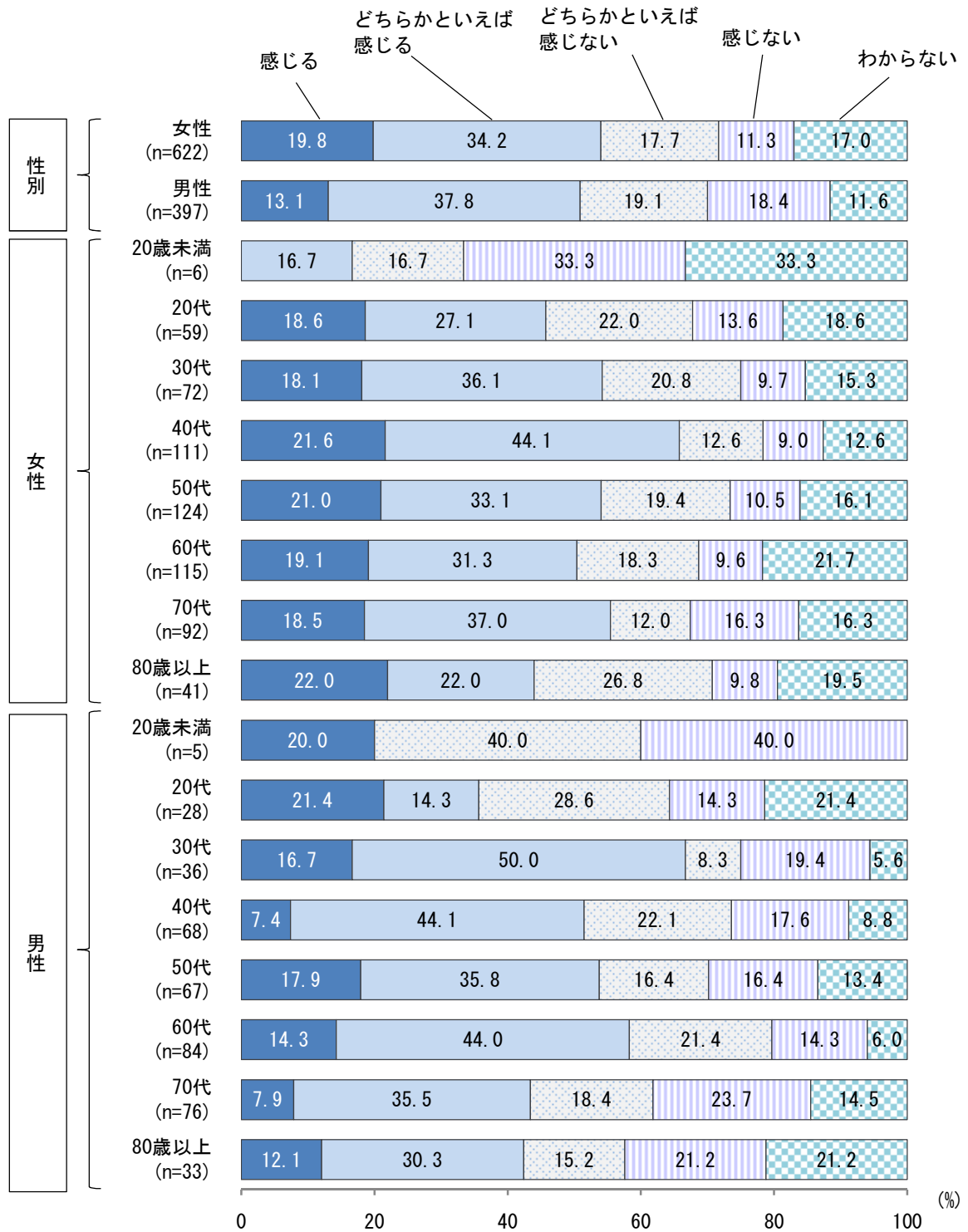


メディアにおいて男女の扱いが不平等であると感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（53.0%）が男性（46.5%）を6.5ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『感じる』との回答は女性20代、男性30代で6割台半ばとなっている。

(c) 女性の性的側面を強調

【図 女性の性的側面を強調（性別、性・年代別）】

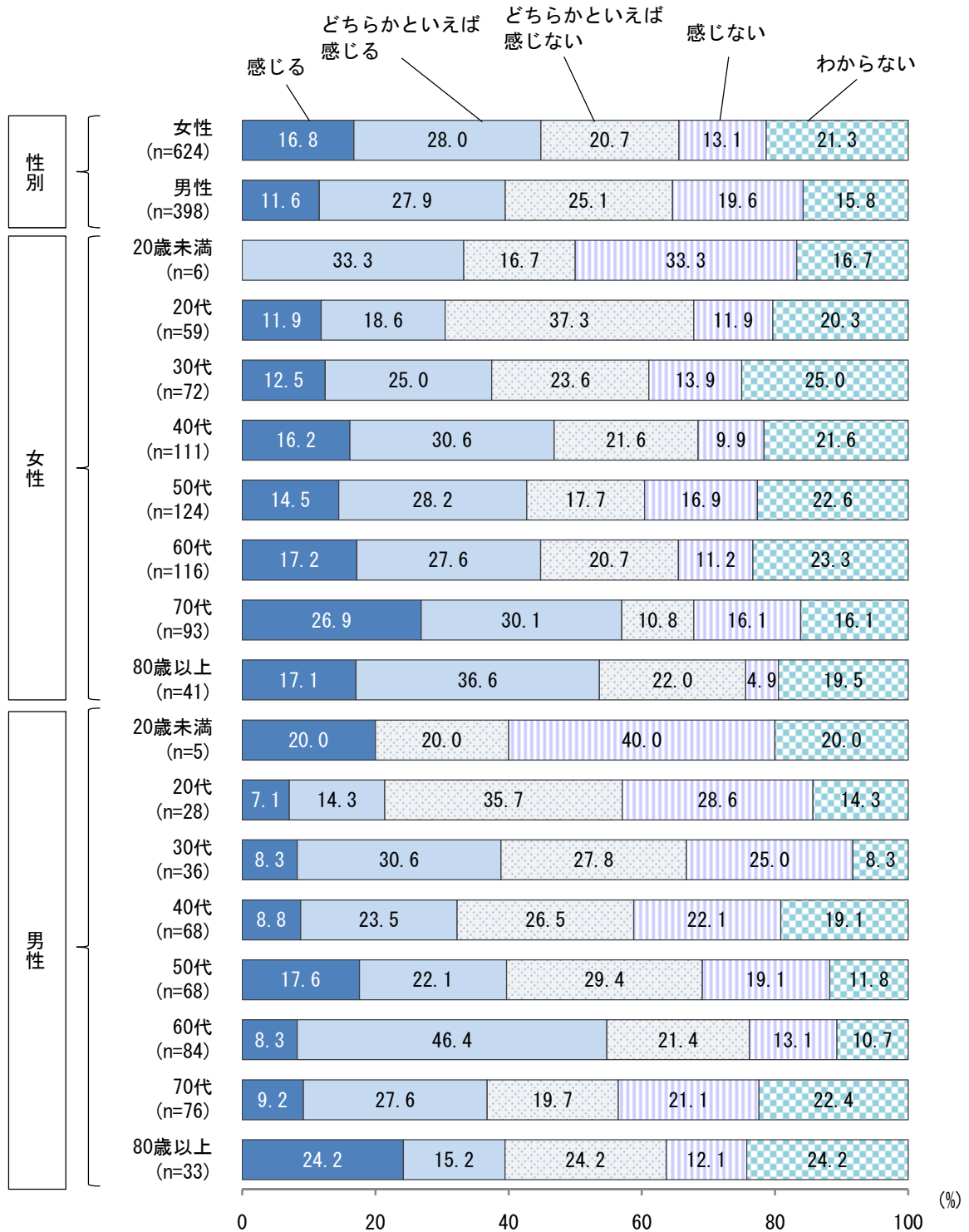


メディアにおいて女性の性的側面を強調していると感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は男女ともに5割台と大きな差は見られない。

性・年代別にみると、『感じる』との回答は女性40代、男性30代で6割台半ばとなっている。

(d) 女性に対する性犯罪助長のおそれ

【図 女性に対する性犯罪助長のおそれ（性別、性・年代別）】

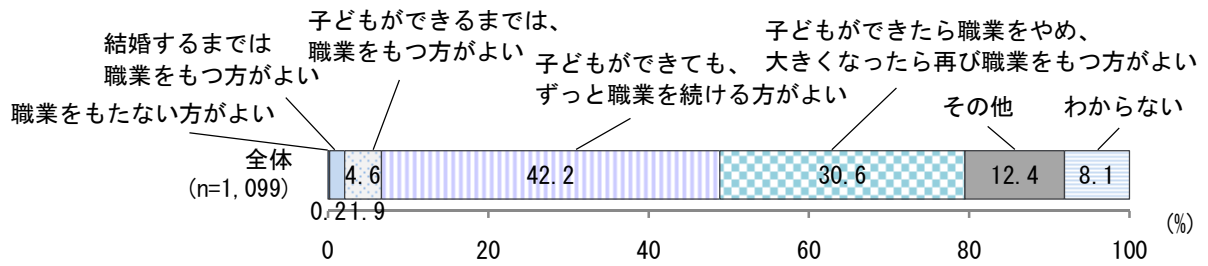


メディアにおいて女性に対する性犯罪助長のおそれを感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（44.8%）が男性（39.5%）を5.3ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『感じる』との回答は女性70代～80歳以上、男性60代で5割台となっている。

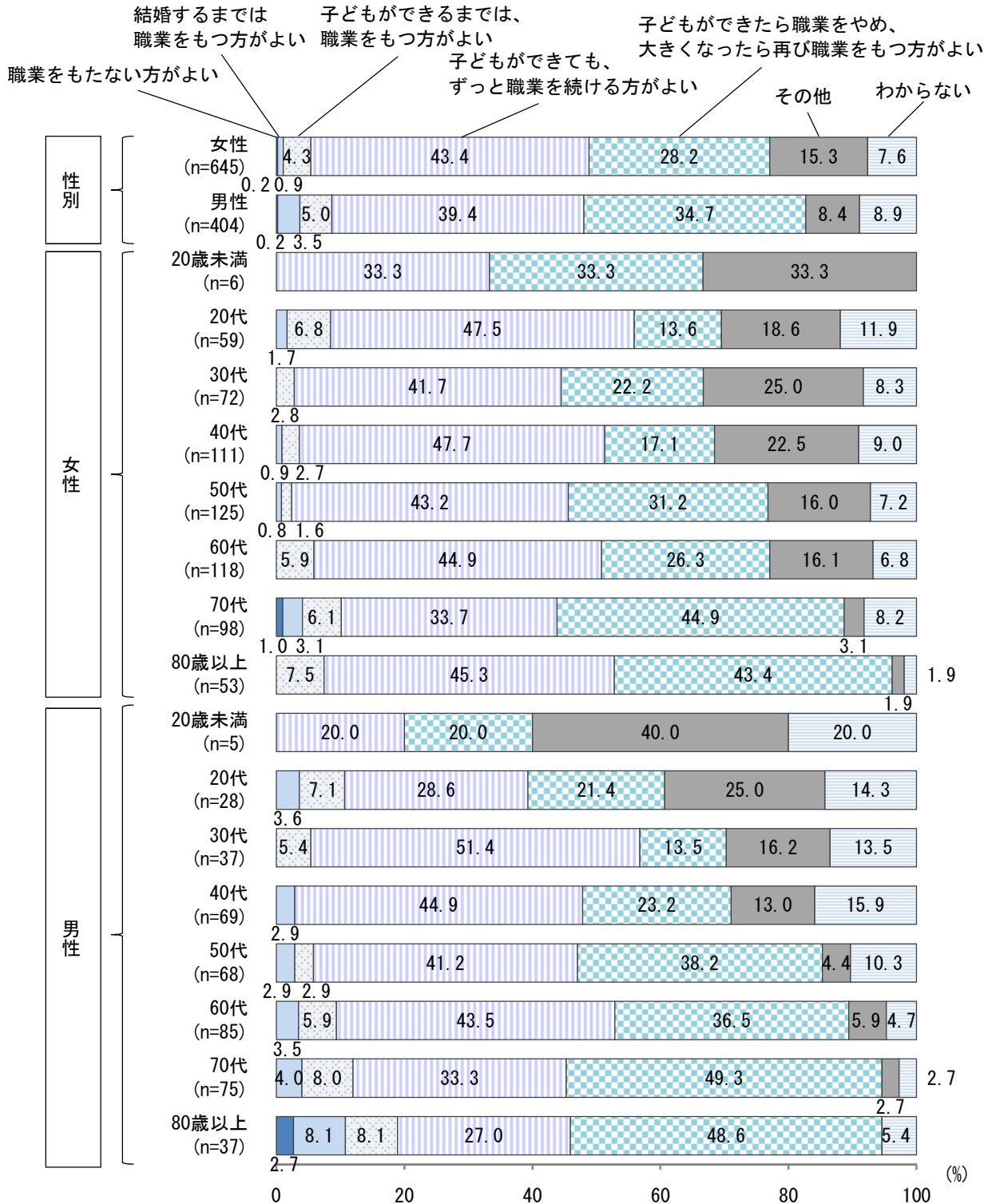
X 女性が職業をもつことについて

問 25 一般的に女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)



一般的に女性が職業をもつことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」との回答が42.2%と最も高く、次いで「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(30.6%)、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」(4.6%)などの順となっている。

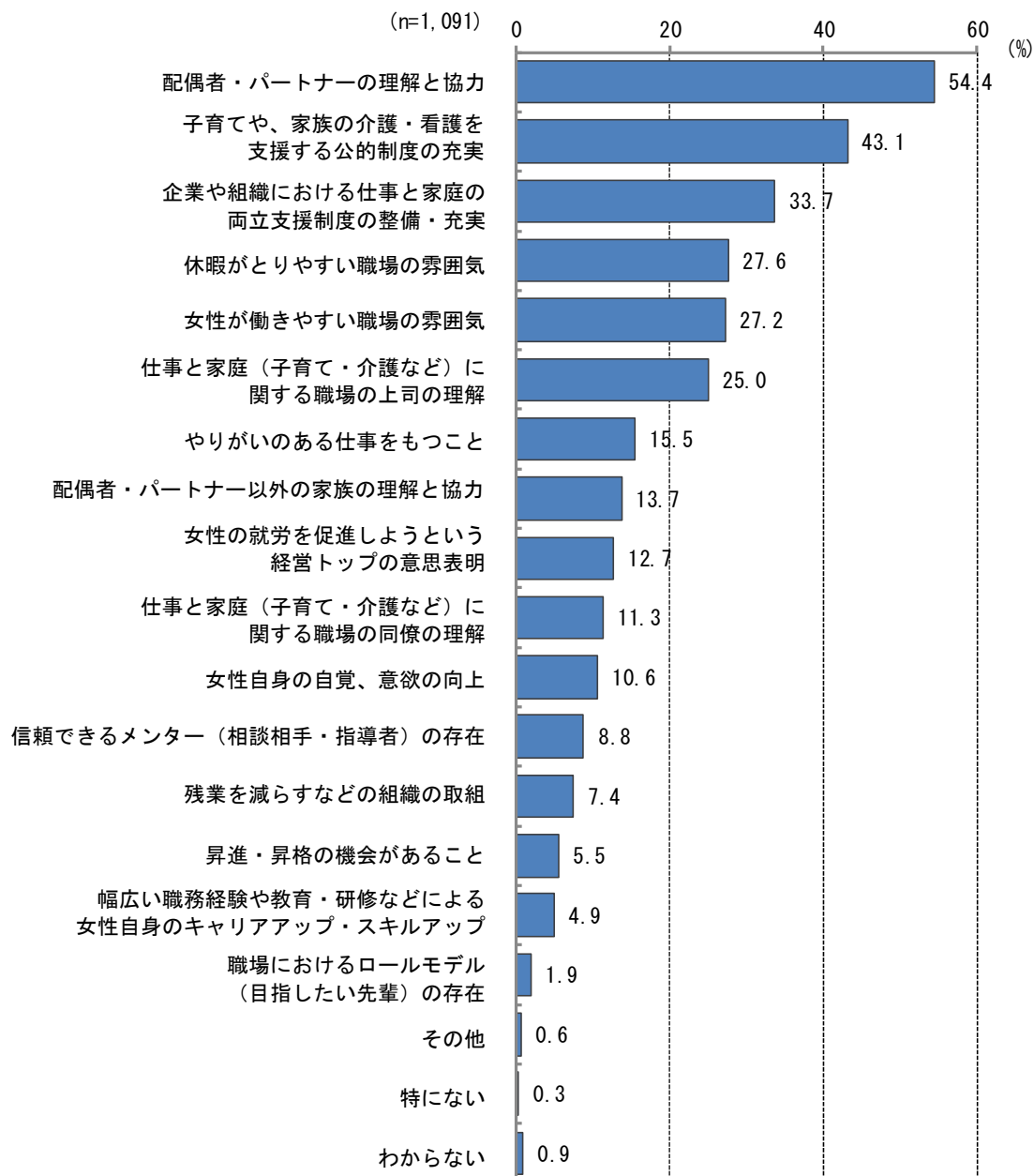
【図 一般的に女性が職業をもつことについての考え（性別、性・年代別）】



一般的に女性が職業をもつことについて、性別にみると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」との回答は男性（34.7%）が女性（28.2%）を6.5ポイント上回っている。

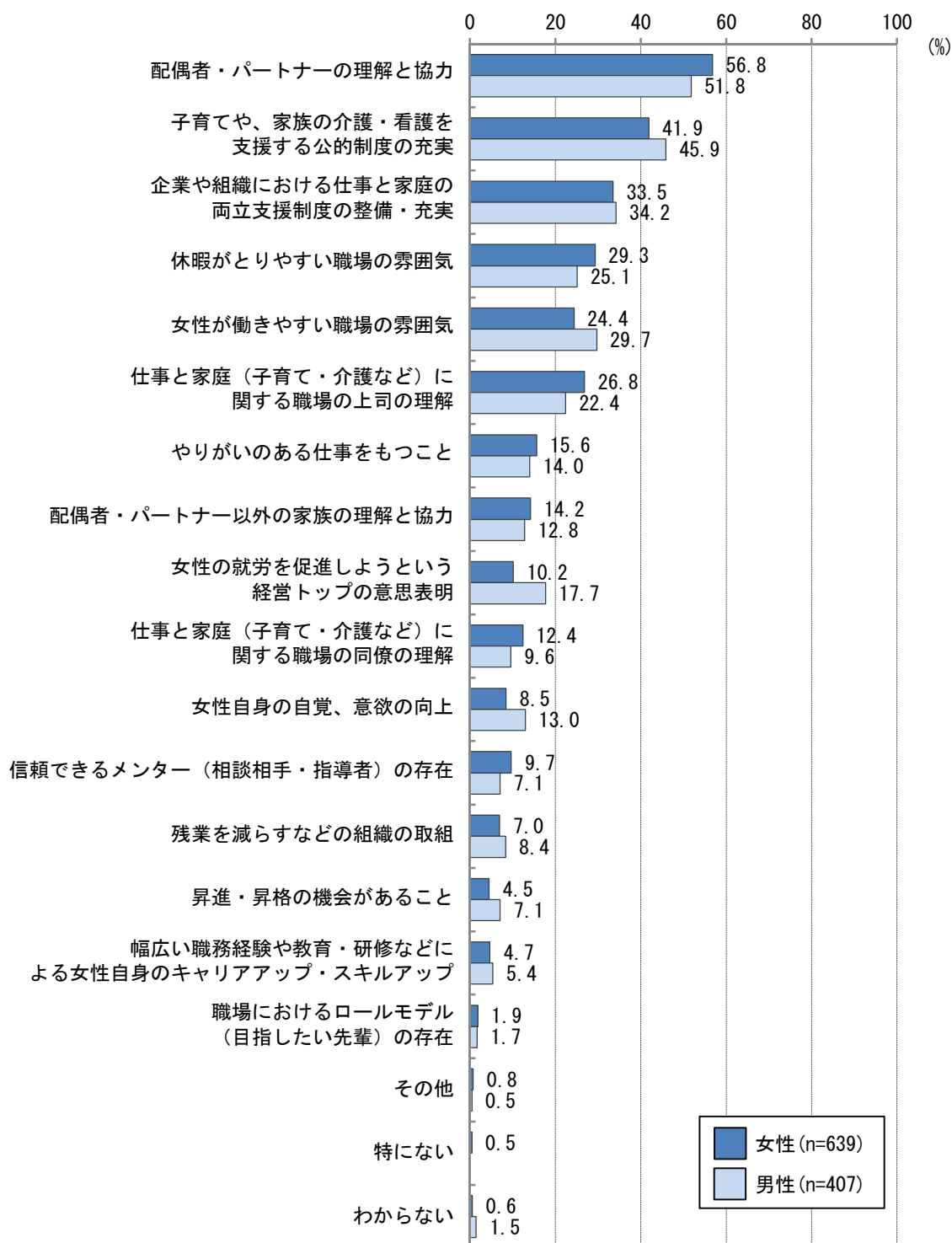
性・年代別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」との回答は男性30代で5割超、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」との回答は女性70代～80歳以上で4割台半ば、男性70代～80歳以上で約5割となっている。

問 26 女性が企業や組織で働き続けるために、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



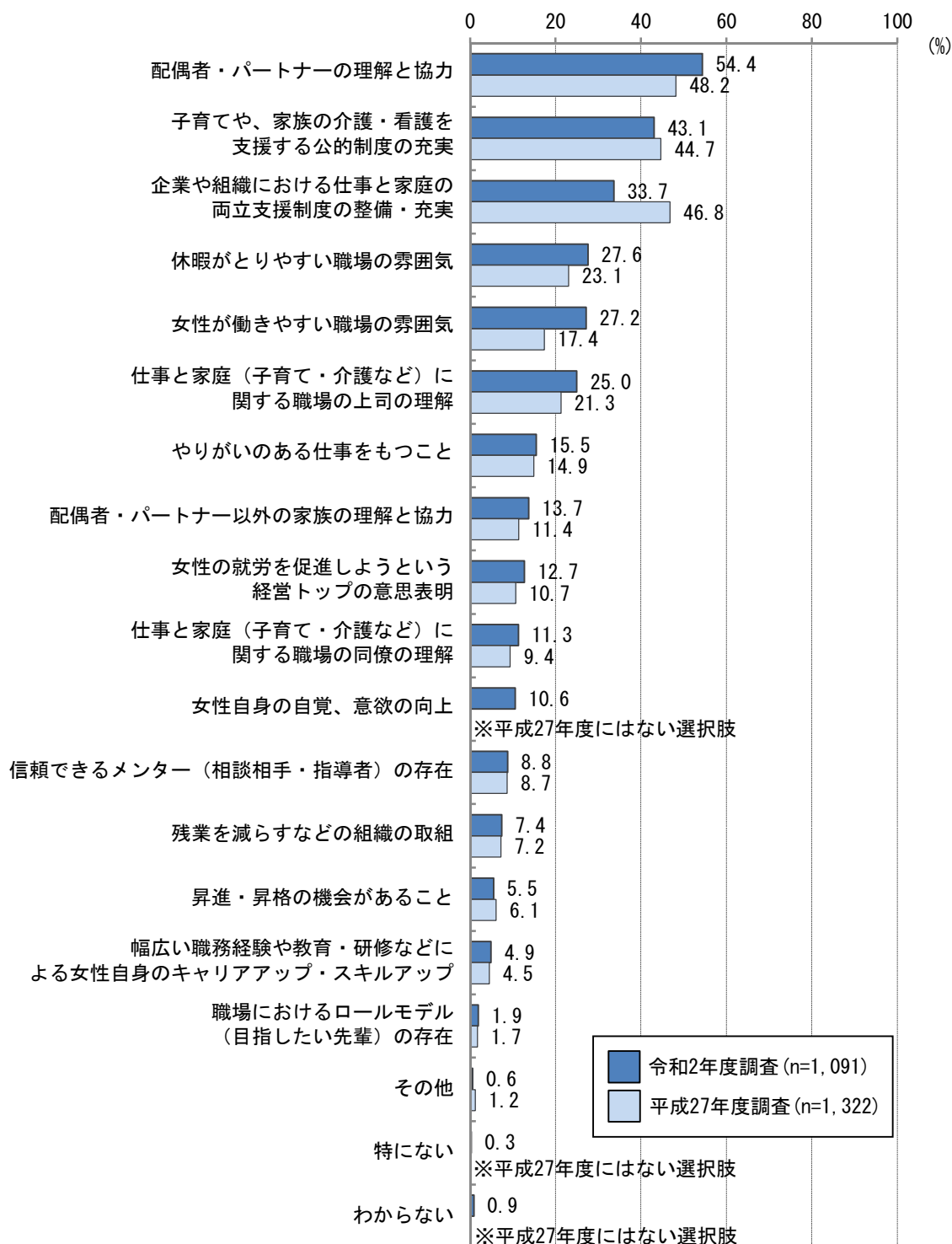
女性が働き続けるために必要なことについて、「配偶者・パートナーの理解と協力」との回答が54.4%と最も高く、次いで「子育てや、家族の介護・看護を支援する公的制度の充実」(43.1%)、「企業や組織における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実」(33.7%)などの順となっている。

【図 女性が働き続けるために必要なこと（性別）】



女性が働き続けるために必要なことについて、性別にみると、「配偶者・パートナーの理解と協力」との回答は女性（56.8%）が男性（51.8%）を 5.0 ポイント上回っている。一方、「女性が働きやすい職場の雰囲気」との回答は男性（29.7%）が女性（24.4%）を 5.3 ポイント、「女性の就労を促進しようという経営トップの意思表示」との回答は男性（17.7%）が女性（10.2%）を 7.5 ポイント上回っている。

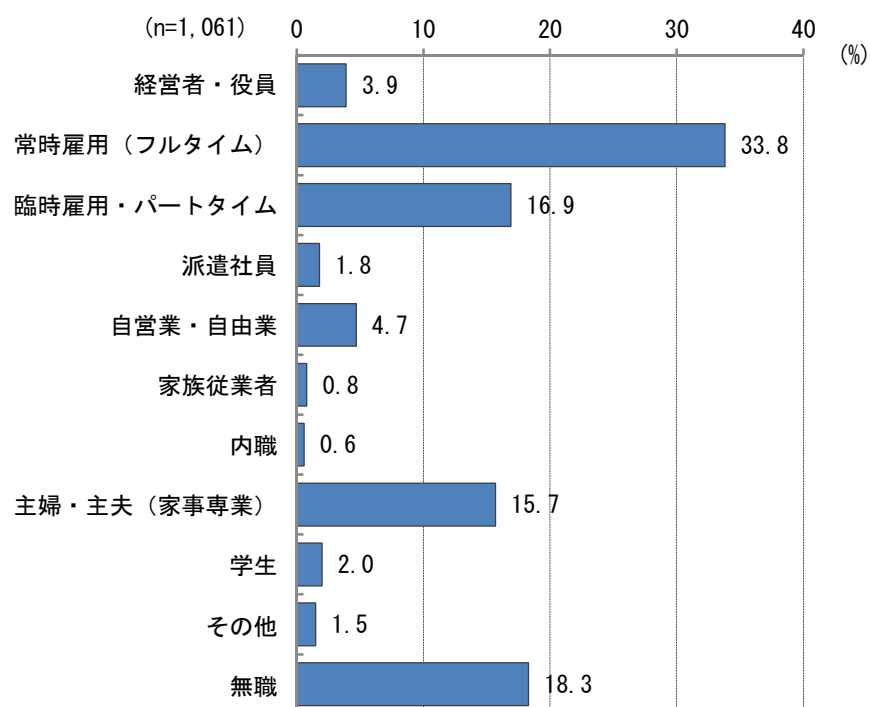
【図 女性が働き続けるために必要なこと（過去調査結果との比較）】



女性が働き続けるために必要なことについて、経年比較すると、「女性が働きやすい職場の雰囲気」との回答は令和2年度調査（27.2%）が平成27年度調査（17.4%）を9.8ポイント、「配偶者・パートナーの理解と協力」との回答は令和2年度調査（54.4%）が平成27年度調査（48.2%）を6.2ポイント上回っている。また、「企業や組織における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実」との回答は令和2年度調査（33.7%）が平成27年度調査（46.8%）を13.1ポイント下回っている。

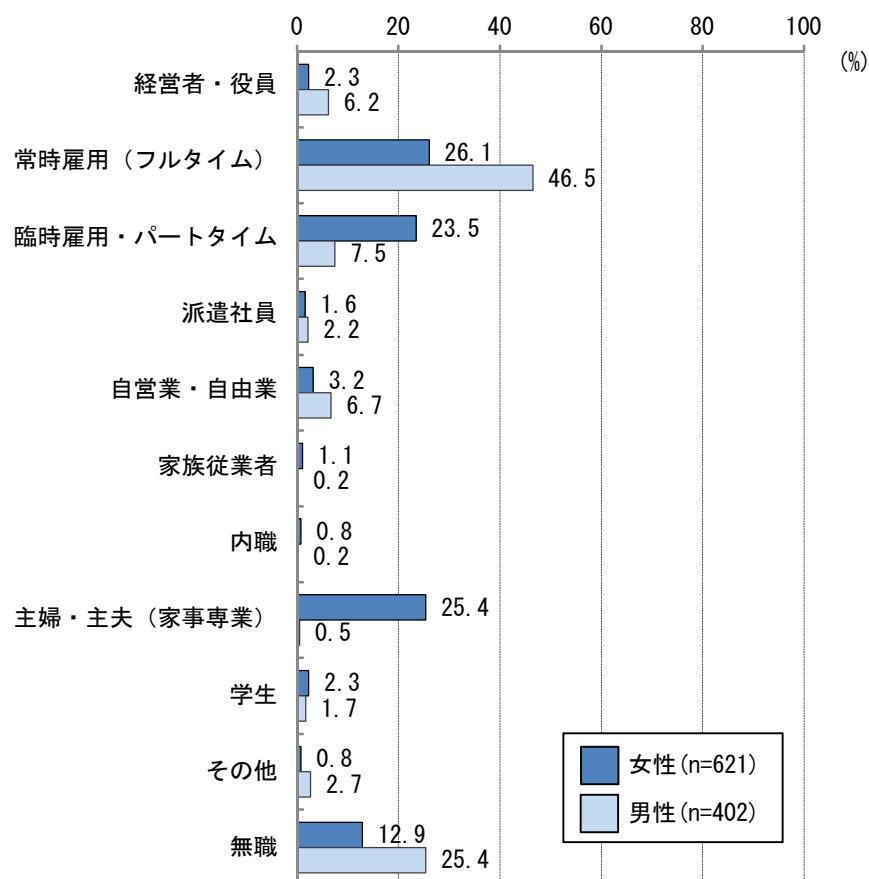
XI 職業・職場について

問 27 あなたの今の勤務形態についておたずねします。(○は1つ)



勤務形態について、「常時雇用 (フルタイム)」との回答が 33.8%と最も高く、次いで「無職」(18.3%)、「臨時雇用・パートタイム」(16.9%)などの順となっている。

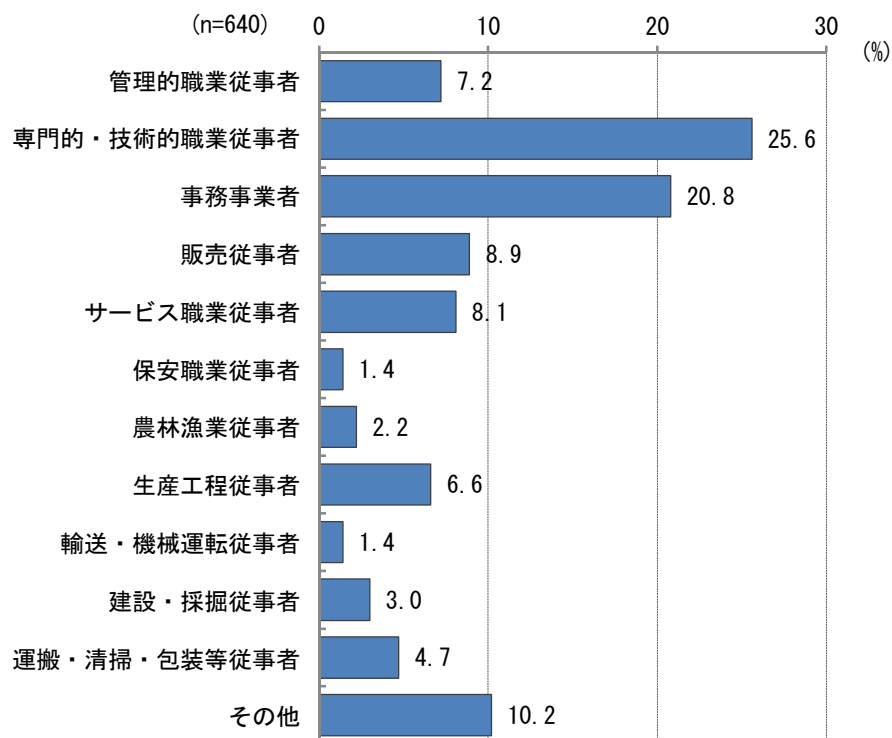
【図 勤務形態（性別）】



勤務形態について、性別にみると、「主婦・主夫（家事専業）」との回答は女性（25.4%）が男性（0.5%）を24.9ポイント、「臨時雇用・パートタイム」との回答は女性（23.5%）が男性（7.5%）を16.0ポイント上回っている。一方、「常時雇用（フルタイム）」との回答は男性（46.5%）が女性（26.1%）を20.4ポイント、「無職」との回答は男性（25.4%）が女性（12.9%）を12.5ポイント上回っている。

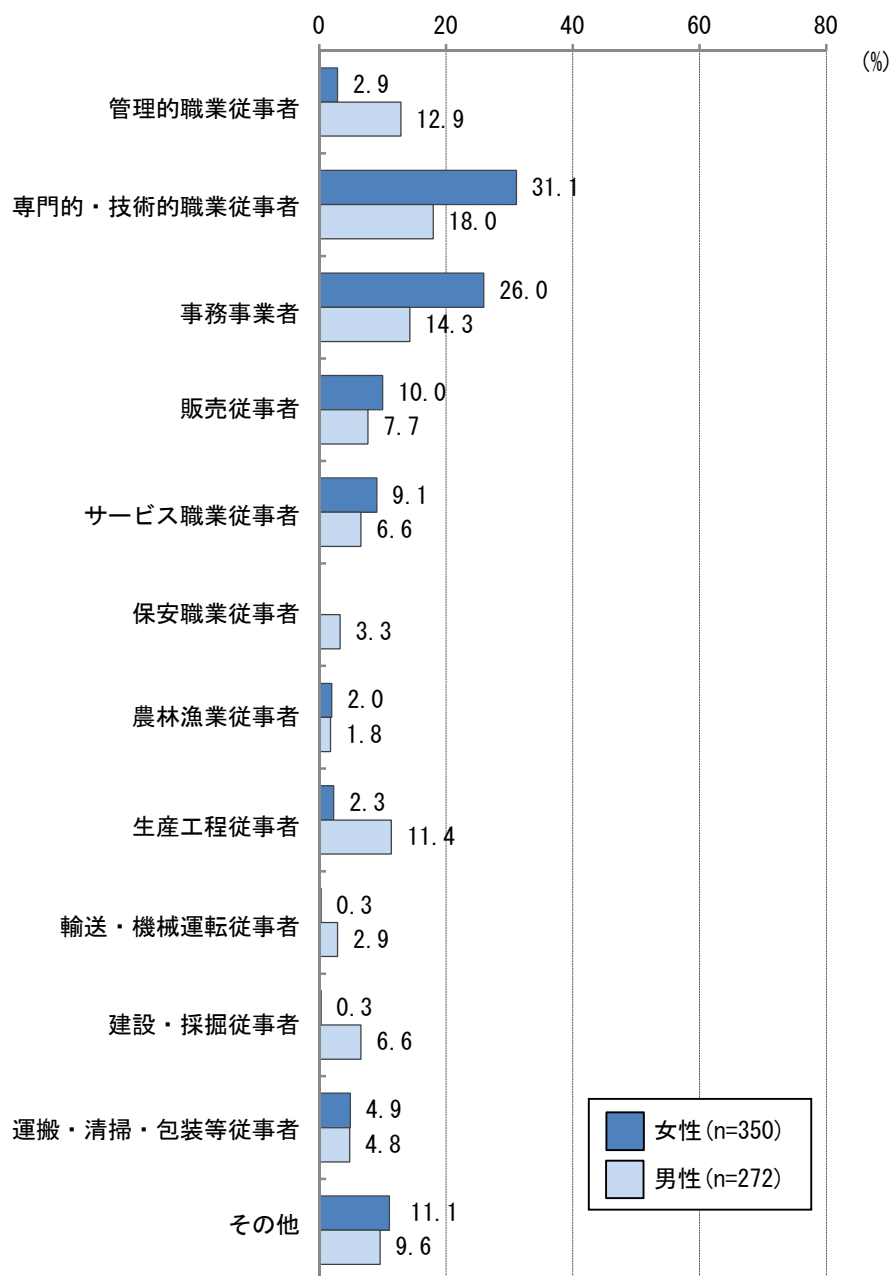
問 28 は問 27 で「1」～「7」を回答した方が対象

問 28 あなたの今の職業についておたずねします。(〇は1つ)



現在の職業について、「専門的・技術的職業従事者」との回答が 25.6%と最も高く、次いで「事務事業者」(20.8%)、「販売従事者」(8.9%)などの順となっている。

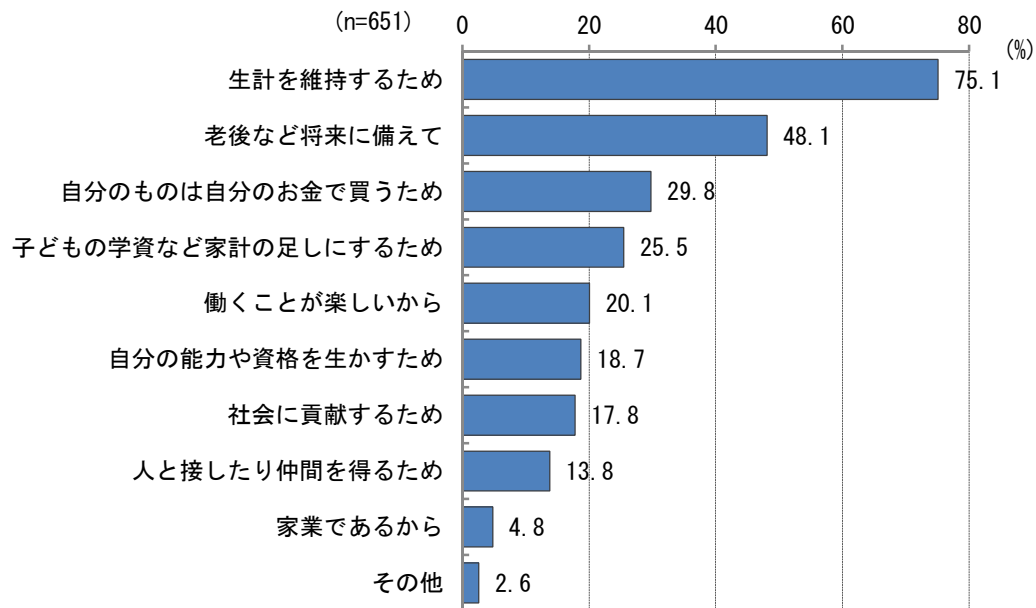
【図 現在の職業（性別）】



現在の職業について、性別にみると、「専門的・技術的職業従事者」との回答は女性（31.1%）が男性（18.0%）を13.1ポイント、「事務事業者」との回答は女性（26.0%）が男性（14.3%）を11.7ポイント上回っている。一方、「管理的職業従事者」との回答は男性（12.9%）が女性（2.9%）を10.0ポイント上回っている。

問 29 は問 27 で「1」～「7」を回答した方が対象

問 29 あなたが働いている主な理由は何ですか。(〇は3つまで)



働いている主な理由について、「生計を維持するため」との回答が 75.1%と最も高く、次いで「老後など将来に備えて」(48.1%)、「自分のものは自分のお金で買うため」(29.8%)などの順となっている。

【図 働いている主な理由（性別、性・年代別）】

		(%)									
		生計を維持するため	子どもの学資など家計の足しにするため	金で買うものは自分のお金	老後など将来に備えて	自分の能力や資格を生かすため	社会に貢献するため	家業であるから	働くことが楽しいから	人と接したり仲間を得るため	その他
全体 (n=651)		75.1	25.5	29.8	48.1	18.7	17.8	4.8	20.1	13.8	2.6
性別	女性 (n=358)	66.8	28.5	34.1	45.5	22.3	13.1	4.7	23.7	17.3	3.4
	男性 (n=275)	86.2	21.8	24.4	50.5	14.5	23.3	4.0	14.9	8.7	1.8
性・年代別	女性20歳未満 (n=1)	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	女性20代 (n=42)	71.4	14.3	59.5	59.5	38.1	9.5	-	14.3	14.3	2.4
	女性30代 (n=54)	77.8	35.2	48.1	37.0	22.2	11.1	3.7	18.5	11.1	1.9
	女性40代 (n=81)	70.4	50.6	25.9	35.8	19.8	8.6	4.9	22.2	12.3	2.5
	女性50代 (n=96)	61.5	33.3	27.1	51.0	16.7	19.8	2.1	24.0	20.8	4.2
	女性60代 (n=58)	60.3	5.2	29.3	50.0	29.3	15.5	5.2	41.4	25.9	5.2
	女性70代 (n=17)	58.8	-	17.6	23.5	11.8	11.8	17.6	23.5	17.6	5.9
	女性80歳以上 (n=7)	57.1	14.3	28.6	71.4	14.3	-	42.9	-	28.6	-
	男性20歳未満 (n=3)	66.7	-	100.0	66.7	-	-	33.3	-	-	-
	男性20代 (n=21)	81.0	14.3	42.9	42.9	9.5	23.8	4.8	19.0	4.8	-
	男性30代 (n=37)	97.3	45.9	29.7	43.2	5.4	16.2	-	8.1	-	-
	男性40代 (n=62)	95.2	35.5	27.4	66.1	16.1	19.4	1.6	4.8	3.2	1.6
	男性50代 (n=60)	95.0	21.7	16.7	48.3	15.0	26.7	1.7	15.0	6.7	1.7
	男性60代 (n=57)	78.9	7.0	17.5	49.1	24.6	21.1	1.8	22.8	10.5	3.5
	男性70代 (n=30)	56.7	3.3	23.3	43.3	10.0	30.0	20.0	23.3	30.0	3.3
	男性80歳以上 (n=5)	80.0	-	-	20.0	-	60.0	20.0	40.0	40.0	-

上位1位～3位 うち1位は太枠

働いている主な理由について、性別にみると、「生計を維持するため」との回答は男性（86.2%）が女性（66.8%）を 19.4 ポイント、「社会に貢献するため」との回答は男性（23.3%）が女性（13.1%）を 10.2 ポイント上回っている。一方、「自分のものは自分のお金で買うため」との回答は女性（34.1%）が男性（24.4%）を 9.7 ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「老後など将来に備えて」との回答は男性 40 代で6割台半ば、「働くことが楽しいから」との回答は女性 60 代で4割超、「人と接したり仲間を得るため」との回答は男性 70 代で3割となっている。

【図 働いている主な理由（勤務形態別）】

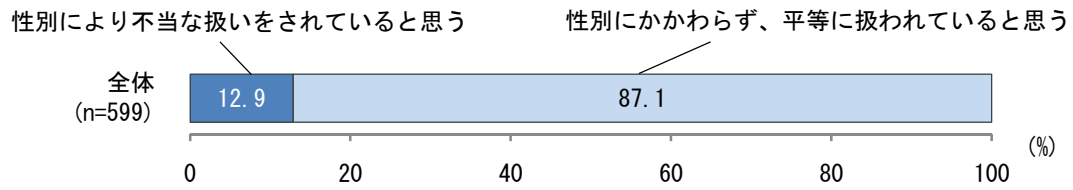
		(%)									
		生計を維持するため	子どもの学資など家計の足しにするため	自分で買うものは自分のお金で買うため	老後など将来に備えて	自分の能力や資格を生かすため	社会に貢献するため	家業であるから	働くことが楽しいから	人と接したり仲間を得るため	その他
全体 (n=651)		75.1	25.5	29.8	48.1	18.7	17.8	4.8	20.1	13.8	2.6
勤務形態別	経営者・役員 (n=40)	62.5	17.5	15.0	30.0	25.0	30.0	27.5	20.0	12.5	-
	常時雇用（フルタイム） (n=352)	87.5	26.4	30.1	54.5	20.5	18.2	0.3	16.5	9.1	1.7
	臨時雇用・パートタイム (n=177)	59.3	29.9	33.9	41.8	13.0	13.6	2.3	27.7	23.7	5.1
	派遣社員 (n=18)	77.8	27.8	27.8	50.0	22.2	11.1	-	11.1	16.7	5.6
	自営業・自由業 (n=49)	65.3	10.2	22.4	44.9	24.5	24.5	20.4	20.4	12.2	-
	家族従業者 (n=9)	33.3	-	22.2	22.2	-	22.2	55.6	22.2	22.2	11.1
内職 (n=6)	33.3	50.0	66.7	33.3	16.7	-	-	33.3	-	-	

上位1位～3位 うち1位は太枠

働いている主な理由について、勤務形態別にみると、「生計を維持するため」との回答は常時雇用（フルタイム）で約9割、「老後など将来に備えて」との回答は常時雇用（フルタイム）、派遣社員で5割台、「社会に貢献するため」との回答は経営者・役員で3割となっている。

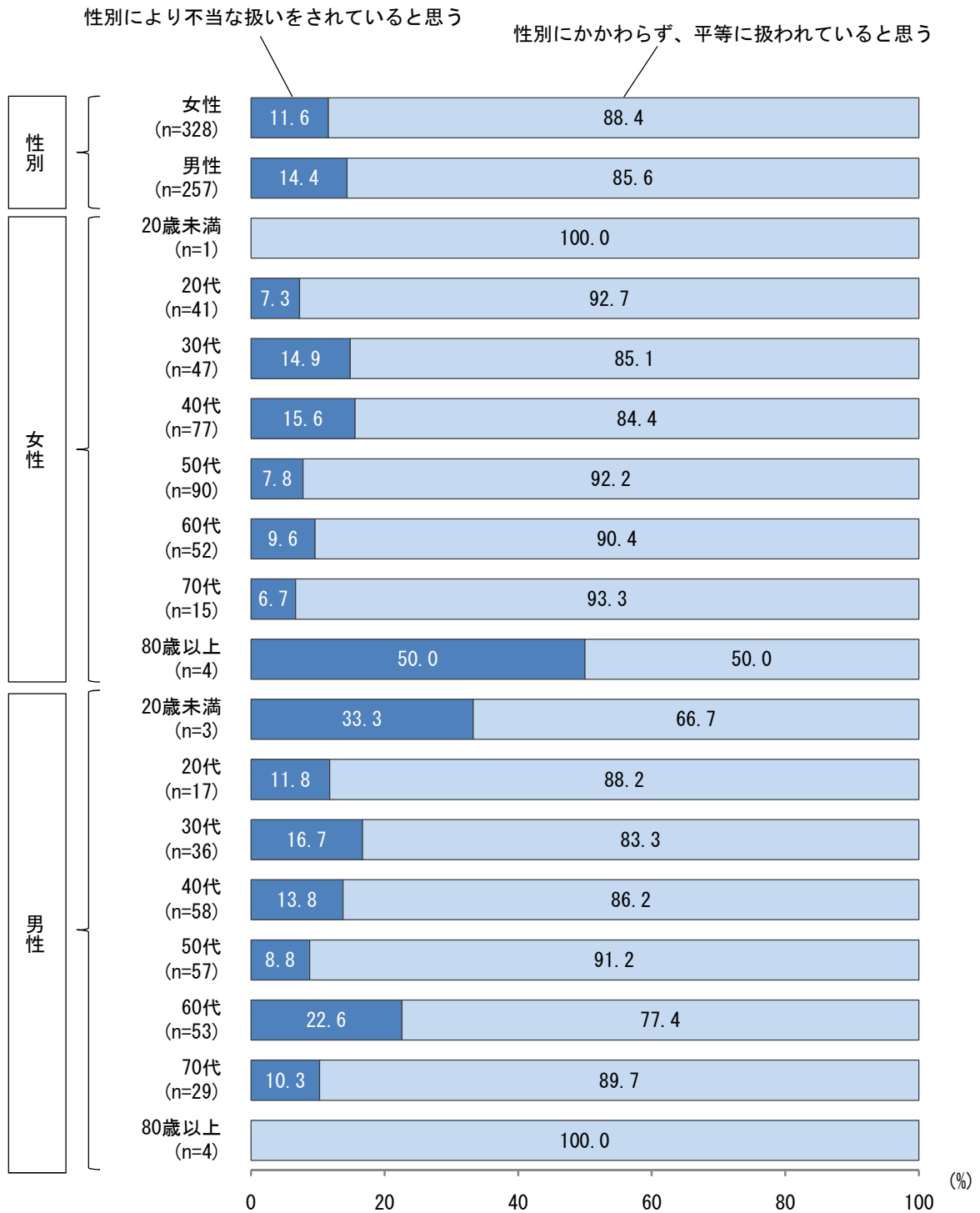
問 30 は問 27 で「1」～「7」を回答した方のみが対象

問 30 あなたの今の職場では、性別により、どのような扱いをされていると思いますか。(○は1つ)



性別による職場での扱いについて、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答が 12.9%、「性別にかかわらず、平等に扱われていると思う」との回答が 87.1%となっている。

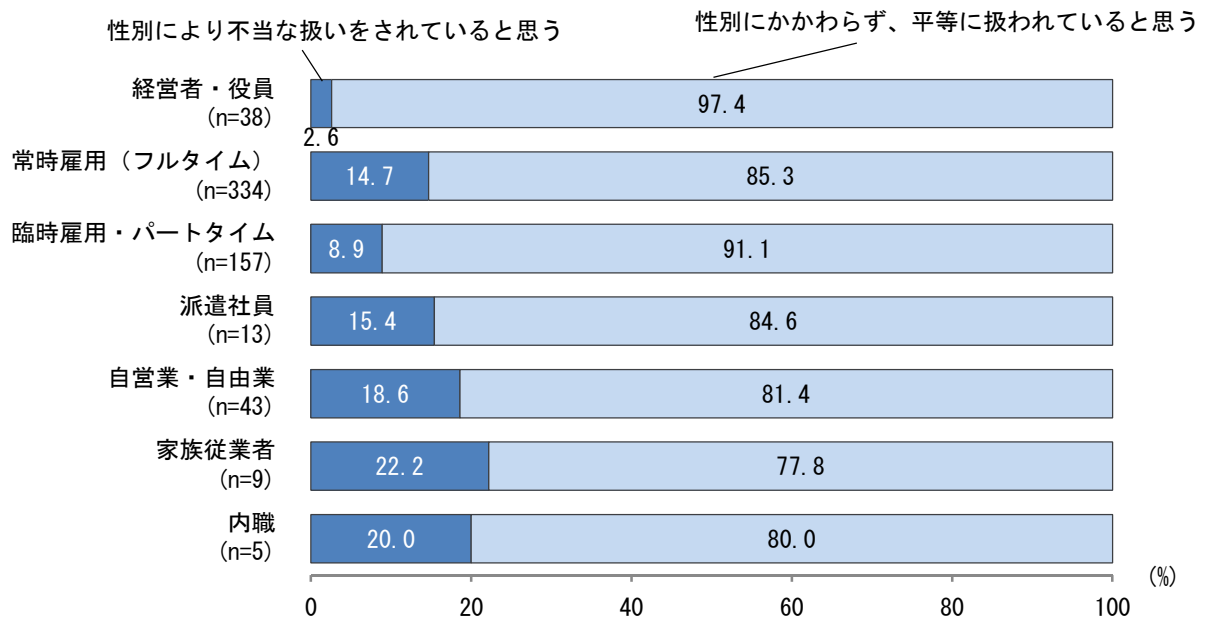
【図 性別による職場での扱い（性別、性・年代別）】



性別による職場での扱いについて、性別にみると、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答は男女ともに1割台と大きな差は見られない。

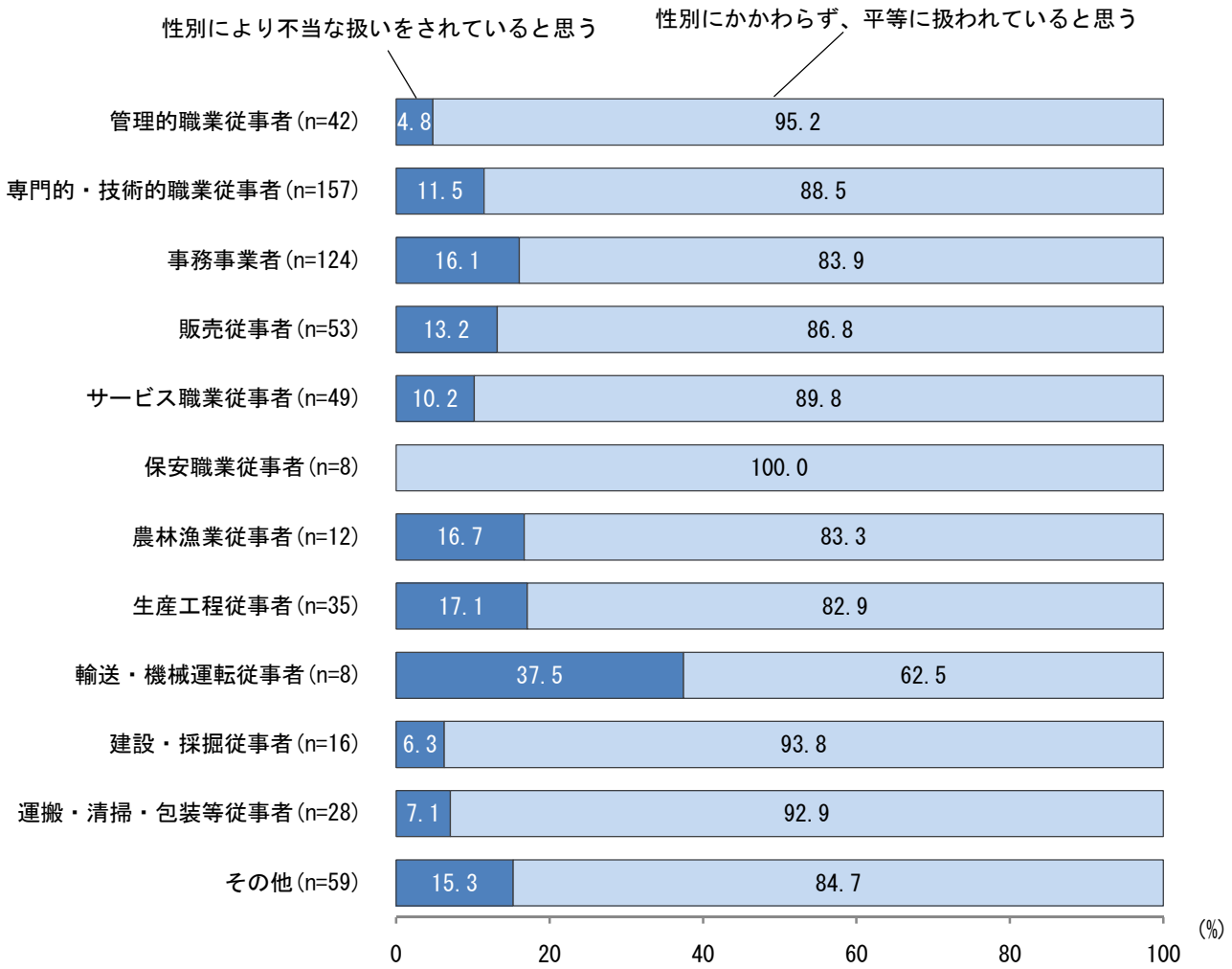
性・年代別にみると、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答は男性60代で2割超となっている。

【図 性別による職場での扱い（勤務形態別）】



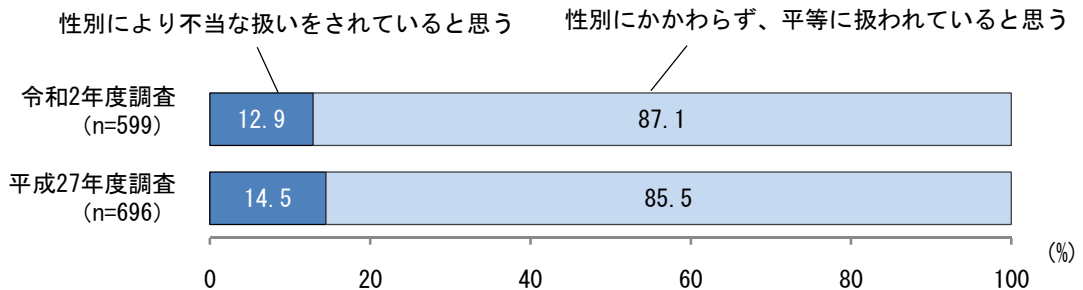
性別による職場での扱いについて、勤務形態別にみると、「性別にかかわらず、平等に扱われていると思う」との回答は経営者・役員、臨時雇用・パートタイムで9割台となっている。

【図 性別による職場での扱い（職業別）】



性別による職場での扱いについて、勤務形態別にみると、「性別にかかわらず、平等に扱われていると思う」との回答は管理的職業従事者で9割台半ばとなっている。

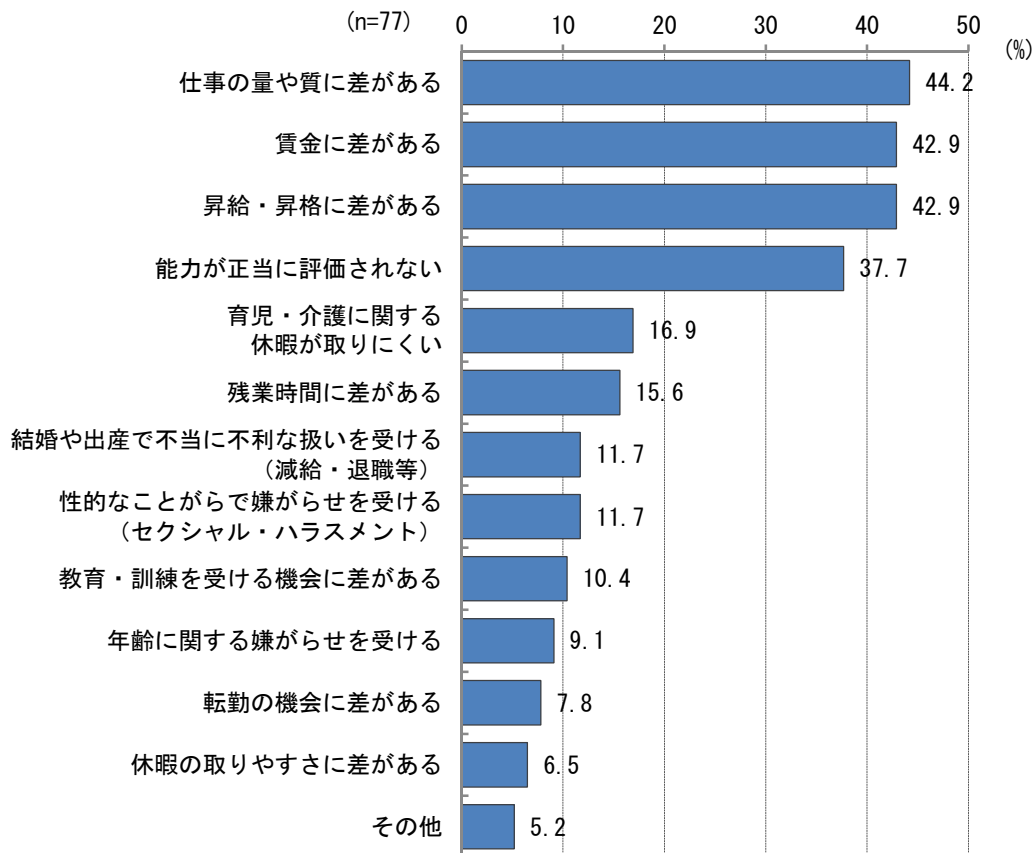
【図 性別による職場での扱い（過去調査結果との比較）】



性別による職場での扱いについて、経年比較すると、大きな差は見られない。

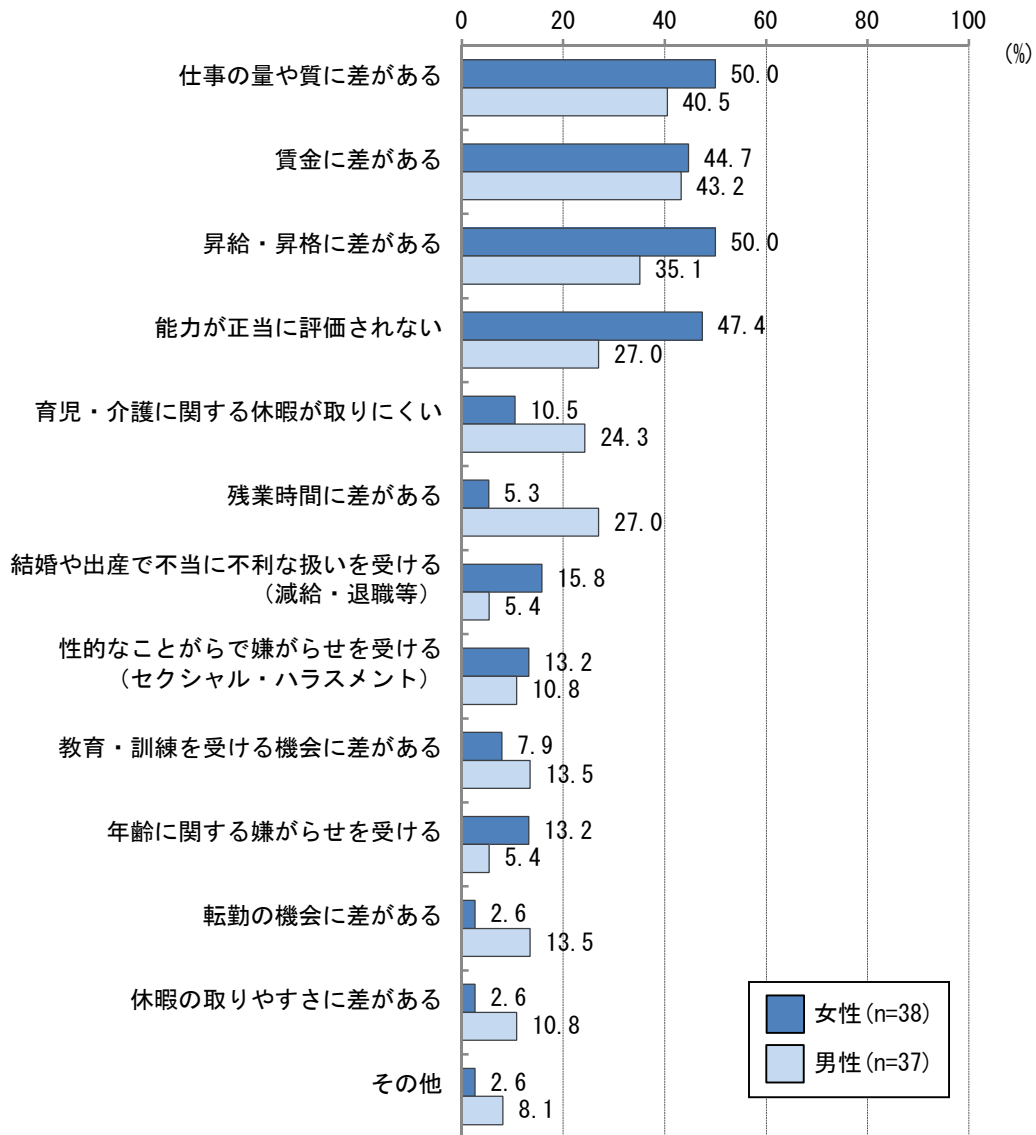
問 31 は問 27 で「1」～「7」を回答し、問 30 で「性別により不当な扱いをされていると思う」を回答した方が対象

問 31 性別による不平等な扱いの具体的な内容はどのようなことですか。(〇はいくつでも)



性別による不平等な扱いの内容について、「仕事の量や質に差がある」との回答が 44.2%と最も高く、次いで「賃金に差がある」、「昇給・昇格に差がある」(ともに 42.9%)などの順となっている。

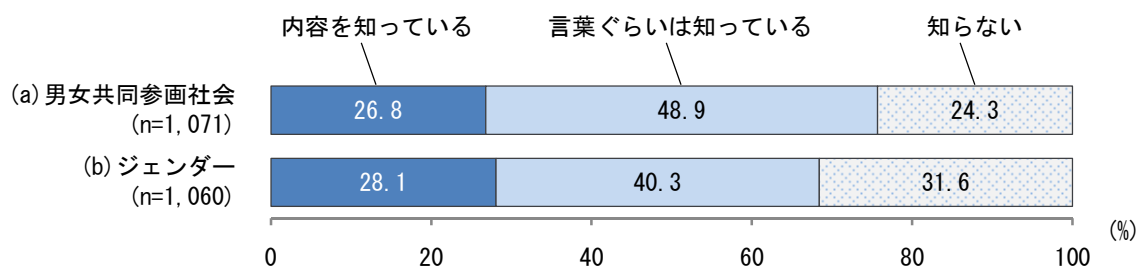
【図 性別による不平等な扱いの内容（性別）】



性別による不平等な扱いの内容について、性別にみると、「昇給・昇格に差がある」との回答は女性（50.0%）が男性（35.1%）を14.9ポイント、「能力が正当に評価されない」との回答は女性（47.4%）が男性（27.0%）を20.4ポイント上回っている。一方、「残業時間に差がある」との回答は男性（27.0%）が女性（5.3%）を21.7ポイント上回っている。

XII 男女共同参画の推進について

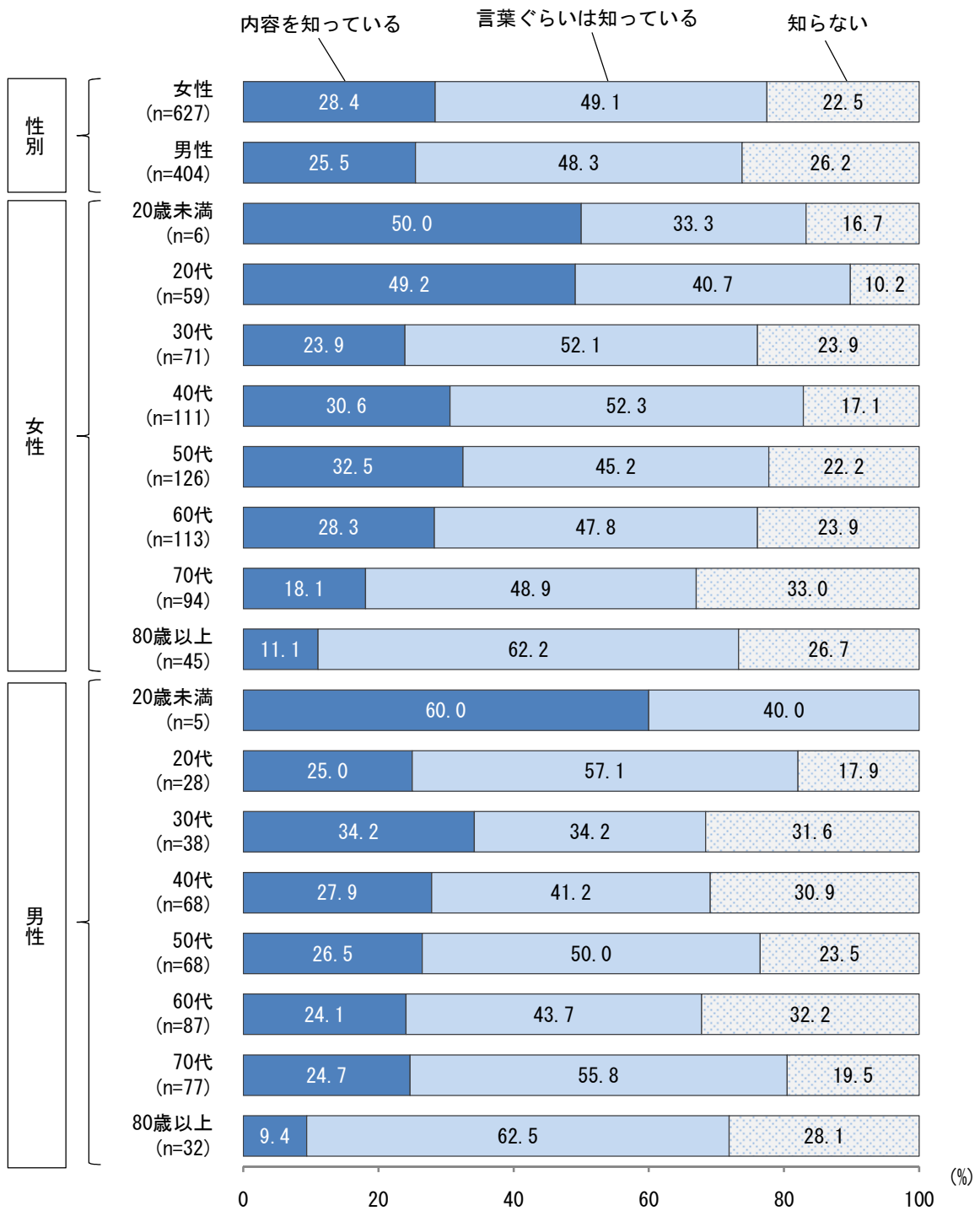
問 32 あなたは「男女共同参画社会」・「ジェンダー」について知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)



男女共同参画関連の言葉の認知について、「言葉ぐらいは知っている」との回答は「男女共同参画社会」で約5割、「ジェンダー」で約4割となっている。

(a) 男女共同参画社会

【図 男女共同参画社会の認知度（性別、性・年代別）】

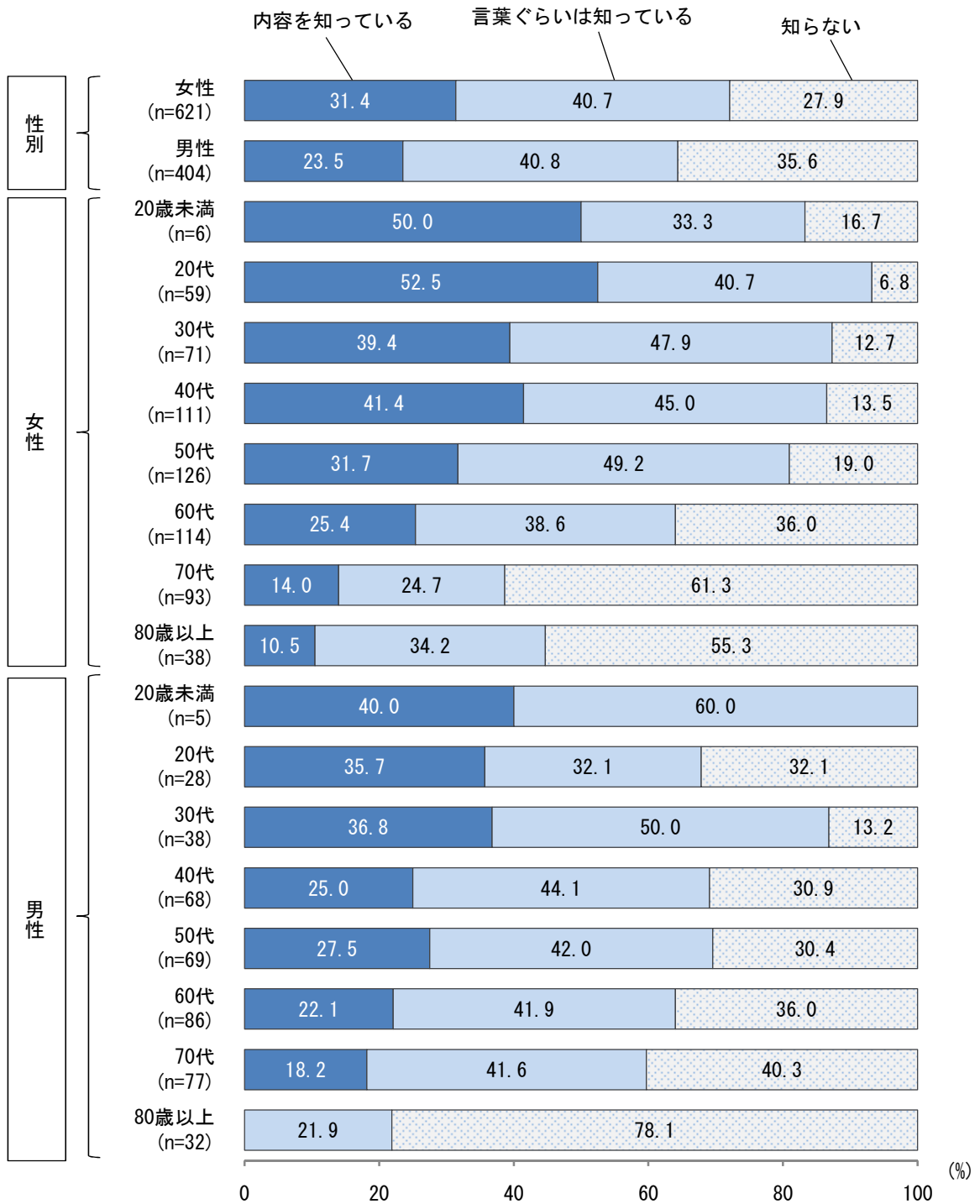


男女共同参画社会の認知度について、性別にみると、男女ともに大きな差は見られない。

性・年代別にみると、「内容を知っている」との回答は女性 20代で約5割、「知らない」との回答は女性 70代、男性 30代～40代、60代で3割超となっている。

(b) ジェンダー

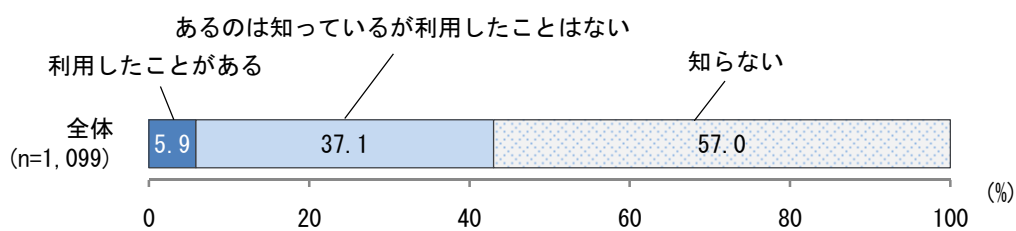
【図 ジェンダーの認知度（性別、性・年代別）】



ジェンダーの認知度について、性別にみると、「内容を知っている」との回答は女性（31.4%）が男性（23.5%）を7.9ポイント上回っている。一方、「知らない」との回答は男性（35.6%）が女性（27.9%）を7.7ポイント上回っている。

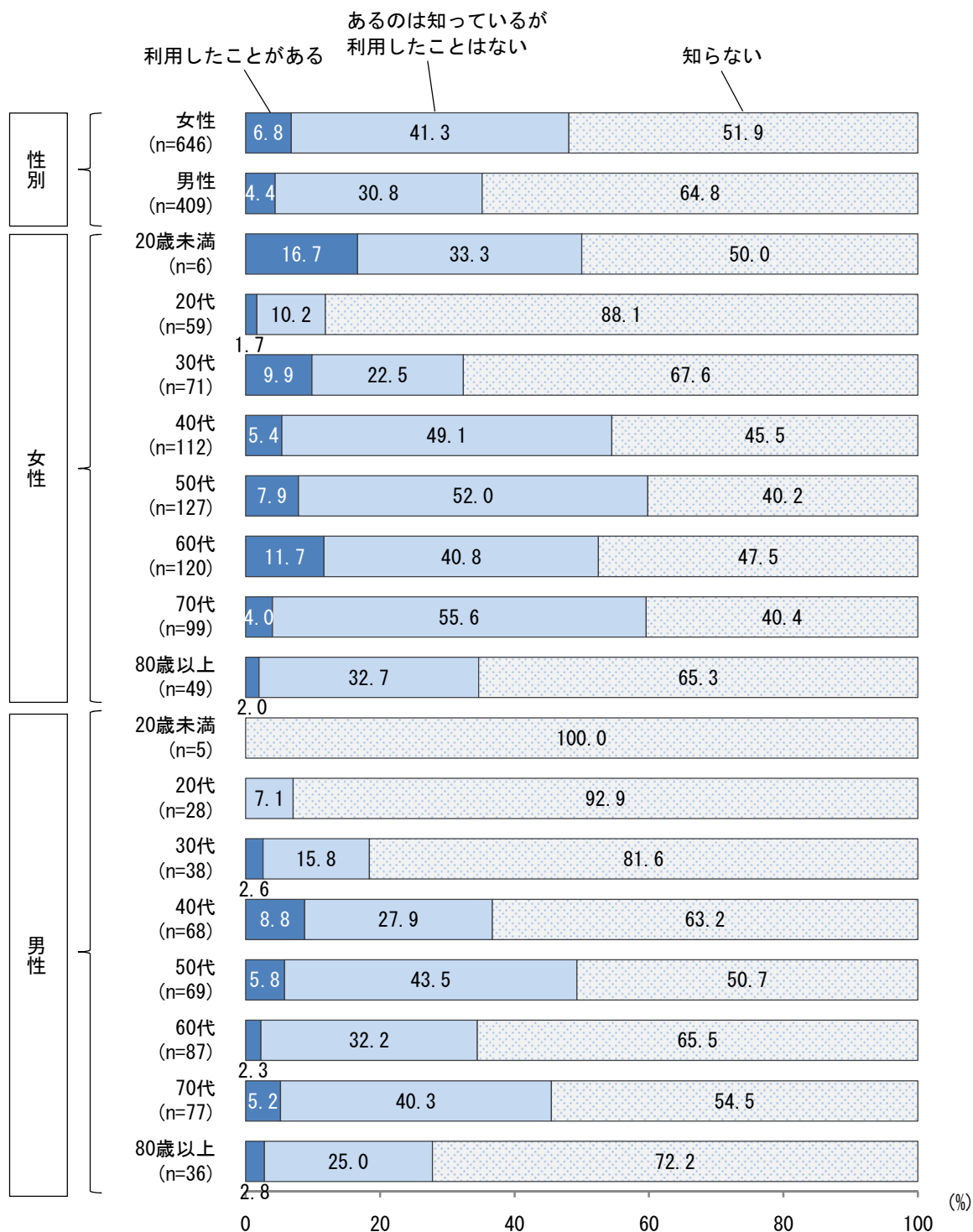
性・年代別にみると、「内容を知っている」との回答は女性20代で5割超、「知らない」との回答は女性70代で6割超、男性80歳以上で約8割となっている。

問 33 あなたは「さんかく岡山」を知っていますか。また利用したことがありますか。(○は1つ)



「さんかく岡山」の認知度について、「利用したことがある」との回答が 5.9%、「あるのは知っているが利用したことはない」との回答が 37.1%となっている。一方、「知らない」との回答は 57.0%となっている。

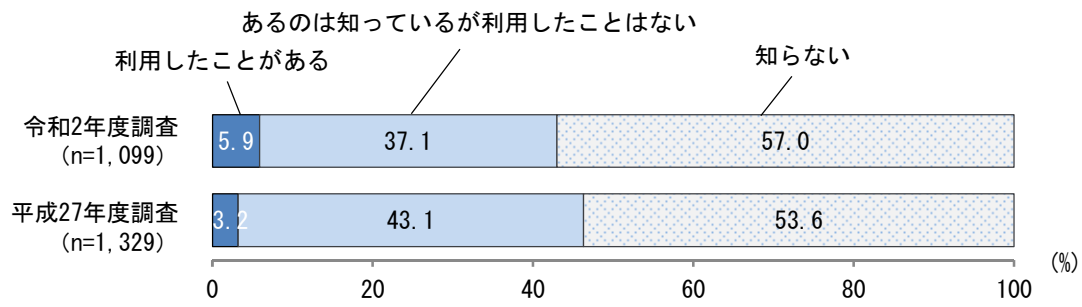
【図 「さんかく岡山」の認知度（性別、性・年代別）】



「さんかく岡山」の認知度について、性別にみると、「あるのは知っているが利用したことはない」との回答は女性（41.3%）が男性（30.8%）を10.5ポイント上回っている。一方、「知らない」との回答は男性（64.8%）が女性（51.9%）を12.9ポイント上回っている。

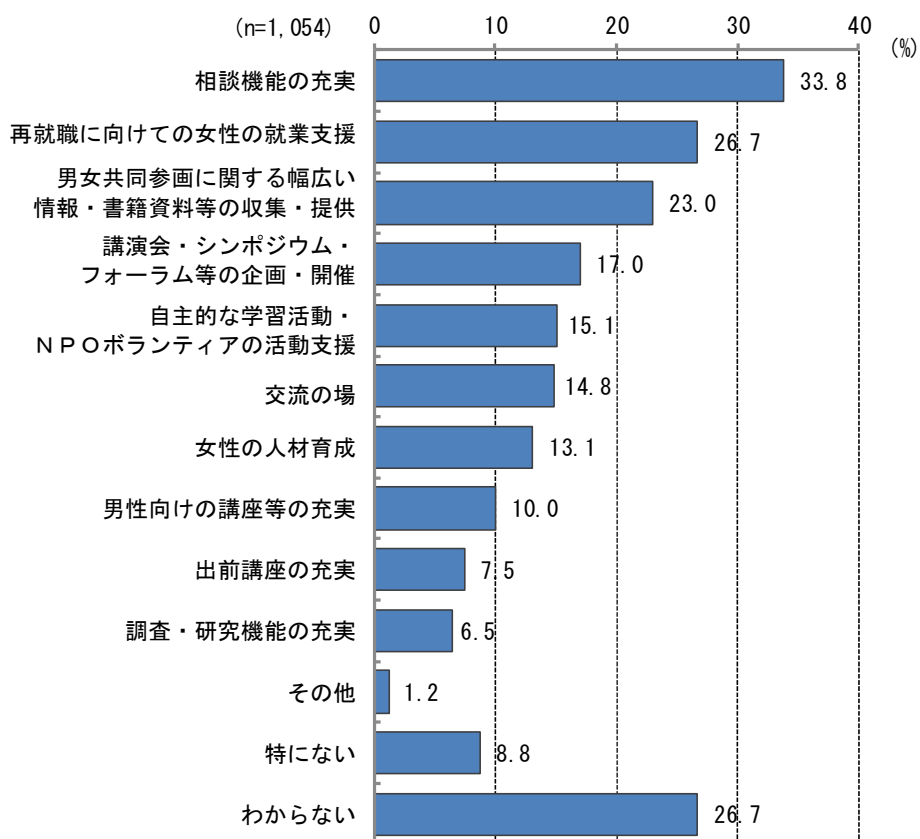
性・年代別にみると、「利用したことがある」との回答は女性60代で1割超、「知らない」との回答は男女ともに20代で9割前後となっている。

【図 「さんかく岡山」の認知度（過去調査結果との比較）】



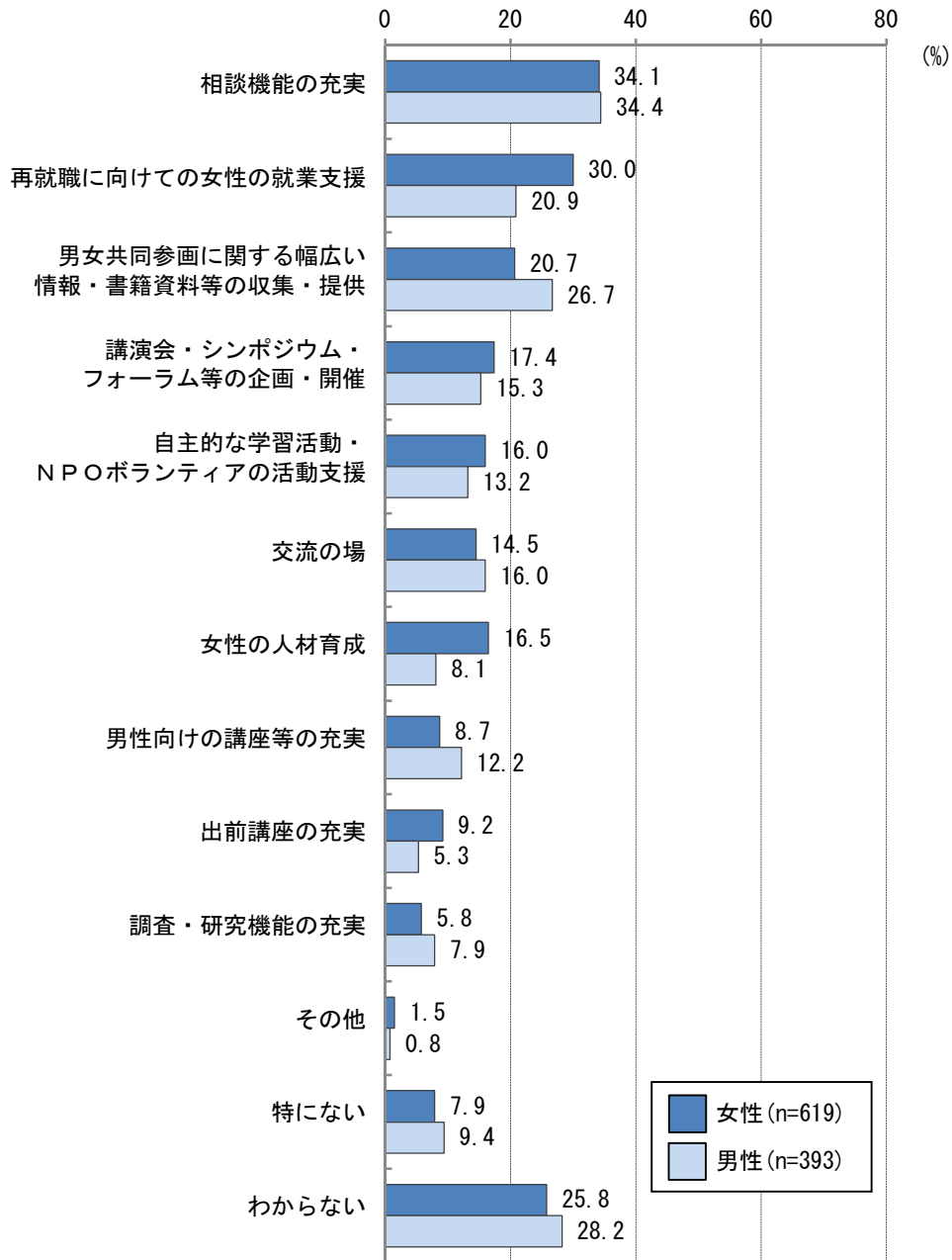
「さんかく岡山」の認知度について、経年比較すると、「あるのは知っているが利用したことはない」との回答は令和2年度調査（37.1%）が平成27年度調査（43.1%）を6.0ポイント下回っている。

問 34 あなたは、「さんかく岡山」にどのような役割を期待しますか。(〇はいくつでも)



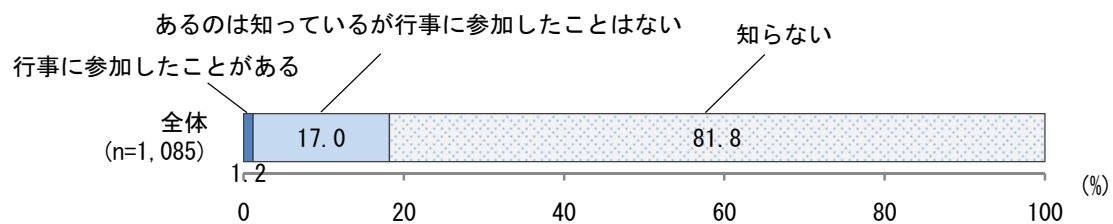
「さんかく岡山」に期待する役割について、「相談機能の充実」が 33.8%と最も高く、次いで「再就職に向けての女性の就業支援」(26.7%)、「男女共同参画に関する幅広い情報・書籍資料等の収集・提供」(23.0%)などの順となっている。

【図 「さんかく岡山」に期待する役割（性別）】



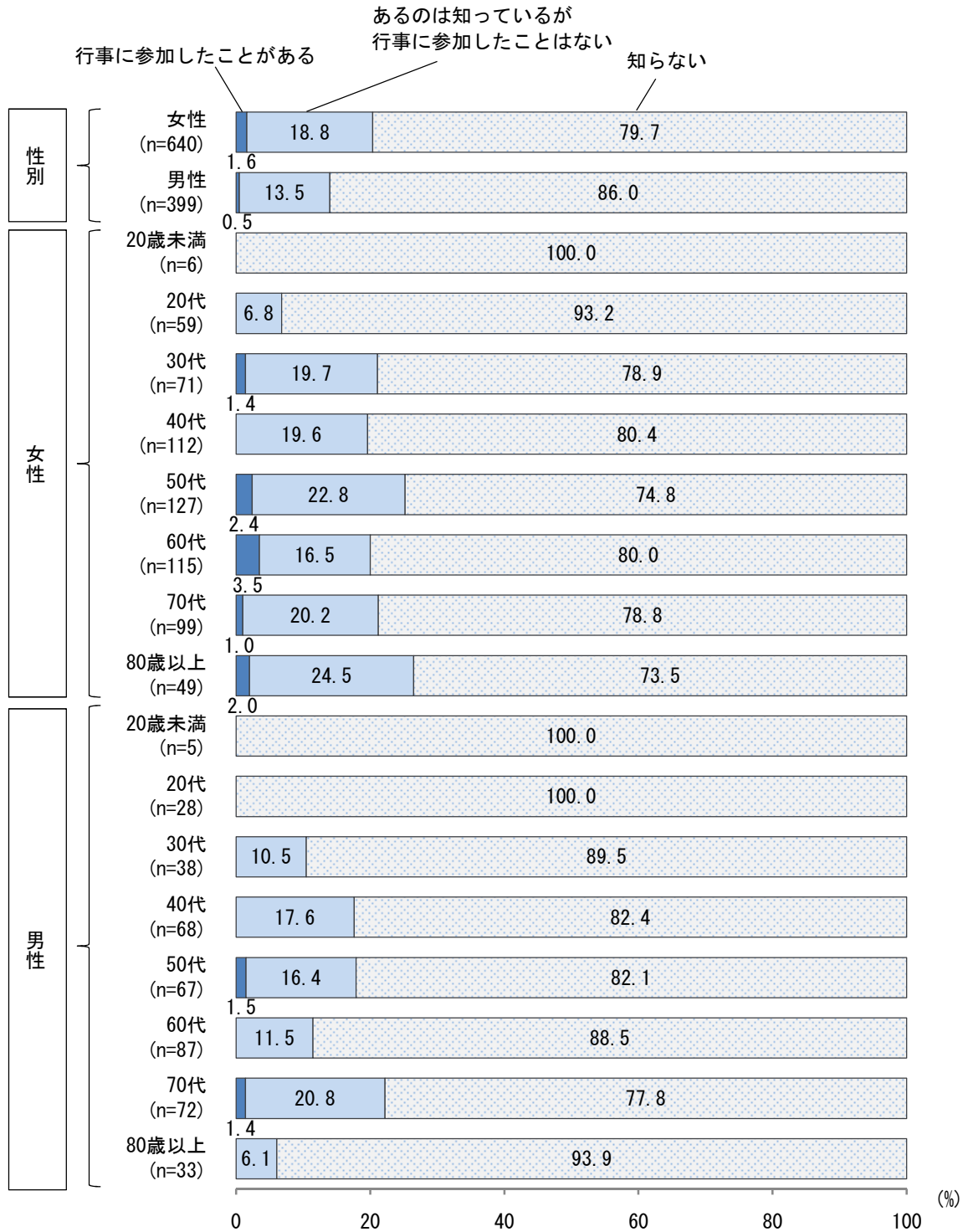
「さんかく岡山」に期待する役割について、性別にみると、「再就職に向けての女性の就業支援」との回答は女性（30.0%）が男性（20.9%）を9.1ポイント、「女性の人材育成」との回答は女性（16.5%）が男性（8.1%）を8.4ポイント上回っている。一方、「男女共同参画に関する幅広い情報・書籍資料等の収集・提供」との回答は男性（26.7%）が女性（20.7%）を6.0ポイント上回っている。

問 35 あなたは、「さんかくウイーク」を知っていますか。また行事に参加したことがありますか。
(○は1つ)



「さんかくウイーク」の認知度について、「行事に参加したことがある」との回答が 1.2%、「あるのは知っているが行事に参加したことはない」との回答が 17.0%となっている。一方、「知らない」との回答は 81.8%となっている。

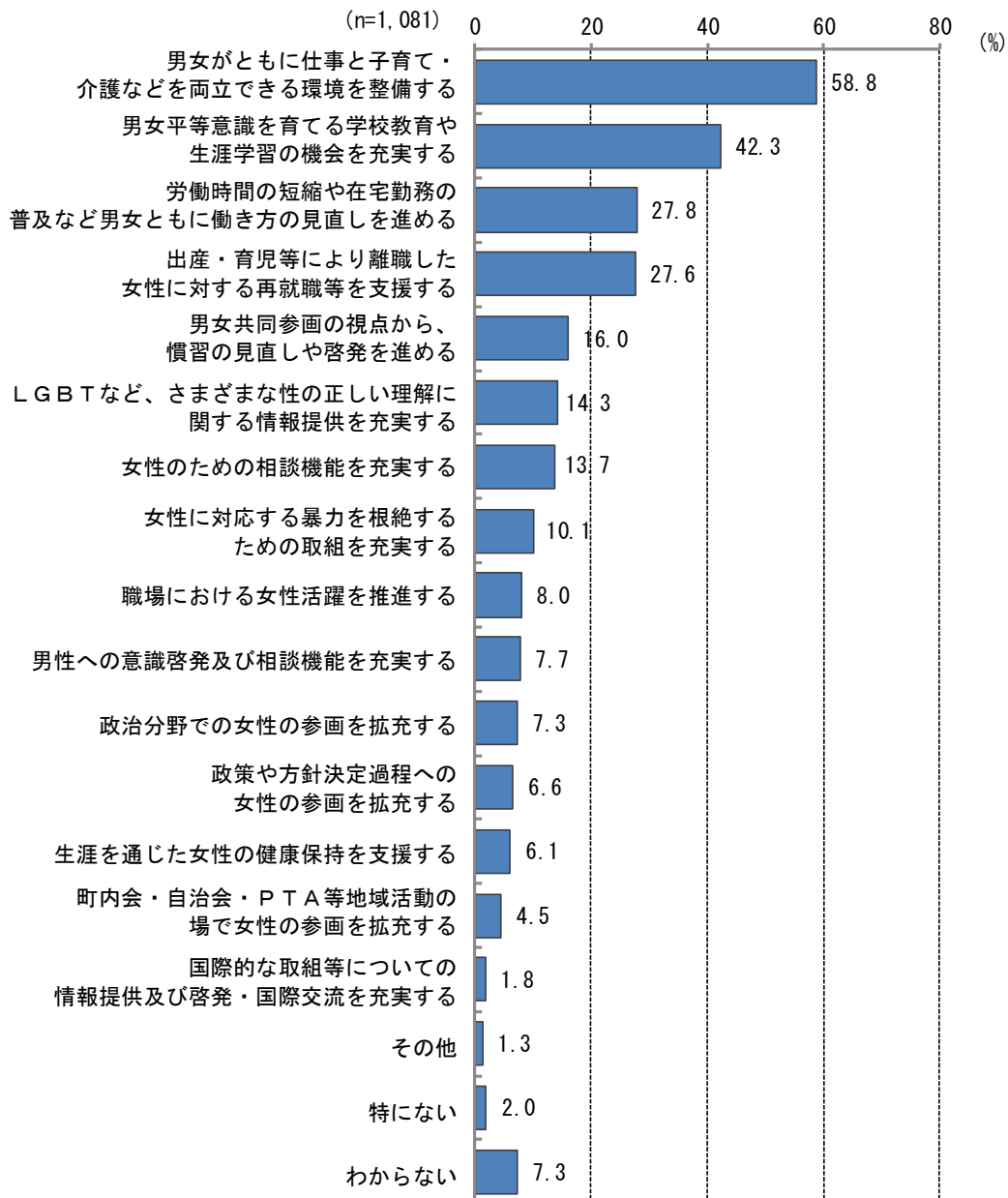
【図 「さんかくウイーク」の認知度（性別、性・年代別）】



「さんかくウイーク」の認知度について、性別にみると、「あるのは知っているが行事に参加したことはない」との回答は女性（18.8%）が男性（13.5%）を 5.3 ポイント上回っている。一方、「知らない」との回答は男性（86.0%）が女性（79.7%）を 6.3 ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「知らない」との回答は女性 20 代、男性 80 歳以上で 9 割台半ばとなっている。

問 36 岡山市が目指す男女共同参画社会の実現を推進するうえで、今後、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



岡山市が目指す男女共同参画社会の実現を推進するうえで必要なことについて、「男女がともに仕事と子育て・介護などを両立できる環境を整備する」が58.8%と最も高く、次いで「男女平等意識を育てる学校教育や生涯学習の機会を充実する」(42.3%)、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」(27.8%)などの順となっている。

【図 岡山市が目指す男女共同参画社会の実現を推進するうえで必要なこと（性別、性・年代別）】

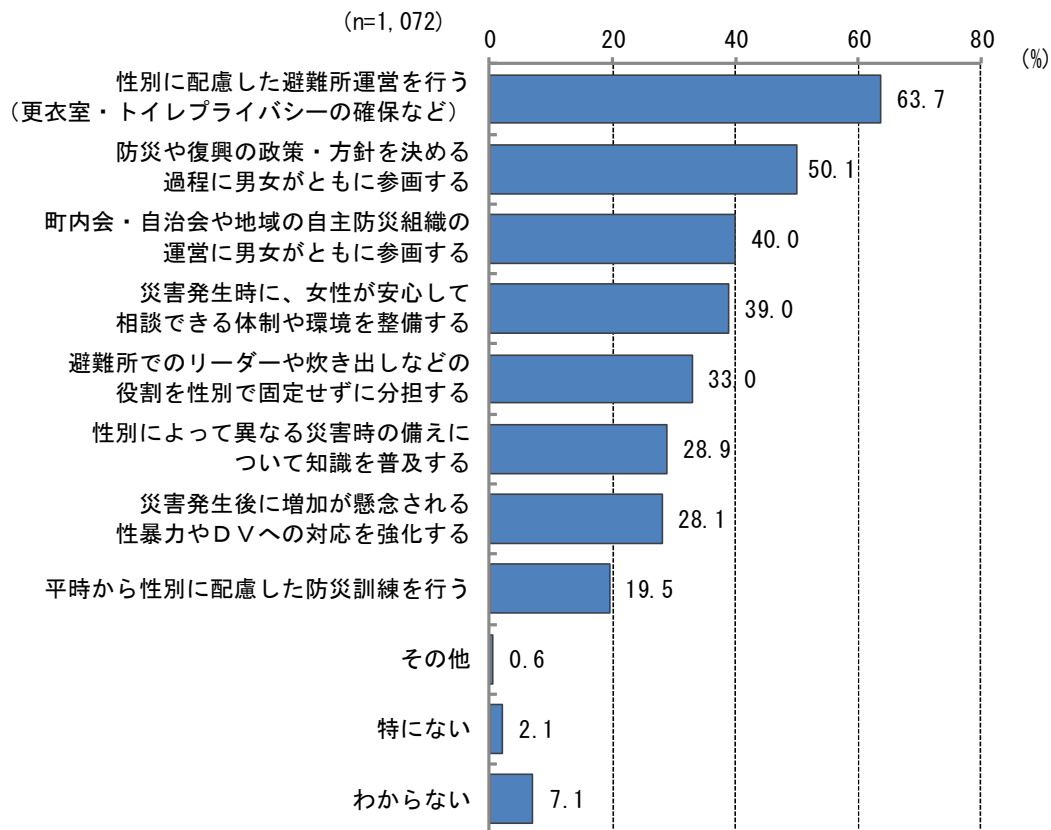
		(%)								
		を校男女 充実教育育や等 する実育や生涯 意識を育てる学 習の機会を学	絶する女性 するにの対 るための暴 取組を力充 実を根	充女性 実するの ための相 談機能を	談男性 機能への 意識啓発 及び相	保生涯 持を通じ た女性の 健康	るなL 情性のG 報の正B 提しいT 供理解 を充実 するに 関す	をら男 を進女 め共 る同 の参 見画 直の し視 や点 啓か 発	参等町 画地内 を活会 充活・自 すの治 場会 で・P 女T 性のA	際の国 交情的 流報な を充取 実及組 す啓等 発につ いて
全体 (n=1,081)		42.3	10.1	13.7	7.7	6.1	14.3	16.0	4.5	1.8
性別	女性 (n=632)	39.6	8.5	12.8	7.9	7.3	16.5	14.4	3.2	1.7
	男性 (n=400)	46.0	12.8	15.0	8.0	3.8	11.3	18.0	6.0	1.5
性・年代別	女性20歳未満 (n=6)	33.3	-	-	16.7	-	33.3	16.7	-	-
	女性20代 (n=58)	43.1	10.3	17.2	5.2	5.2	27.6	12.1	1.7	1.7
	女性30代 (n=72)	29.2	9.7	5.6	12.5	1.4	23.6	9.7	1.4	1.4
	女性40代 (n=112)	38.4	10.7	16.1	12.5	4.5	22.3	15.2	-	1.8
	女性50代 (n=126)	34.4	2.4	16.8	8.8	7.2	16.0	13.6	1.6	1.6
	女性60代 (n=117)	45.3	14.5	12.8	4.3	9.4	10.3	14.5	2.6	3.4
	女性70代 (n=94)	38.3	4.3	9.6	3.2	10.6	10.6	16.0	6.4	1.1
	女性80歳以上 (n=46)	54.3	10.9	6.5	8.7	13.0	4.3	21.7	15.2	-
	男性20歳未満 (n=5)	20.0	-	20.0	20.0	-	40.0	20.0	40.0	-
	男性20代 (n=28)	35.7	7.1	10.7	3.6	7.1	14.3	14.3	-	3.6
	男性30代 (n=37)	51.4	16.2	13.5	2.7	5.4	8.1	13.5	-	-
	男性40代 (n=69)	40.6	14.5	17.4	5.8	-	14.5	15.9	1.4	1.4
	男性50代 (n=68)	45.6	16.2	16.2	13.2	8.8	16.2	14.7	4.4	2.9
	男性60代 (n=84)	44.0	11.9	19.0	7.1	1.2	8.3	17.9	6.0	2.4
男性70代 (n=74)	55.4	10.8	9.5	9.5	1.4	9.5	27.0	14.9	-	
男性80歳以上 (n=34)	50.0	11.8	14.7	8.8	8.8	2.9	14.7	2.9	-	
		推職 進場 すに おけ る女 性活 躍を	働務 きの 方の 見直 しを 進め るに 勤	るて 環・女 境介が を護と を整な 備すに 仕事と 立で子 育	等し出 をた産 支女・ 援女・ 性育 に児 対等 する より 再就 離職	女政 性の策 のや 参方 画針 を決 定過 程へ の	を政 治充 分野 での 女性 の参 画	そ の他	特 に ない	わ か ら ない
全体 (n=1,081)		8.0	27.8	58.8	27.6	6.6	7.3	1.3	2.0	7.3
性別	女性 (n=632)	8.1	28.8	61.4	29.3	6.0	6.6	1.1	1.9	7.0
	男性 (n=400)	8.0	27.3	54.3	25.0	8.3	9.0	1.5	1.8	8.3
性・年代別	女性20歳未満 (n=6)	-	16.7	50.0	16.7	16.7	-	-	-	16.7
	女性20代 (n=58)	3.4	37.9	65.5	36.2	5.2	1.7	-	-	5.2
	女性30代 (n=72)	5.6	44.4	58.3	33.3	2.8	8.3	4.2	1.4	8.3
	女性40代 (n=112)	8.9	32.1	60.7	33.0	4.5	4.5	-	1.8	6.3
	女性50代 (n=126)	11.2	26.4	59.2	23.2	6.4	8.0	2.4	3.2	7.2
	女性60代 (n=117)	6.8	23.9	64.1	25.6	8.5	12.8	-	1.7	3.4
	女性70代 (n=94)	8.5	19.1	63.8	30.9	8.5	3.2	-	3.2	11.7
	女性80歳以上 (n=46)	10.9	23.9	58.7	30.4	2.2	4.3	2.2	-	6.5
	男性20歳未満 (n=5)	-	20.0	40.0	20.0	-	20.0	-	-	-
	男性20代 (n=28)	10.7	35.7	50.0	28.6	7.1	7.1	3.6	-	7.1
	男性30代 (n=37)	10.8	45.9	56.8	24.3	5.4	8.1	2.7	-	-
	男性40代 (n=69)	1.4	33.3	59.4	26.1	8.7	5.8	4.3	2.9	8.7
	男性50代 (n=68)	7.4	26.5	50.0	22.1	7.4	7.4	1.5	1.5	2.9
	男性60代 (n=84)	11.9	22.6	50.0	31.0	7.1	9.5	-	2.4	14.3
男性70代 (n=74)	6.8	17.6	60.8	24.3	12.2	10.8	-	2.7	6.8	
男性80歳以上 (n=34)	11.8	23.5	50.0	14.7	8.8	14.7	-	-	17.6	

上位1位～3位 うち1位は太枠

岡山市が目指す男女共同参画社会の実現を推進するうえで必要なことについて、性別にみると、「男女がともに仕事と子育て・介護などを両立できる環境を整備する」との回答は女性（61.4%）が男性（54.3%）を7.1ポイント、「LGBTなど、さまざまな性の正しい理解に関する情報提供を充実する」との回答は女性（16.5%）が男性（11.3%）を5.2ポイント上回っている。一方、「男女平等意識を育てる学校教育や生涯学習の機会を充実する」との回答は男性（46.0%）が女性（39.6%）を6.4ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「男女平等意識を育てる学校教育や生涯学習の機会を充実する」との回答は女性80歳以上、男性70代で5割台半ば、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」との回答は男女ともに30代で4割台半ば、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める」との回答は女性80歳以上、男性70代で2割台となっている。

問 37 あなたは、平時の防災体制や災害発生後の対応において、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



防災体制などの対応で男女共同参画の視点で必要なことについて、「性別に配慮した避難所運営を行う（更衣室・トイレプライバシーの確保など）」が 63.7%と最も高く、次いで「防災や復興の政策・方針を決める過程に男女がともに参画する」（50.1%）、「町内会・自治会や地域の自主防災組織の運営に男女がともに参画する」（40.0%）などの順となっている。

【図 防災体制などの対応で男女共同参画の視点で必要なこと（性別、性・年代別）】

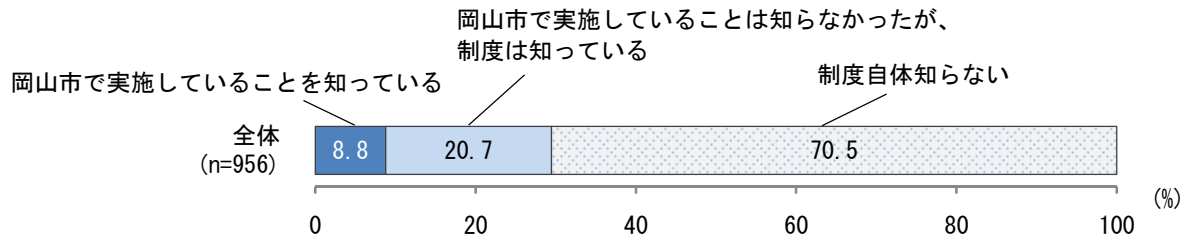
	る 防 災 や 復 興 の 政 策 ・ 方 針 を 決 め る 過 程 に 男 女 が と も に 参 画 す る	画 災 町 内 会 ・ 自 治 会 や 地 域 の 自 主 防 災 組 織 の 運 営 に 男 女 が と も に 参 画 す る	平 時 か ら 性 別 に 配 慮 し た 防 災 訓 練 を 行 う	性 別 に よ っ て 知 識 を 普 及 す る 災 害 時 の 備 え	性 別 に 配 慮 し た 避 難 所 運 営 を 行 う （ 更 衣 室 ・ ト イ レ プ ラ イ バ ン の 確 保 な ど ）	避 難 所 で の リ ー ダ ー や 炊 き 出 し な ど の 役 割 を 性 別 で 固 定 せ ず に 分 担 す る	災 害 発 生 時 に 、 女 性 が 安 心 し て 相 談 で き る 体 制 や 環 境 を 整 備 す る	災 害 発 生 後 に 増 加 が 懸 念 さ れ る 性 暴 力 や D V へ の 対 応 を 強 化 す る	そ の 他	特 に な い	(%) わ か ら な い
全 体 (n=1,072)	50.1	40.0	19.5	28.9	63.7	33.0	39.0	28.1	0.6	2.1	7.1
性別											
女性 (n=627)	45.3	35.9	17.7	30.3	68.3	33.5	41.1	30.0	0.5	2.1	6.7
男性 (n=398)	56.5	45.2	22.6	27.6	57.8	32.2	34.9	25.1	0.8	2.0	8.0
性・年代別											
女性20歳未満 (n=6)	16.7	16.7	16.7	-	50.0	33.3	50.0	33.3	-	-	33.3
女性20代 (n=58)	58.6	25.9	22.4	39.7	74.1	32.8	37.9	32.8	-	-	-
女性30代 (n=72)	40.3	29.2	26.4	43.1	66.7	31.9	41.7	50.0	1.4	2.8	8.3
女性40代 (n=112)	30.4	20.5	17.9	42.9	70.5	25.0	41.1	40.2	-	1.8	9.8
女性50代 (n=125)	43.2	31.2	16.8	28.0	70.4	32.0	39.2	28.8	0.8	2.4	9.6
女性60代 (n=115)	53.0	49.6	15.7	21.7	69.6	38.3	47.0	21.7	0.9	1.7	2.6
女性70代 (n=93)	47.3	50.5	11.8	23.7	62.4	40.9	40.9	17.2	-	3.2	6.5
女性80歳以上 (n=44)	61.4	47.7	18.2	13.6	61.4	34.1	36.4	18.2	-	2.3	4.5
男性20歳未満 (n=5)	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	40.0	60.0	-	-	40.0
男性20代 (n=27)	59.3	25.9	33.3	29.6	59.3	18.5	29.6	48.1	-	7.4	-
男性30代 (n=35)	71.4	42.9	20.0	48.6	62.9	25.7	34.3	22.9	-	-	8.6
男性40代 (n=69)	42.0	26.1	18.8	30.4	62.3	29.0	47.8	33.3	2.9	1.4	8.7
男性50代 (n=68)	54.4	44.1	20.6	25.0	58.8	30.9	36.8	26.5	1.5	-	5.9
男性60代 (n=85)	58.8	50.6	22.4	25.9	51.8	30.6	34.1	17.6	-	4.7	9.4
男性70代 (n=75)	65.3	62.7	22.7	22.7	61.3	49.3	34.7	21.3	-	1.3	5.3
男性80歳以上 (n=34)	50.0	55.9	29.4	20.6	52.9	23.5	11.8	11.8	-	-	14.7

上位1位～3位 うち1位は太枠

防災体制などの対応で男女共同参画の視点で必要なことについて、性別にみると、「性別に配慮した避難所運営を行う（更衣室・トイレプライバシーの確保など）」との回答は女性（68.3%）が男性（57.8%）を10.5ポイント上回っている。一方、「防災や復興の政策・方針を決める過程に男女がともに参画する」との回答は男性（56.5%）が女性（45.3%）を11.2ポイント、「町内会・自治会や地域の自主防災組織の運営に男女がともに参画する」との回答は男性（45.2%）が女性（35.9%）を9.3ポイント上回っている。

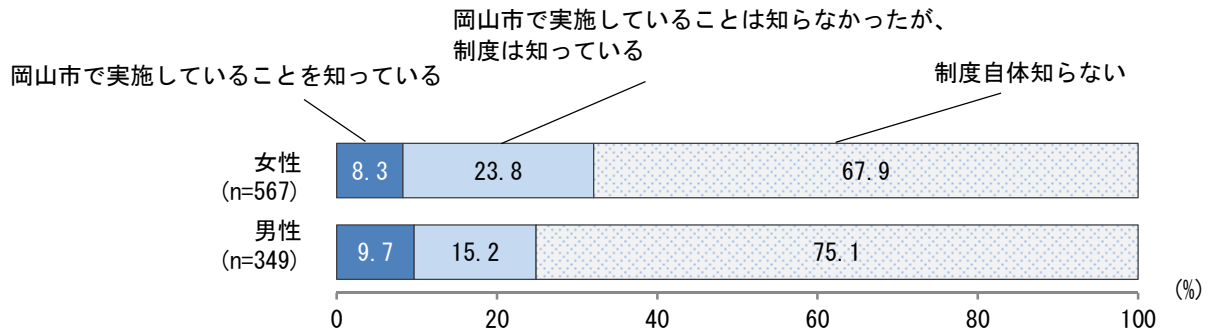
性・年代別にみると、「防災や復興の政策・方針を決める過程に男女がともに参画する」との回答は男性30代で7割超、「町内会・自治会や地域の自主防災組織の運営に男女がともに参画する」との回答は男性70代で6割超、「災害発生後に増加が懸念される性暴力やDVへの対応を強化する」との回答は女性30代、男性20代で約5割となっている。

問 38 岡山市では令和2年7月1日から「岡山市パートナーシップ宣誓制度」を開始しています。
あなたはこの制度を知っていますか。(〇は1つ)



「岡山市パートナーシップ宣誓制度」の認知度について、「岡山市で実施していることを知っている」との回答が8.8%、「岡山市で実施していることは知らなかったが、制度は知っている」との回答が20.7%となっている。一方、「制度自体知らない」との回答は70.5%となっている。

【図 「岡山市パートナーシップ宣誓制度」の認知度（性別）】



「岡山市パートナーシップ宣誓制度」の認知度について、性別にみると、「岡山市で実施していることは知らなかったが、制度は知っている」との回答は女性（23.8%）が男性（15.2%）を8.6ポイント上回っている。一方、「制度自体知らない」との回答は男性（75.1%）が女性（67.9%）を7.2ポイント上回っている。